

「藤沢の選択、1日討論」  
調査報告書

慶應義塾大学DP研究会

# 目次

1. はじめに—討論型世論調査とは何か	1
2. 調査の実施概要	4
3. 調査結果の概要	7
4. 調査対象者の基本属性	17
5. 調査対象者の経験・考え方	23
6. 事前アンケート	27
・ 20年後の藤沢市についての見通し	
・ 今後藤沢がとるべき政策の方向性	
7. 討論前・討論後アンケート	44
・ 20年後の藤沢市についての見通し	
・ 今後藤沢がとるべき政策の方向性	
8. 討論前・討論後アンケート	99
・ 藤沢市に関する知識を問う質問	
9. 討論後アンケート	108
・ 「藤沢の選択、1日討論」に関する質問	
10. おわりに—調査結果の講評	127

# 1. はじめに

## — 討論型世論調査とは何か

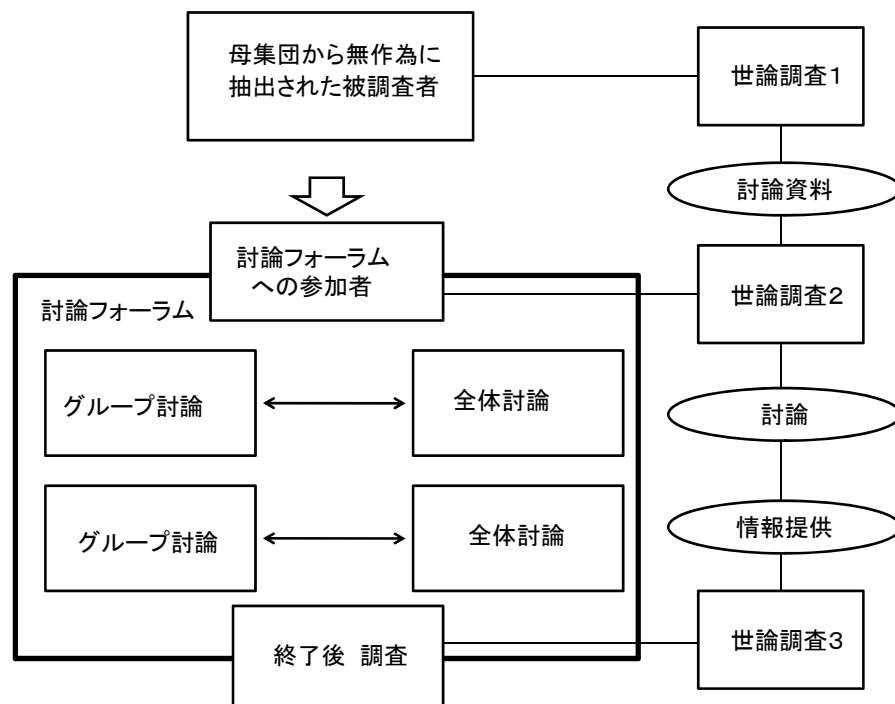
## deliberative poll（討論型世論調査）とは

deliberative poll（討論型世論調査、以下DP）は、十分な情報を提供し、他者との討論（コミュニケーション）を経た状態での、市民の意見を聴取する世論調査の新しい手法です。この調査の特徴は、調査過程において市民が他の市民と意見を交換する「討論」の過程を入れることで、市民が調査テーマについて「学び（learn）、考え（think）、話す（talk）」機会をもつことができるという点にあります。つまりDPは、より考えられた市民の意見や態度を調査することができる、従来の世論調査よりも一段深いレベルの世論調査であるのです。慶應義塾大学DP研究会では、この調査が討論プロセスと世論調査という二つの性格を合わせ持っていることから、「討論型世論調査」という訳語を使用しています。

DPでは、まず通常の世界調査と同様に、母集団から調査対象を無作為抽出して、世論調査を行います（図1・世論調査1）。次に、調査対象者から討論フォーラムへの参加を募ります。無作為抽出を経てフォーラム参加者が選ばれることで、討論の場が母集団の縮図（microcosm）となり、調査結果が統計上の有意性をもつように留意します。そしてフォーラムの本番では、フォーラムの開始前、終了後に、それぞれ調査を行います（図1・世論調査2、3）。世論調査2の前には、フォーラム参加者に対して、十分な情報量を持ち、かつ公平な討論資料が提供されます。また、世論調査2と世論調査3の間には、グループによる討論と、参加者全員による全体討論が、複数回繰り返して行われます。

つまりDPにおいては、①情報が与えられておらず、他者との討論も行っていない状態の世論（世論調査1）、②討論資料からの情報を得ているが、討論は行っていない状態の世論（世論調査2）、③討論資料からの情報に加えて、他者との討論や専門家からの情報提供を受けた状態の世論（世論調査3）、という3つの段階の世論が調査することができます（図3参照）。

【図1. 討論型世論調査の全体像】



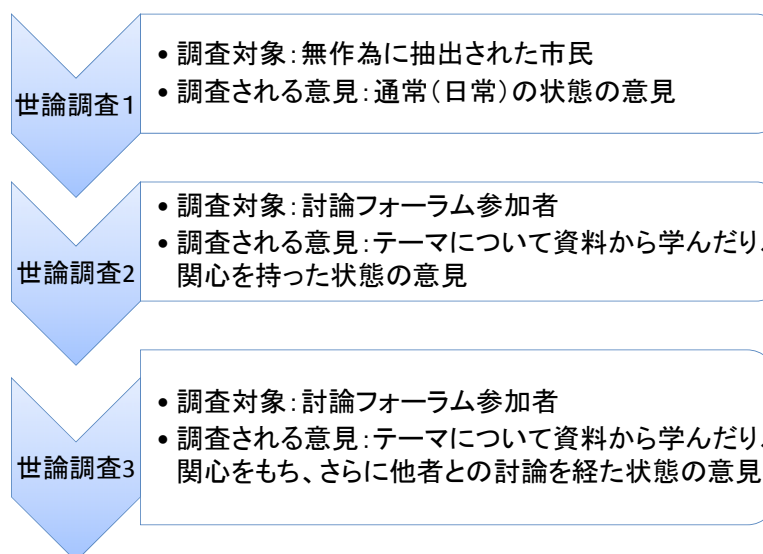
DPにおいてもっとも重要なのは、討論フォーラムにおけるグループ討論と全体討論です。グループ討論では、15人～20人のグループに分かれ、討論を行います。この場では、参加者間の合意形成は行わず、参加者にそれぞれの意見や経験を分かち合ってもらうことを重視します。司会役は市民の討論になるべく言葉を挟まず、討論が自然な会話のように展開するようにします。また、グループ討論のもっとも後で、参加者が全体討論用の質問をまとめる際のサポートも行います。

全体討論は、参加者がグループ討論で生まれた疑問点などを専門家や政策立案者に質問し、意見を聞いたり、情報提供を受けるための場です。また、討論フォーラムの参加者全員が1つの会場に集まることで、参加者は他のグループがどのような討論を行い、どんな質問を出すのかを把握することもできます。通常、全体討論では司会役が1名、専門家が3～4人参加します。専門家は、討論のテーマに沿って、各分野からバランスをとって選ばれます。

【図2. グループ討論・全体討論の特徴】

グループ討論	全体討論
<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者を15人から20人のグループに分けて討論を行う</li> <li>司会はファシリテーターが担当</li> <li>ファシリテーターは討論の場が独占されないように配慮する</li> <li>参加者間の合意は求めない</li> <li>討論の最後に全体討論用の質問をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者全員を1つの場所に集める</li> <li>討論テーマに詳しい専門家や政策担当者が、参加者に対して情報提供を行う</li> <li>グループでまとめた質問をグループの代表者が発表し、それに対して専門家が自分の意見を述べたり、情報提供をする</li> </ul>

【図3. DPの3段階の世論調査】



## 2. 調査の実施概要

## 1. 調査の目的

藤沢市では新総合計画の策定に当たり、幅広く藤沢市民の「声」を計画に反映させることを目標に掲げています。藤沢市の地域活動などに積極的に関わってきた市民の方々はもちろん、藤沢市の未来や地域活動に興味を持っていても、なかなか意見を表明したり、活動に参加したりする機会がなかった市民の方々の声も抽出する必要があると考えました。

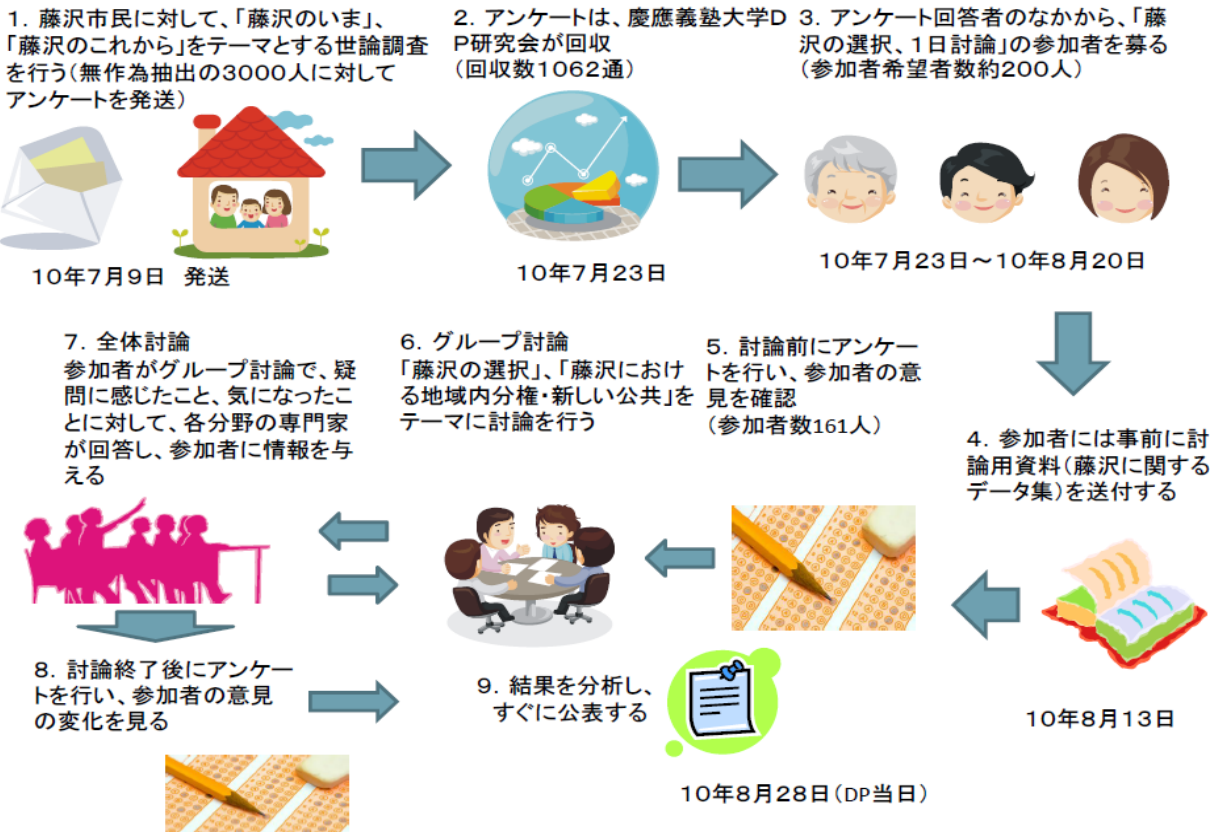
これまで藤沢市では、市民の方々の意見や提案をインターネットなどで受け付けたり、政策・計画をつくる際には、パブリックコメントなどを実施したりしていますが、一般の市民の方々の意見はなかなか政治や行政には伝わりにくいものです。また、日頃忙しくて、藤沢市が主催する集会や、地域の活動に参加することが難しい方が多いのも事実です。

その意味で、今回の総合計画の策定過程において、DPという新たな世論調査の手法を用いて、無作為抽出を経て選ばれた市民の方々が、1日をかけて藤沢が直面している状況についてじっくりと考え、意見や情報の交換をした上で、どのような方向性を望むのかを調べることはとても重要であると考え、本調査を実施しました。

## 2. 調査の項目

今回の調査では、「藤沢の選択」という大きなテーマを設定しました。特に、今後、藤沢が直面する高齢化や公共施設の老朽化、それらに伴う財政状況の悪化というトレンドに対していかに対応していくかという問題に焦点を当て、「地域内分権」や「新しい公共」といった問題解決のための手段について、市民がどのような考えをもっているのかを調査することを目的としました。

## 3. 調査の流れ



## 4. 調査の方法

### ①「藤沢の選択、1日討論」に関するアンケート（事前アンケート）

- ・調査地域 藤沢市全域
- ・調査対象 満20歳以上の市民
- ・対象者数 3,022人
- ・抽出方法 2010年7月1日現在、住民基本台帳（住基）に登録されている市民を層化二段階方式で抽出（一段階目・年代、二段階目・居住地区）
- ・調査方法 調査用紙を対象者に郵送、郵便で回収
- ・調査日程 ①調査用紙の発送 2010年7月9日  
②調査用紙の回収 2010年7月9日～7月23日

### ②「藤沢の選択、1日討論」当日アンケート（当日アンケート）

- ・調査対象 「藤沢の選択、1日討論」の参加者
- ・対象者数 161人（DP参加率 5.3%）
- ・抽出方法 事前アンケートの送付対象者3,022人に対して、「藤沢の選択、1日討論」参加希望調査票を送付
- ・調査方法 「藤沢の選択、1日討論」の討論イベント開始前と終了後に、調査用紙を対象者に配布、直接回収
- ・調査日程 討論前アンケート 2010年8月28日 9時30分～9時50分  
討論後アンケート 2010年8月28日 17時30分～17時45分

## 5. 調査の設計・運営

調査の設計・運営は、藤沢市の委託を受け、慶應義塾大学DP研究会（代表 曾根泰教 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授）が行いました。



### 3. 調査結果の概要

## 1. 調査の回収結果

### ①「藤沢の選択、1日討論」に関するアンケート（事前アンケート）

- ・母集団 329,953人（2010年7月1日現在の住基データより）
- ・調査対象者数 3,022人
- ・回収数 1,062人（回収率35.1%）

### ②「藤沢の選択、1日討論」当日アンケート（討論前アンケート）

- ・調査対象者数 161人
- ・回答数 161人（回収率100.0%）

### ③「藤沢の選択、1日討論」当日アンケート（討論後アンケート）

- ・調査対象者数 161人
- ・回答数 161人（回収率100.0%）

## 2. 本調査の統計的有意性

### （1）事前アンケートの標本誤差について

本調査は、母集団（藤沢市に在住する満20歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率や標準偏差などを調べ、これらの結果を基にして母集団の比率や標準偏差などを推測する「標本調査」です。そのため、母集団に対する「標本誤差」が生じます。

標本誤差は、以下の数式によって、統計学的に歳出しています（信頼度は、95%として算出

$$b = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

B=信頼度95%の標本誤差

N=母集団数（満20歳以上の男女329953人）

n=有効回答数

P=回答に占める比率

【本調査における標本誤差早見表】

回答比率 有効回答数	10% or 90%	20% or 80%	30% or 70%	40% or 60%	50%
500人	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
1000人	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
1062人	±1.65%	±2.40%	±2.75%	±2.94%	±3.04%
1500人	±1.5%	±2.0%	±2.5%	±2.7%	±2.7%
2000人	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%

## (2) 事前アンケート集計結果の統計的有意性について

(1) で先述した通り、本調査は、母集団への標本誤差が必ず生じてしまうため、どの程度まで結果に基づいて評価できるのか、という「統計的有意性」が重要な問題です。

本調査での有効回答数は、1062人でした。そのため、回答比率が50%であったとすれば、早見表の通り、標本誤差は、±3.04%となります。つまり、事前アンケートにおいて、仮に回答比率が50%という集計結果が出た場合、実際の母集団の傾向として評価すると、50%ではなく、50±3.04% (46.96%～53.04%) という幅を持った値 (信頼区間) として取り扱わなければなりません。同様に回答比率が10%、20%、30%、40%の場合も早見表にある幅を持った値として、取り扱う必要があります。

## (3) 討論後アンケートのクロス集計について

討論後アンケートを対象に、性別、年代、地区などの基本属性や経験、価値観や考え方を独立変数に、コア設問を従属変数として、クロス集計による分析を行いました。「7. 討論前アンケート、討論後アンケート」という章で提示されている、クロス集計を用いた図はすべて討論後アンケートのものであります。

クロス集計を行う際に、独立変数と従属変数との間に、本当に関連があるかどうかを調べるため、「独立性の検定」を行っています。具体的には、クロス集計を実施する際に、Pearson のカイ 2乗検定を用いて、漸近有意確率を算出しました。漸近有意確率の基準は、5%に設定しています。つまり、漸近有意確率が5%未満の場合は、独立変数と従属変数が独立している (関連がない) と言え、反対に5%以上の場合は、独立変数と従属変数が独立していない (関連がある) と言えます。

ただし、討論フォーラム参加者が161名と非常に小さいため、検定を行う際の期待度数が5未満となるセルが多くなり、統計的有意性が担保できない場合があります。これは討論フォーラム参加者が少ないことが主たる要因だと考えられます。

※個別のカイ 2乗検定についての結果の記述は本文中では省略しています。

# 3. 調査結果の概要

## 1. 調査対象者の属性について

今回の調査は、事前アンケートの回収率が35.1%、DP参加率は5.3%となり、討論型世論調査の実施上必要となる回答率および参加率の水準を満たすことができました。

藤沢市全体の構成と事前アンケート、当日アンケート回答者の属性を比較すると、年代では、20歳代および30歳代の回答率が低く、60歳代の回答率が高いことがわかりますが、その他の項目では大きな違いはありませんでした。

また、事前アンケート回答者と当日アンケート回答者 (DP参加者) の属性を比較してみると、年代、居住地域、職業構成、藤沢市居住期間などほぼ全ての項目に関して、統計的に非常に近い分布をしていることがわかります (「4. 調査対象者の基本属性」を参照)。

## 2. アンケート結果について

### 2-1. 事前アンケート

#### 20年後の藤沢市の状況について

20年後の藤沢市の状況を念頭に置き、「あなたの生活にどの程度希望を持っているか」、「経済・社会状況はどうなっていると思うか」、「地域の課題を解決する力はどのように変化していると思うか」を聞きました。あなたの生活の希望については、「希望がある」が31.8%、「中間」が34.4%、「希望がない」が18.4%でした。それに対して、経済・社会状況では、「悪くなっている」(26.5%)が「良くなっている」(24.1%)を上回っており、また、地域の課題を解決する力についても、「弱くなっている」(39.4%)が「強くなっている」(23.5%)を上回りました。

個人の生活には希望があっても、藤沢市全体の経済・社会の状況や、地域の状況は今後悪化していくと考えている市民が多いことがわかります。

#### 藤沢が今後とるべき対応について

##### ①一人暮らし高齢者への支援方法、公共施設老朽化への対応

まず、今後の高齢化の進展と公共施設の老朽化を想定し、「一人暮らし高齢者の支援は、行政中心で行うべきか、地域・市民中心で行うべきか」、「公共施設の老朽化に際して、施設を廃止すべきか、現状を維持するか、建て替えるか、どれが望ましいか」を聞きました。一人暮らし高齢者への支援方法としては、「行政が中心的な役割を果たすべき」が49.9%となり、「地域や市民が中心的役割を果たすべき」の19.3%を20ポイント以上上回りました。

公共施設老朽化への対応については、施設の機能・規模ごとに、「市民の家」(小学校区毎に設置されているコミュニティ施設)、市民センター・公民館(市内13地区に整備された社会教育施設)、③市民会館や図書館(全市域からの利用を想定した施設)という3つの分類に分け、意見を聞きました。すべての施設について、「建て替えるべき」が「廃止すべき」を上回り、市民の家では、「廃止」(26.0%)対「建て替え」(45.5%)、市民センター・公民館では、「廃止」(9.8%)対「建て替え」(37.4%)、市民会館や図書館では、「廃止」(6.8%)対「建て替え」(66.3%)となっています。

##### ②財源確保の方策、企業誘致活動、藤沢市の魅力を訴える活動

今後、財政状況が厳しくなっていくことを念頭に置き、いかなるかたちで財政を安定させるかについて、意見を聞きました。まず、大きな方向性として、財源を確保するために歳出削減と歳入増加のどちらを優先するべきかを聞きました。その結果、「歳出削減重視」が45.7%、「歳入増加重視」が18.7%となり、27ポイントの開きが生まれました。

次に、歳入増加を目指す際の具体的な方策として、「企業誘致活動」と「藤沢市の魅力を訴える活動」について、今後推進すべきか、推進すべきではないかを聞きました。「企業誘致活動」では、「推進すべき」が66.6%、「推進すべきではない」が9.5%、「藤沢市の魅力を訴える活動」については、「推進すべき」が70.9%、「推進すべきではない」が8.8%となり、どちらでも「推進すべき」が大きく上回りました。

##### ③藤沢市役所の今後の役割、地域への貢献活動

今後、藤沢市役所、地域、市民の役割分担はいかにあるべきかを聞きました。まず、今後、藤沢

市役所が担うべき役割として、「まんべんなくサービスを提供すべき」か「取捨選択を行い、サービスを絞り込むべき」のどちらの意見に近いかを聞きました。その結果、「まんべんなく」が32.8%であったのに対して、「取捨選択・サービス絞り込み」が46.7%となり、約15ポイントの差ができました。

次に、「地域の状況や、生活環境の改善のために、市民はこれまで以上に協力したり、貢献活動を増やすべきだと思うか」を聞きました。その結果、「増やすべき」(55.7%)が、「増やすべきでない」(11.2%)を44.5ポイント上回りました。

さらに、「地域の課題解決のためにあなたはどのような活動や負担をしてもよいと思うか」について、活動や負担の形式ごとに、①寄付など金銭の提供、②活動時間や労力の提供、③経験・知識・人脈・ノウハウの提供、④地域の人々との付き合い・連携などへの参加、という4項目に分けて意見を聞きました。

その結果、「寄付など金銭の提供」については、「提供したくない」(29.1%)が「提供したい」(28.8%)を上回りましたが、「活動時間や労力の提供」では、「提供したくない」(16.4%)対「提供したい」(50.2%)、「経験・知識・人脈・ノウハウの提供」では、「提供したくない」(8.3%)対「提供したい」(56.1%)、「地域の人々との付き合い・連携などへの参加」では、「参加したくない」(11.6%)対「参加したい」(60.3%)となり、提供または参加したいという意見が50%以上となっています。

## 2-2. 討論前・討論後アンケート

### ①一人暮らし高齢者の支援方法

- 行政が中心的な役割を果たすべき：55.9% ⇒ 44.7% (12.4ポイント↓)
- ちょうど中間：24.8% ⇒ 23.6% (1.2ポイント↓)
- 地域や市民が中心的な役割を果たすべき：15.5% ⇒ 29.8% (14.3ポイント↑)

一人暮らし高齢者への支援について、行政が中心的な役割を果たすべきか、地域や市民が中心的な役割を果たすべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。

討論前と討論後で、「行政が中心的な役割を果たすべき」(行政中心)が55.9%から44.7%となり、12.4ポイント減少した一方で、「地域や市民が中心的な役割を果たすべき」(地域・市民中心)は、15.5%から29.8%となり、14.3ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、男性の49.4%が「行政中心」と回答しているのに対し、女性では39.7%となっており、やや差ができています。また、年代別の回答では、年代が上がるごとに「地域・市民中心」が増えるという傾向が見られました。

そのほかに、「個人の生活に希望がない」と回答した人ほど「行政中心」と回答するという傾向や、市政への参加経験がある人は、参加経験がない人に比べて「地域・市民中心」と回答する傾向があることがわかりました。

## ②公共施設の老朽化への対応方法について

- 行政が中心となって案をつくるべき（行政中心）：36.6% ⇒ 28.5%（8.1ポイント↓）
- 現状維持：22.4% ⇒ 22.4%（増減なし）
- 市民が中心となって案をまとめるべき（市民中心）：37.3% ⇒ 47.3%（10.0ポイント↑）

公共施設の老朽化への対応方法について、行政が中心となって対応案をつくるべきか、市民が中心となって対応案をまとめるべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。

討論前と討論後で、「行政が中心となって案をつくるべき」は36.6%から28.5%となり、8.1ポイント減少した一方で、「市民が中心となって案をまとめるべき」は37.3%から47.3%となり、10.0ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、「市民中心」は、男性が43.2%、女性が49.3%となり、ほぼ同じ比率でしたが、「行政中心」は、男性が38.3%、女性が19.2%となり、男性が女性を約20ポイント上回りました。また、地域別の回答では、湘南台と村岡以外の11地区で、「市民中心」が「行政中心」を上回りました。

## ③財源確保の方策について

- 歳出削減を重視すべき（歳出削減重視）：35.4% ⇒ 43.5%（8.1ポイント↑）
- ちょうど中間：33.5% ⇒ 30.4%（3.1ポイント↓）
- 歳入増加を重視すべき（歳入増加重視）：27.3% ⇒ 24.9%（2.6ポイント↓）

財源確保の方策について、歳出削減を重視すべきか、歳入増加を重視すべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。

討論前と討論後で「歳出削減を重視すべき」は35.4%から43.5%となり、8.1ポイント増加しました。「歳入増加を重視すべき」は27.3%から24.9%となり、2.6ポイント減少しています。

性別ごとの回答では、「歳入増加重視」は、男性で22.2%、女性で24.7%となり、大きな差はありませんが、「歳出削減重視」は、男性が50.6%であるのに対して女性は38.4%で、12.2ポイントの差があります。

また、年代別の回答では、すべての年代で「歳出削減重視」が「歳入増加重視」を上回りました。

## ④企業誘致活動の方向性について

- 推進すべきではない：11.2% ⇒ 12.5%（1.3ポイント↑）
- ちょうど中間：11.2% ⇒ 19.9%（8.7ポイント↑）
- 推進すべき：72.6% ⇒ 67.1%（5.5ポイント↓）

藤沢市の企業誘致活動について、積極的に推進していくべきか、推進すべきではないか、どちらが望ましいと考えるかを聞きました。

討論前と討論後で「推進すべきではない」は11.2%から12.4%となり、1.3ポイント増加しました。他方で、「推進すべき」は72.6%から67.1%となり、5.5ポイント減少しました。性別ごとの回答では、男性女性ともに「推進すべき」が70%前後、「推進すべきではない」が15%前後でした。年代別の回答では、すべての年代で「推進すべき」が「推進すべきではない」を上回りました。

#### ⑤藤沢の魅力を積極的に訴える活動について

- 推進すべきではない：6.1% ⇒ 4.9% (1.2ポイント↓)
- ちょうど中間：9.9% ⇒ 6.8% (3.1ポイント↓)
- 推進すべき：80.7% ⇒ 87.7% (7.0ポイント↑)

藤沢市の魅力を訴える活動について、積極的に推進していくべきか、推進すべきではないか、どちらが望ましいと考えるかを聞きました。討論前と討論後「推進すべきではない」は6.1%から4.9%となり、1.2ポイント減少しました。一方で、「推進すべきではない」は80.7%から87.7%となり、7.0ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、男性女性ともに85%以上が「推進すべき」と回答し、年代別の回答でも、すべての年代で「推進すべき」が80%以上となりました。

#### ⑥今後の藤沢市役所の役割について

- まんべんなくサービスを提供すべき：30.4% ⇒ 18.6% (11.8ポイント↓)
- ちょうど中間：17.4% ⇒ 14.3% (3.1ポイント↓)
- 取捨選択を行い、機能を絞り込むべき：50.9% ⇒ 64.0% (13.1ポイント↑)

今後の藤沢市役所の役割について、「まんべんなくサービスを提供すべきか」、「取捨選択を行い、機能を絞り込むべきか」、どちらが望ましいと思うかを聞きました。

討論前と討論後で、「まんべんなくサービスを提供すべき」は30.4%から18.6%となり、11.8ポイント減少しました。一方で、「取捨選択を行い、機能を絞り込むべき」は、50.9%から64.0%となり13.1ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、「取捨選択」は、男性は74.1%でしたが、女性は54.8%となり、19.3ポイントの差がありました。他方で、「まんべんなく」は、男性が16.0%、女性は19.2%で、大きな差はありませんでした。また、年代別回答では、80歳代を除くすべての年代で、「取捨選択」が「まんべんなく」を大きく上回りました。

#### ⑦20年後のあなたの生活について

- 希望がない：20.5% ⇒ 24.2% (3.7ポイント↑)
- ちょうど中間：32.3% ⇒ 26.1% (6.2ポイント↓)
- 希望がある：40.9% ⇒ 47.9% (7.0ポイント↑)

20年後の藤沢市における生活について、希望があると思うか、ないと思うかを聞きました。

討論前と討論後で、「希望がない」と回答した人は20.5%から24.2%となり、3.7ポイント増加しました。また、「希望がある」は、40.9%から47.9%となり、7.0ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、「希望がない」と回答した人が男性は17.3%でしたが、女性は、32.9%となり、15.6ポイントの差がありました。また、「希望がある」と回答した人は、男性が54.3%であるのに対して、女性は41.1%となり、13.2ポイントの差がありました。両方とも大きな差があったと言えます。年代別の回答は、年代が上がるごとに「希望がある」が高まる傾向が見られました。

#### ⑧20年後の藤沢市の経済・社会状況について

- 悪くなっている：54.7% ⇒ 50.4% (4.3ポイント↓)
- ちょうど中間：17.4% ⇒ 19.3% (1.9ポイント↑)
- 良くなっている：23.7% ⇒ 27.9% (4.2ポイント↑)

20年後の藤沢市における経済・社会状況について、悪くなっていると思うか、良くなっていると思うか、を聞きました。

討論前と討論後で、「悪くなっている」と回答した人は54.7%から50.4%となり、4.3ポイント減少しました。また、「良くなっている」は、23.7%から27.9%となり、4.2ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、「良くなっている」と回答した人が男性は35.8%でしたが、女性は17.8%となり、18.0ポイントの差がありました。年代別の回答は、20歳代、50歳代、80歳代で「悪くなっている」が「良くなっている」を大きく上回っています。

#### ⑨20年後の藤沢市の地域の課題解決力について

- 弱くなっている：49.2% ⇒ 39.1% (10.1ポイント↓)
- ちょうど中間：8.1% ⇒ 13.7% (5.6ポイント↑)
- 強くなっている：39.1% ⇒ 47.2% (8.1ポイント↑)

20年後の藤沢市の地域の課題解決力について、弱くなっていると思うか、強くなっていると思うか、を聞きました。

討論前と討論後で、「弱くなっている」と回答した人は49.2%から39.1%となり、10.1ポイント減少しました。また「強くなっている」は、39.1%から47.2%となり、8.1ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、男性では、「良くなっている」と回答した人が35.8%でしたが、女性は17.8%となり、18.0ポイントの差がありました。年代別の回答は、20歳代、50歳代、80歳代で「悪くなっている」が「良くなっている」を大きく上回っています。地区別の回答を見ると、「強くなっている」と「弱くなっている」で回答が大きく割れています。

#### ⑩寄付など金銭の提供について

- 提供したくない：38.5% ⇒ 43.6% (5.1ポイント↑)
- ちょうど中間：21.7% ⇒ 23.0% (1.3ポイント↑)
- 提供したい：30.9% ⇒ 29.2% (1.7ポイント↑)

地域の課題の解決のために、寄付など金銭の提供をしたいか、したくないか、を聞きました。討論前と討論後で、「提供したくない」と回答した人は38.5%から43.6%となり、5.1ポイント増加しました。また、「提供したい」は、30.9%から29.2%となり、1.7ポイント減少しました。

性別ごとの回答では、「提供したくない」と回答した人が男性は38.3%でしたが、女性は46.6%となり、8.3ポイントの差がありました。年代別の回答は、70歳台で「提供したい」が「提供したくない」を38.9ポイント上回っています。地区別の回答は、地区ごとに大きく差が出ていることが分かります。



### ⑪活動時間や労力の提供

- したくない：16.8% ⇒ 13.7% (3.1ポイント↓)
- ちょうど中間：18.6% ⇒ 18.6% (増減なし)
- したい：62.7% ⇒ 67.7% (5.0ポイント↑)

地域の課題の解決のために、活動や労力の提供の提供をしたいか、したくないか、を聞きました。討論前と討論後で、「提供したくない」と回答した人は16.8%から13.7%となり、3.1ポイント減少しました。また、「提供したい」は、62.7%から67.7%となり、5.0ポイント減少しました。

性別ごとの回答では、「提供したい」と回答した人が男性、女性ともに80%を超えました。年代別の回答では、20歳台で「提供したくない」が「提供したい」を9.1ポイント上回っています。地区別の回答では、すべての地区で「提供したい」が「提供したくない」を上回っています。

### ⑫経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供

- 提供したくない：9.8% ⇒ 8.5% (1.3ポイント↓)
- ちょうど中間：18.0% ⇒ 17.4% (0.6ポイント↓)
- 提供したい：68.2% ⇒ 72.0% (3.8ポイント↑)

地域の課題の解決のために、経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供をしたいか、したくないか、を聞きました。討論前と討論後で「提供したくない」と回答した人は9.8%から8.5%となり、1.3ポイント減少しました。また、「提供したい」は68.2%から72.0%となり、3.8ポイント減少しました。

性別ごとの回答では、「提供したい」と回答した人が男性、女性ともに「提供したくない」と回答した人を上回っています。年代別の回答では、「提供したい」という人が「提供したくない」という人を上回っています。特に、20歳代の45.5%が「提供したい」と答えています。地区別の回答では、すべての地区で「提供したい」が「提供したくない」を上回っており、特に6つの地区で「提供したい」が80%を超えました。

### ⑬地域の人々との付き合い・連携などへの参加

- 参加したくない：9.9% ⇒ 7.4% (2.5ポイント↓)
- ちょうど中間：13.7% ⇒ 13.0% (0.7ポイント↓)
- 参加したい：74.6% ⇒ 79.0% (4.4ポイント↑)

地域の課題の解決のために、地域の人々との付き合い・連携などへ参加をしたいか、したくないか、を聞きました。討論前と討論後で「参加したくない」と回答した人は9.9%から7.4%となり、2.5ポイント減少しました。また、「参加したい」は74.6%から79.0%となり、4.4ポイント増加しました。

性別ごとの回答では、「参加したい」と回答した人が男性、女性ともに約80%を占めています。年代別の回答を見ると、年代が上がるほど「参加したい」が高まる傾向があることが分かります。地区別の回答では、すべての地区で「参加したい」が「参加したくない」を上回っていました。

#### ⑭地域経営会議をどれだけ知っているか

- 知っている：8.0% ⇒ 28.0% (20.0ポイント↑)
- 聞いたことはある：27.3% ⇒ 31.1% (3.8ポイント↑)
- 知らない：62.1% ⇒ 39.8% (22.3ポイント↓)

地域経営会議をどれくらい知っているかを聞きました。討論前と討論後で、「知っている」と回答した人は8.0%から28.0%となり、20.0ポイント増加しました。「聞いたことはある」と回答した人は、27.3%から31.1%となり、3.8ポイント増加しました。また、「知らない」は、62.1%から39.8%となり、22.3ポイント減少しました。

性別ごとの回答では、男女ともに「知っている」と回答した人が50%以上を超えました。年代別の回答を見ると、20代の54.5%が「知らない」と回答した一方で、70代の61.1%では「知っている」と回答しており、年代ごとに回答にばらつきがあることが分かります。地区別に見ると、回答にばらつきがあり、特に片瀬、鶴沼、明治、湘南台の4地区で50%以上が「知らない」と回答しています。

#### ⑮地域経営会議にどのくらい協力したいと思いますか

- 協力したくない：13.7% ⇒ 20.4% (6.7ポイント↑)
- ちょうど中間：29.2% ⇒ 29.2% (増減なし)
- 協力したい：42.2% ⇒ 44.0% (1.8ポイント↑)

地域経営会議にどれくらい協力したいと思っているかを聞きました。

討論前と討論後で、「協力したい」と回答した人は42.2%から44.0%となり、1.8ポイント増加しました。「ちょうど中間」と回答した人は、増減なしであり、「協力したくない」と回答した人は、13.7%から20.4%と6.7ポイント増加しています。

性別ごとの回答では、男性の53.1%が「協力したい」と回答し、女性の34.2%と18.9ポイント差があります。年代別の回答を見ると、年代が上がるとう「協力したい」と増加する傾向にあります。地区別に見ると、回答にばらつきがあり、特に片瀬、辻堂、藤沢、善行、遠藤、長後の6地区で50%以上が「協力したい」と回答しています。

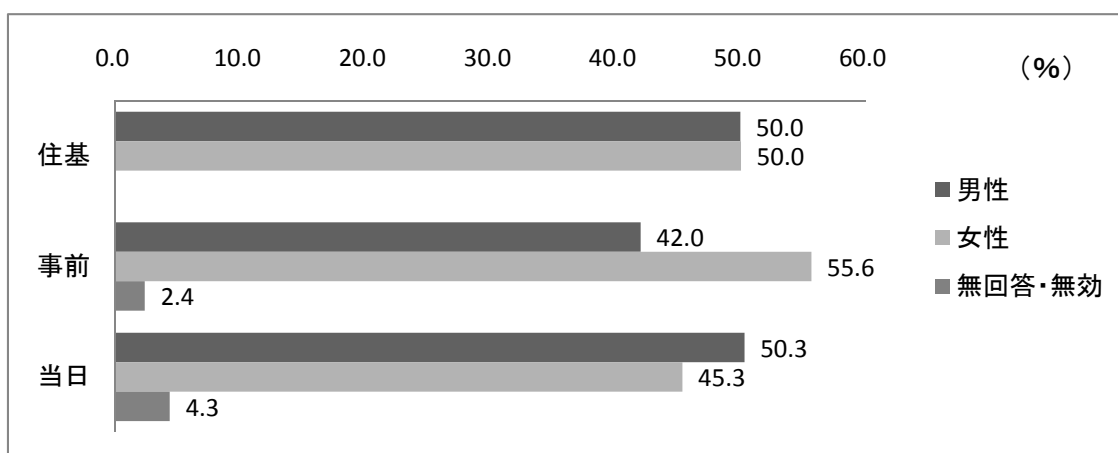
## 4. 調査対象者の基本属性

今回の調査結果は、小数点第2位を四捨五入し、構成比率（パーセンテージ）で少数第一位まで表示してあります。そのため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。

#### 4-1 性別構成（事前・当日アンケート）

- 事前では、男性42.0%、女性55.6%となり、女性が男性を13.6ポイント上回る
- 当日では、男性50.3%、女性45.3%となり、男性が女性を5.0ポイント上回る

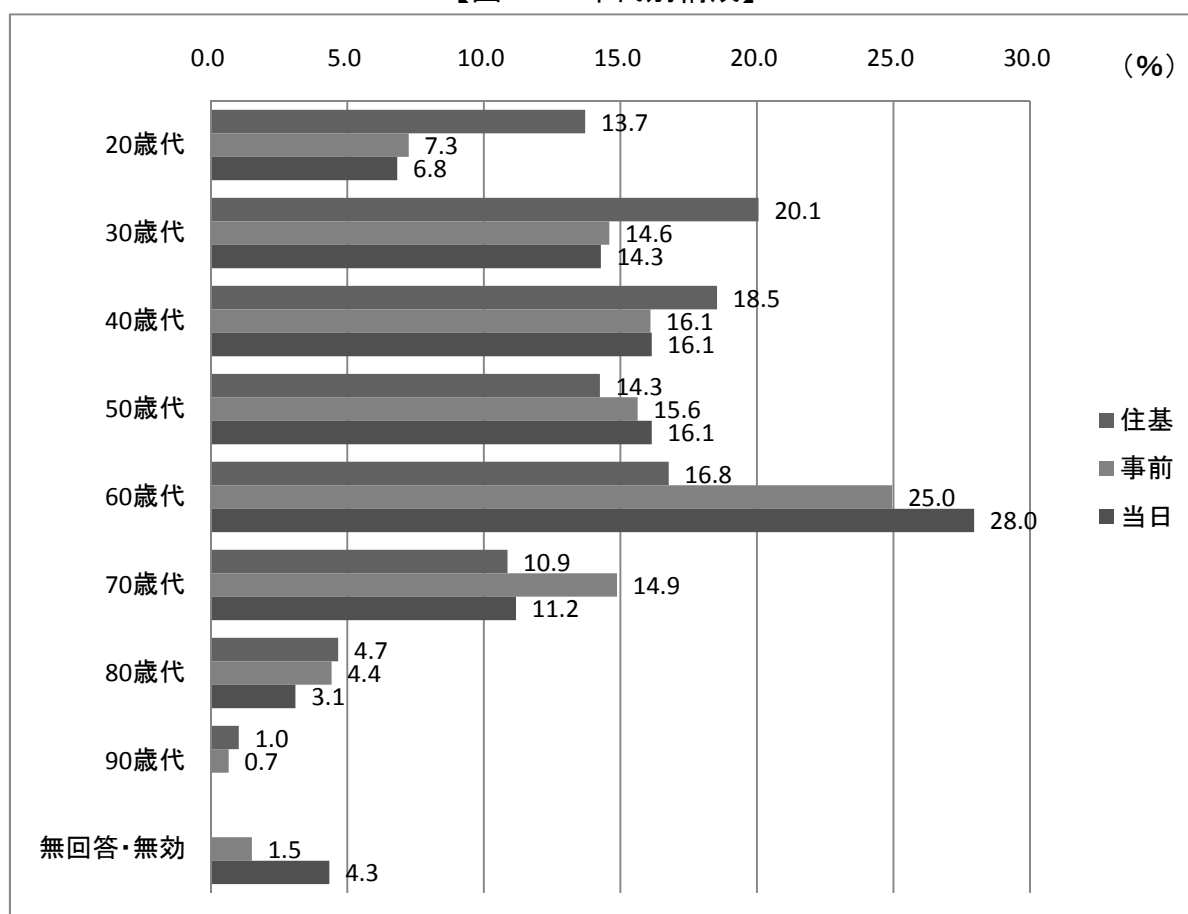
【図4-1 性別構成】



#### 4-2 年代別構成（事前・当日アンケート）

- 20歳代・30歳代は、事前および当日で住基データの水準を6ポイント前後下回る
- 60歳代は、事前では8.2ポイント、当日では11.2ポイント住基データの水準を上回る

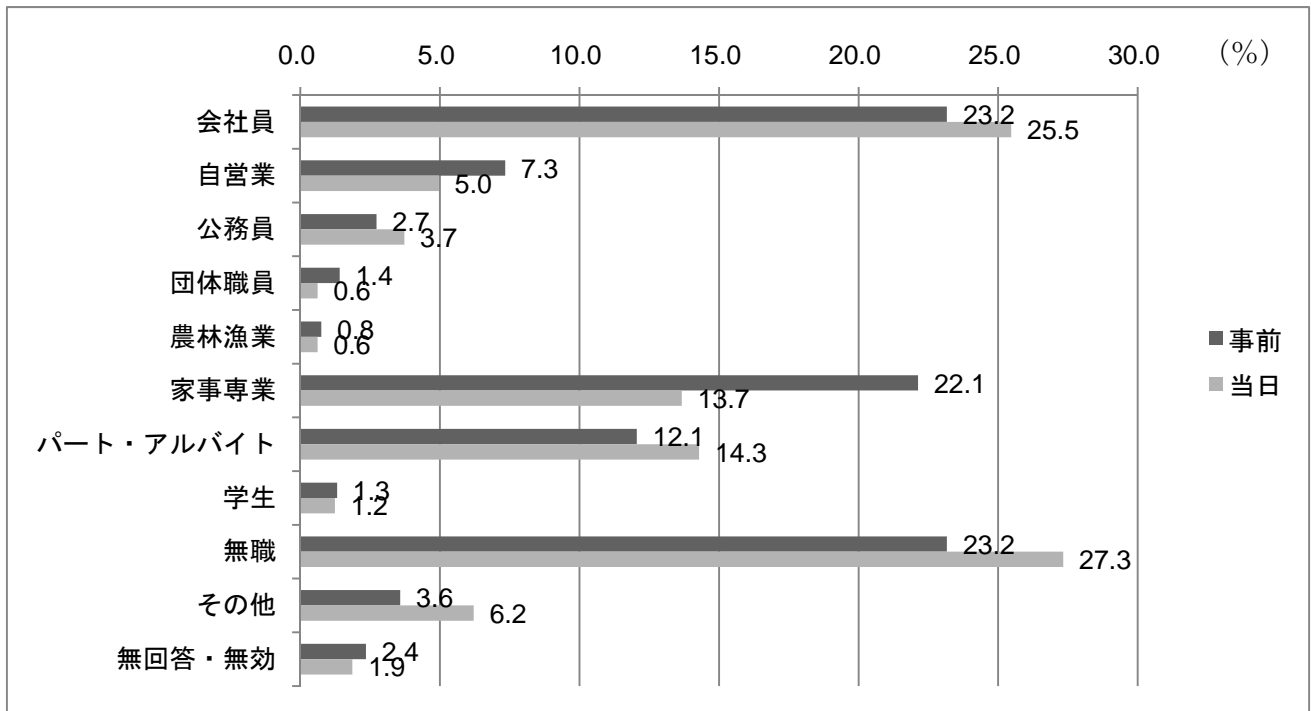
【図4-2 年代別構成】



### 4-3 職業別構成（事前・当日アンケート）

●「家事専業」が事前から当日で8.4ポイント減少

【図4-3 職業構成】

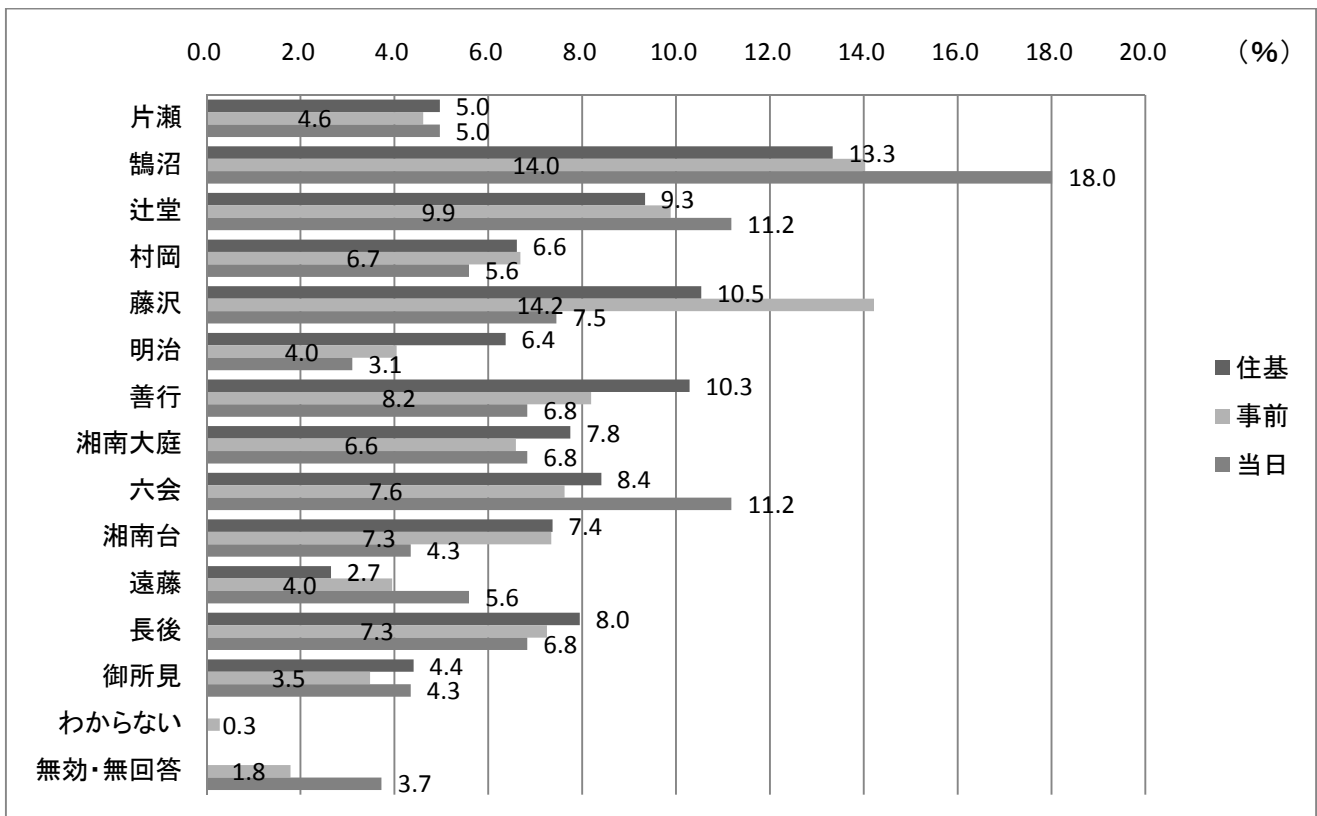


### 4-4 居住地区別構成（事前・当日アンケート）

●事前が住基の水準を上回ったのは、鶴沼 (+0.7P)、辻堂 (+0.6P)、藤沢 (+3.7P)、遠藤 (+1.3P)

●当日が住基の水準を上回ったのは、鶴沼 (+4.7P)、辻堂 (+1.9P)、六会 (+2.8P)、遠藤 (+2.9P)

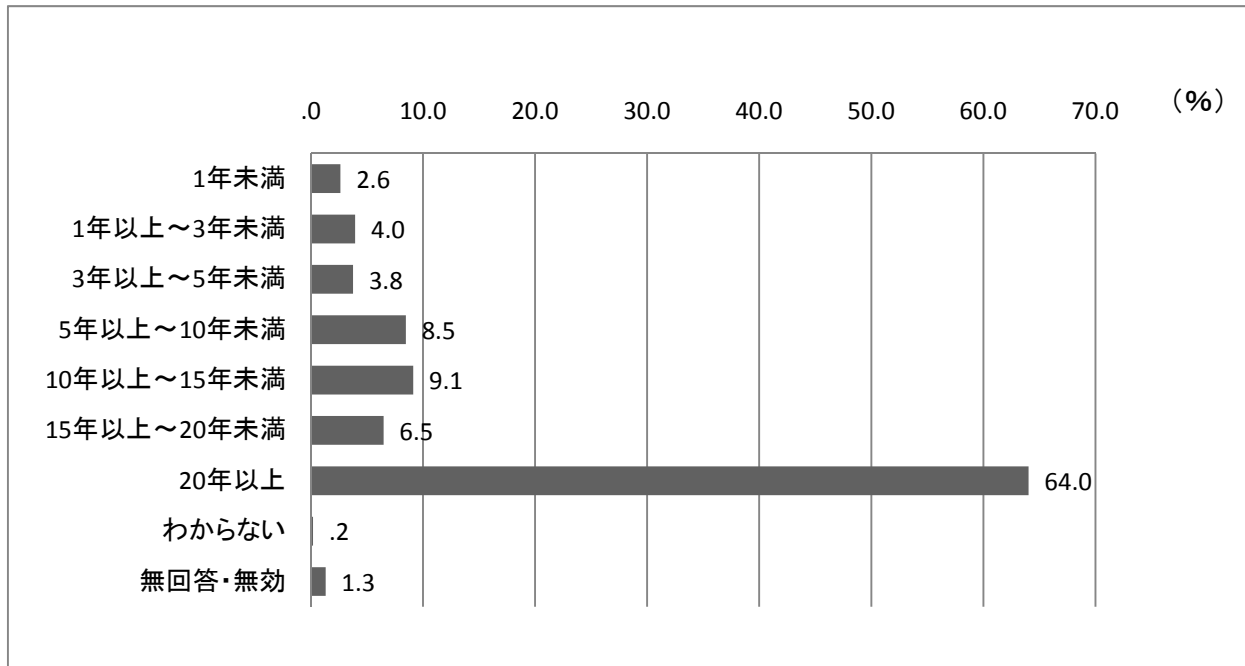
【図4-4 居住地区別構成】



#### 4-5 藤沢市在住期間（事前アンケート）

●藤沢市に20年以上在住している人が64.0%を占める

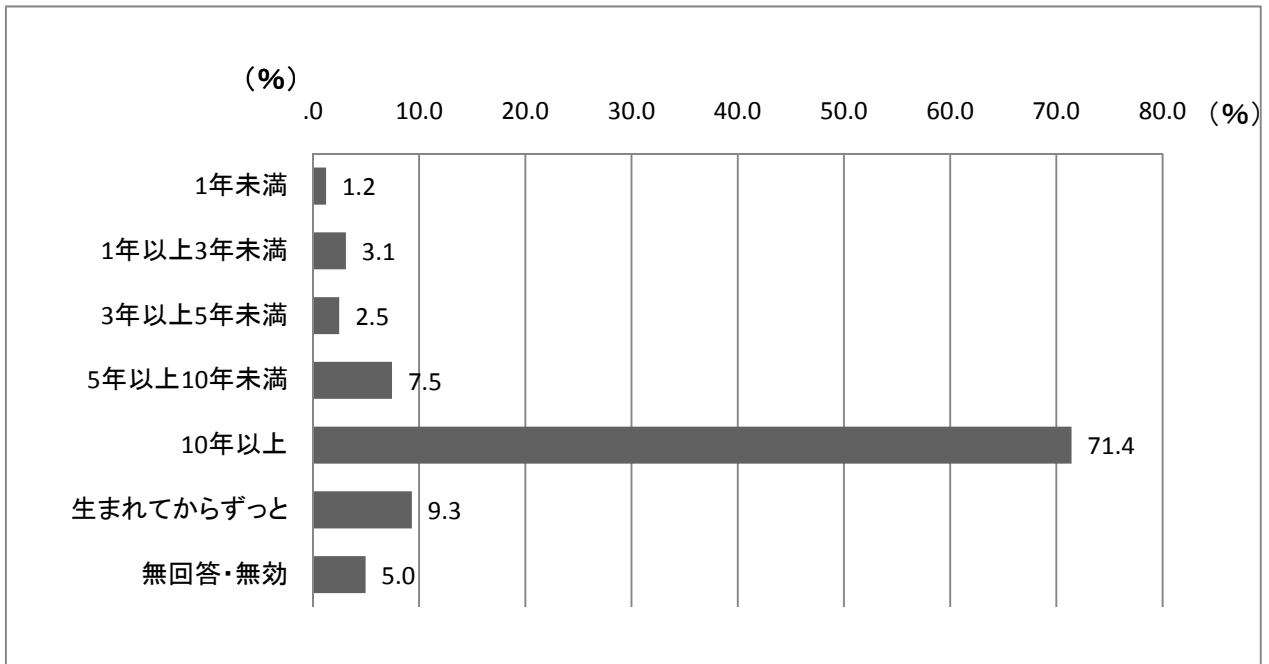
【図4-5 藤沢市在住期間（事前）】



#### 4-6 藤沢市在住期間（当日アンケート）

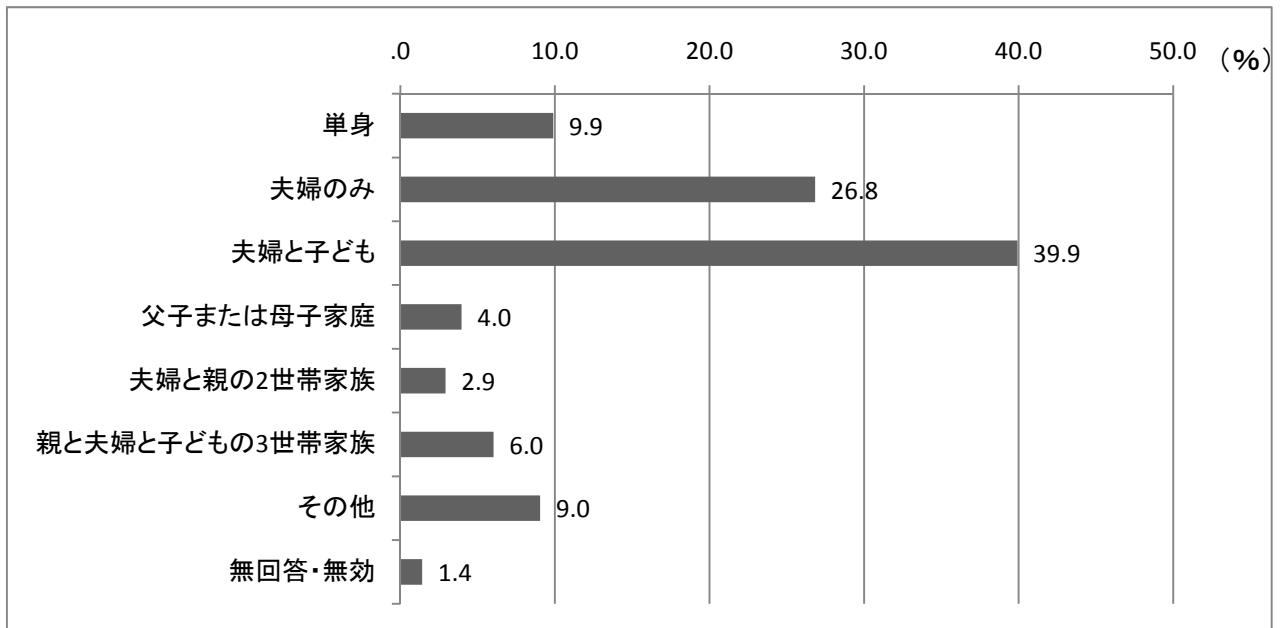
●藤沢市に10年以上在住している人が71.4%を占める

【図4-6 藤沢市在住期間（当日）】



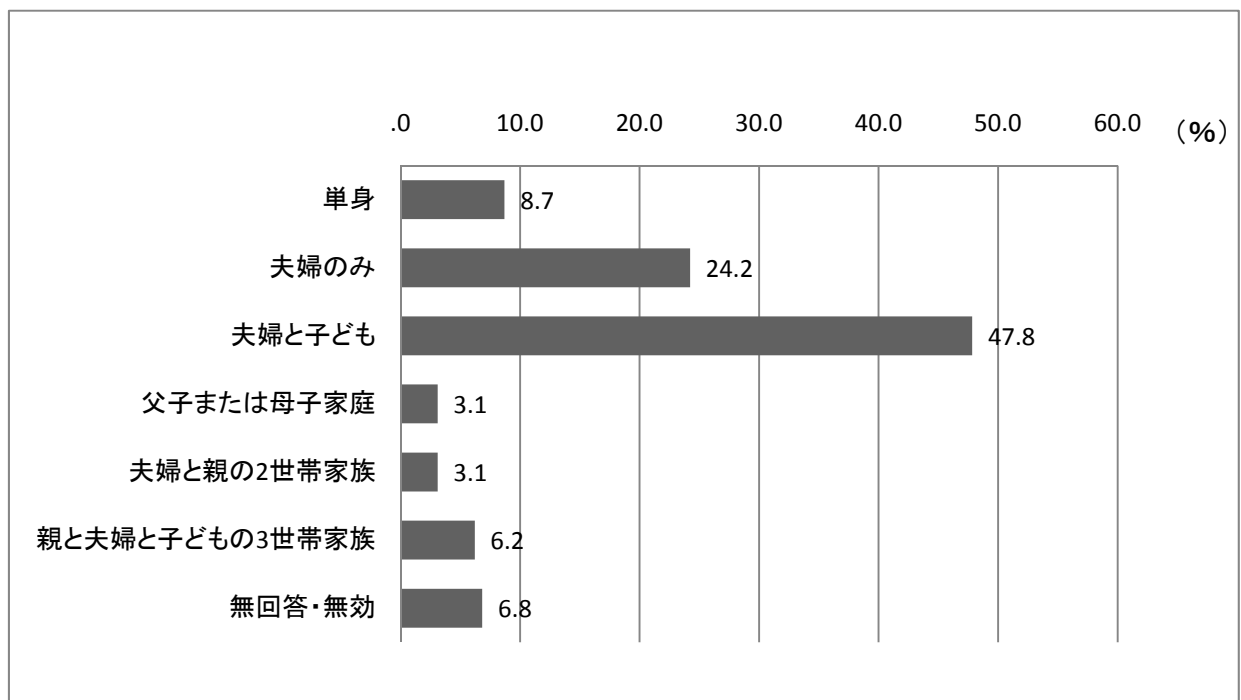
#### 4-7 家族形態（事前アンケート）

● 「夫婦と子ども」がもっとも多く39.9%、続いて「夫婦のみ」が26.8%



#### 4-8 家族形態（当日アンケート）

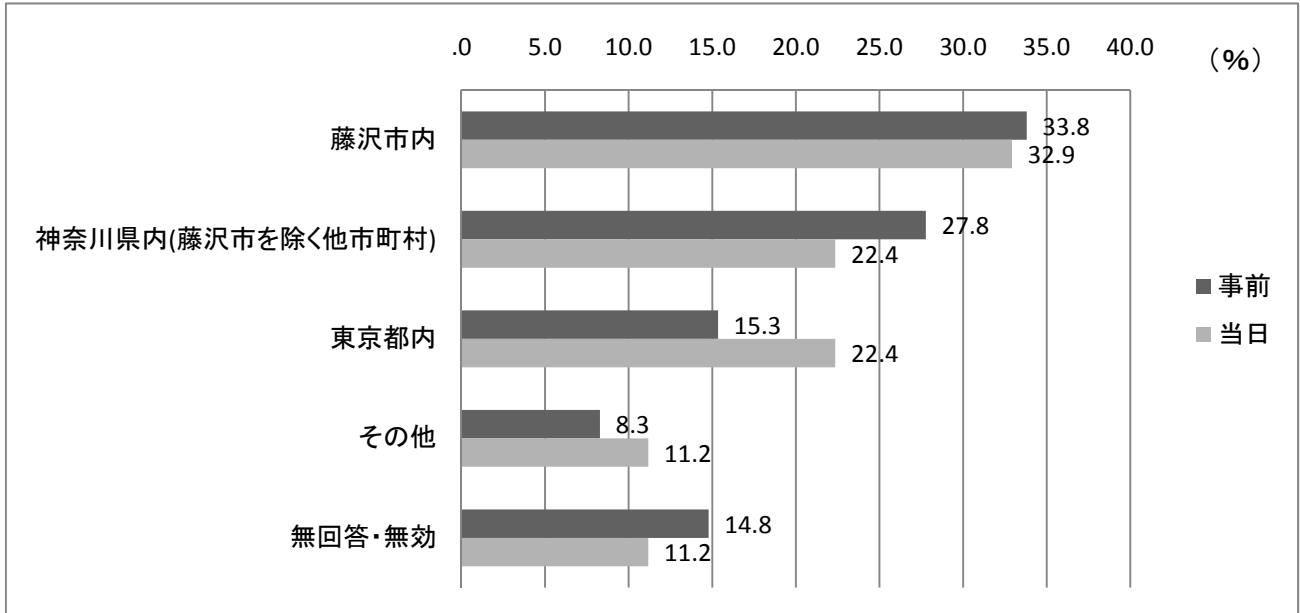
● 「夫婦と子ども」がもっとも多く47.8%、続いて「夫婦のみ」が24.2%



#### 4-9 就業・就学地域（事前・当日アンケート）

- 事前・当日ともに「藤沢市内で就業・就学している」がもっとも多く30%以上を占める
- 事前から当日で「東京都内」が7.1ポイント減少

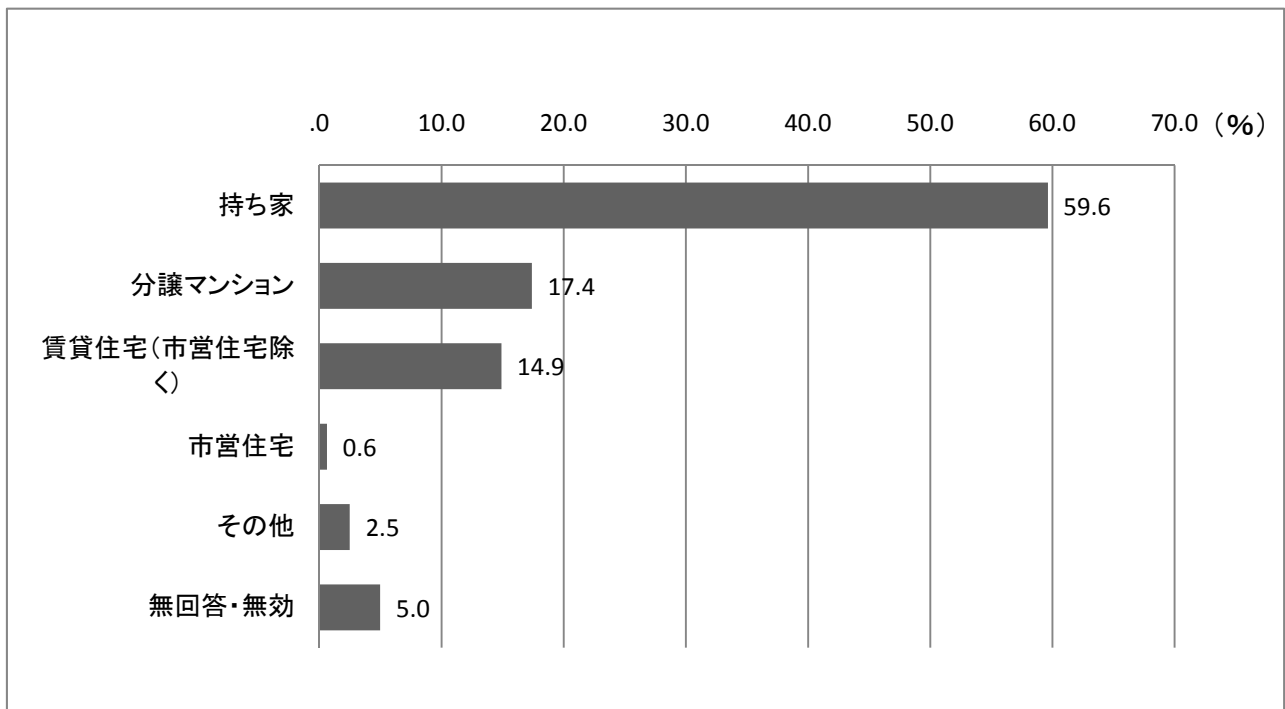
【図4-9 就業・就学地域】



#### 4-10 居住形態（当日アンケート）

- 「持ち家」が59.6%を占める

【図4-10 居住形態】



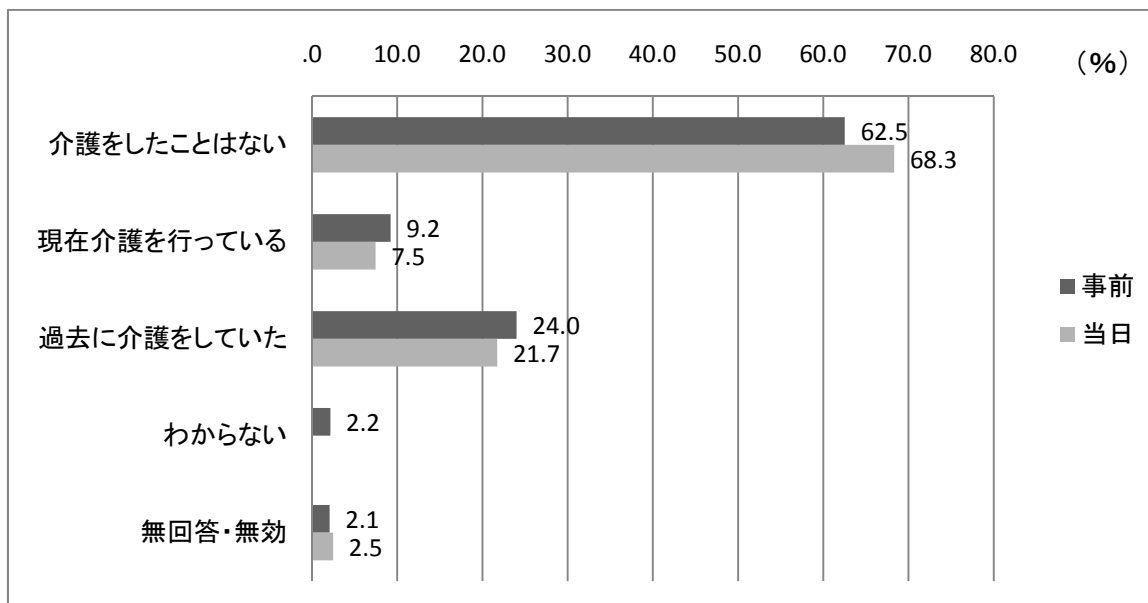


## 5. 調査対象者の経験・考え方

## 5-1 介護経験について（事前・当日アンケート）

●事前・当日ともに「介護をしたことはない」が60%以上を占める

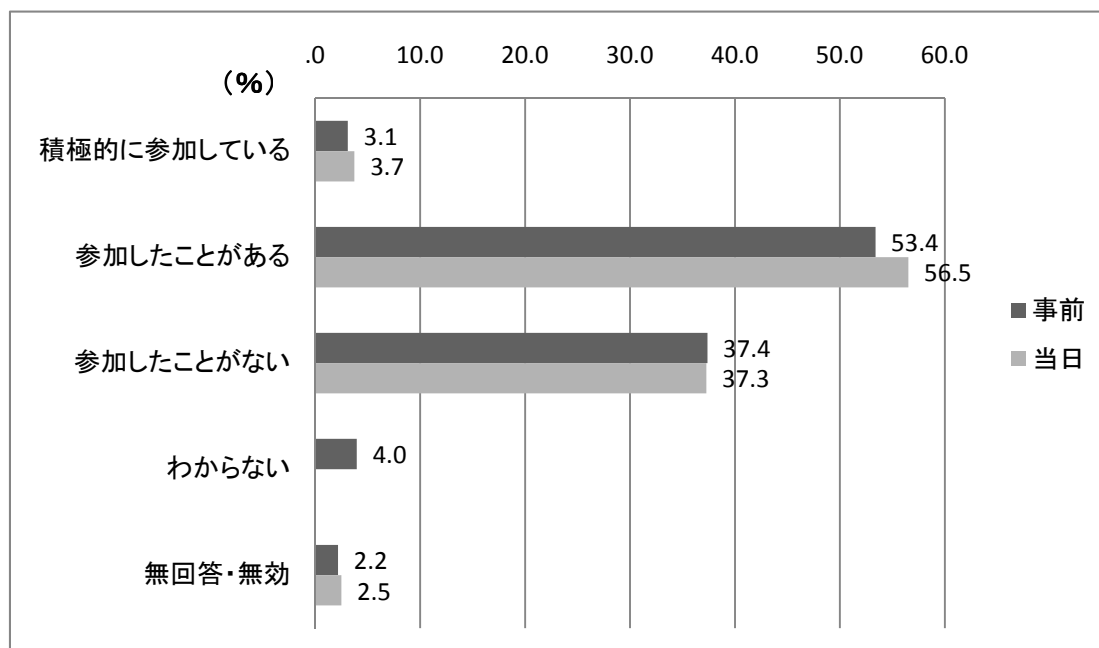
【図5-1 介護経験について】



## 5-2 市が主催するイベントや行事への参加経験について

●事前・当日ともに「参加したことがある」が50%以上を占める

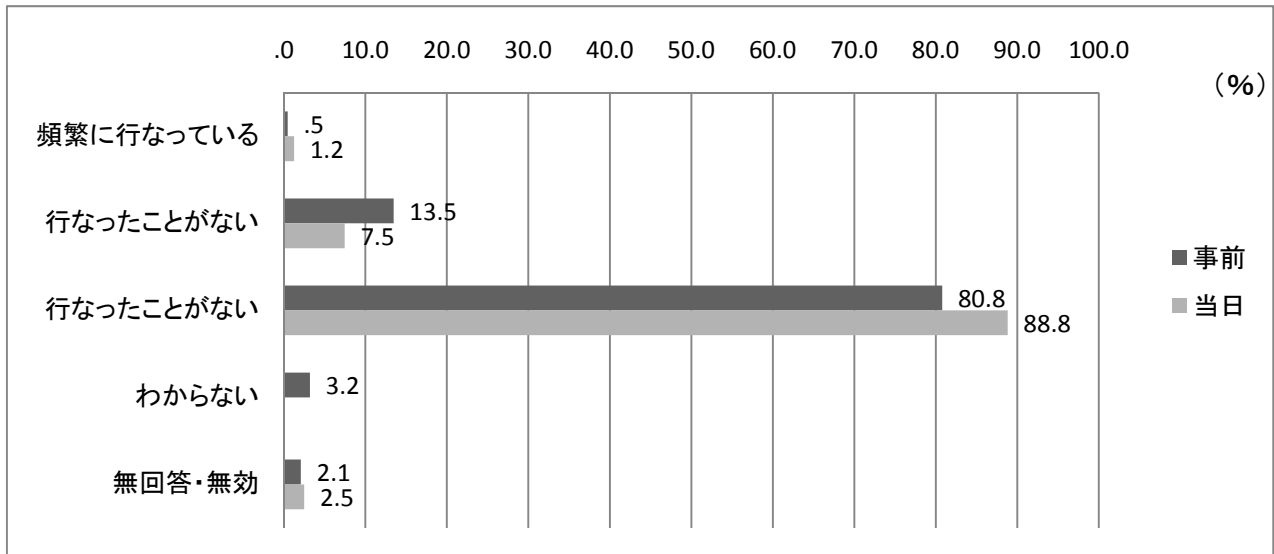
【図5-2 市主催のイベント・行事への参加経験について】



### 5-3 市政への参加経験について

●事前・当日ともに「行なったことがない」が80%以上を占める

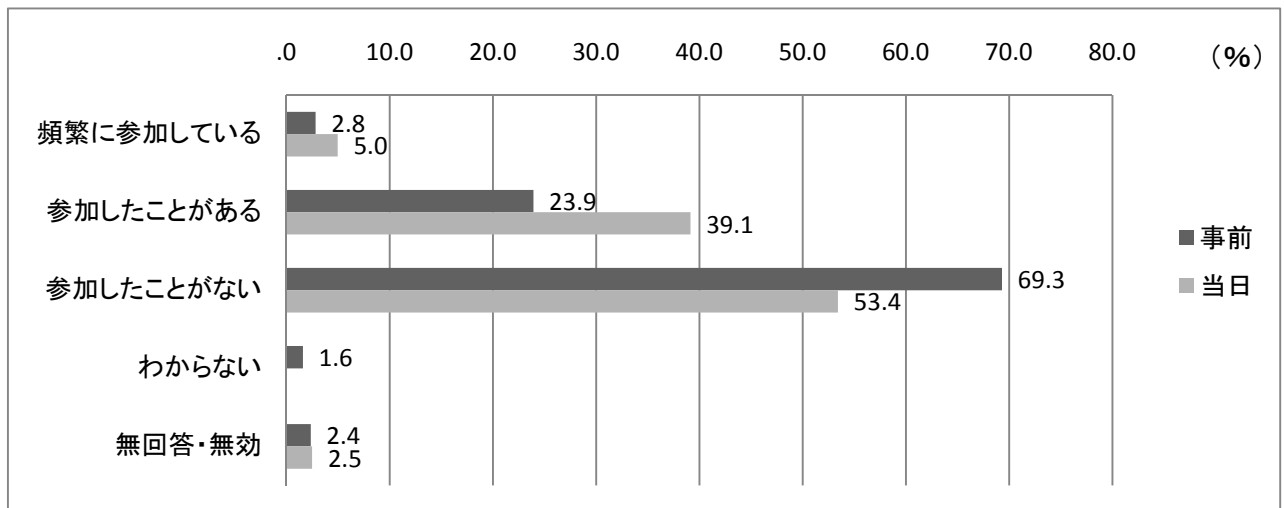
【図5-3 市政への参加について】



### 5-4 NPO活動やボランティア活動への参加経験について

●事前から当日で「参加したことがある」が15.2ポイント増加し、「参加したことがない」が15.9ポイント減少

【図5-4 NPO活動やボランティア活動への参加経験について】

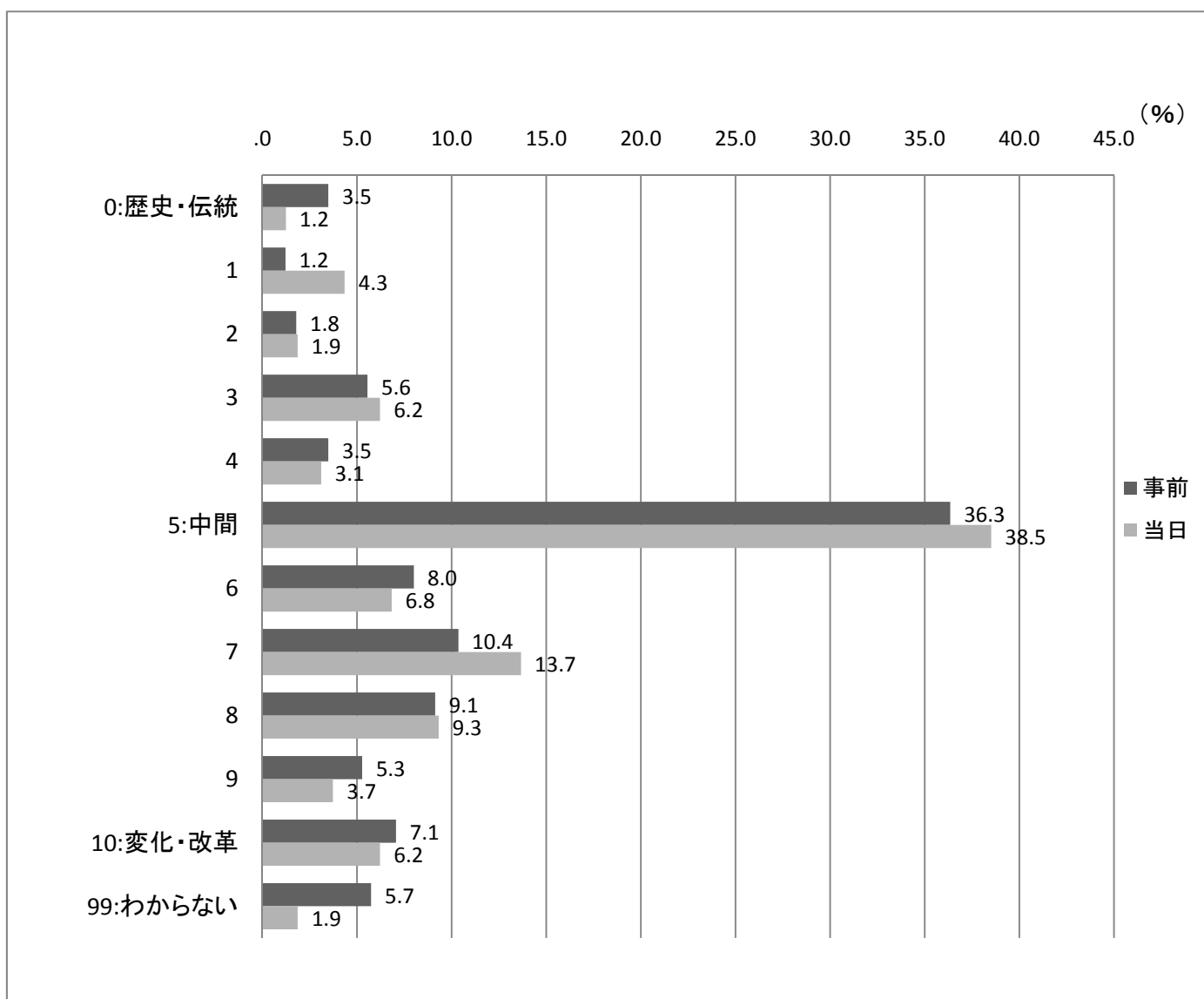


## 5-5 価値観・考え方について

問 「歴史や伝統を重視すること」を「0」、「変化や改革を重視すること」を「10」とした場合、あなたの考えはどこに位置しますか。

- 歴史や伝統を重視する：15.6% ⇒ 16.7% (1.1ポイント増加)
- 中間：36.3% ⇒ 38.5% (2.2ポイント増加)
- 変化や改革を重視する：39.9% ⇒ 39.7% (0.2ポイント減少)

【図5-5 価値観・考え方について】



## 6. 事前アンケート

- 20年後の藤沢市についての見通し
- 今後藤沢がとるべき政策の方向性

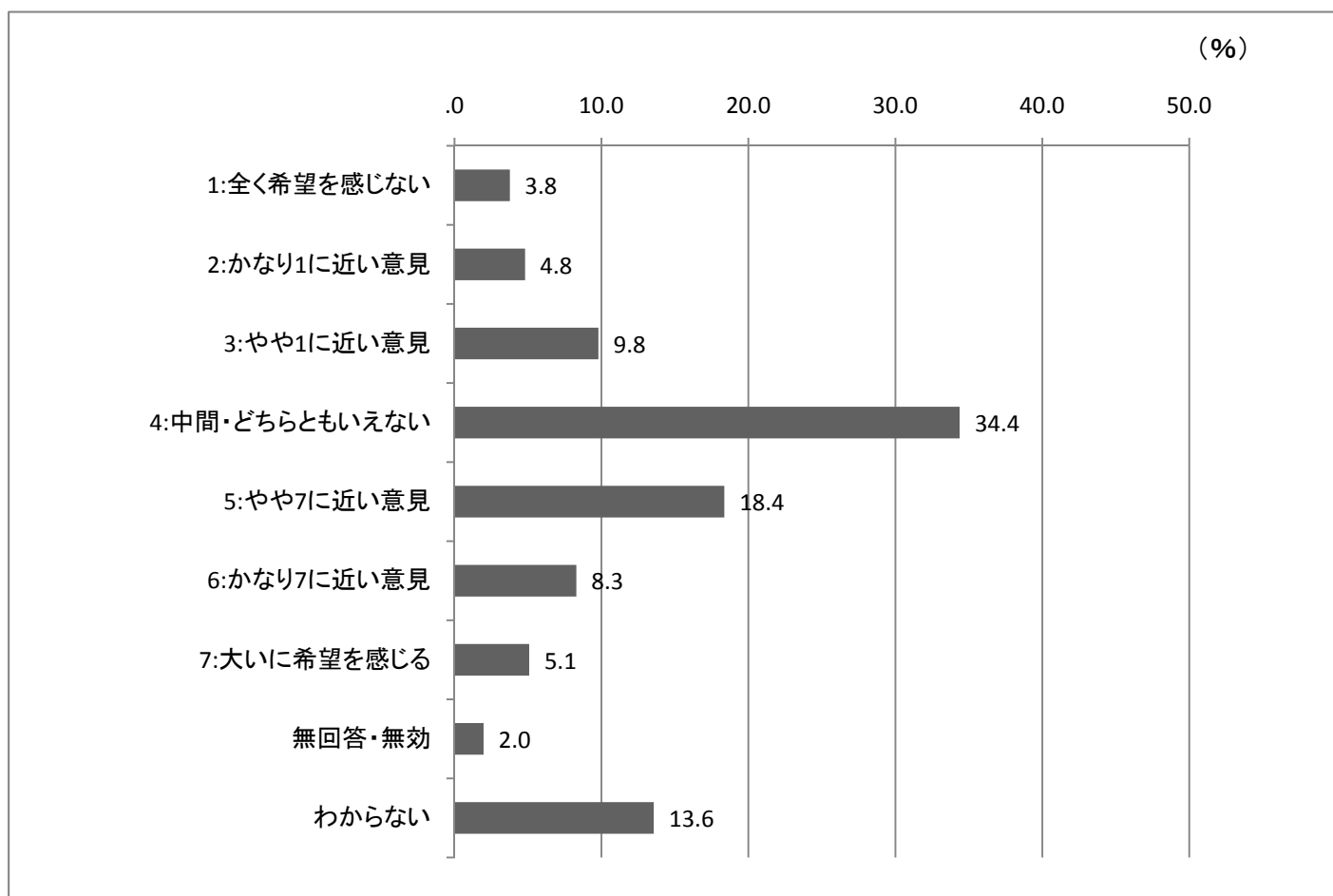
## 6-1 20年後のあなたの生活について

問 20年後の藤沢市における「あなたの生活」に、どの程度の希望を持っていますか。

- 希望がない：18.4%
- ちょうど中間：34.4%
- 希望がある：31.8%

20年後の「あなたの生活」にどの程度の希望を持っているかを聞きました。図6-1の通り、事前アンケートでは、「希望がある」（選択肢5,6,7）と回答した人は31.8%で、「希望がない」（選択肢1,2,3）という人よりも13.4ポイント多いという結果になりました。

【図6-1 20年後のあなたの生活への希望について】



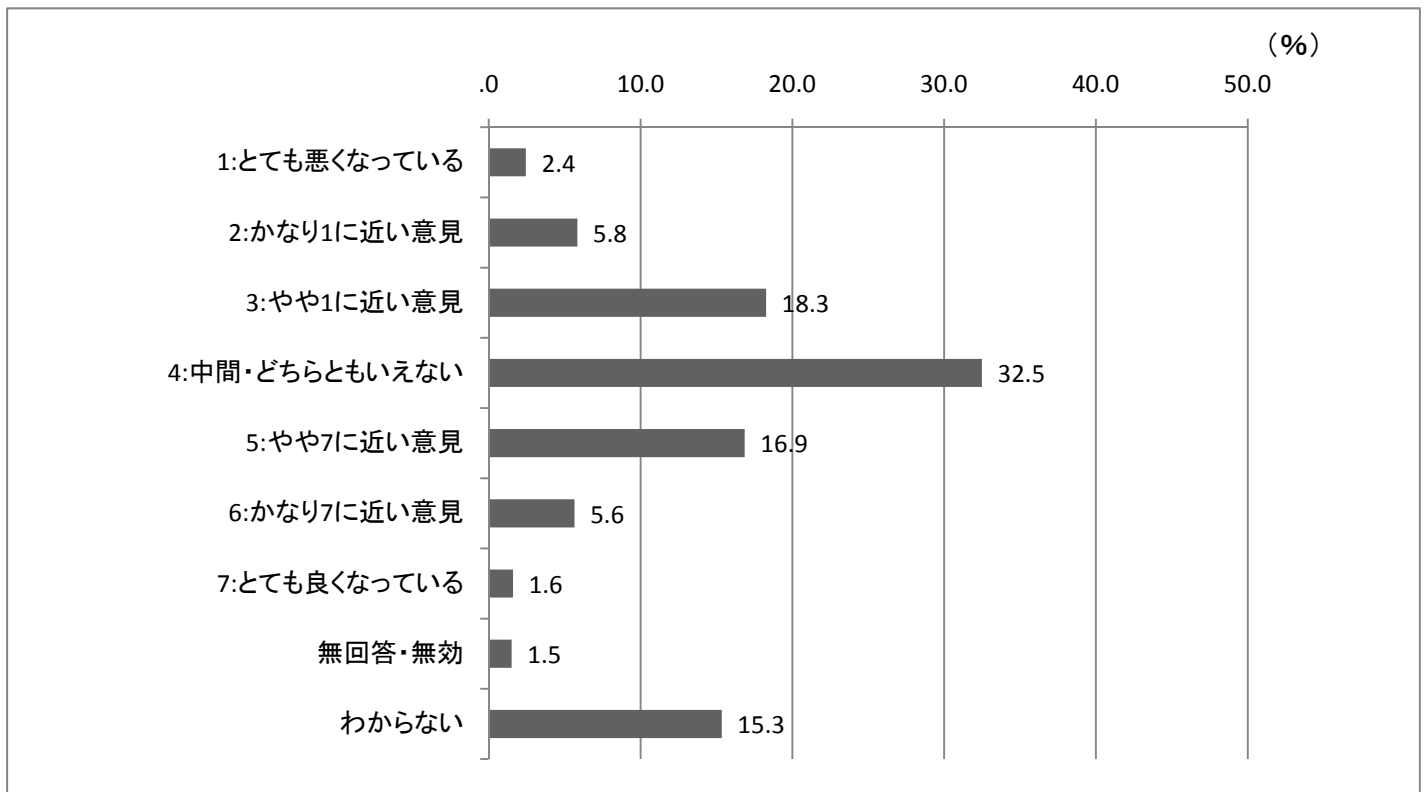
## 6-2 20年後の藤沢市の経済・社会状況について

問 20年後の藤沢市における「経済・社会状況」は、現在と比べて、どのようになっていると思いますか。

- 悪くなっている：26.5%
- ちょうど中間：32.5%
- 良くなっている：24.1%

20年後の藤沢市の「経済・社会状況」が現在と比べてどのようになっていると思うかを聞きました。図6-2の通り、事前アンケートでは、「悪くなっている」（選択肢1,2,3）と回答した人が「良くなっている」（選択肢5,6,7）と回答した人よりも2.4ポイント多いという結果になりました。

【図6-2 藤沢市の経済・社会状況の変化について】



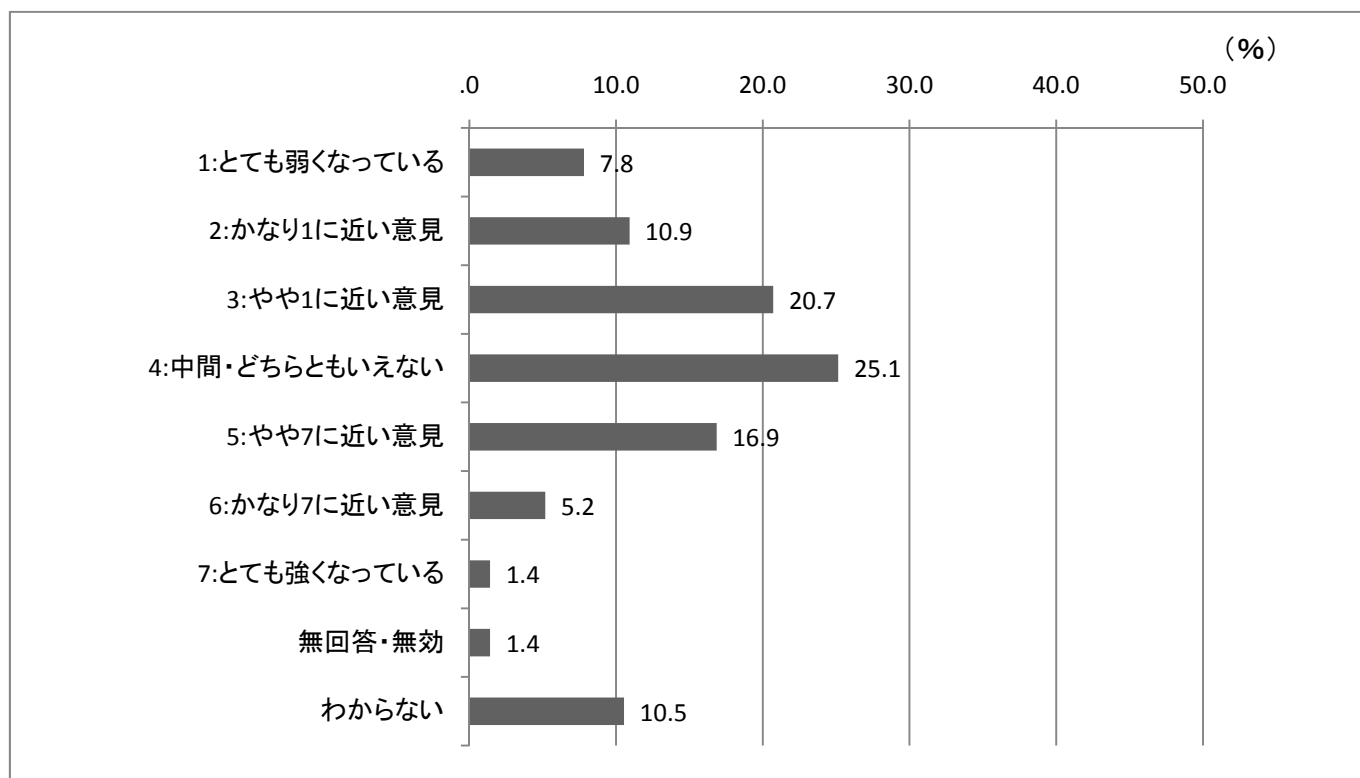
### 6-3 20年後の藤沢市の地域の課題解決力について

問 20年後の藤沢市における「近隣の人たちが地域の問題を協力して解決する力」は、現在と比べて、どのように変化していると思いますか。

- 弱くなっている：39.4%
- ちょうど中間：25.1%
- 強くなっている：23.5%

20年後の藤沢市の「地域の力」は現在と比べてどのようになっていると思うかを聞きました。図6-3の通り、事前アンケートでは、「弱くなっている」（選択肢1,2,3）と回答した人は39.4%で、「強くなっている」（選択肢5,6,7）と回答した人よりも15.9ポイント多いという結果になりました。

【図6-3 地域の課題解決力の見通し】





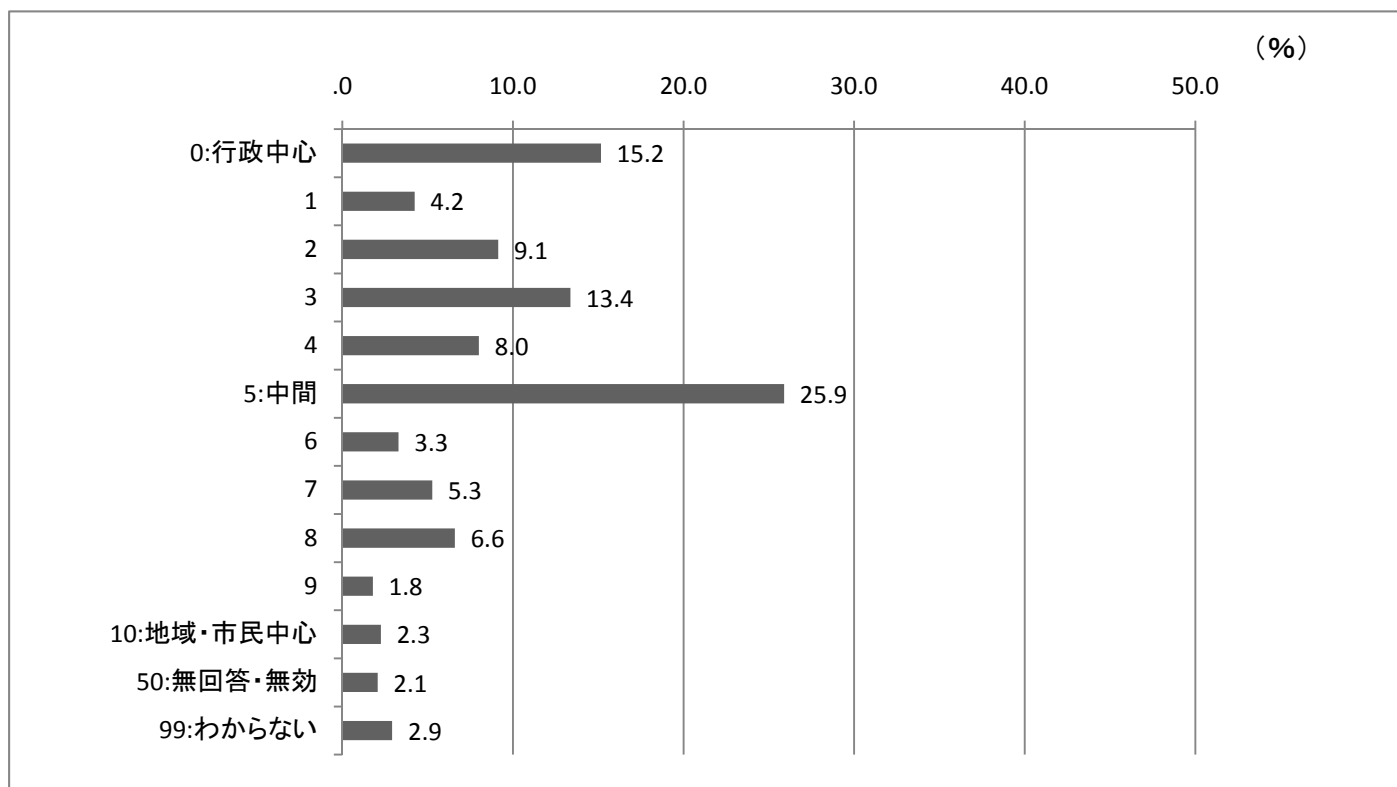
## 6-4 一人暮らし高齢者の支援方法について

問 藤沢市において、何らかの支援が必要な、一人暮らしの高齢者が増加した場合、その支援をする中心的な役割は誰が担うべきだと思いますか。「行政が中心的な役割を果たすべき」を「0」、「地域や市民が中心的な役割を果たすべき」を「10」、「ちょうど中間」を「5」とした場合に、あなたの考えはどこに位置しますか。

- 行政が中心的な役割を果たすべき（行政中心）：49.9%
- ちょうど中間：25.9%
- 地域や市民が中心的な役割を果たすべき（地域・市民中心）：19.3%

一人暮らし高齢者への支援について、行政が中心的な役割を果たすべきか、地域や市民が中心な役割を果たすべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図6-4の通り、事前アンケートでは、「行政が中心的な役割を果たすべき」（選択肢0,1,2,3,4）と回答した人が49.9%なのに対し、「地域や市民が中心的な役割を果たすべき」（選択肢6,7,8,9,10）と回答した人が19.3%となり、30.6ポイントの差が生じています。

【図6-4 一人暮らし高齢者への支援方法について】



## 6-5 公共施設の老朽化への対応方法について

問 藤沢市では、今後、多くの公共施設が老朽化していきます。こうした施設の建て替えや現状維持には多くの費用がかかりますが、どのように対応しておくべきだと思いますか？例えば、以下の、市民が利用する施設が老朽化したとき、「施設を廃止すべき（廃止）」を「0」、「建て替えるべき（建替え）」を「10」、「現状維持」を「5」としたとき、あなたの考えはどこに位置しますか？

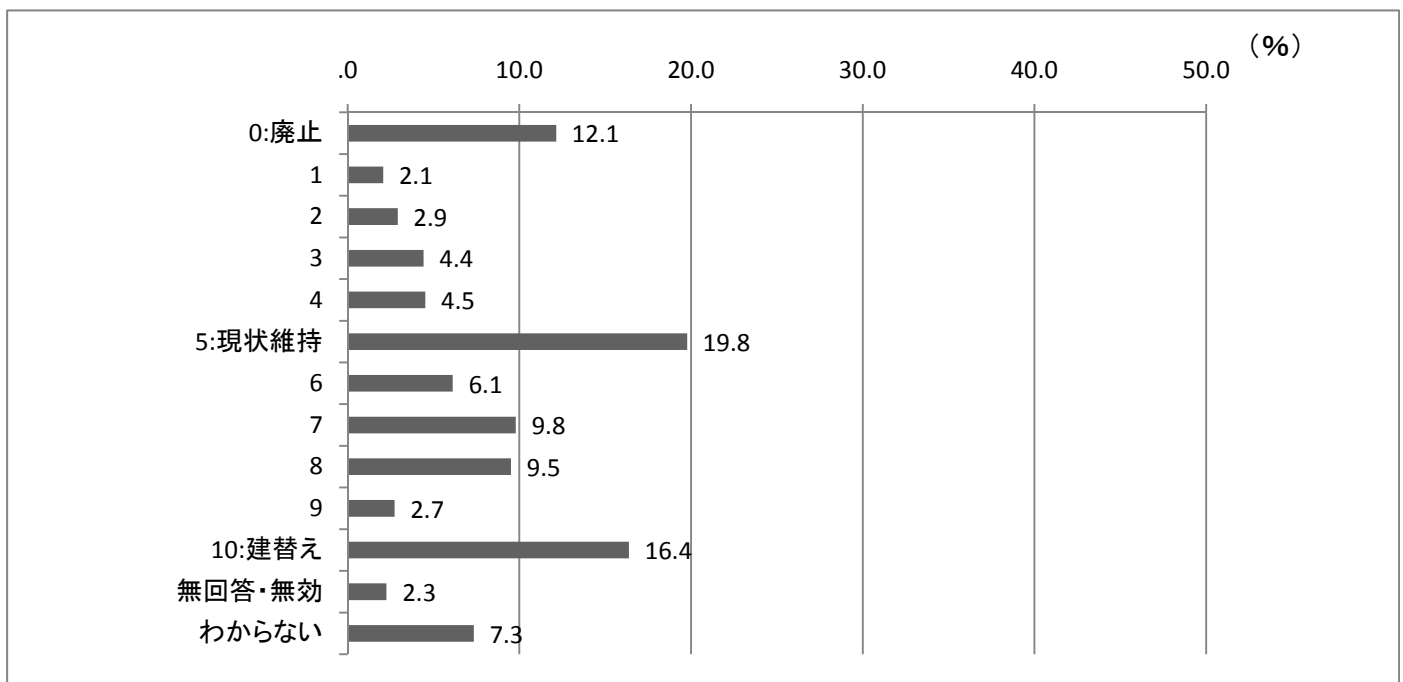
### ①「市民の家」（小学校区毎に設置されているコミュニティ施設）

- 施設を廃止すべき：26.0%
- 現状維持：19.8%
- 建て替えるべき：45.5%

公共施設の老朽化への対応策として、施設を廃止すべきか、現状維持か、建て替えるべきか、どれが望ましいと思うか、以下の3つの具体的な施設を例に聞きました。それぞれの回答を見ていきましょう。

図6-5-1の通り、事前アンケートで「市民の家」について聞いた設問では、「建て替えるべき」（選択肢6,7,8,9,10）と回答した人が45.5%で、「施設を廃止すべき」（選択肢0,1,2,3,4）と回答した人よりも19.5ポイント多いという結果になりました。

【図6-5-1 「市民の家」の老朽化への対応方法】

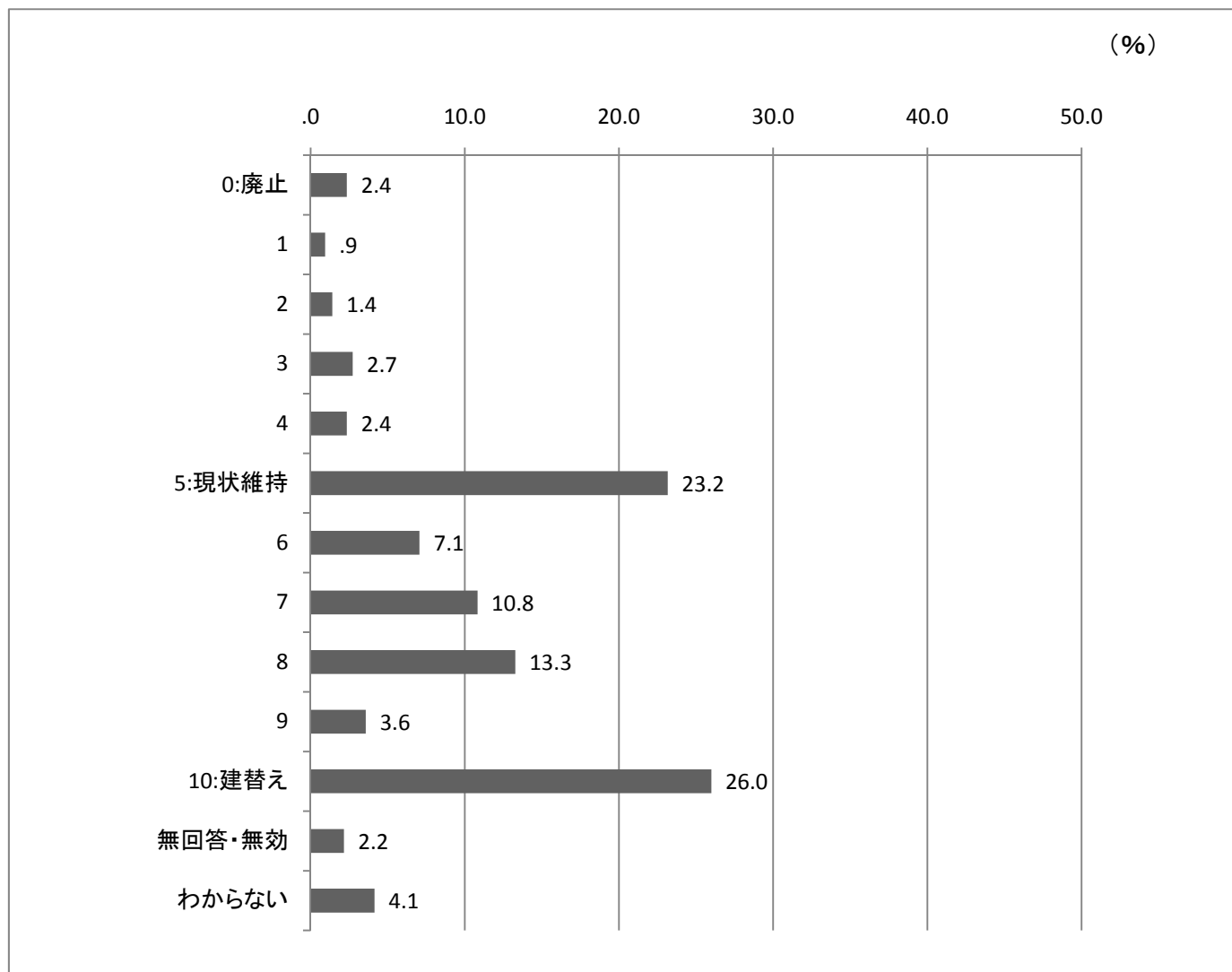


## ②市民センター・公民館（市内13地区に整備された社会教育施設）

- 施設を廃止すべき：9.8%
- 現状維持：23.2%
- 建て替えるべき：37.4%

図6-5-2の通り、事前アンケートで「市民センター・公民館」について聞いた設問では、「建て替えるべき」（選択肢6,7,8,9,10）と回答した人が37.4%で、「施設を廃止すべき」（選択肢0,1,2,3,4）と回答した人よりも27.6ポイント多いという結果になりました。

【図6-5-2 市民センター・公民館の老朽化への対応方法】

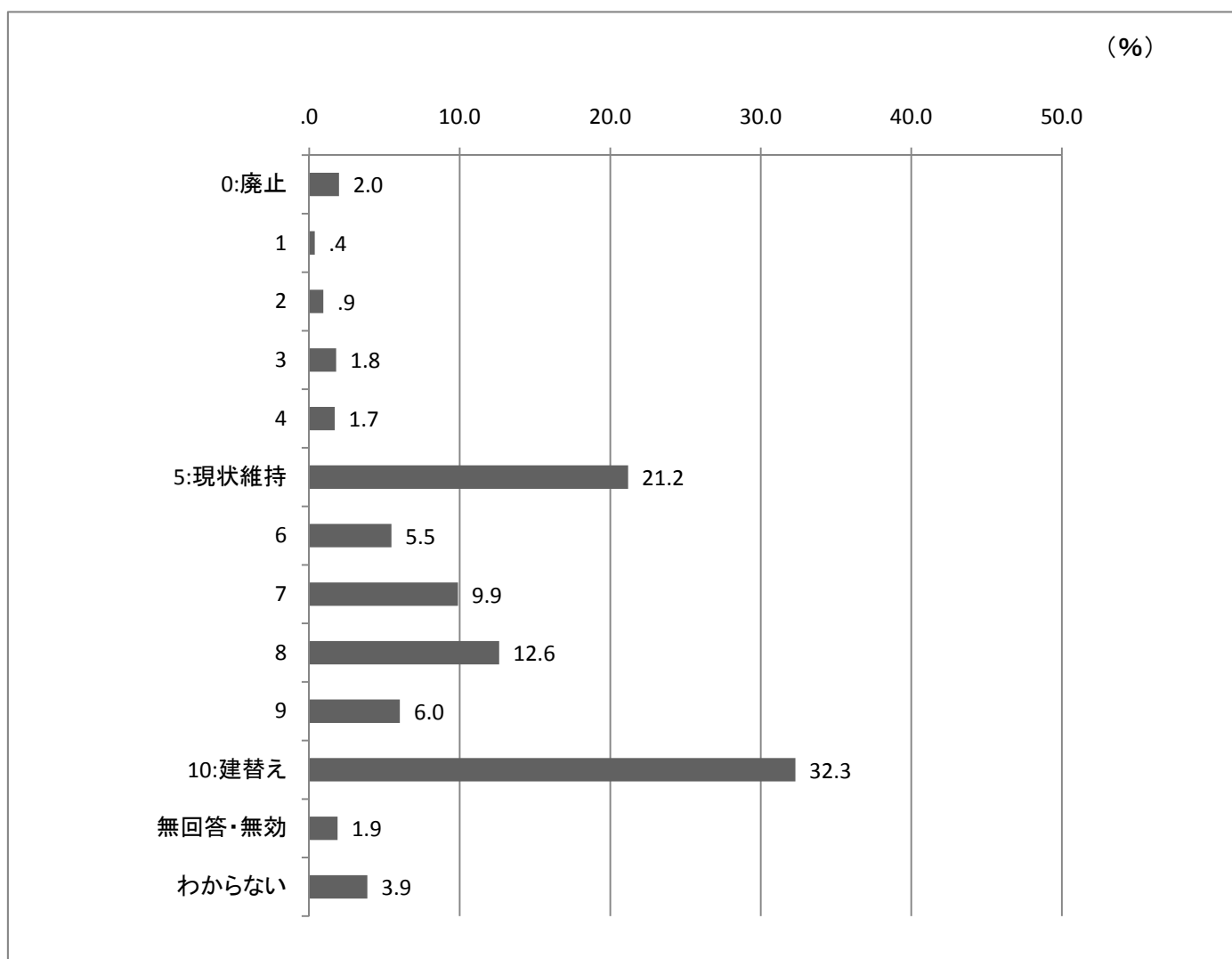


### ③市民会館や図書館（全市域からの利用を想定した施設）

- 施設を廃止すべき：6.8%
- 現状維持：21.2%
- 建て替えるべき：66.3%

図6-5-3の通り、事前アンケートで「市民会館や図書館など（全市域からの利用を想定した施設）」について聞いた設問では、「建て替えるべき」（選択肢6,7,8,9,10）と回答した人が66.3%で、「施設を廃止すべき」（選択肢0,1,2,3,4）と回答した人よりも59.5ポイント多いという結果になりました。

【図6-5-3 市民会館や図書館などの老朽化への対応方法】



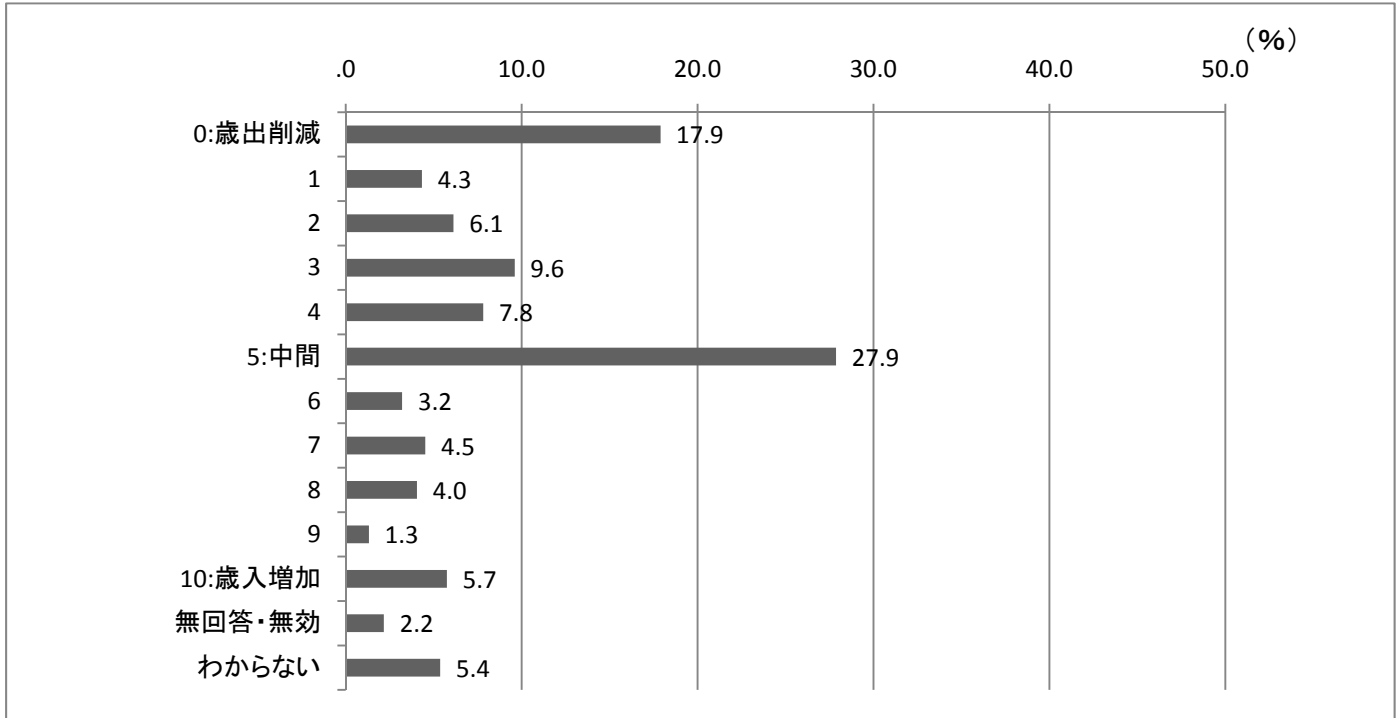
## 6-6 財源確保の方策について

問 自治体（市役所）が財源を確保するための方策には、「歳出削減（支出を減らす）」と「歳入増加（収入を増やす）」があります。今後、藤沢市においてはどのように対応していくべきだと思いますか。「歳出削減に努力すべき（歳出削減）」を「1」、「歳入増加に努力すべき（歳入増加）」を「7」、「ちょうど中間」を「4」としたとき、あなたの考えはどこに位置しますか。

- 歳出削減を重視すべき（歳出削減重視）：45.7%
- ちょうど中間：27.9%
- 歳入増加を重視すべき（歳入増加重視）：18.7%

財源確保の方策について、歳出削減を重視すべきか、歳入増加を重視すべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図6-6の通り、事前アンケートでは、「歳出削減を重視すべき」（選択肢0,1,2,3,4）と回答した人が45.7%となり、「歳入増加を重視すべき」（選択肢6,7,8,9,10）と回答した人よりも27.0ポイント多いという結果になりました。

【図6-6 財源確保の方策について】



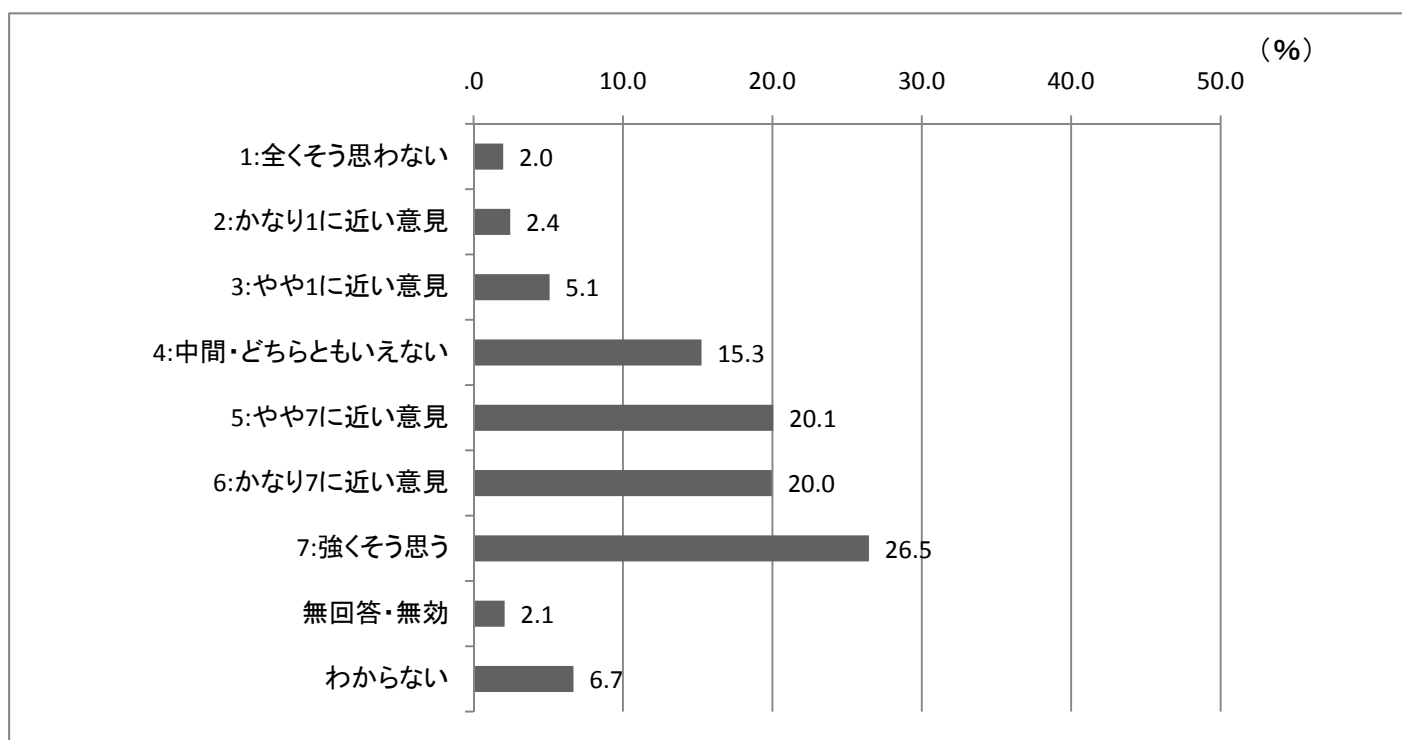
## 6-7 企業誘致活動の方向性について

問 藤沢市では、今後、企業誘致を目指した活動を積極的に推進すべきだと思いますか。

- 推進すべきではない : 9.5%
- 中間・どちらともいえない : 15.3%
- 推進すべき : 66.6%

藤沢市の企業誘致活動について、積極的に推進していくべきか、推進すべきではないか、どちらが望ましいと考えるかを聞きました。図6-7の通り、事前アンケートでは、「推進すべき」（選択肢5,6,7）と回答した人が66.6%となり、「推進すべきではない」（選択肢1,2,3）と回答した人よりも57.1ポイント多いという結果になりました。

【図6-7 企業誘致活動の方向性について】



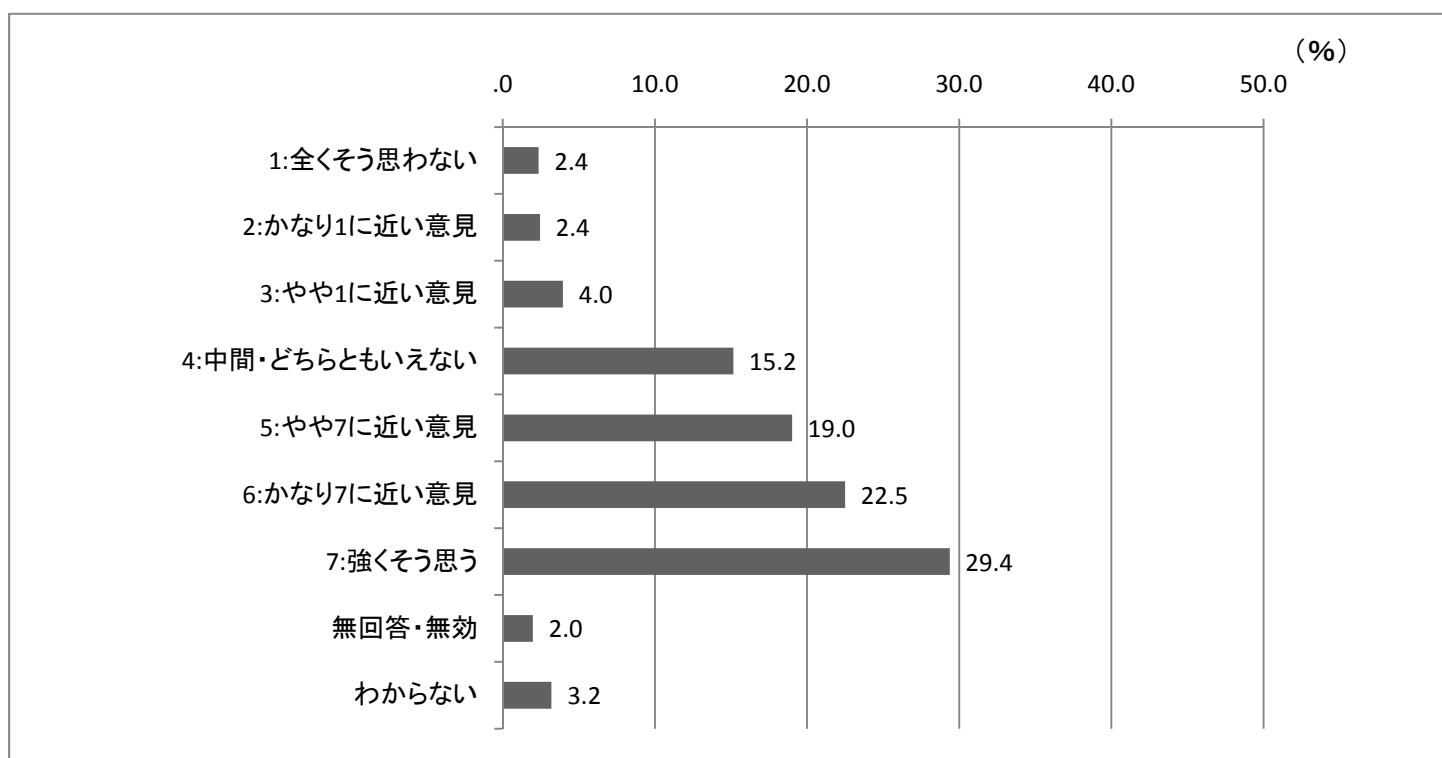
## 6-8 藤沢市の魅力を積極的に訴える活動について

問 藤沢市では、今後、文化、環境、健康、ライフスタイルを中心に、魅力を訴えることを目指した活動を積極的に推進すべきだと思いますか。

- 推進すべきではない : 8.8%
- 中間・どちらともいえない : 15.2%
- 推進すべき : 70.9%

藤沢市の魅力を訴える活動について、積極的に推進していくべきか、推進すべきではないか、どちらが望ましいと考えるかを聞きました。図6-8の通り、事前アンケートでは、「推進すべきである」（選択肢5,6,7）と回答した人が70.9%となり、「推進すべきではない」（選択肢1,2,3）と回答した人よりも62.1ポイント多いという結果になりました。

【図6-8 藤沢市の魅力を訴える活動について】



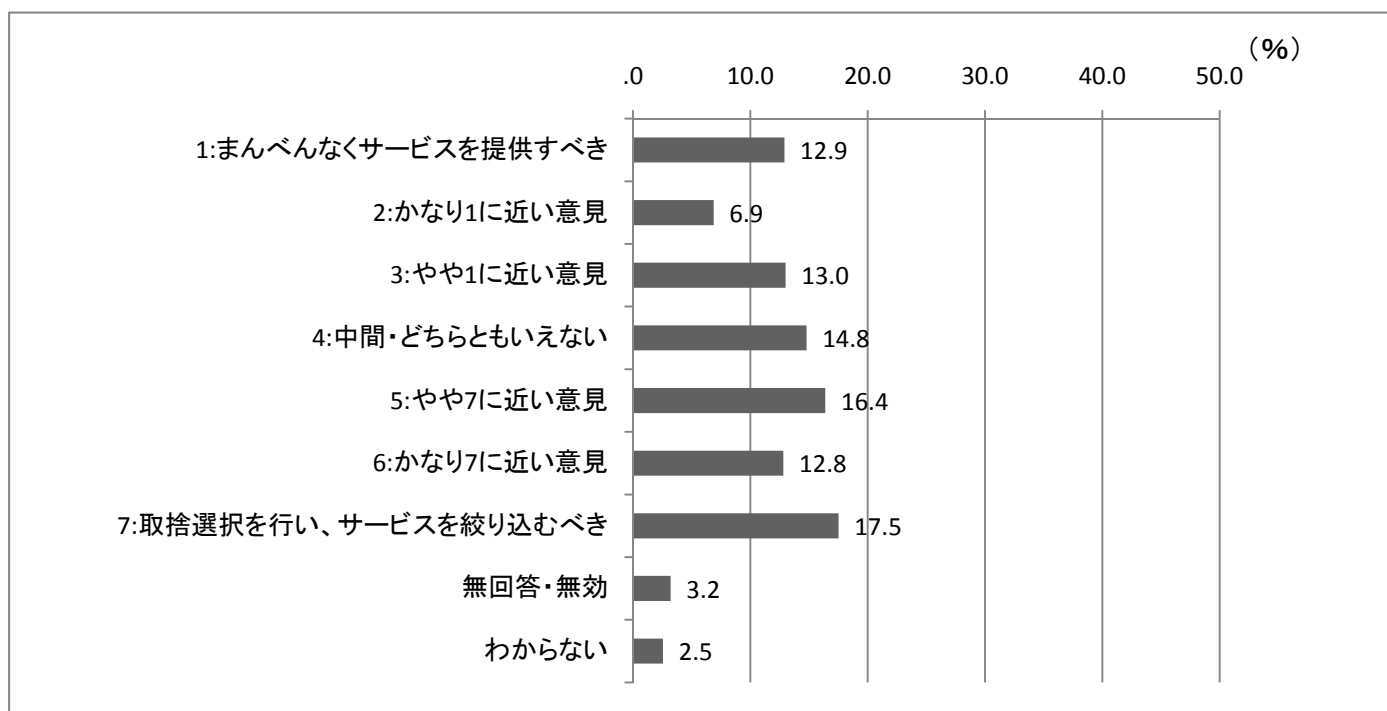
## 6-9 今後の藤沢市役所の役割について

問 これから、藤沢市役所はどのような役割を担っていきべきだと思いますか。「まんべんなくサービスを提供すべき」を「1」、「取捨選択を行い、サービスを絞り込むべき」を「7」としたとき、あなたの考えはどこに位置しますか。

- まんべんなくサービスを提供すべき：32.8%
- 中間・どちらともいえない：14.8%
- 取捨選択を行い、サービスを絞り込むべき：46.7%

今後の藤沢市役所の役割について、「まんべんなくサービスを提供すべきか」、「取捨選択を行い、サービスを絞り込むべきか」、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図6-9の通り、事前アンケートでは、「取捨選択を行い、機能を絞り込むべき」（選択肢5,6,7）と回答した人は、46.7%となり、「まんべんなくサービスを提供すべき」（選択肢1,2,3）と回答した人よりも13.9ポイント増加しました。

【図6-9 今後の藤沢市役所の役割について】





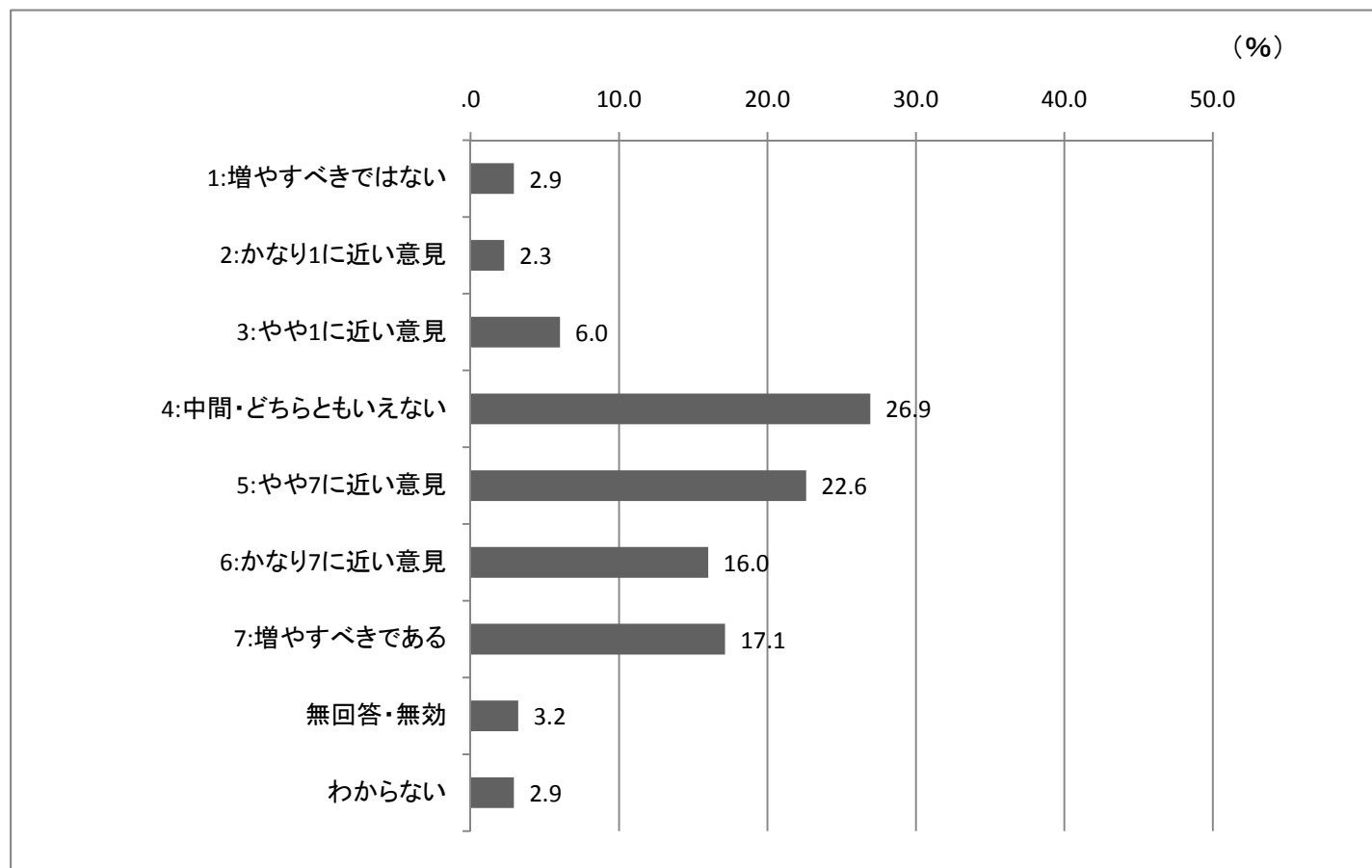
## 6-10 地域の状況や生活改善のための市民の貢献活動について

問 あなたが暮らす地域の状況や生活をよりよいものにしていくために、これまで以上に、市民が協力し合ったり地域への貢献活動を増やしても良いと思いますか。

- 増やすべきではない：11.2%
- 中間・どちらともいえない：26.9%
- 増やすべきである：55.7%

地域の状況や生活改善のための市民の協力や地域の貢献活動について、増やすべきか、増やすべきでないか、どう考えるか聞きました。図6-10の通り、事前アンケートでは、「増やすべきである」（選択肢5,6,7）と回答した人が55.7%となり、「増やすべきでない」（選択肢1,2,3）と回答したよりも44.5ポイント多いという結果となりました。

【図6-10 地域の状況や生活改善のための市民の貢献活動について】



## 6-11 地域の課題解決のための貢献について

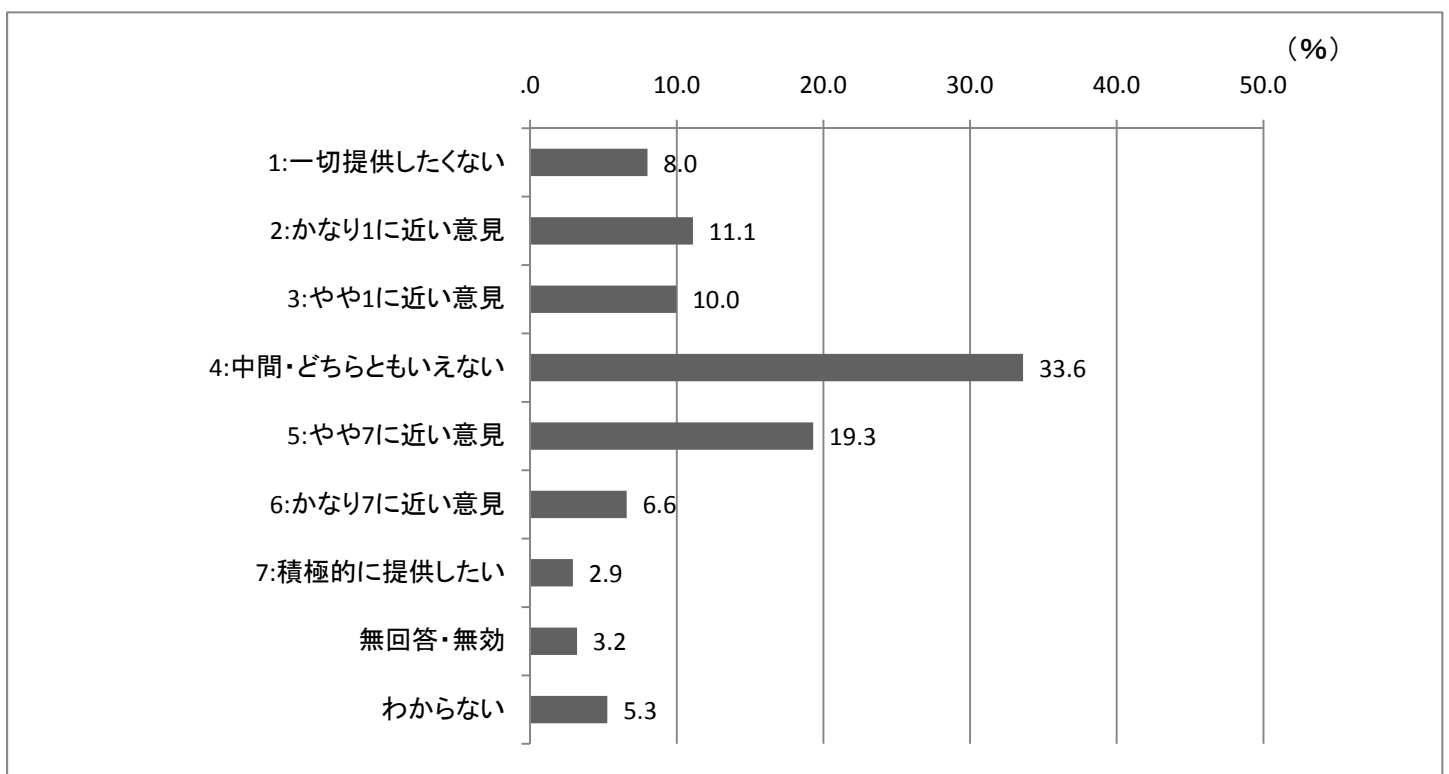
問 地域の課題の解決のために貢献できるとしたら、あなた自身は、どのような活動や負担をしてもよいと思いますか。

### ① 寄付など金銭の提供

- 提供したくない : 29.1%
- 中間・どちらともいえない : 33.6%
- 提供したい : 28.8%

地域の課題の解決のために寄付などの金銭の提供をしてもよいと思うかを聞きました。図6-11-1の通り、討論前と討論後で、「提供したくない」（選択肢1,2,3）と回答した人が29.1%となり、「提供したい」（選択肢5,6,7）と回答した人よりも0.3ポイント多いという結果になりました。

【図6-11-1 寄付など金銭の提供】

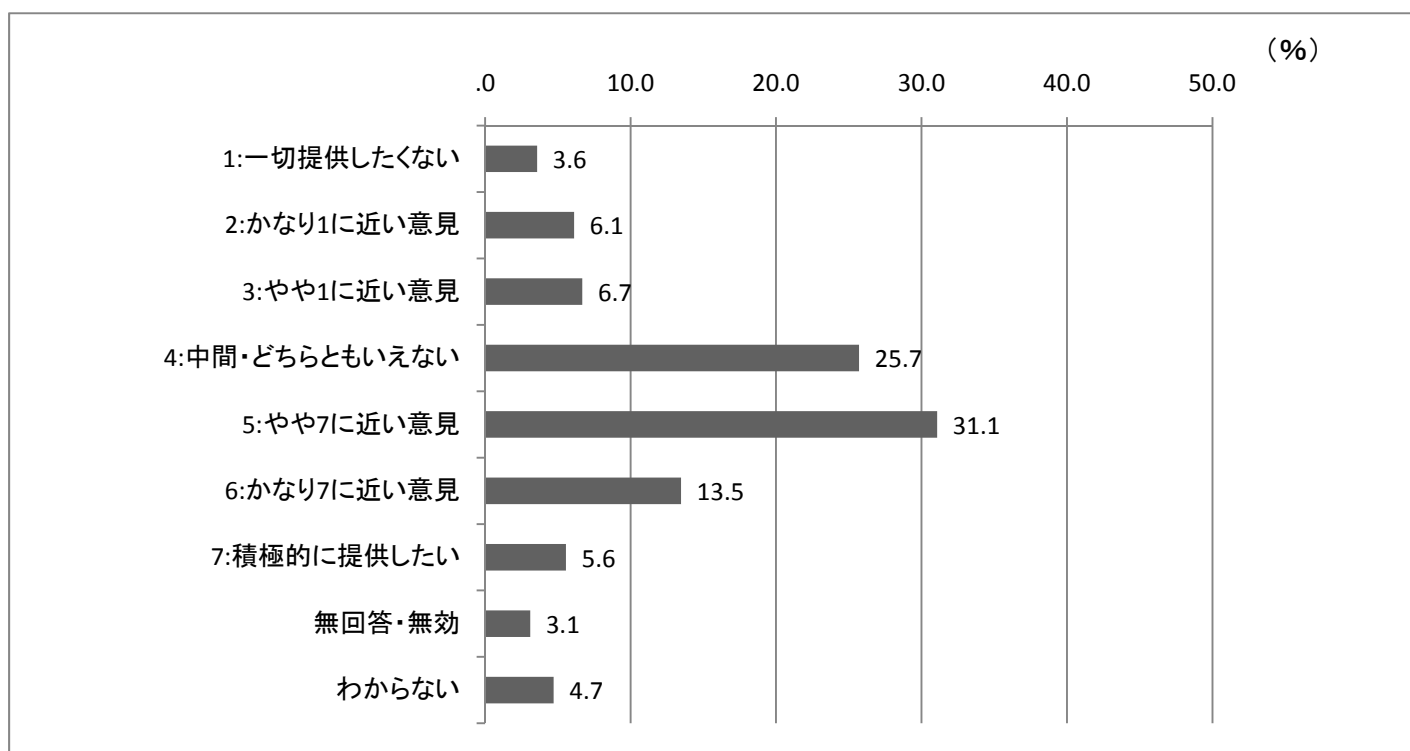


## ② 活動時間や労力の提供

- 提供したくない：16.4%
- 中間・どちらともいえない：25.7%
- 提供したい：50.2%

地域の課題の解決のために活動時間や労力の提供をしてもよいと思うかを聞きました。図6-11-2の通り、事前アンケートでは、「提供したい」（選択肢5,6,7）と回答した人は50.2%となり、「提供したくない」（選択肢1,2,3）と回答した人よりも33.8ポイント多いという結果となりました。

【図6-11-2 活動時間や労力の提供】

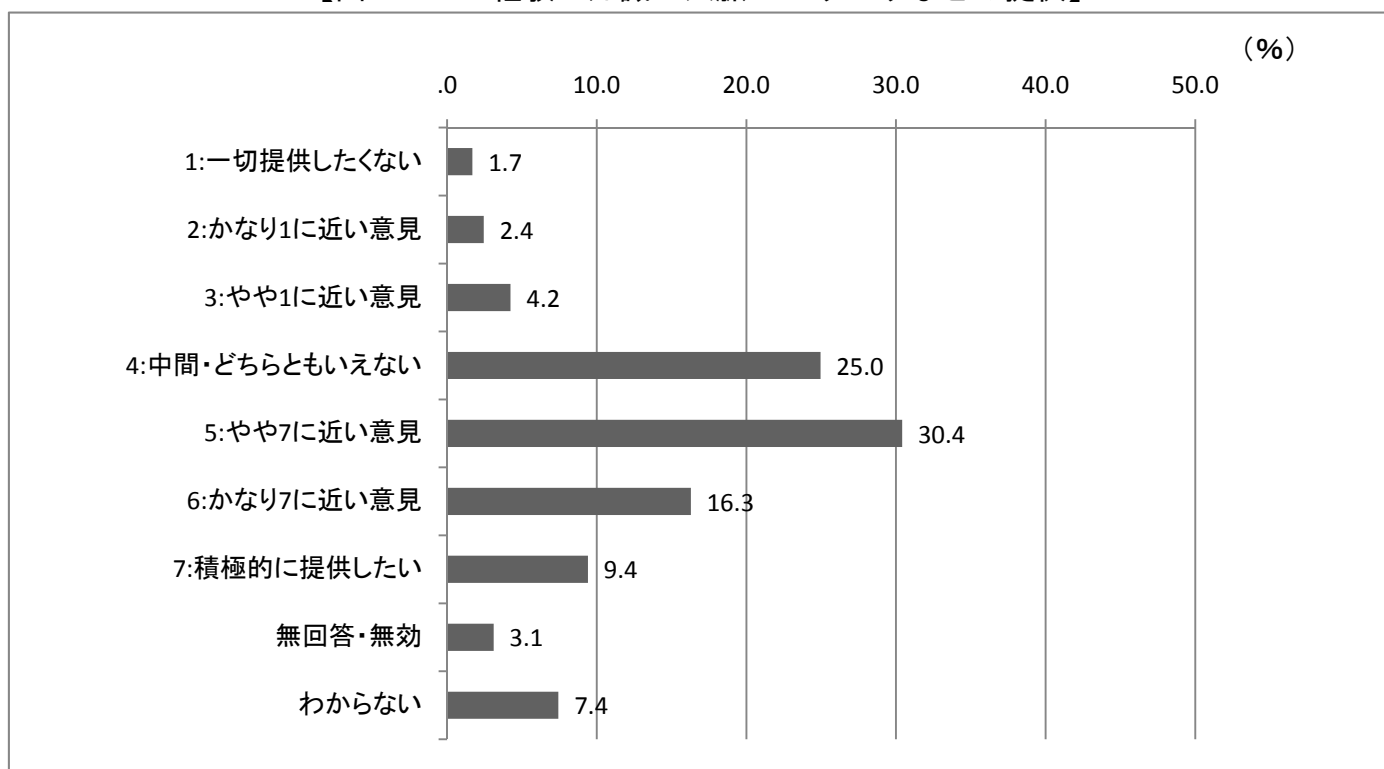


### ③ 経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供

- 提供したくない：8.3%
- 中間・どちらともいえない：25.0%
- 提供したい：56.1%

地域の課題の解決のために経験・知識・人脈・ノウハウなどを提供してもよいと思うかを聞きました。図6-11-3の通り、事前アンケートでは、「提供したい」（選択肢5,6,7）と回答した人は56.1%となり、「提供したくない」（選択肢1,2,3）と回答した人よりも47.8ポイント多いという結果になりました。

【図6-11-3 経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供】

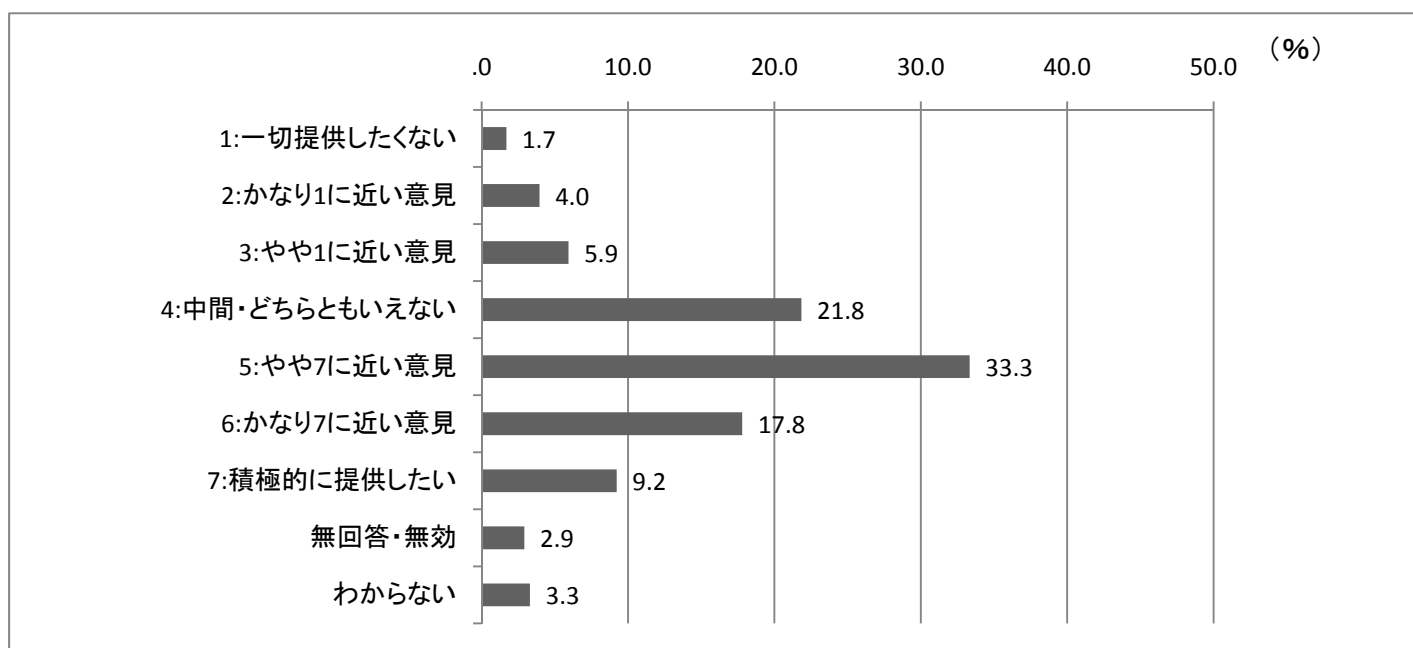


#### ④地域の人々との付き合い・連携などへの参加

- 参加したくない：11.6%
- 中間・どちらとさえない：21.8%
- 参加したい：60.3%

地域の課題の解決のために地域の人々との付き合い・連携などへの参加をしてもよいと思うかを聞きました。図6-11-4の通り、討論前と討論後で、「参加したい」（選択肢5,6,7）と回答した人が60.3%となり、「参加したくない」（選択肢1,2,3）と回答した人よりも48.7ポイント多いという結果になりました。

【図6-11-4 地域の人々との付き合い・連携などへの参加】



## 7. 討論前・討論後アンケート

- ・ 20年後の藤沢市についての見通し
- ・ 今後藤沢がとるべき政策の方向性

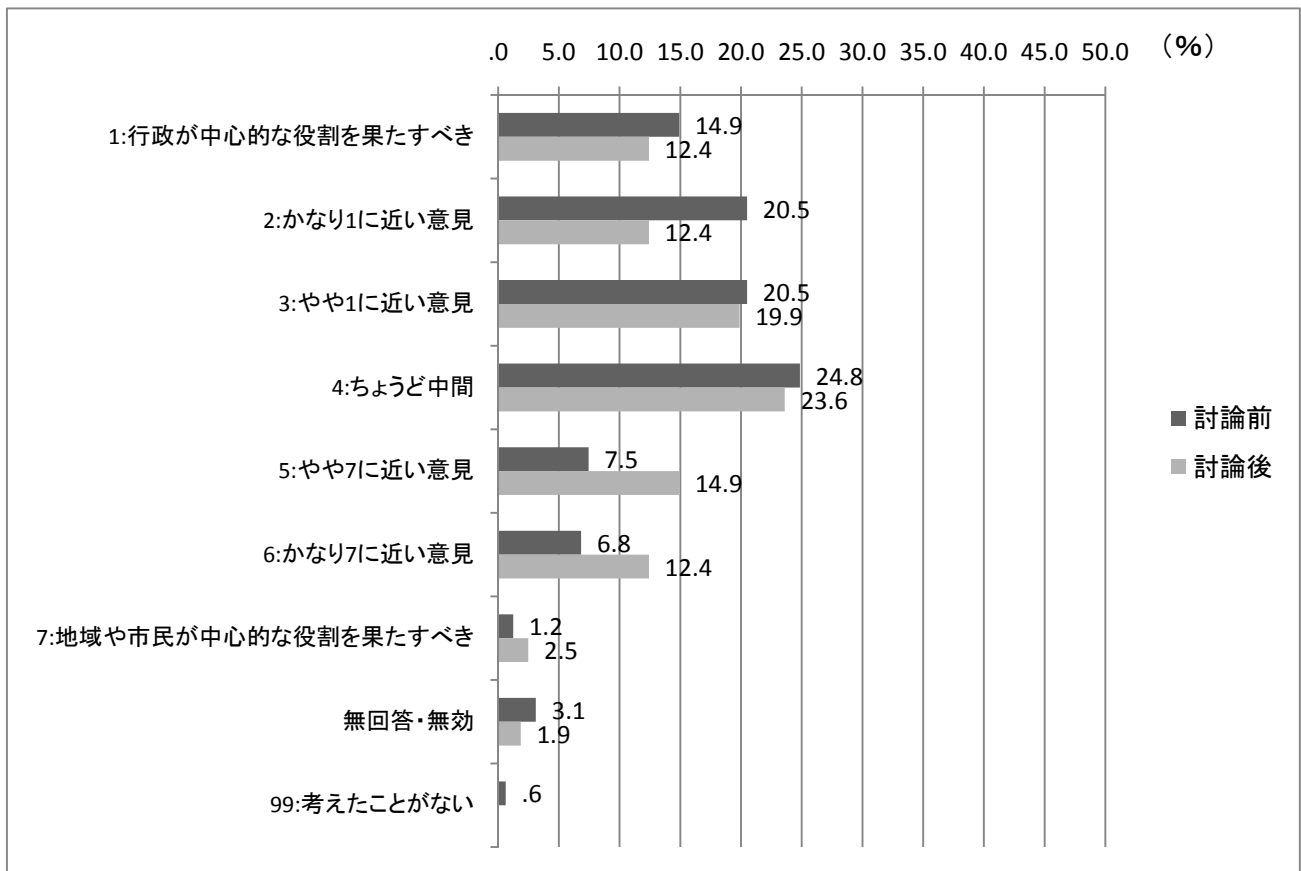
## 7-1 一人暮らし高齢者の支援方法について

問 藤沢市において、何らかの支援が必要な、一人暮らしの高齢者が増加した場合、その支援をする中心的な役割は誰が担うべきだと思いますか。「行政が中心的な役割を果たすべき」を「1」、「地域や市民が中心的な役割を果たすべき」を「7」、「ちょうど中間」を「4」とした場合に、あなたの考えはどこに位置しますか。

- 行政が中心的な役割を果たすべき（行政中心）：55.9% ⇒ 44.7%（11.2ポイント↓）
- ちょうど中間：24.8% ⇒ 23.6%（1.2ポイント↓）
- 地域や市民が中心的な役割を果たすべき（地域・市民中心）：15.5%⇒ 29.8%（14.3ポイント↑）

一人暮らし高齢者への支援について、行政が中心的な役割を果たすべきか、地域や市民が中心な役割を果たすべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図7-1-1の通り、討論前と討論後で、「行政が中心的な役割を果たすべき」（選択肢1,2,3）という人が11.2ポイント減少した一方で、「地域や市民が中心的な役割を果たすべき」（選択肢5,6,7）という人が14.3ポイント増加しました。

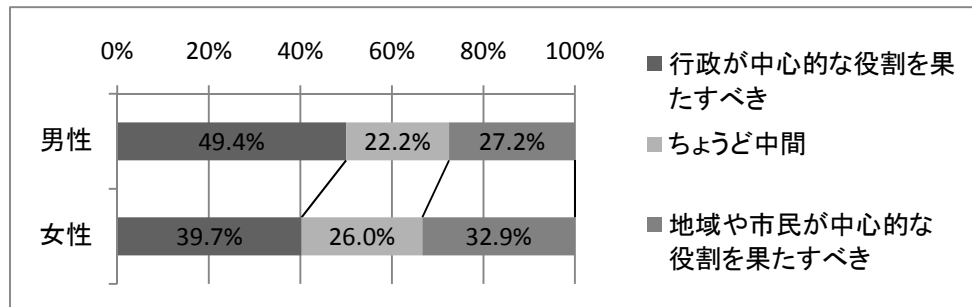
【図7-1-1 一人暮らし高齢者への支援方法について】



## ●男性の49.4%が「行政中心」と回答

性別ごとの回答分布は図7-1-2の通りです。男性は「行政中心」が49.4%を占め、「地域・市民中心」の27.2%を大きく上回っています。女性でも「行政中心」（39.7%）が「地域・市民中心」（32.9%）を上回っているものの、その差は男性よりも小さくなっています。

【図7-1-2 性別：一人暮らし高齢者への支援方法について（性別不明を除く）】

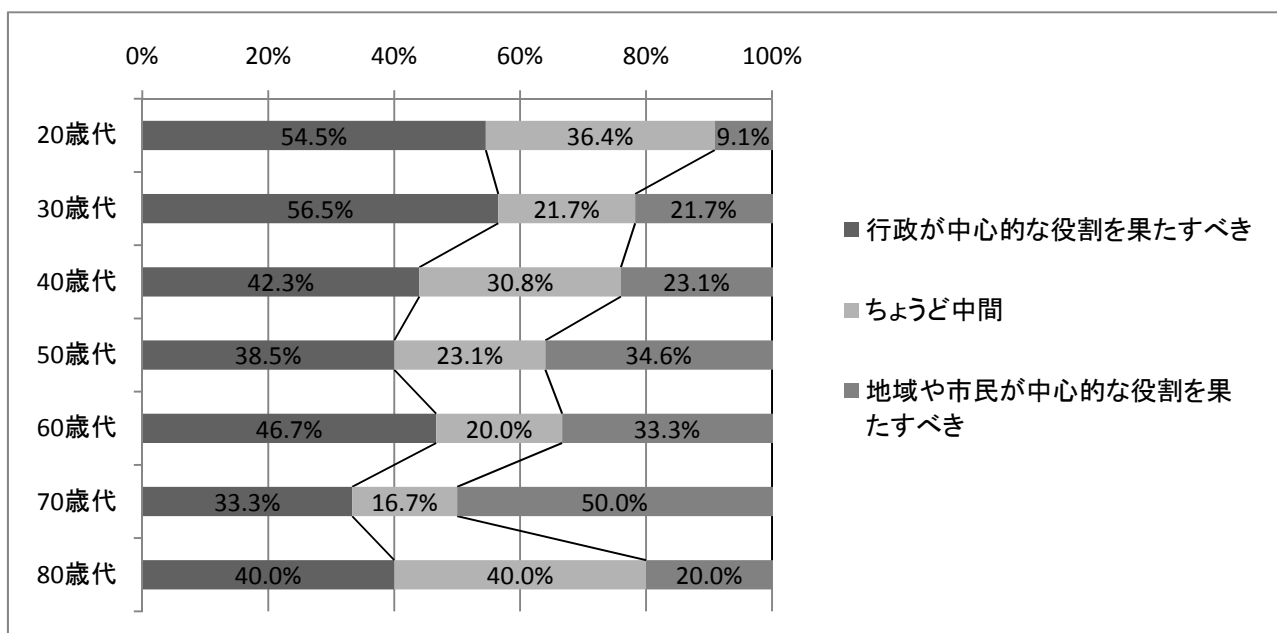


## ●年代が上がるほど「地域・市民中心」の回答が増える

年代別の回答分布は図7-1-3の通りです。20歳代から70歳代の回答に着目すると、年代が上がるにしたがって、「行政中心」の回答が減少し、「地域・市民中心」の回答が増える傾向があることがわかります。ただ、60歳代については「行政中心」という回答が46.7%であるのに対して、「地域・市民中心」という回答が33.3%となっており、全体の傾向とは異なる回答結果となっています。

また、20歳代、30歳代の若い年代において「行政中心」という回答が50%を上回っていることも特徴的です。

【図7-1-3 年代別：一人暮らし高齢者への支援方法について（年代不明を除く）】

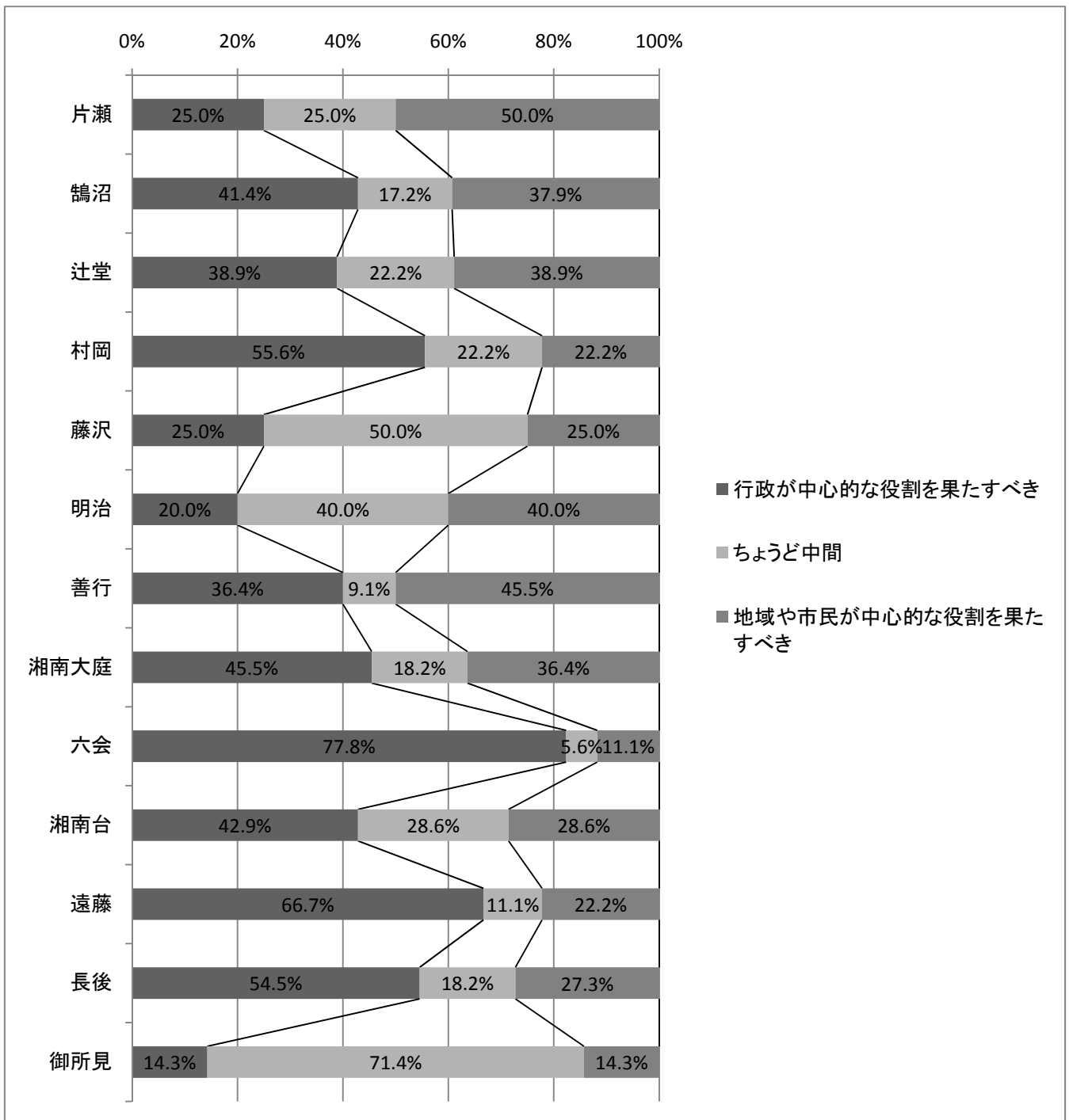




●片瀬、善行、明治地区で「地域・市民中心」の回答が多い

地区別の回答分布は図7-1-4の通りです。「行政中心」という回答が回答全体の過半数を上回った地区は、六会地区（77.8%）、遠藤地区（66.7%）、村岡地区（55.6%）、長後地区（54.5%）でした。全体としては「行政中心」の回答が多いなかで、「地域・市民中心」という回答が「行政中心」という回答を上回った地区は、片瀬地区（50.0%）、善行地区（45.5%）、明治地区（40%）でした。

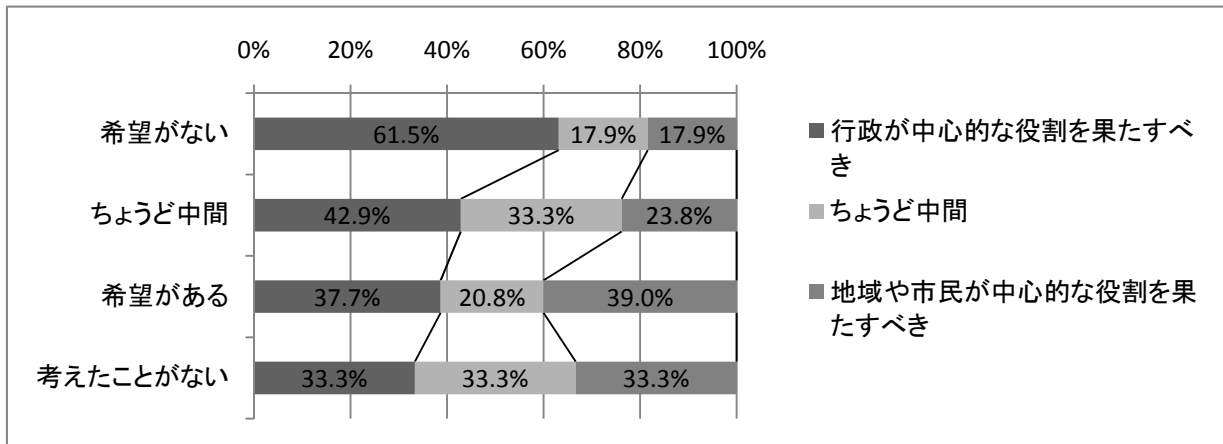
【図7-1-4 地区別：一人暮らし高齢者への支援方法について（地区不明を除く）】



●「個人の生活に希望がない」と回答する人は、「行政中心」と回答する傾向

本問の回答状況と、「20年後のあなたの生活について」の回答状況（67ページ参照）のクロス結果は図7-1-5の通りです。「将来の生活に希望がない」と回答した人は「将来の生活に希望がある」と回答した人よりも、「行政中心」と回答する傾向があることがわかります。「希望がない」と回答した人のうち61.5%が「行政中心」であるのに対して、「希望がある」と回答した人では「行政中心」は37.7%となっており、23.8ポイントの差があります。

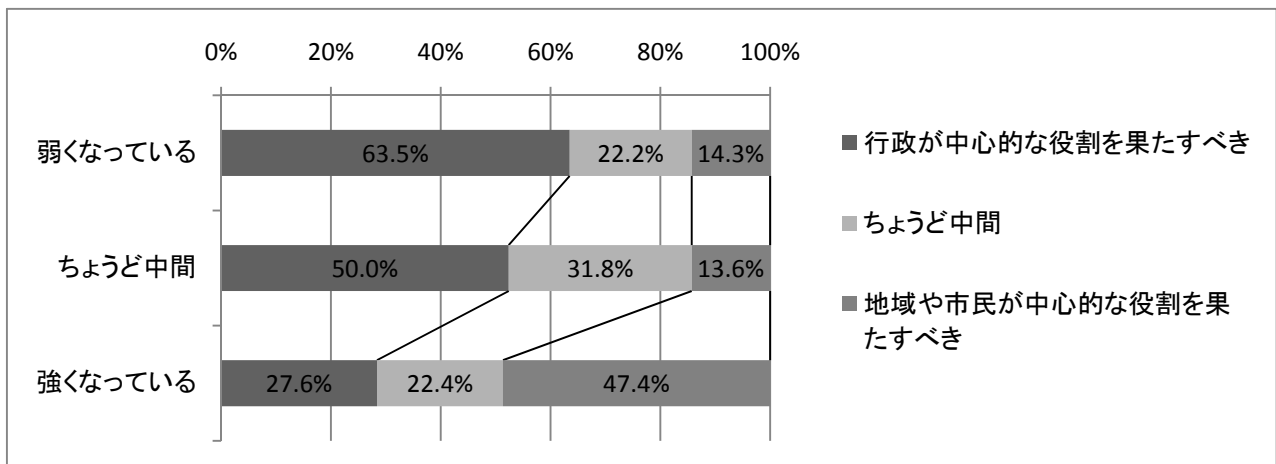
【図7-1-5 「一人暮らし高齢者への支援方法」と「今後の生活見通し」のクロス集計】



●「地域の課題解決力は弱くなる」と回答した人は、「行政中心」と回答する傾向

本問の回答状況と、「20年後の藤沢市の地域の課題解決力について」の回答状況（73ページ参照）のクロス結果は図7-1-6の通りです。「地域の課題解決力は弱くなっている」と回答した人は「地域の課題解決力は強くなっている」と回答した人よりも、「行政中心」と回答する傾向があることがわかります。「弱くなっている」と回答した人のうち63.5%が、「行政中心」であるのに対して、「強くなっている」と回答した人のうち「行政中心」と回答した人は27.6%で、35.9ポイントの差があります。

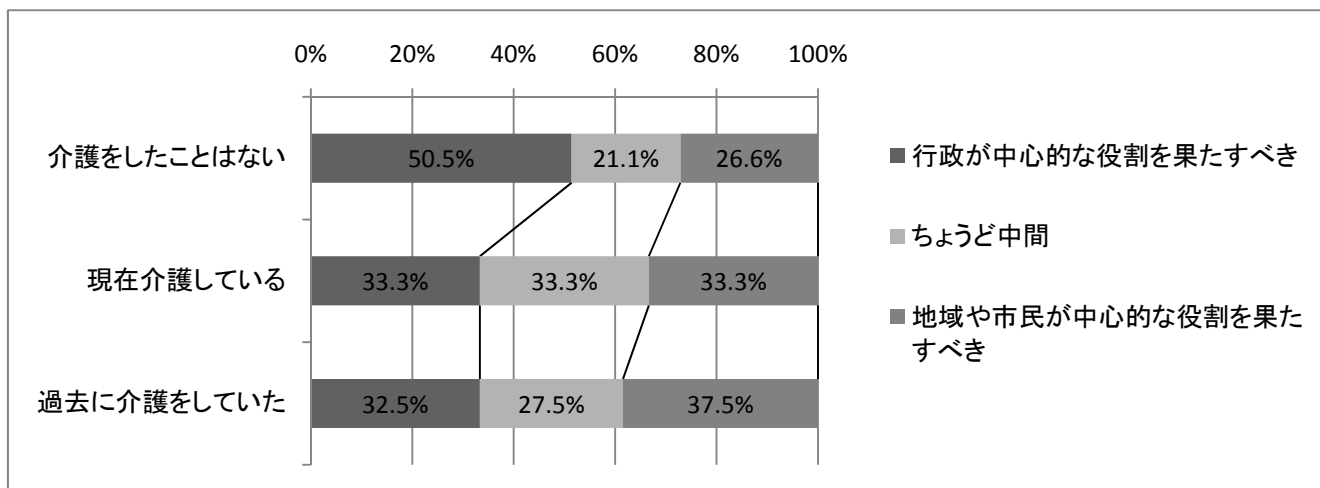
【図7-1-6 「一人暮らし高齢者への支援方法」と「地域の課題解決力の見通し」のクロス集計】



●介護経験がある人は「地域・市民中心」と回答する傾向

本問の回答状況と、「介護経験について」の回答状況（24ページ参照）のクロス結果は図7-1-7の通りです。介護経験を持った人のほうが、持っていない人よりも「地域・市民中心」と回答する傾向があることがわかります。介護経験がない人の回答では、「行政中心」が50.6%となっているのに対して、現在介護している人では33.3%、過去に介護をしていた人では32.5%となっており、20ポイント近くの差があります。

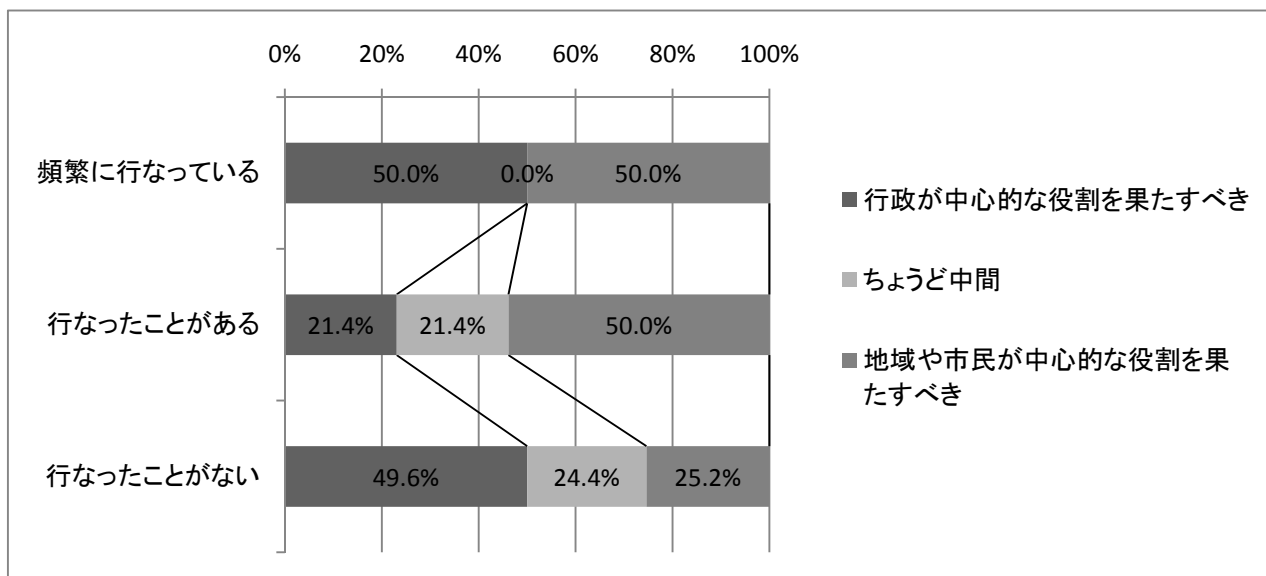
【図7-1-7 「一人暮らし高齢者への支援方法」と「介護経験について」のクロス集計】



●市政への参加経験がある人は、ない人に比べて「地域・市民中心」と回答する傾向

本問の回答状況と、「市政への参加経験について」の回答状況（25ページ参照）のクロス結果は図7-1-8の通りです。市政への参加経験を持った人のほうが、持っていない人よりも「地域・市民中心」と回答する傾向があることがわかります。

【図7-1-8 「一人暮らし高齢者への支援方法」と「市政への参加経験について」のクロス集計】



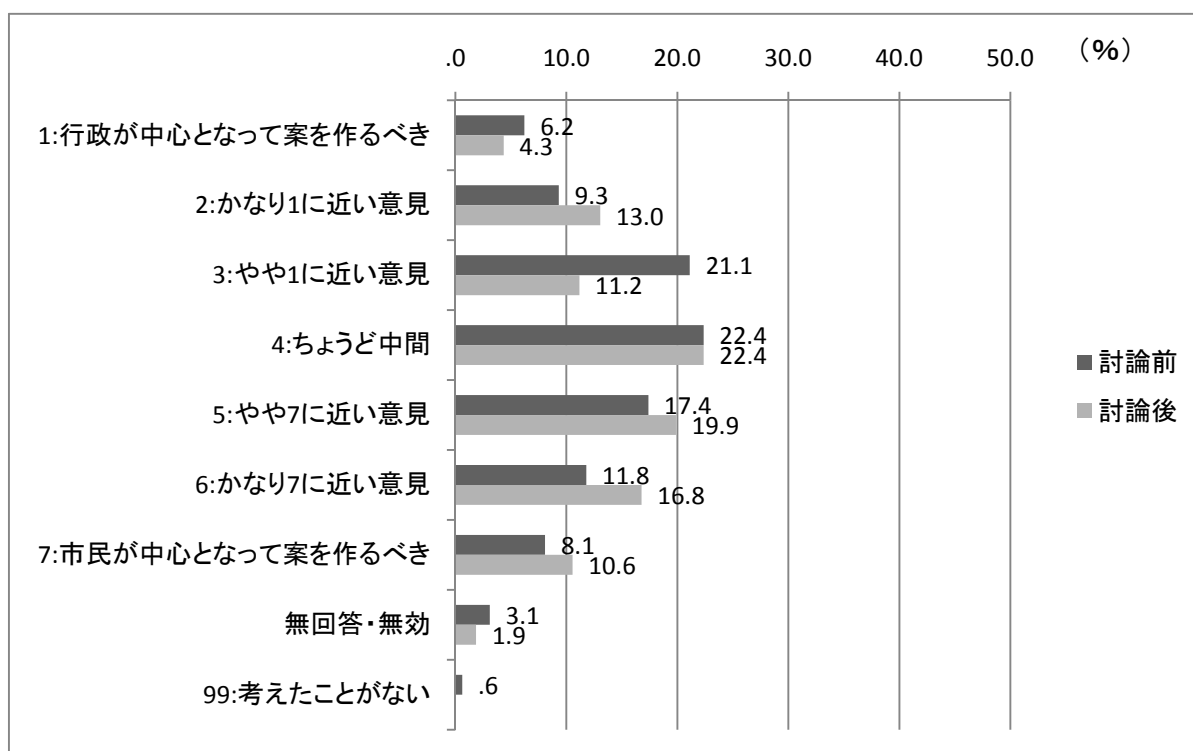
## 7-2 公共施設の老朽化への対応方法について

問 藤沢市では、今後、多くの公共施設が老朽化していきます。このような施設の廃止や存続、建て替えなどを決める際、「これまでの経験を活かして行政が中心となって案を作るべき」という意見と、「日常的に利用している市民が中心となって案をまとめるべき」という意見があります。あなたの考えはどちらに近いですか。

- 行政が中心となって案をつくるべき（行政中心）：36.6% ⇒ 28.5%（8.1ポイント↓）
- 現状維持：22.4% ⇒ 22.4%（増減なし）
- 市民が中心となって案をまとめるべき（市民中心）：37.3% ⇒ 47.3%（10.0ポイント↑）

公共施設の老朽化への対応方法について、行政が中心となって対応案をつくるべきか、市民が中心となって対応案をまとめるべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図7-2-1の通り、討論前と討論後で、「行政が中心となって案をつくるべき（行政中心）」（選択肢1,2,3）という人が8.0ポイント減少した一方で、「市民が中心となって案をまとめるべき」（選択肢5,6,7）という人が9.9ポイント増加しました。

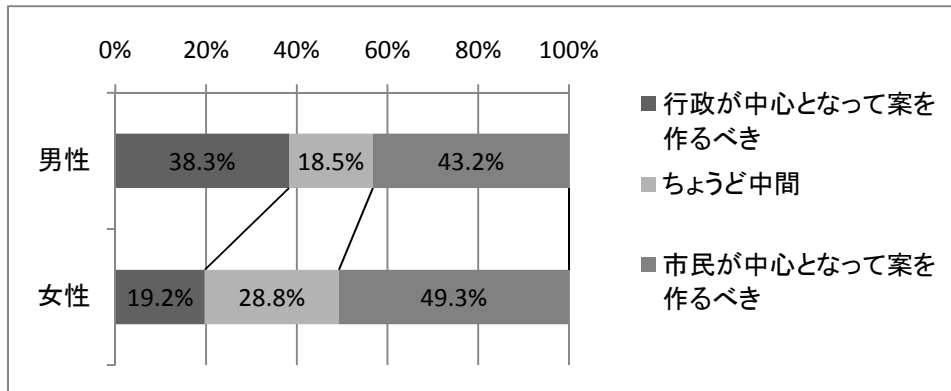
【図7-2-1 公共施設老朽化への対応方法について】



●女性の49.3%が「地域・市民中心」と回答

性別ごとの回答分布は図7-2-2の通りです。男性の回答では「行政中心」が38.3%、「市民中心」が43.2%となっており、大きな差は見られません。それに対して、女性の回答では「行政中心」が19.2%に留まり、「市民中心」は49.3%となっており、30ポイント以上の開きがあります。男性と比べて女性の方がより強く「市民中心」の志向を持っていると見ることができます。

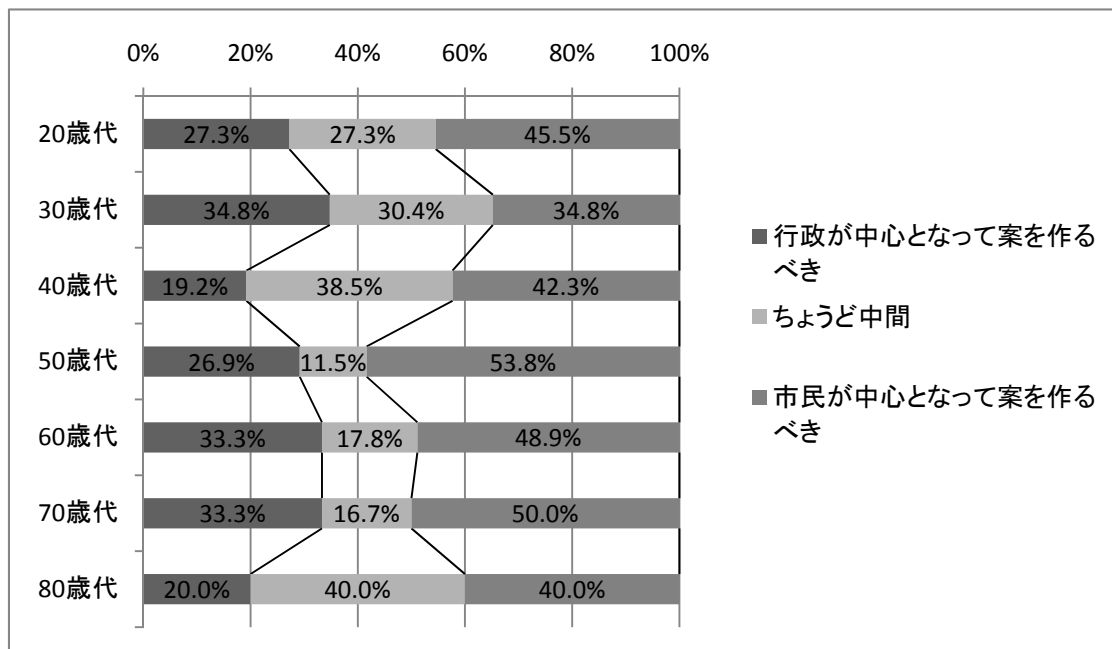
【図7-2-2 性別：公共施設老朽化への対応方法について（性別不明を除く）】



●50歳代～70歳代は約50%が「市民中心」と回答

年代別の回答分布は図7-2-3の通りです。50歳代、60歳代、70歳代では「市民中心」の回答が約50%となっており、「行政中心」の回答を大きく上回っています。また、20歳代でも「市民中心」という回答が45.5%となっており、30歳代、40歳代よりもその比率が高くなっています。

【図7-2-3 年代別：公共施設老朽化への対応方法について（年代不明を除く）】

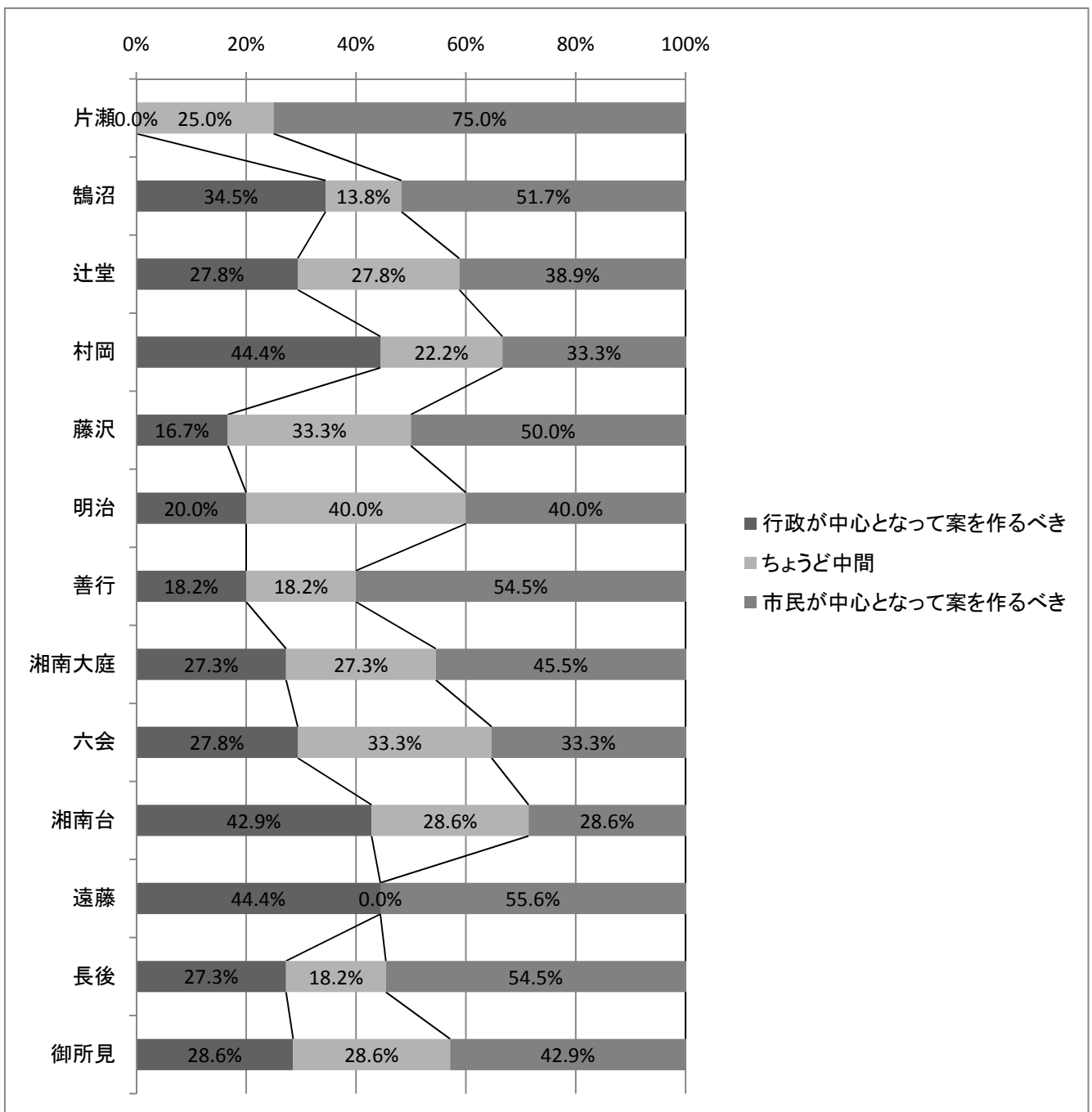


●湘南台、村岡以外の11地区で「市民中心」が「行政中心」を上回る

地区ごとの回答分布は図7-2-4の通りです。湘南台地区と村岡地区を除く11地区で「市民中心」という回答が「行政中心」という回答を上回りました。湘南台地区では「行政中心」という回答が42.9%となり、「市民中心」という回答の28.6%を大きく上回っています。また、村岡地区でも「行政中心」という回答が44.4%となり、「市民中心」という回答を大きく上回っています。

他方で、「市民中心」という回答が50%以上を占めた地区は、片瀬地区(75.0%)、鶴沼地区(51.7%)、藤沢地区(50.0%)、善行地区(54.5%)、遠藤地区(55.6%)、長後地区(54.5%)の6地区でした。

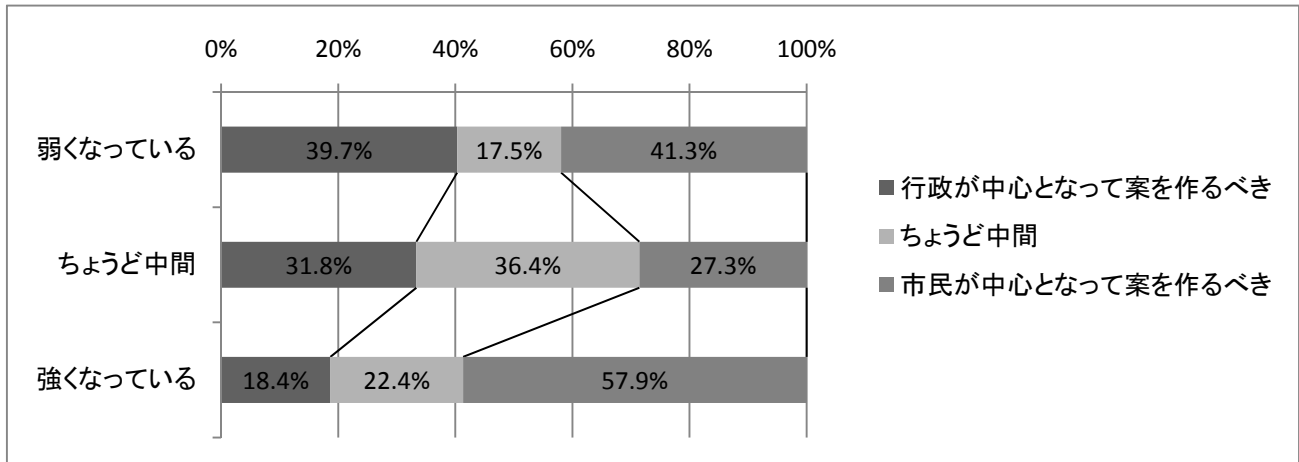
【図7-2-4 地区別：公共施設老朽化への対応方法について（地区不明を除く）】



●「地域の課題解決力は強くなる」と回答した人の57.9%が「地域・市民中心」と回答

本問の回答状況と、「20年後の藤沢市の地域の課題解決力について」の回答状況（73ページ参照）のクロス結果は図7-2-5の通りです。「地域の課題解決力は強くなっている」と回答した人は「地域の課題解決力は弱くなっている」と回答した人よりも、「地域・市民中心」と回答する傾向があることがわかります。「強くなっている」と回答した人のうち57.9%が、「地域・市民中心」であるのに対して、「弱くなっている」では41.3%でした。

【図7-2-5 「公共施設老朽化への対応方法」と「地域の課題解決力の見通し」のクロス集計】



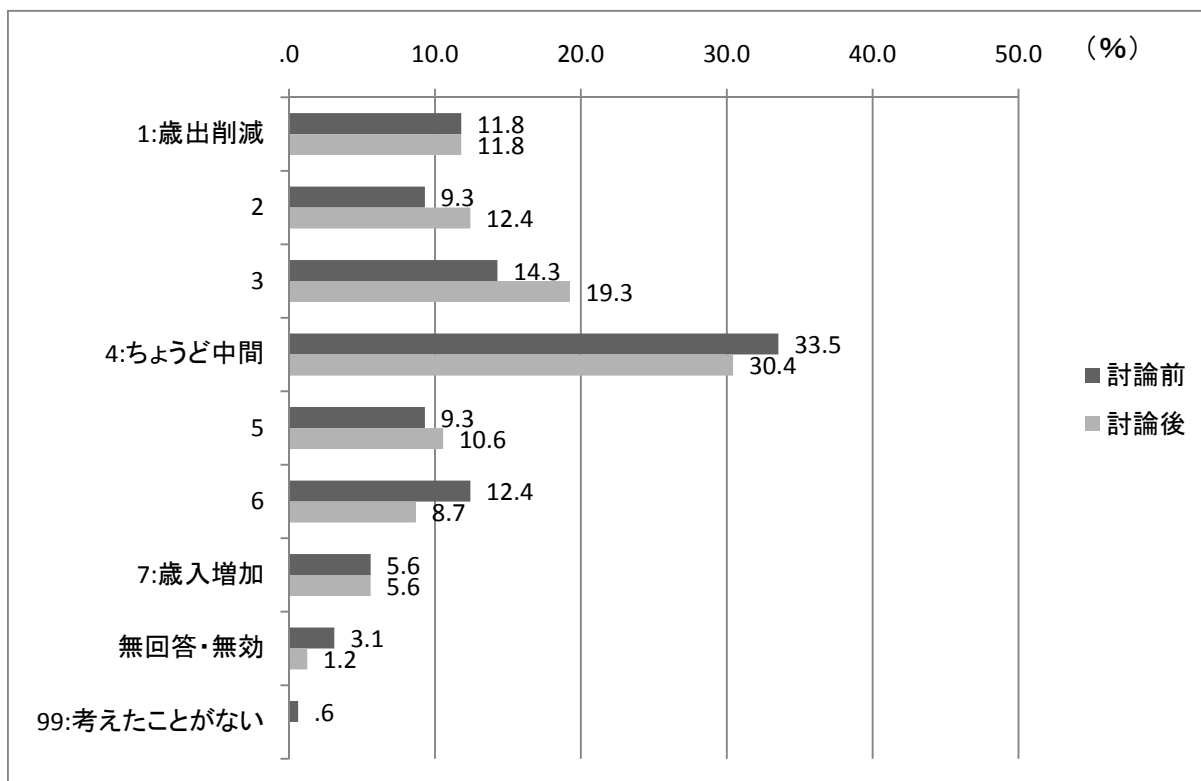
## 7-3 財源確保の方策について

問 自治体（市役所）が財源を確保するための方策には、「歳出削減（支出を減らす）」と「歳入増加（収入を増やす）」があります。今後、藤沢市においてはどのように対応していくべきだと思いますか。「歳出削減に努力すべき（歳出削減）」を「1」、「歳入増加に努力すべき（歳入増加）」を「7」、「ちょうど中間」を「4」としたとき、あなたの考えはどこに位置しますか。

- 歳出削減を重視すべき（歳出削減重視）：35.4% ⇒ 43.5%（8.1ポイント↑）
- ちょうど中間：33.5% ⇒ 30.4%（3.1ポイント↓）
- 歳入増加を重視すべき（歳入増加重視）：27.3% ⇒ 24.9%（2.6ポイント↓）

財源確保の方策について、歳出削減を重視すべきか、歳入増加を重視すべきか、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図7-3-1の通り、討論前と討論後で、「歳出削減を重視すべき」（選択肢1,2,3）という人が8.1ポイント増加した一方で、「歳入増加を重視すべき」（選択肢5,6,7）という人は2.5ポイント減少しました。

【図7-3-1 財源確保の方策について】

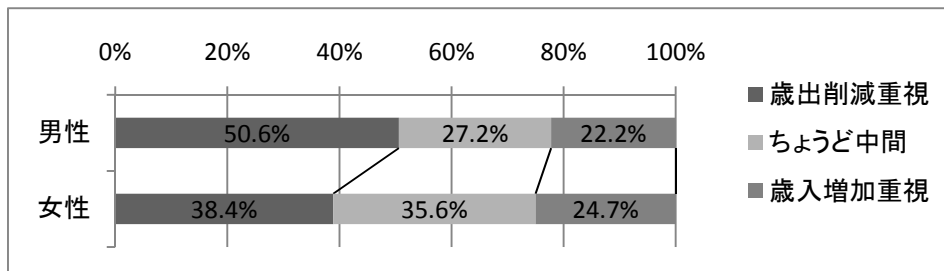




## ●男性の約50%が「歳出削減重視」と回答

性別ごとの回答分布は図7-3-2の通りです。男性の回答では、「歳出削減重視」が50%を超え、「中間」および「歳入増加重視」を20ポイント以上回っています。女性の回答でも、「歳出削減重視」は38.4%となり、「中間」、「歳入増加重視」を上回っているものの、その差は男性の回答に比べると僅差になっています。

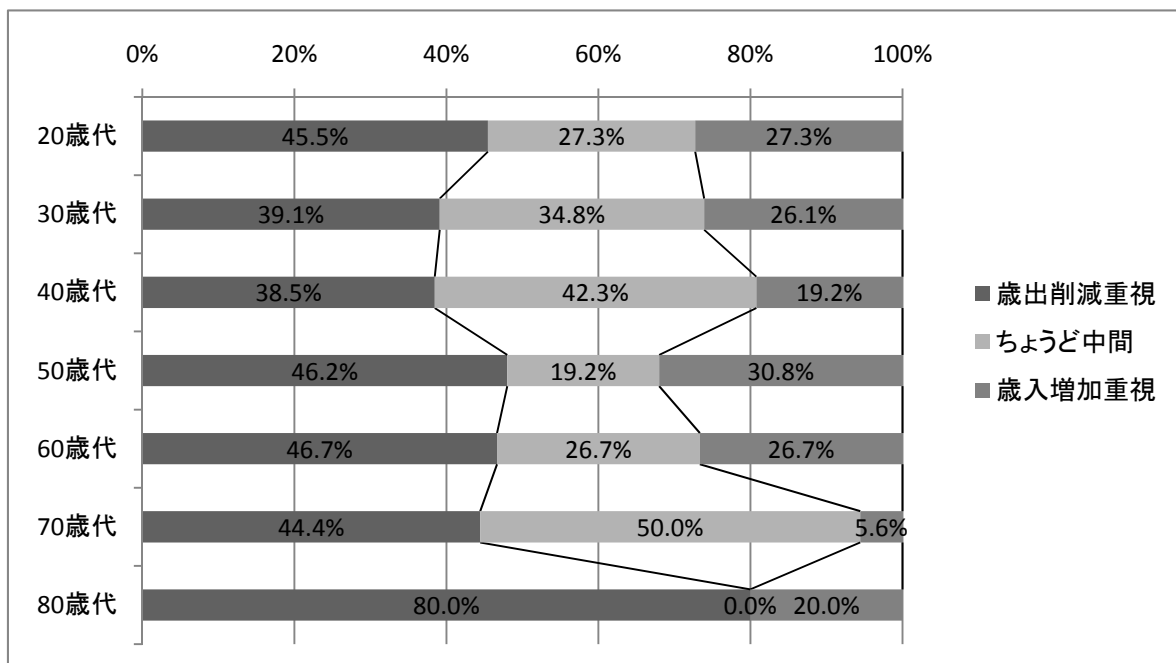
【図7-3-2 性別：財源確保の方策について（性別不明を除く）】



## ●すべての年代で「歳出削減重視」が「歳入増加重視」を上回る

年代別の回答分布は図7-3-3の通りです。すべての年代で「歳出削減重視」という回答が、「歳入増加重視」という回答を上回っています。ただ、40歳代と70歳代では、「ちょうど中間」という回答が「歳出削減重視」を上回っており、他の年代に比べると、「歳入増加」という回答が相対的に少なくなっていることがわかります。

【図7-3-3 年代別：財源確保の方策について（年代不明を除く）】



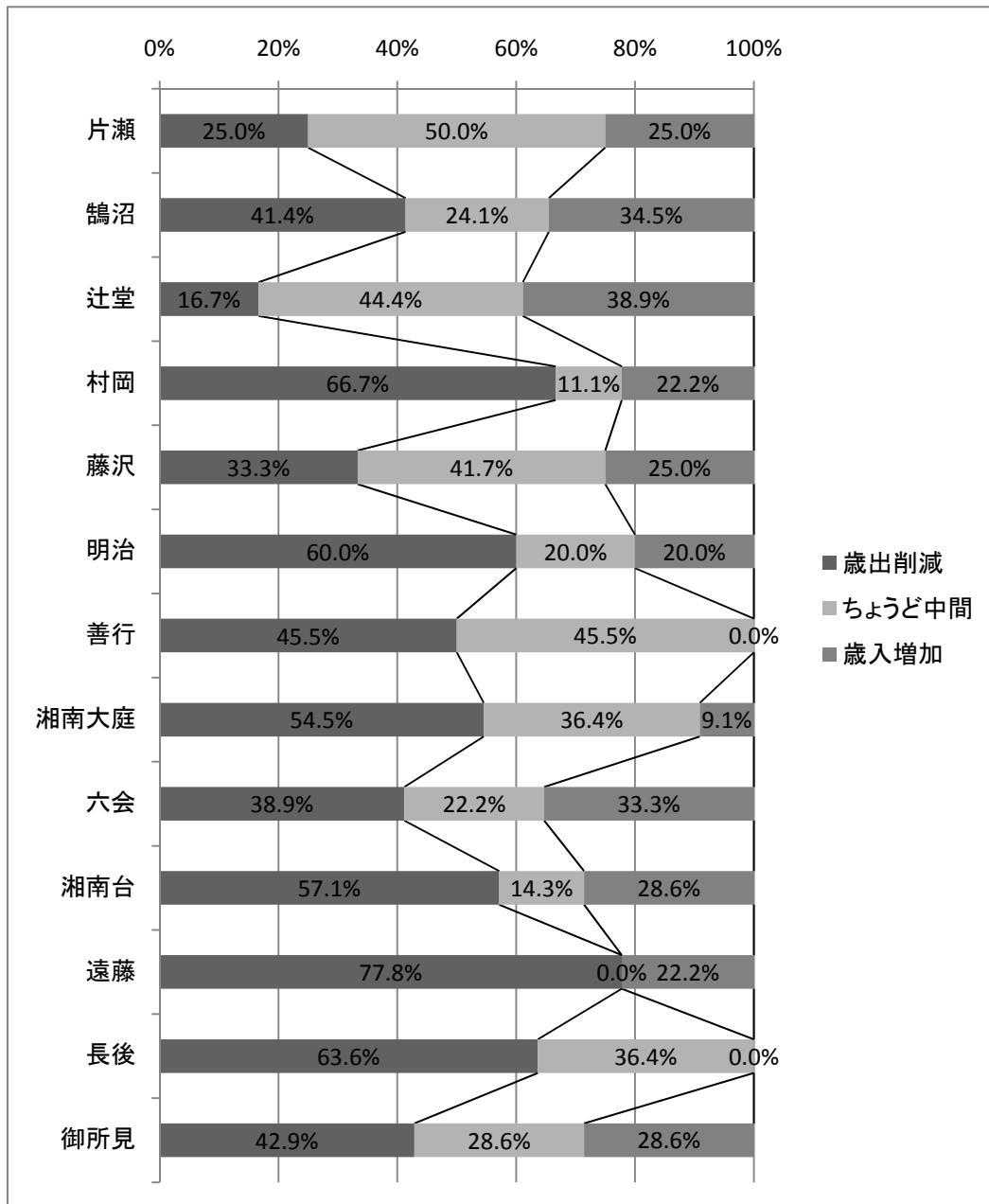
●片瀬、辻堂以外の 11 地区で「歳出削減」が「歳入増加」を上回る

地区別の回答分布は図7-3-4の通りです。片瀬と辻堂を除く11地区で「歳出削減」という回答が「歳入増加」という回答を上回りました。

片瀬地区では、「歳出削減」という回答が25.0%で、「中間」という回答が50.0%、「歳入増加」は25.0%という結果になりました。さらに辻堂地区では「歳入増加」という回答は16.7%に留まり、「中間」が44.4%、「歳出削減」は38.9%でした。

一方で、村岡地区、明治地区、長後地区では「歳出削減」という回答が60%以上となっています。

【図7-3-4 地区別：財源確保の方策について（地区不明を除く）】



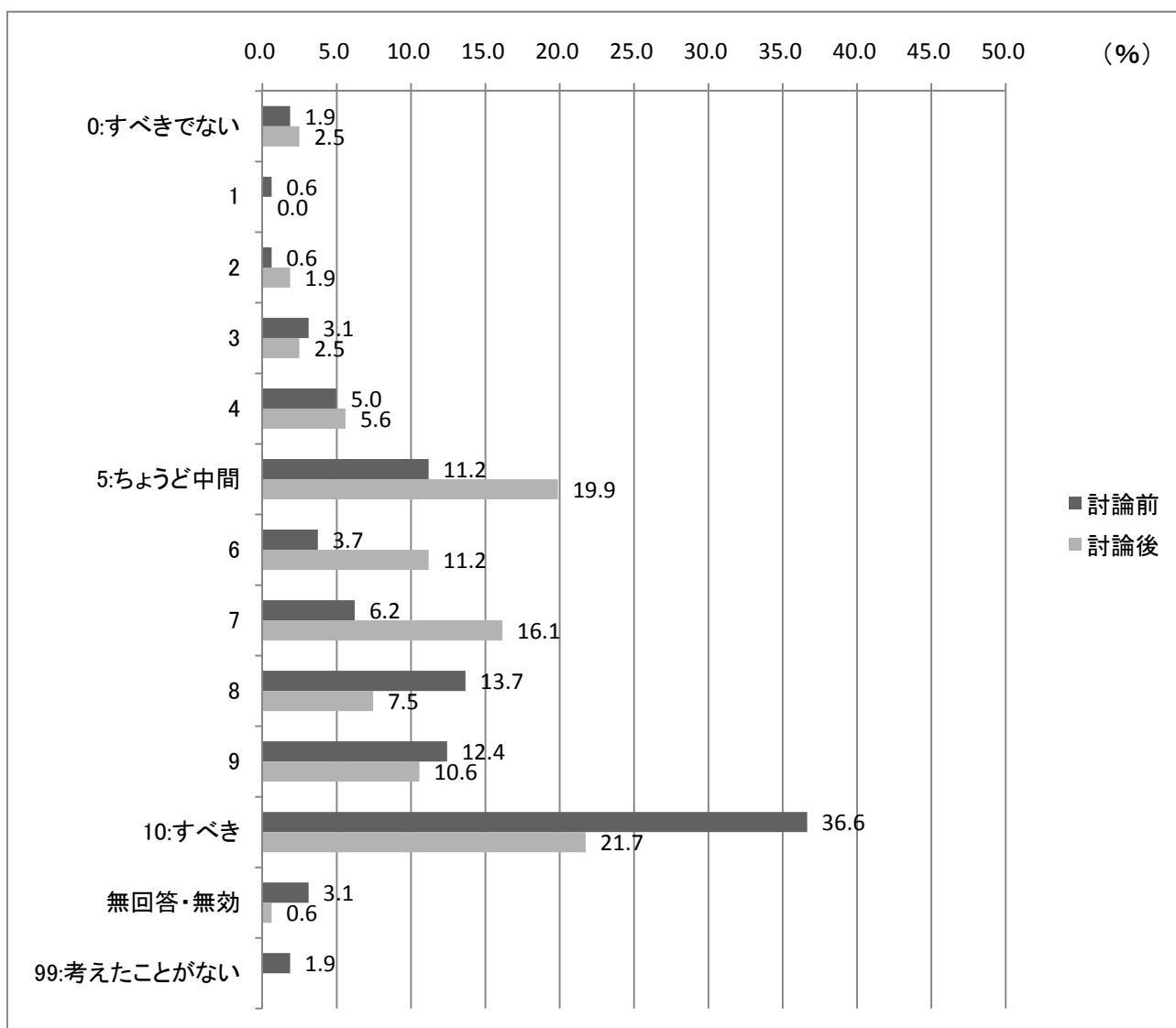
## 7-4 企業誘致活動の方向性について

問 藤沢市では、今後、企業誘致活動を積極的に推進すべきだと思いますか。

- 推進すべきではない : 11.2% ⇒ 12.5% (1.3ポイント↑)
- ちょうど中間 : 11.2% ⇒ 19.9% (8.7ポイント↑)
- 推進すべき : 72.6% ⇒ 67.1% (5.5ポイント↓)

藤沢市の企業誘致活動について、積極的に推進していくべきか、推進すべきではないか、どちらが望ましいと考えるかを聞きました。図7-4-1の通り、討論前と討論後で、「推進すべきではない」(選択肢0,1,2,3,4)という人は1.3ポイント増加し、「推進すべきではない」(選択肢6,7,8,9,10)という人は5.5ポイント減少しました。

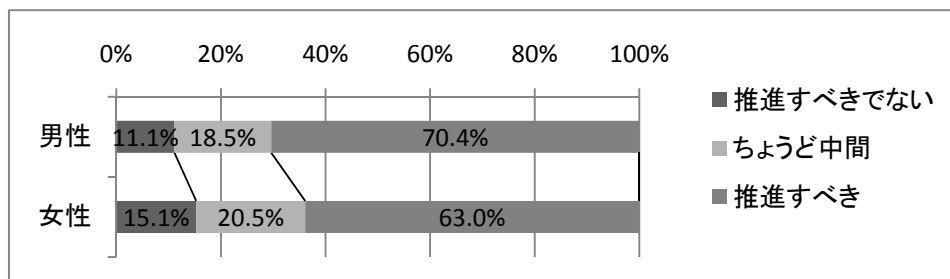
【図7-4-1 企業誘致活動の方向性について】



●男性、女性ともに「推進すべき」という回答が60%以上を占める

性別ごとの回答分布は図7-4-2の通りです。男性、女性ともに60%以上の人が「推進すべき」と回答し、「推進すべきでない」という回答は15.1%以下に留まりました。男性と女性の回答の間に顕著な違いは見られません。

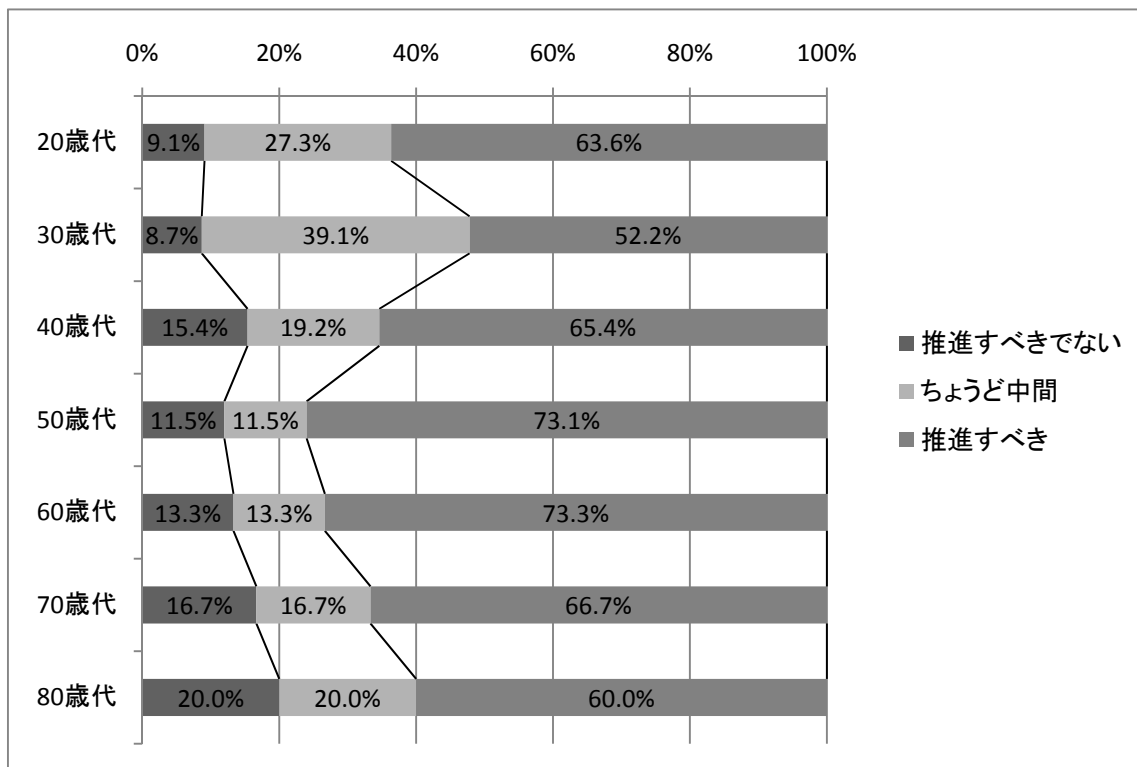
【図7-4-2 性別：企業誘致活動の方向性について（性別不明を除く）】



●すべての年代で「推進すべき」が「推進すべきでない」を大きく上回る

年代別の回答分布は図7-4-3の通りです。すべての年代で「推進すべき」という回答が、「推進すべきではない」という回答を大きく上回っています。特に、50歳代と60歳代では、「推進すべき」という回答が約75%となり、「推進すべきではない」という回答を60ポイント以上上回っています。

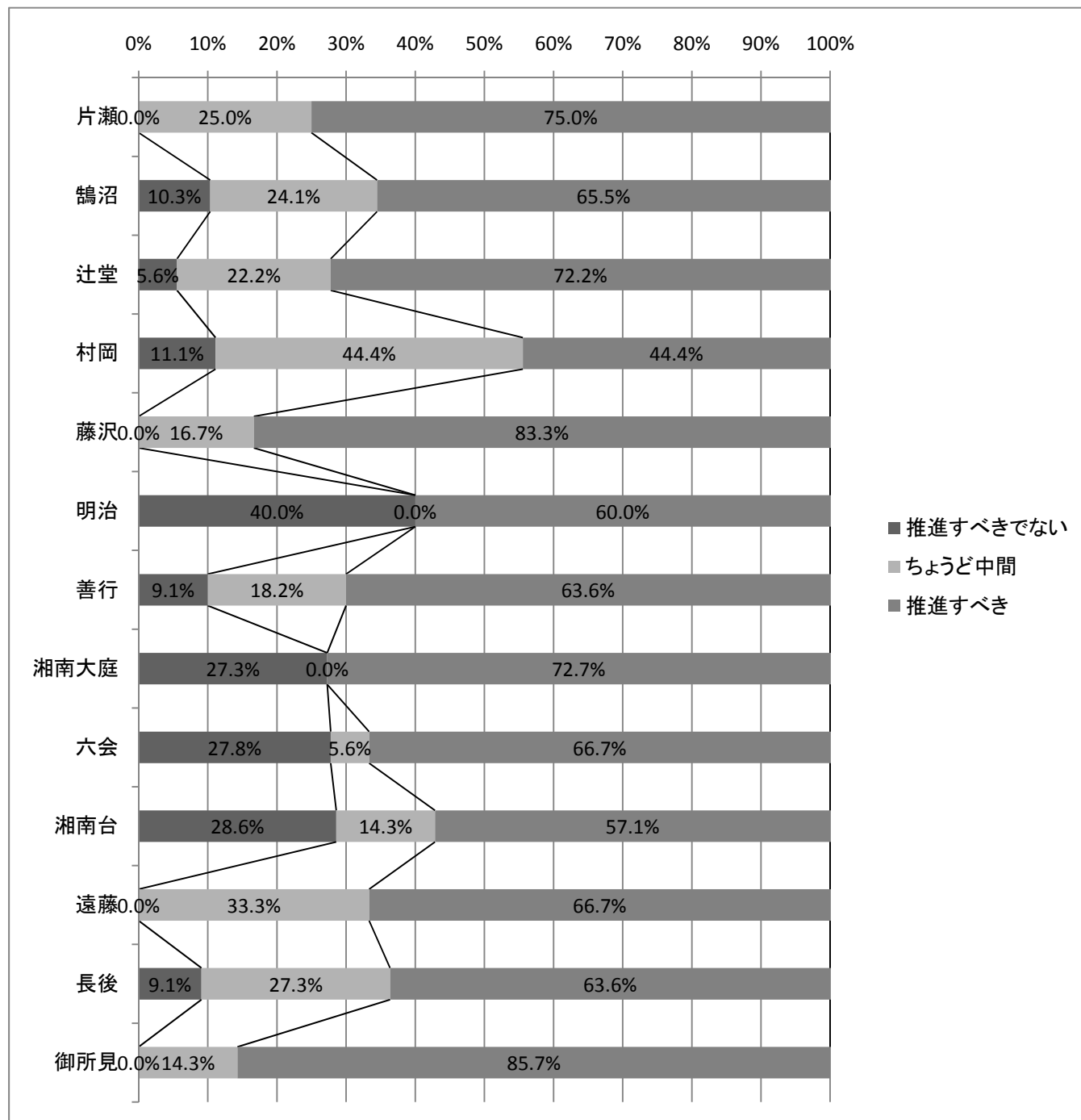
【図7-4-3 性別：企業誘致活動の方向性について（年代不明を除く）】



●すべての地区で、「推進すべき」という回答が「推進すべきではない」という回答を上回る

地区別の回答分布は図 7-4-4 の通りです。すべての地区で、「推進すべき」という回答が「推進すべきではない」という回答を上回りました。

【図7-4-4 地区別：企業誘致活動の方向性について（地区不明を除く）】



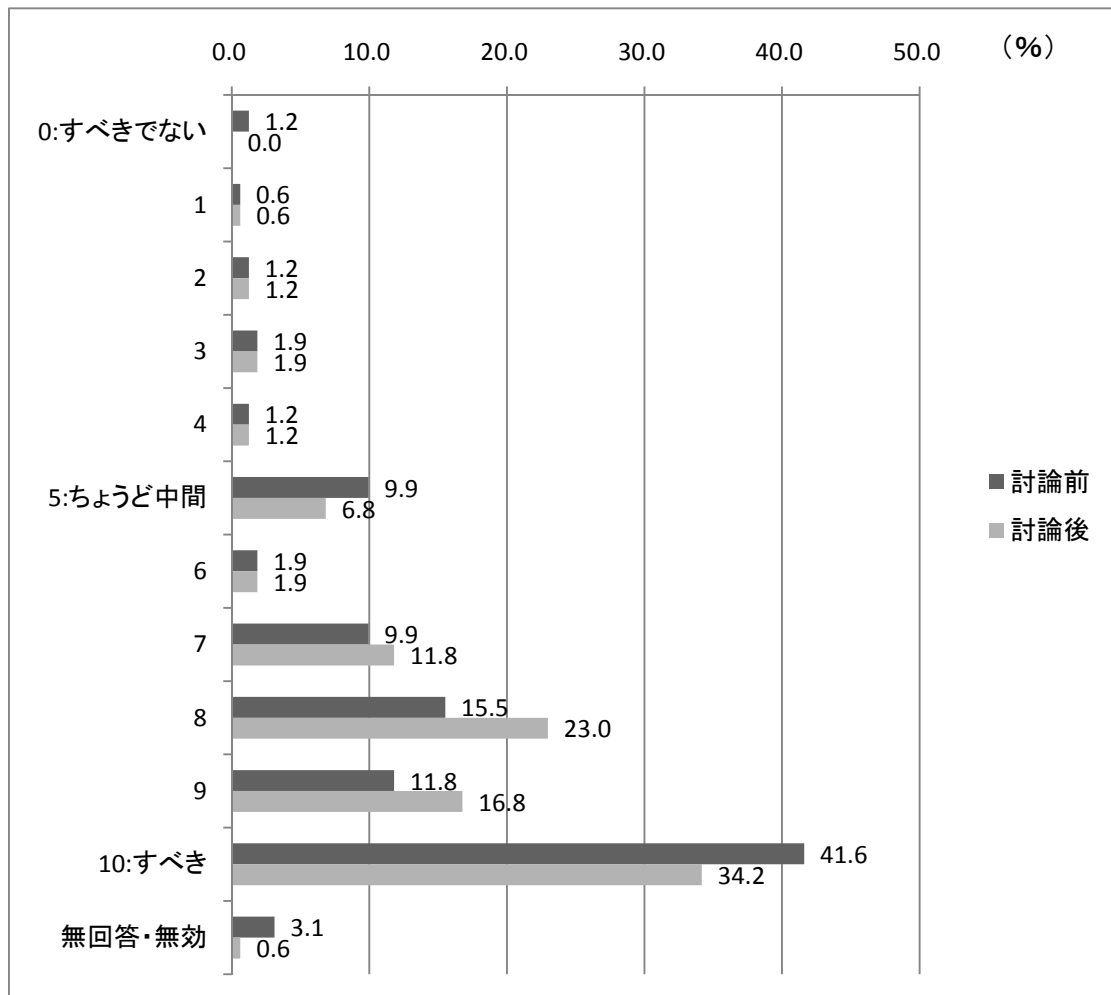
## 7-5 藤沢の魅力積極的に訴える活動について

問 藤沢市では、今後、文化、環境、ライフスタイルを中心に、魅力を訴える活動を積極的に推進すべきだと思いますか。

- 推進すべきではない : 6.1% ⇒ 4.9% (1.2ポイント↓)
- ちょうど中間 : 9.9% ⇒ 6.8% (3.1ポイント↓)
- 推進すべき : 80.7% ⇒ 87.7% (7.0ポイント↑)

藤沢市の魅力を訴える活動について、積極的に推進していくべきか、推進すべきではないか、どちらが望ましいと考えるかを聞きました。図7-5-1の通り、討論前と討論後で、「推進すべきではない」(選択肢0,1,2,3,4)という人は1.2ポイント減少し、「推進すべきではない」(選択肢6,7,8,9,10)という人は7.0ポイント増加しました。

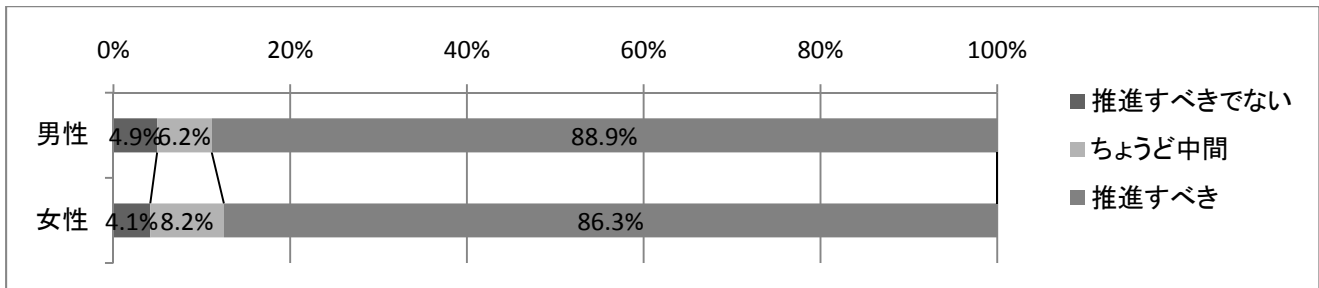
【図7-5-1 藤沢市の魅力を訴える活動について】



●男性、女性ともに85%以上が「推進すべき」と回答

性別ごとの回答分布は図7-5-2の通りです。男女ともに85%以上が「推進すべき」と回答しています。

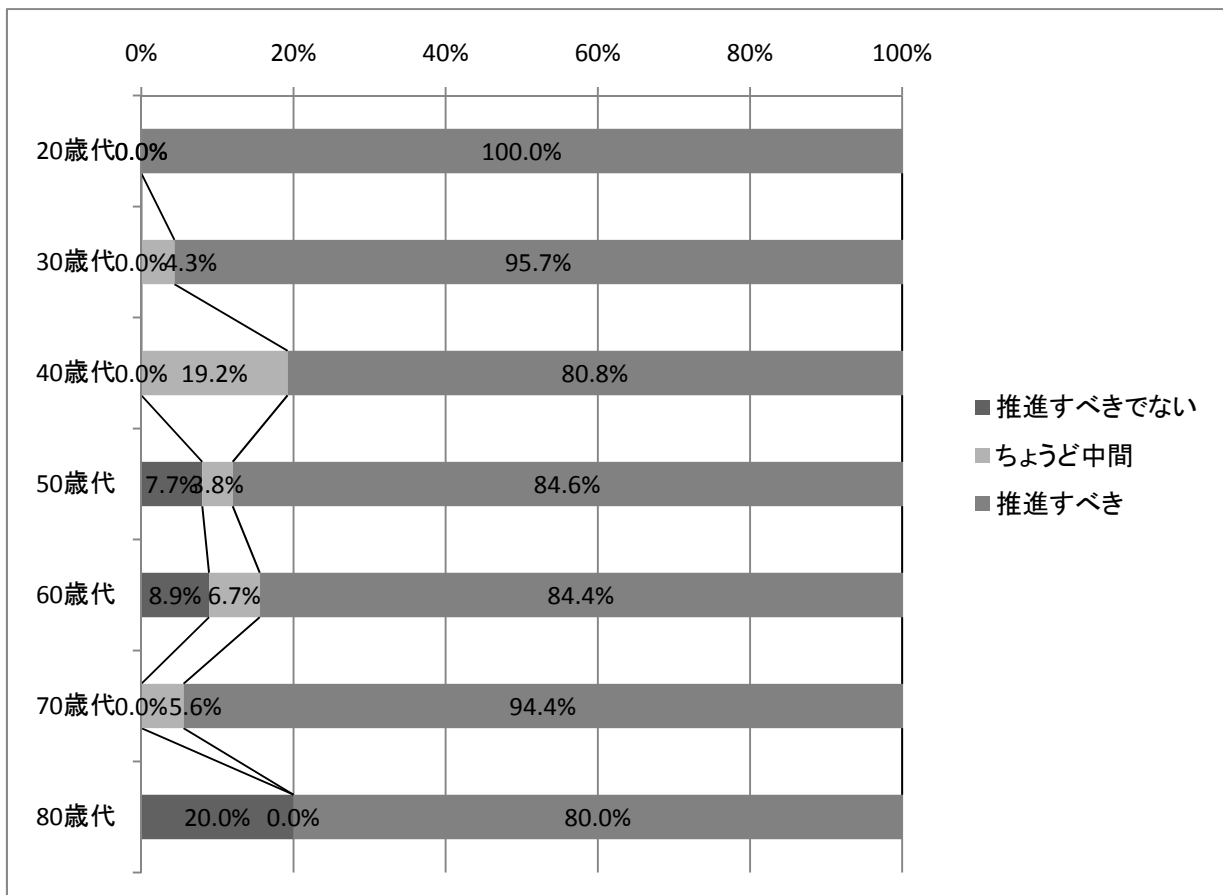
【図7-5-2 性別：藤沢市の魅力を訴える活動について（性別不明を除く）】



●全ての年代で「推進すべき」が80%を超える

年代別の回答分布は図7-5-3の通りです。すべての年代で「推進すべき」が80%以上となり、「推進すべきではない」を大きく上回っています。

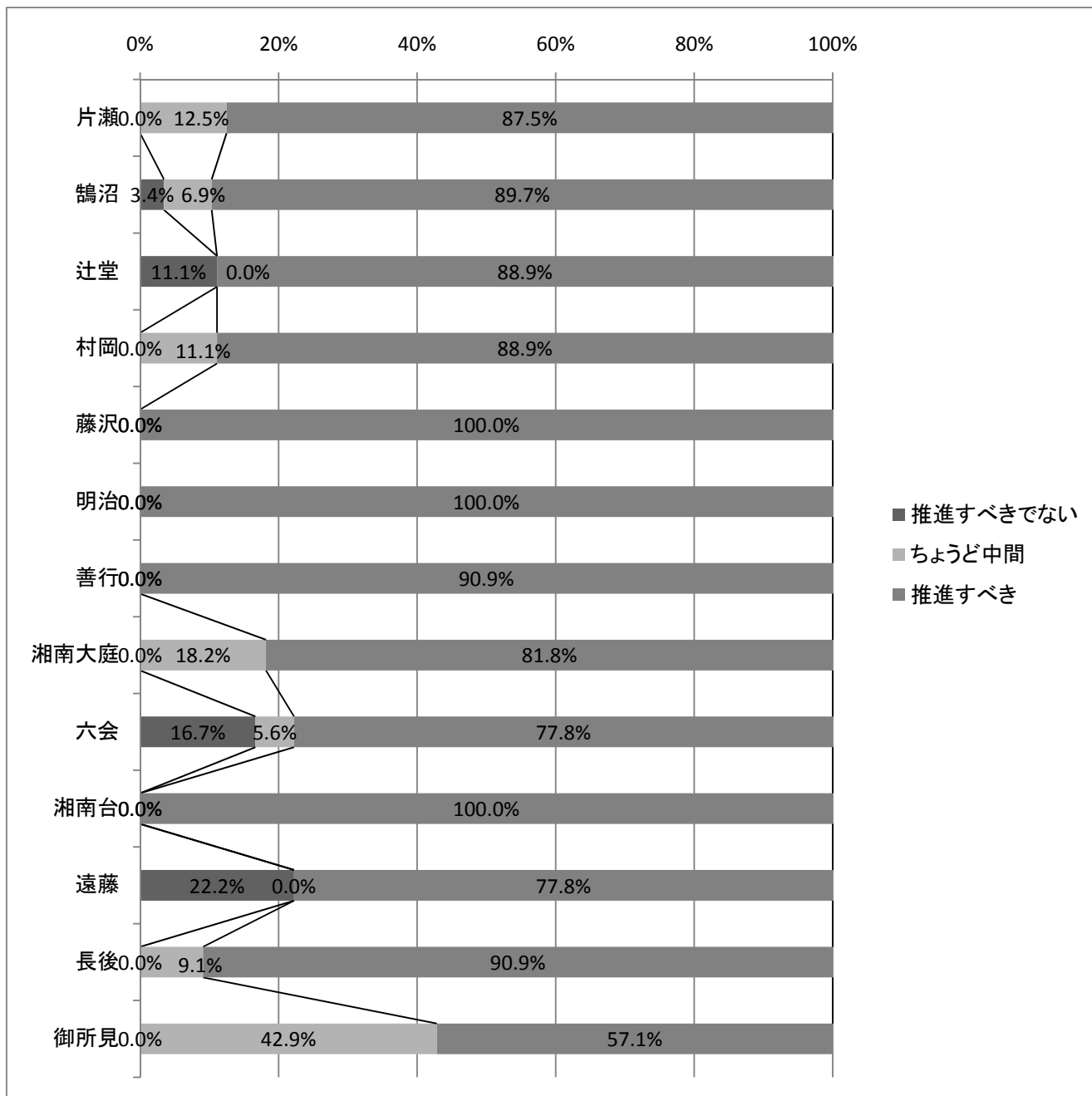
【図7-5-3 年代別：藤沢市の魅力を訴える活動について（年代不明を除く）】



●すべての地区で「推進すべき」が「推進すべきでない」を上回る

地区別の回答分布は図7-5-4の通りです。すべての地区で「推進すべき」が「推進すべきでない」を上回っています。特に、藤沢、明治、湘南台の3地区では「推進すべき」が100%となっています。

【図7-5-4 地区別：藤沢市の魅力を訴える活動について（地区不明を除く）】





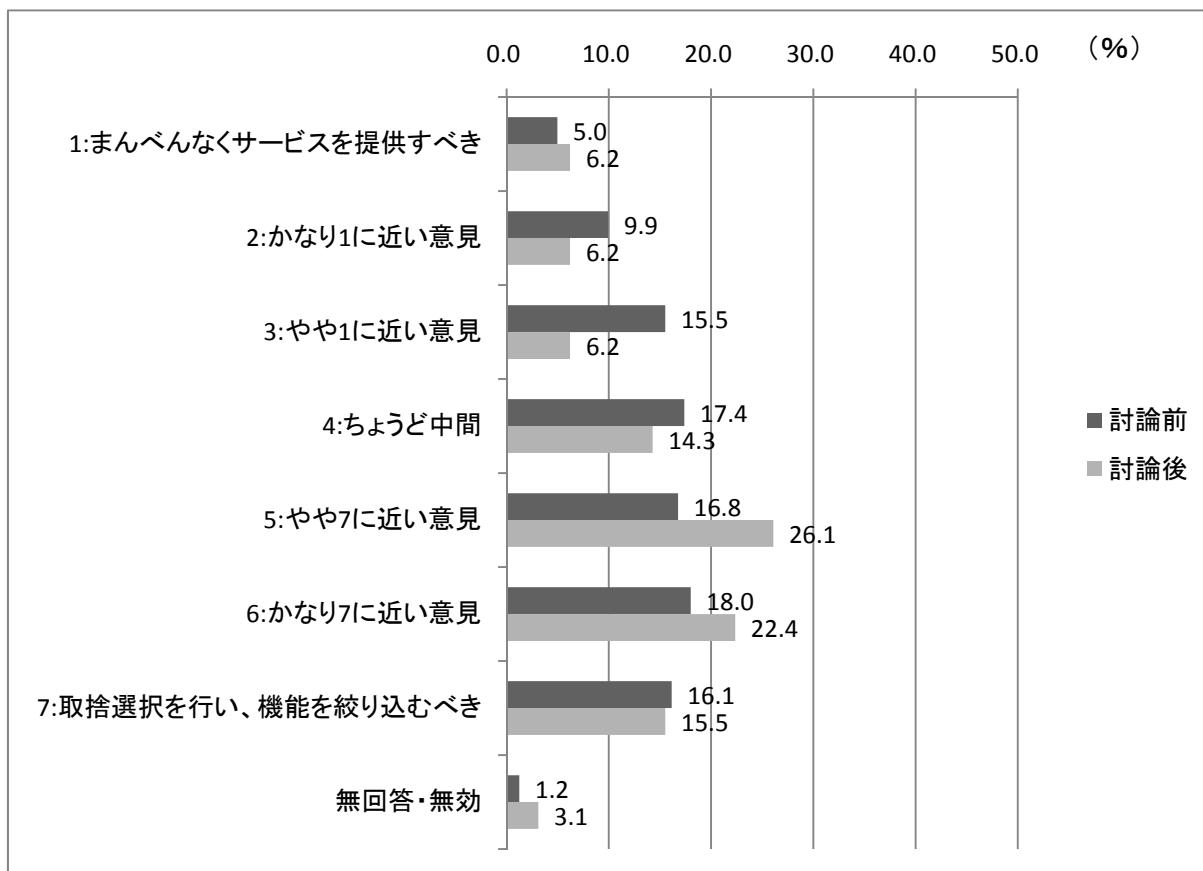
## 7-6 今後の藤沢市役所の役割について

問 これから、藤沢市役所はどのような役割を担っていくべきだと思いますか。「市民の意向を聞いて、まんべんなくサービスを提供すべき」を「1」、「取捨選択を行い、機能を絞り込むべき」を「7」とした場合、あなたの考えはどこに位置しますか。

- まんべんなくサービスを提供すべき（まんべんなく）：30.4% ⇒ 18.6%（11.8ポイント↓）
- ちょうど中間：17.4% ⇒ 14.3%（3.1ポイント↓）
- 取捨選択を行い、機能を絞り込むべき（取捨選択）：50.9% ⇒ 64.0%（13.1ポイント↑）

今後の藤沢市役所の役割について、「まんべんなくサービスを提供すべきか」、「取捨選択を行い、機能を絞り込むべきか」、どちらが望ましいと思うかを聞きました。図7-6-1の通り、討論前と討論後で、「まんべんなくサービスを提供すべき」（選択肢0,1,2,3,4）という人は11.8ポイント減少し、「取捨選択を行い、機能を絞り込むべき」（選択肢6,7,8,9,10）という人は13.1ポイント増加しました。

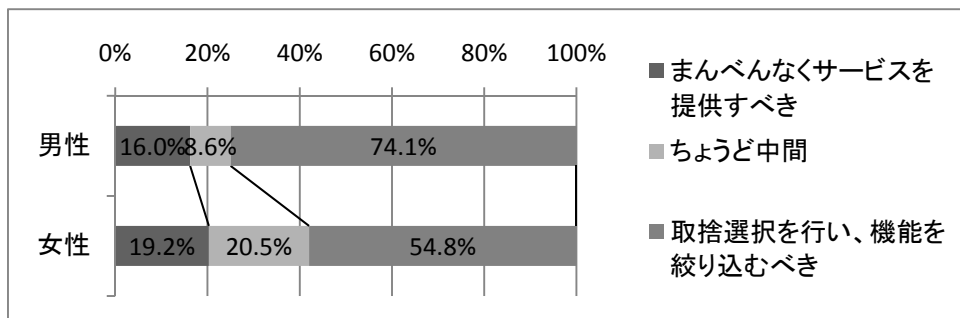
【図7-6-1 今後の藤沢市役所の役割について】



●男性の方が女性よりも「取捨選択」志向が強い

性別ごとの回答分布は図7-6-2の通りです。男女ともに「取捨選択」が「まんべんなく」を大きく上回っています。ただ、男性は「取捨選択」が74.1%であるのに対して、女性は54.8%であり、性別間で回答に差が見られることがわかります。

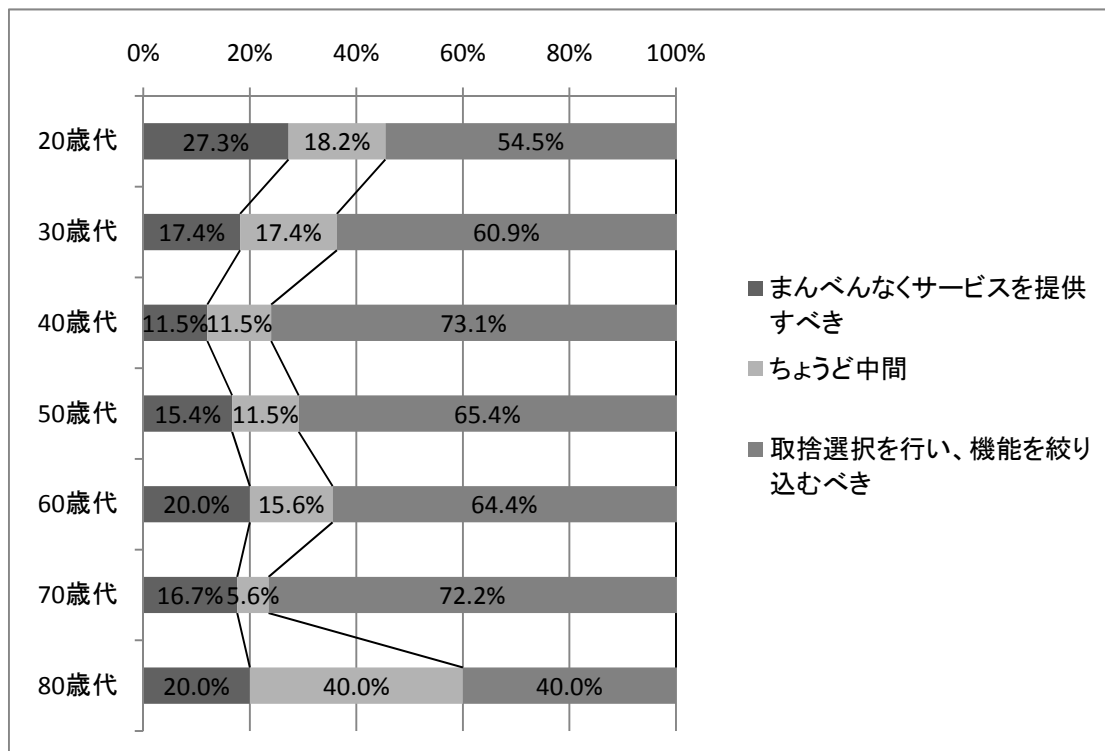
【図7-6-2 性別：今後の藤沢市役所の役割について（性別不明を除く）】



●80歳代を除くすべての年代で、「取捨選択」が「まんべんなく」を大きく上回る

年代別の回答分布は図7-6-3の通りです。30歳代から70歳代では、回答の60%以上が「取捨選択」となっています。特に、40歳代と70歳代では、「取捨選択」が70%以上となっています。その一方で、20歳代では「取捨選択」は54.5%となっており、もっとも「取捨選択」の割合が高い40歳代（73.1%）と比べると、20ポイント近くの開きがあります。

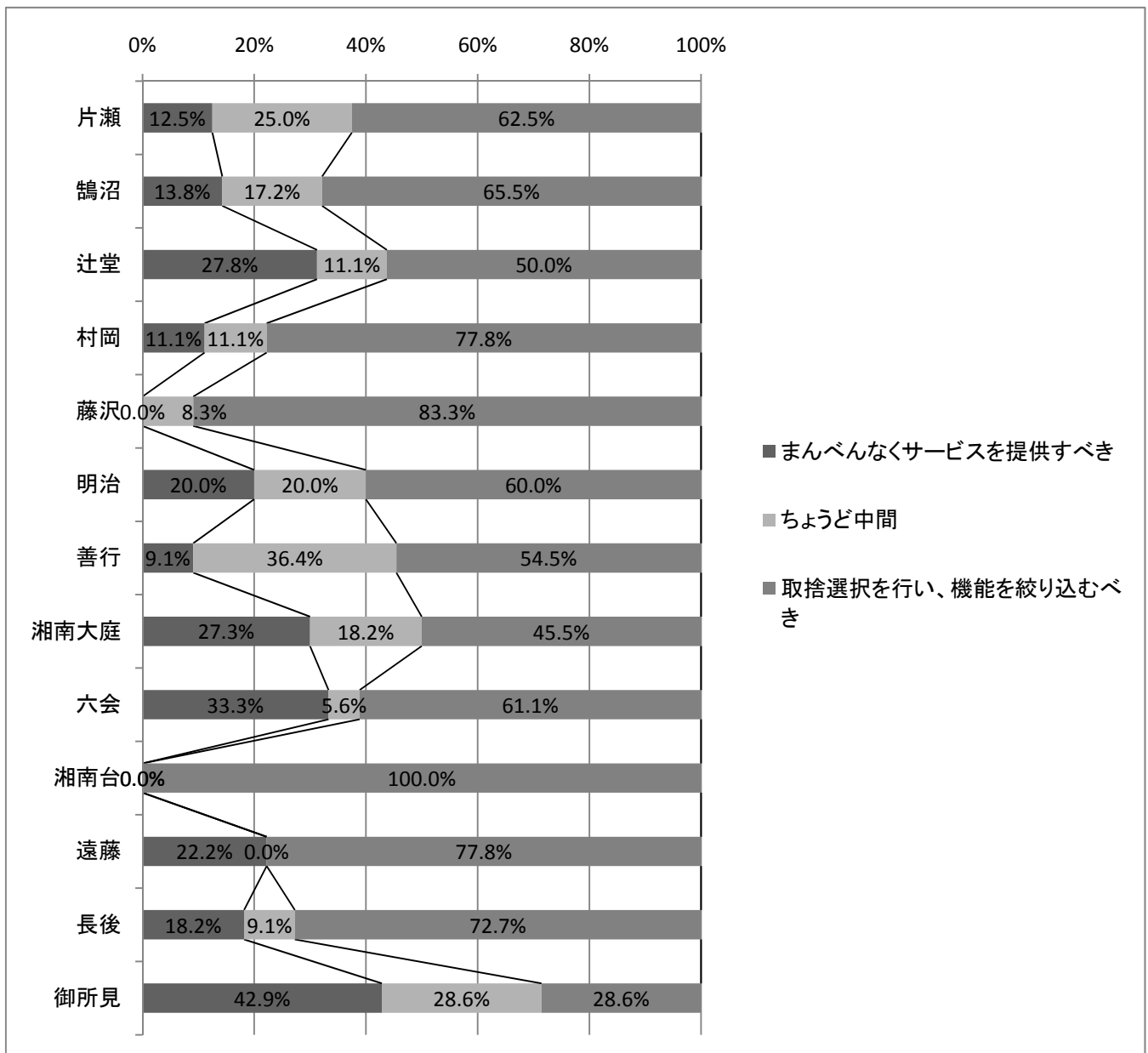
【図7-6-3 年代別：今後の藤沢市役所の役割について（年代不明を除く）】



●御所見以外の12地区で、「取捨選択」が「まんべんなく」を上回る

地区別の回答分布は図7-6-4の通りです。御所見地区を除く12地区で、「取捨選択」が「まんべんなく」を大きく上回っています。特に藤沢地区（83.3%）、湘南台地区（100.0%）は「取捨選択」の割合が高くなっています。一方で、辻堂（50.0%）、湘南大庭（45.5%）、御所見（28.6%）では「取捨選択」が相対的に低い水準となっています。「取捨選択」の割合がもっとも高い湘南台地区と、もっとも低い御所見地区では、71.4ポイントの差が見られます。

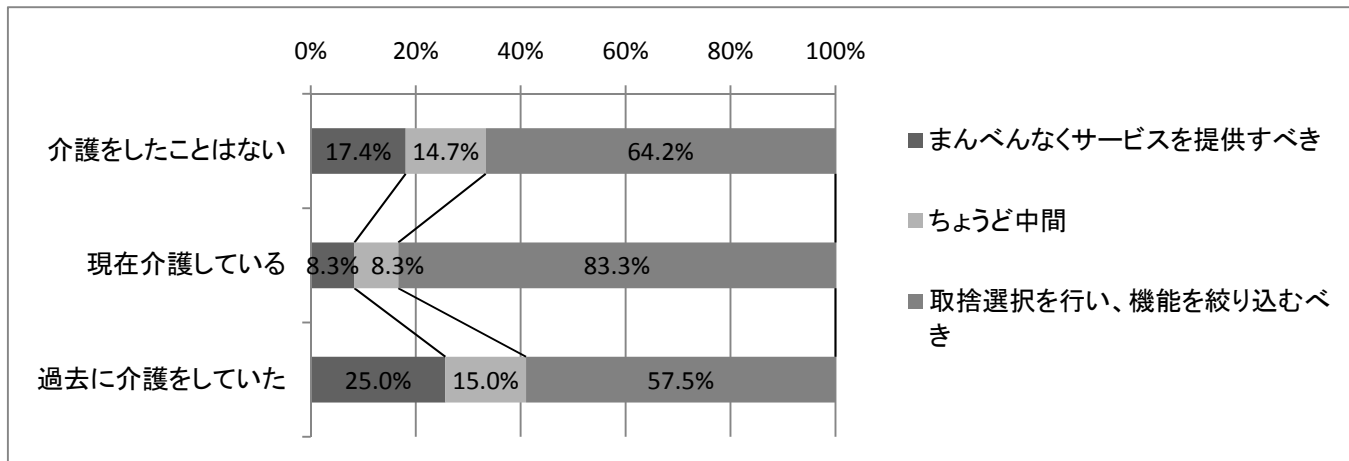
【図7-6-4 地区別：今後の藤沢市役所の役割について（地区不明を除く）】



●「現在介護をしている」と回答した人の83.3%が、「取捨選択」と回答

本問の回答状況と、「介護経験について」の回答状況（24ページ参照）のクロス結果は図7-6-5の通りです。「現在介護をしている」と回答した人の83.3%が「取捨選択」と回答しています。「介護をしたことはない」では、「取捨選択」は64.2%、「過去に介護していた」では57.5%となっています。

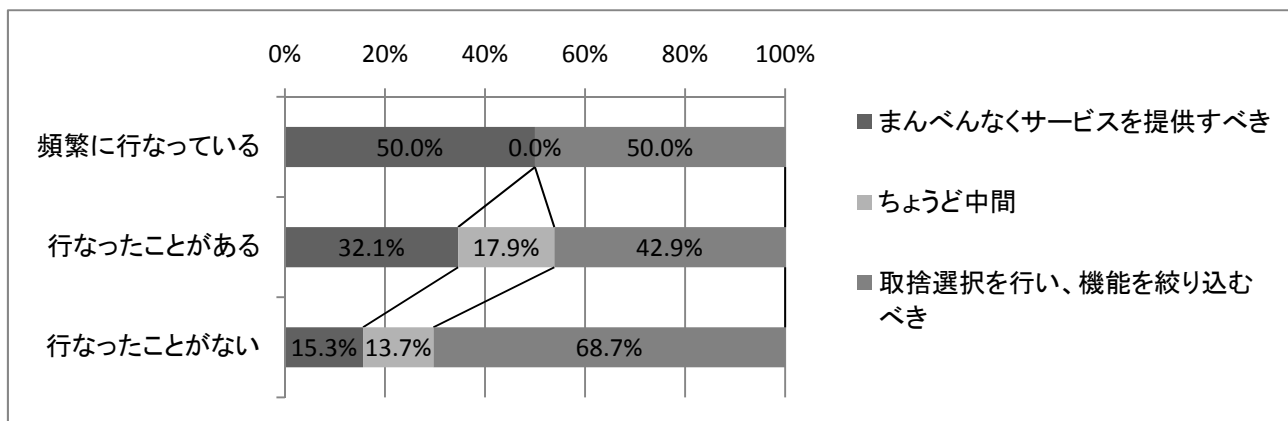
【図7-6-5 「今後の藤沢市役所の役割について」と「あなたの介護経験」のクロス集計】



●市政への参加経験がない人の68.7%が「取捨選択」と回答

本問の回答状況と、「市政への参加経験について」の回答状況（25ページ参照）のクロス結果は図7-6-6の通りです。市政の参加について、「行なったことがない」と回答した人の68.7%が「取捨選択」と回答しています。「頻繁に行なっている」では、「取捨選択」は50.0%、「行なったことがある」では42.9%となっています。

【図7-6-6 「今後の藤沢市役所の役割について」と「市政への参加経験」のクロス集計】



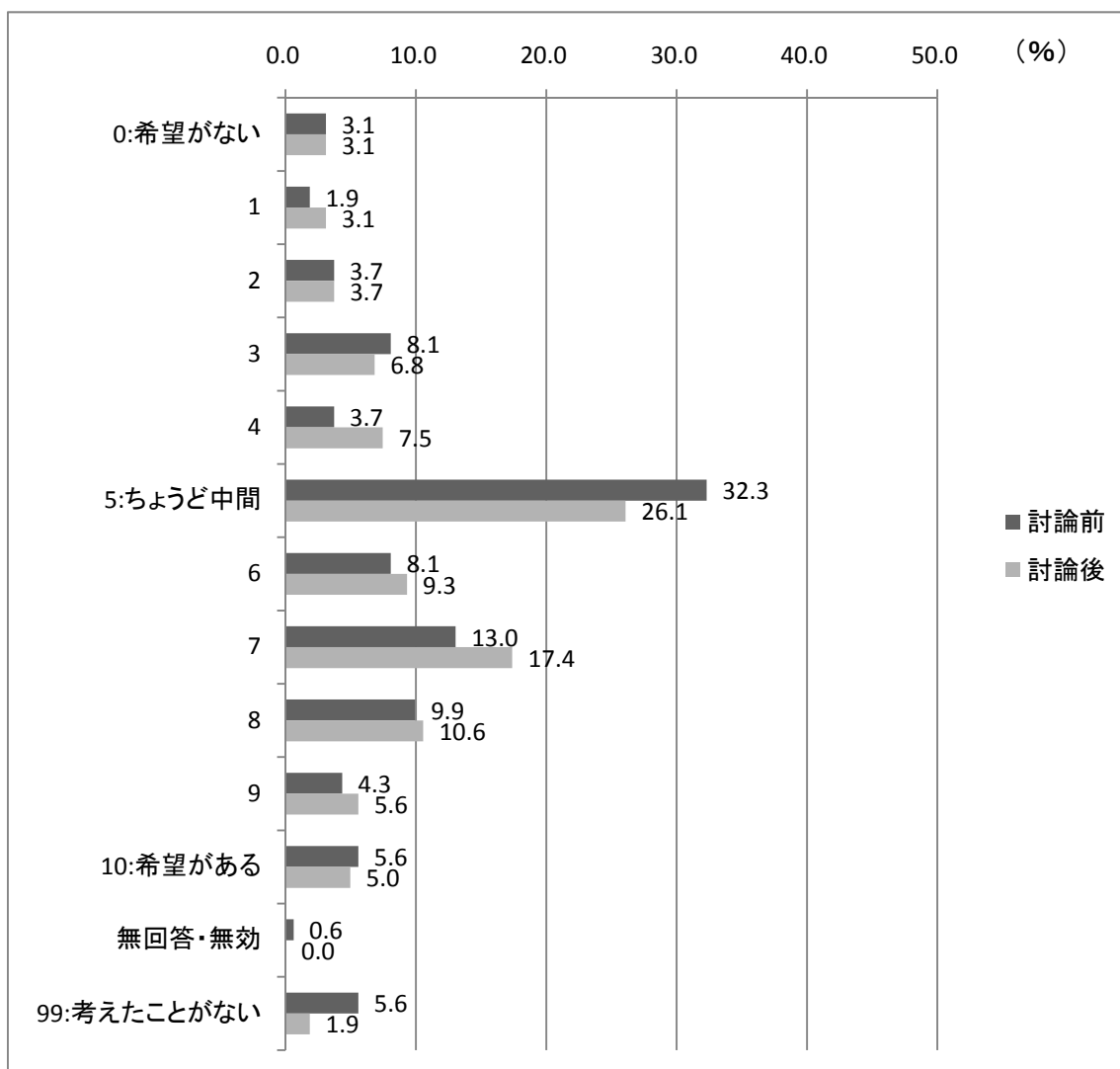
## 7-7 20年後のあなたの生活について

問 20年後の藤沢市における「あなたの生活」に、どの程度の希望を持っていますか。

- 希望がない：20.5% ⇒ 24.2% (3.7ポイント↑)
- ちょうど中間：32.3% ⇒ 26.1% (6.2ポイント↓)
- 希望がある：40.9% ⇒ 47.9% (7.0ポイント↑)

20年後の「あなたの生活」にどの程度の希望を持っているかを聞きました。図7-7-1の通り、討論前と討論後で、「希望がない」（選択肢0,1,2,3,4）という人は3.7ポイント増加し、「希望がある」（選択肢6,7,8,9,10）という人も7.0ポイント増加しました。

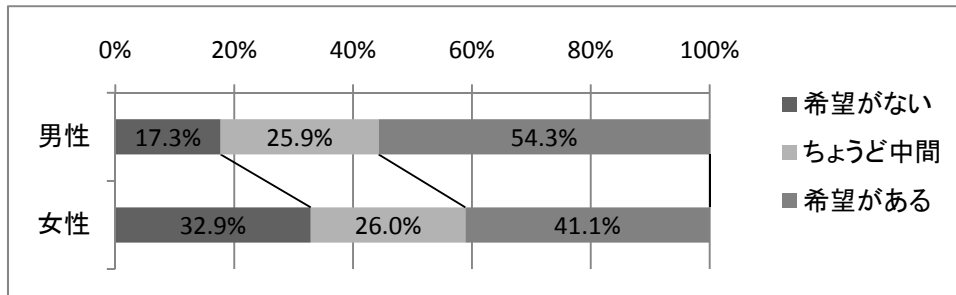
【図7-7-1 20年後のあなたの生活への希望について】



### ●男性の54.3%が「希望がある」と回答

性別ごとの回答分布は図7-7-2の通りです。男性の54.3%が「希望がある」と回答しているのに対して、女性で「希望がある」と回答した人は41.1%で、13.2ポイントの差があります。また、「希望がない」は、男性が17.3%であるのに対して、女性は32.9%となっています。

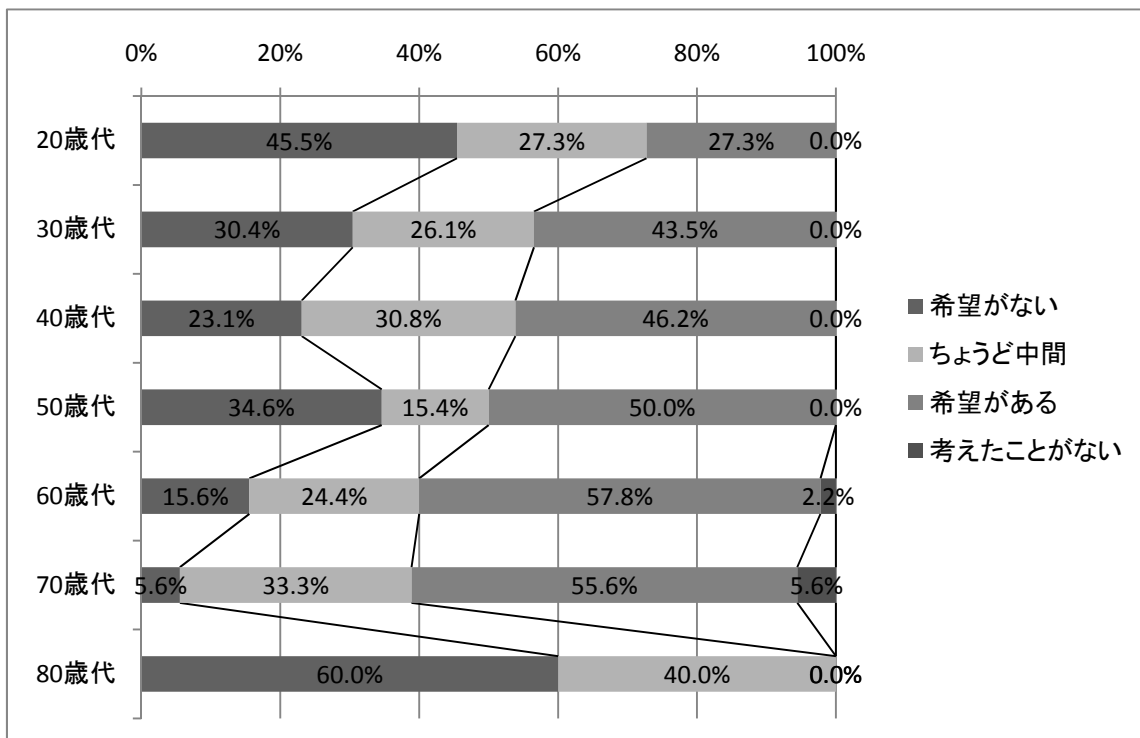
【図7-7-2 性別：20年後のあなたの生活への希望について（性別不明を除く）】



### ●年代が上がるごとに「希望がある」が高まる傾向

年代ごとの回答分布は図7-7-3の通りです。年代が上がるほど「希望がある」が高くなる傾向にあることがわかります。もっとも「希望がある」の割合が高い60歳代（57.8%）と、もっとも低い20歳代（27.3%）を比べると、30.5ポイントもの差があり、年代による傾向の違いが見られます。

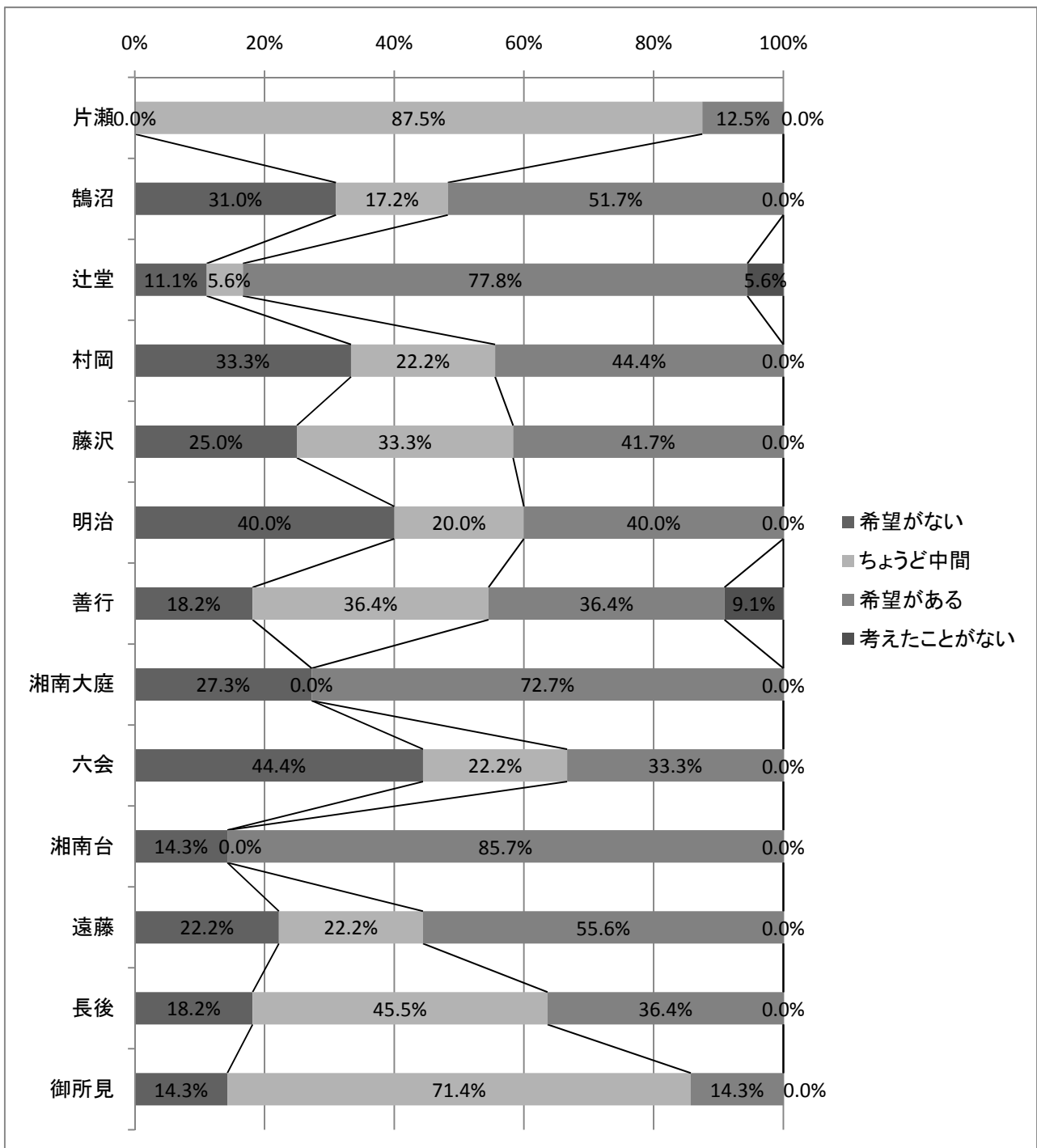
【図7-7-3 年代別：20年後のあなたの生活への希望について（年代不明を除く）】



●「希望の有無」は地区ごとに大きなばらつきがある

地区別の回答分布は図7-7-4の通りです。辻堂（77.8%）、湘南大庭（72.7%）、湘南台（85.7%）では、「希望がある」が高くなっているのに対し、善行（36.4%）、六会（33.3%）、長後（36.4%）、御所見（14.3%）は低い水準となっています。もっとも高い湘南台と、もっとも低い御所見の間では、71.4ポイントの差があり、地区ごとに大きなばらつきがあるといえます。

【図7-7-4 地区別：20年後のあなたの生活への希望について（地区不明を除く）】



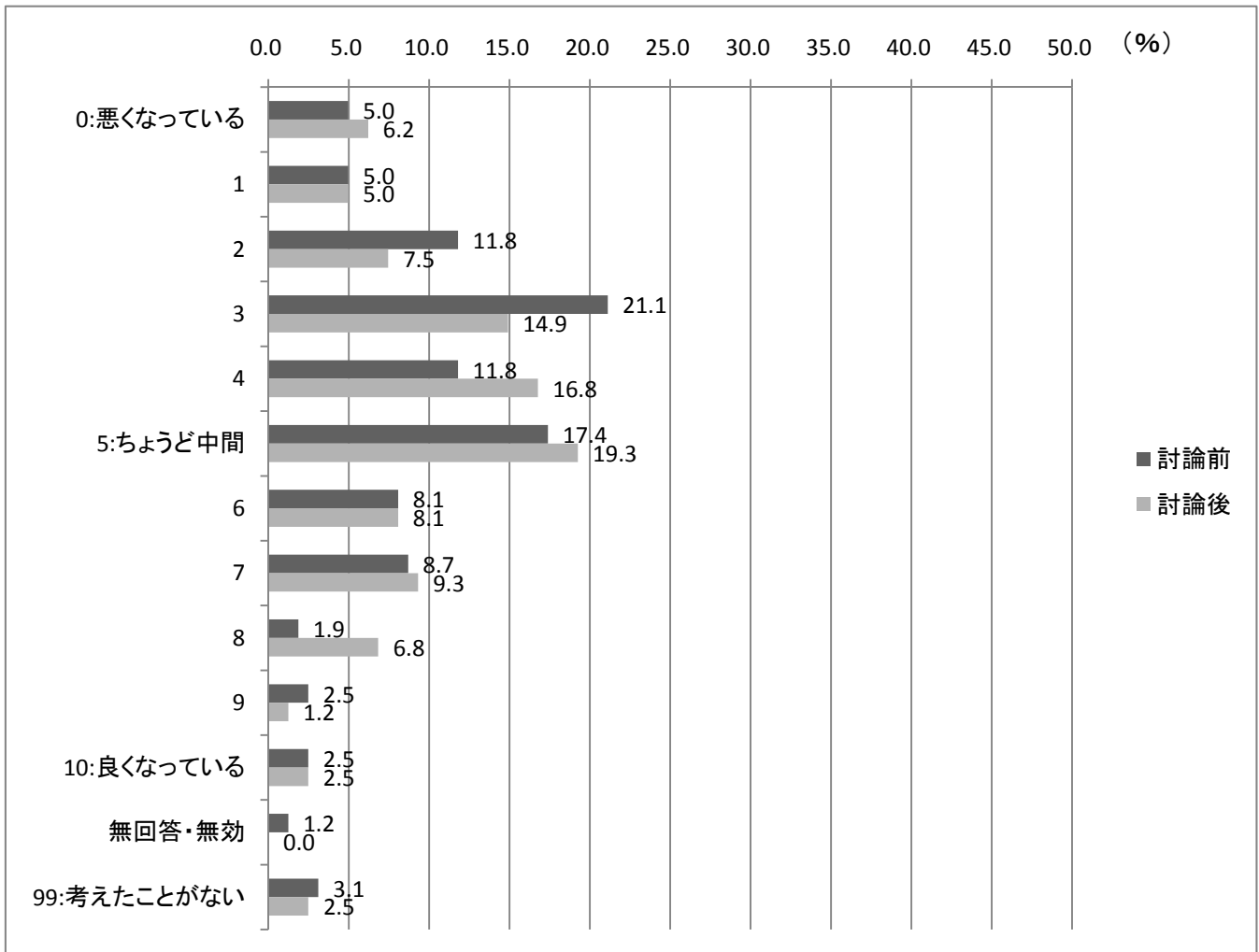
## 7-8 20年後の藤沢市の経済・社会状況について

問 20年後の藤沢市における「経済・社会状況」は、現在と比べて、どのようになっていると思いますか。

- 悪くなっている : 54.7% ⇒ 50.4% (4.3ポイント↓)
- ちょうど中間 : 17.4% ⇒ 19.3% (1.9ポイント↑)
- 良くなっている : 23.7% ⇒ 27.9% (4.2ポイント↑)

20年後の藤沢市の「経済・社会状況」が現在と比べてどのようになっていると思うかを聞きました。図7-8-1の通り、討論前と討論後で、「悪くなっている」（選択肢0,1,2,3,4）という人は4.3ポイント減少し、「良くなっている」（選択肢6,7,8,9,10）という人は4.2ポイント増加しました。

【図7-8-1 藤沢市の経済・社会状況の変化について】

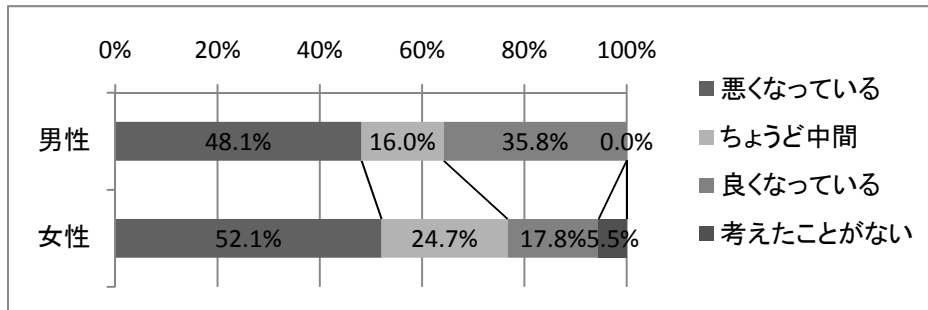




●女性は「良くなっている」が17.8%

性別ごとの回答分布は図7-8-2の通りです。男性、女性ともに「良くなっている」が「悪くなっている」を上回っています。しかし、「良くなっている」の回答分布を比較すると、男性は35.8%であるのに対して、女性は17.8%となっており、18ポイントの差が見られます。

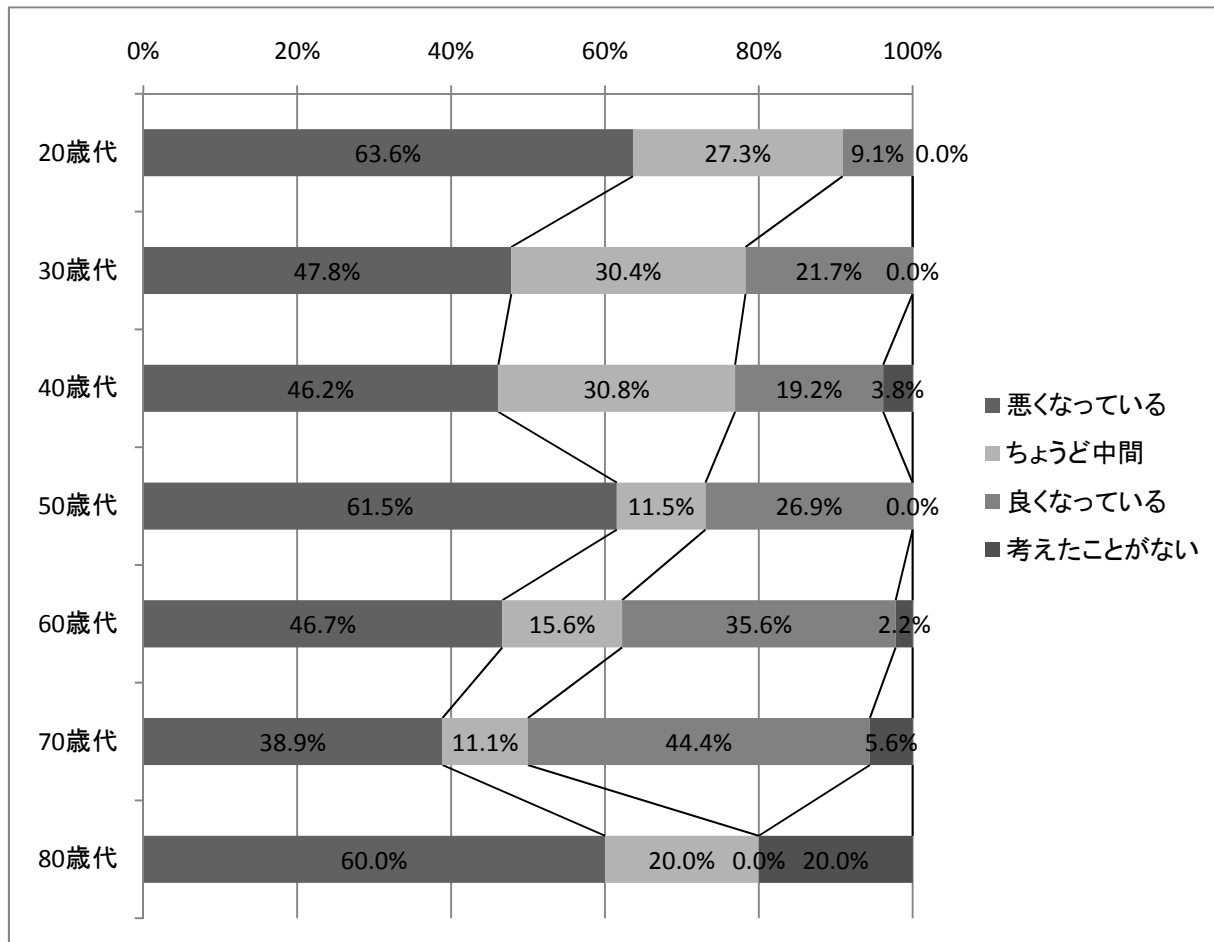
【図7-8-2 性別：藤沢市の経済・社会状況の変化について（性別不明を除く）】



●20歳代、50歳代、80歳代で「悪くなっている」が「良くなっている」を大きく上回る

年代別の回答分布は図7-8-3の通りです。70歳代を除くすべての世代で「悪くなっている」が「良くなっている」を上回っています。特に20歳代、50歳代、80歳代では「悪くなっている」が60%を超えており、もっとも低い70歳代（44.4%）と比べると、15ポイント以上の差があります。

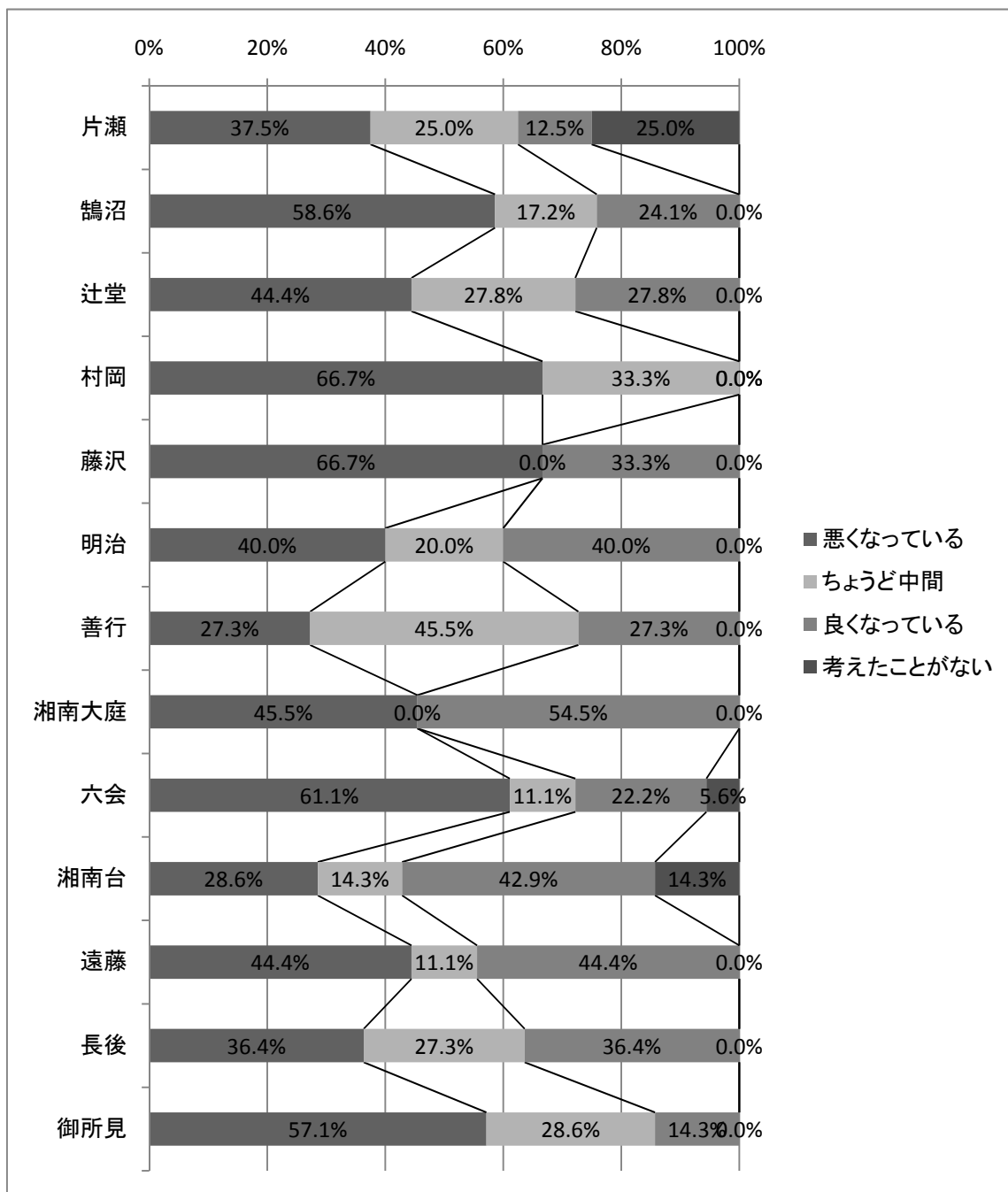
【図7-8-3 年代別：藤沢市の経済・社会状況の変化について（年代不明を除く）】



●全体に「悪くなっている」という回答が多いが、地区ごとにばらつきがある

地区ごとの回答分布は図7-8-4の通りです。湘南大庭、湘南台を除く11地区で「悪くなっている」が「良くなっている」を上回っています。村岡（66.7%）、藤沢（66.7%）、六会（61.1%）では、「悪くなっている」が60%を超えて高い水準となっています。それに対して、善行（27.3%）、湘南台（28.6%）、長後（36.4%）では、低い水準となっており、もっとも高い村岡・藤沢と、もっとも低い善行のあいだには39.4ポイントの差があることがわかります。

【図7-8-4 地区別：藤沢市の経済・社会状況の変化について（地区不明を除く）】



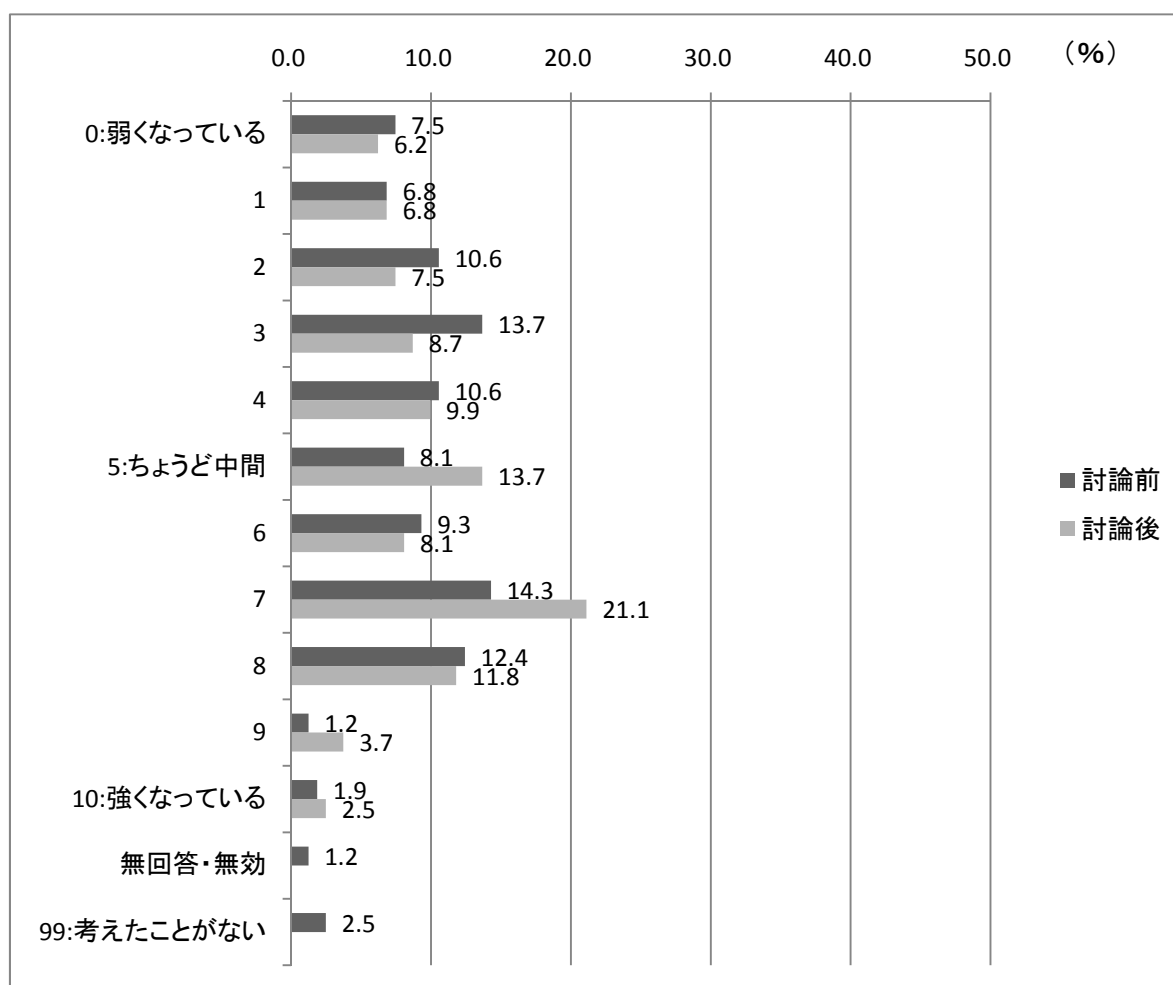
## 7-9 20年後の藤沢市の地域の課題解決力について

問 20年後の藤沢市における「近隣の人たちが地区の問題を協力して解決する力」は、現在と比べて、どのように変化していると思いますか。

- 弱くなっている : 49.2% ⇒ 39.1% (10.1ポイント↓)
- ちょうど中間 : 8.1% ⇒ 13.7% (5.6ポイント↑)
- 強くなっている : 39.1% ⇒ 47.2% (8.1ポイント↑)

20年後の藤沢市の「地域力」は現在と比べてどのようになっていると思うかを聞きました。図7-9-1の通り、討論前と討論後で、「弱くなっている」（選択肢0,1,2,3,4）という人は10.1ポイント減少した一方で、「強くなっている」（選択肢6,7,8,9,10）という人は8.1ポイント増加しました。

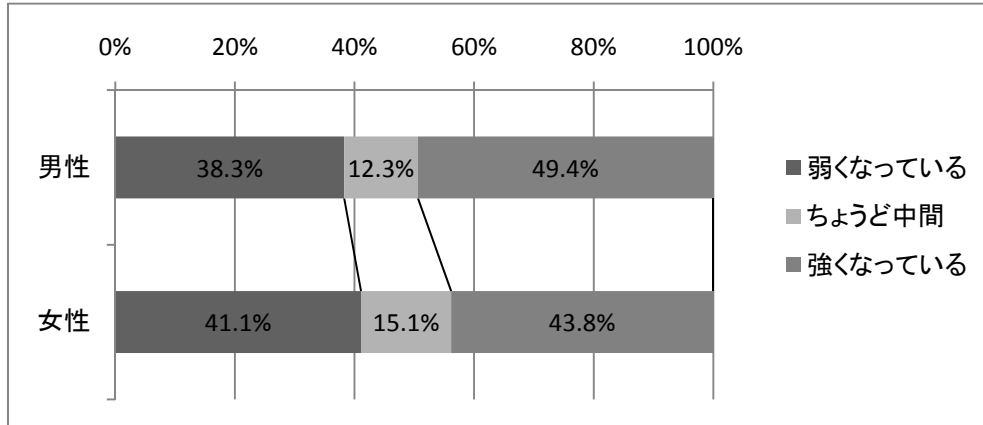
【図7-9-1 地域の課題解決力の見通し】



●男性、女性ともに「強くなっている」が「弱くなっている」を上回る

性別ごとの回答分布は図7-9-2の通りです。男性、女性ともに「強くなっている」が「弱くなっている」を上回りました。ただ、男性はその差が11.1ポイントあるのに対して、女性は2.7ポイントと僅差になっています。

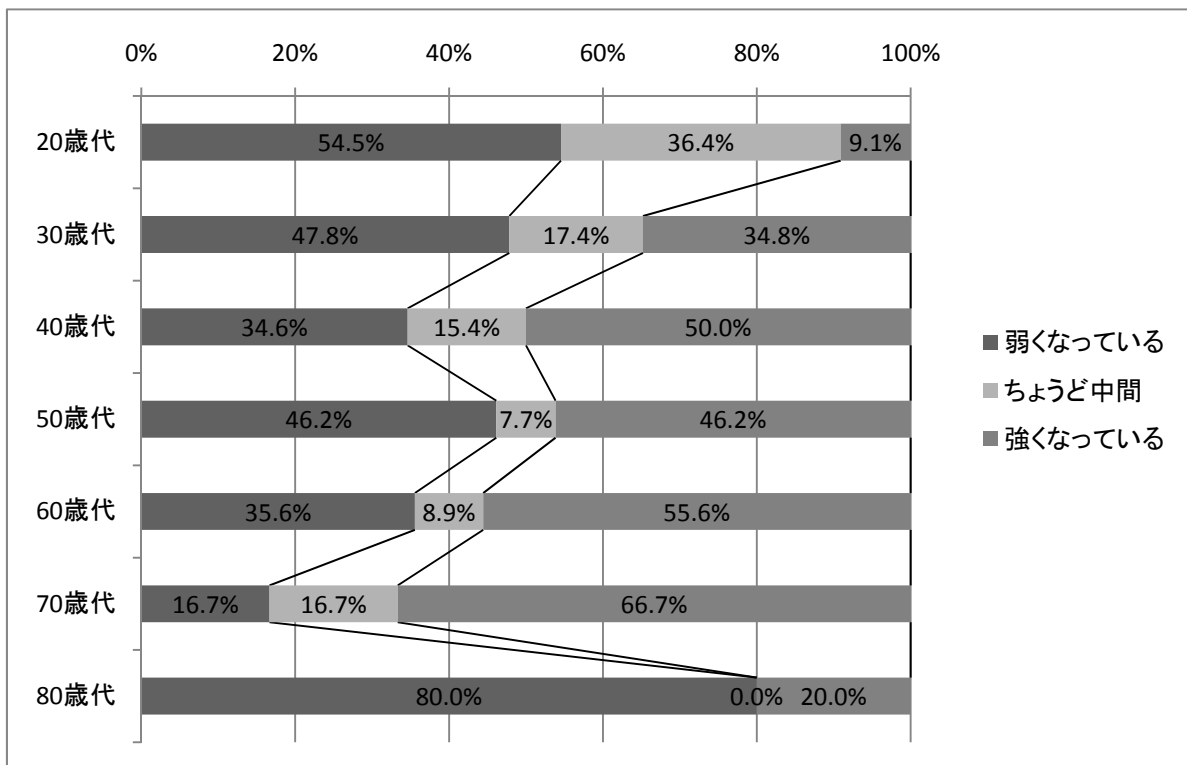
【図7-9-2 性別：地域の課題解決力の見通し（性別不明を除く）】



●年代が上がるごとに「強くなっている」が高まる傾向

年代別の回答分布は図7-9-3の通りです。年代が上がるごとに、「強くなっている」が高まる傾向にあることがわかります。もっとも「強くなっている」の割合が高い70歳代（66.7%）と、もっとも低い20歳代（9.1%）のあいだには、57.6ポイントの差があります。また、80歳代では「弱くなっている」が80.0%となっています。

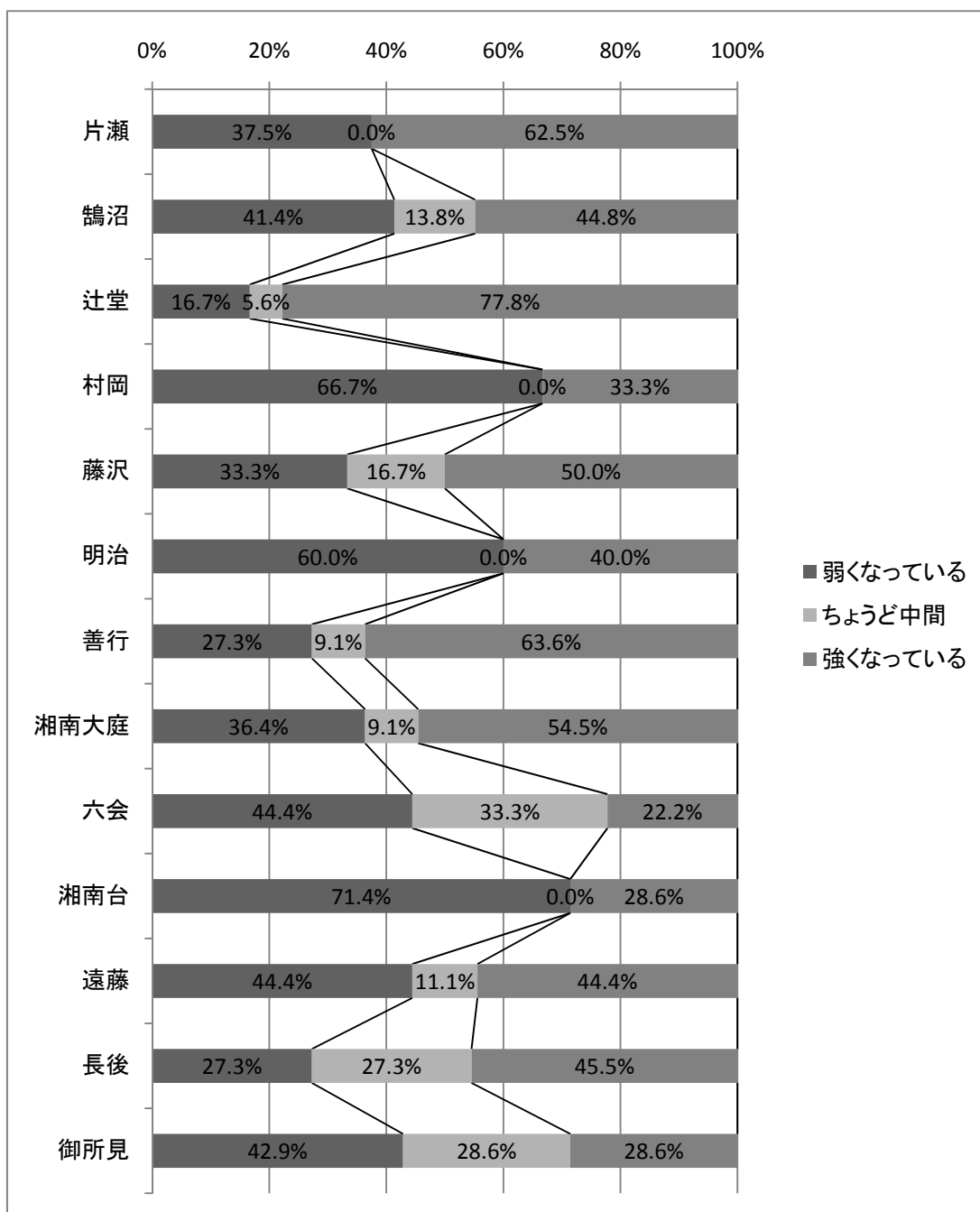
【図7-9-3 年代別：地域の課題解決力の見通し（年代不明を除く）】



●地区ごとに「強くなっている」と「弱くなっている」に大きなばらつき

地区別の回答分布は図7-9-4の通りです。「弱くなっている」が多いのは、村岡地区（66.7%）、明治地区（60.0%）、湘南台地区（71.4%）でした。一方で、「強くなっている」が多いのは、片瀬地区（62.5%）、辻堂地区（77.8%）、善行地区（63.6%）となっています。地区ごとに「強くなっている」と「弱くなっている」で大きく回答が割れていることがわかります。

【図7-9-4 地区別：「地域の力」の変化（地区不明を除く）】



7-10 地域の課題解決のための貢献について

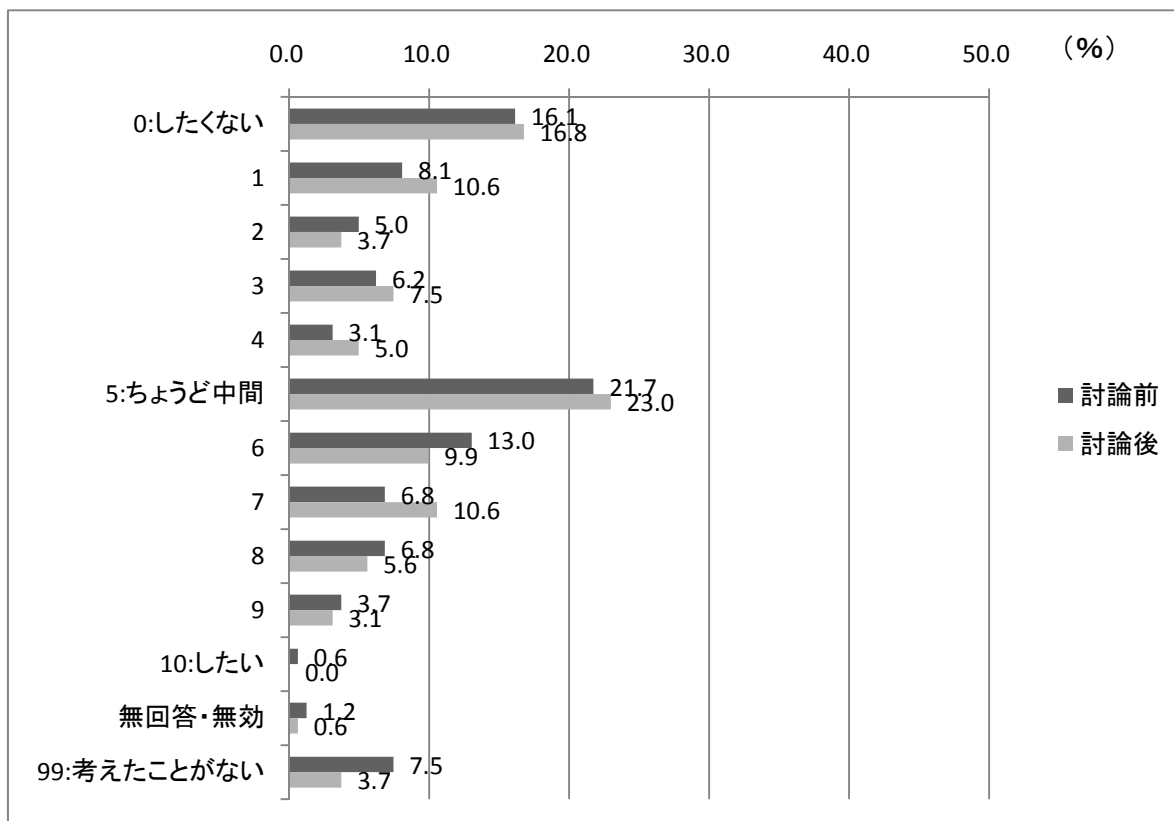
問 地域の課題の解決のために貢献できるとしたら、あなた自身は、どのような活動や負担をしてもよいと思いますか。

① 寄付など金銭の提供

- 提供したくない : 38.5% ⇒ 43.6% (5.1ポイント↑)
- ちょうど中間 : 21.7% ⇒ 23.0% (1.3ポイント↑)
- 提供したい : 30.9% ⇒ 29.2% (1.7ポイント↑)

地域の課題の解決のために寄付などの金銭の提供をしてもよいと思うかを聞きました。図7-10-1の通り、討論前と討論後で、「提供したくない」（選択肢0,1,2,3,4）という人は5.1ポイント増加した一方で、「提供したい」（選択肢6,7,8,9,10）という人は1.7ポイント増加しました。

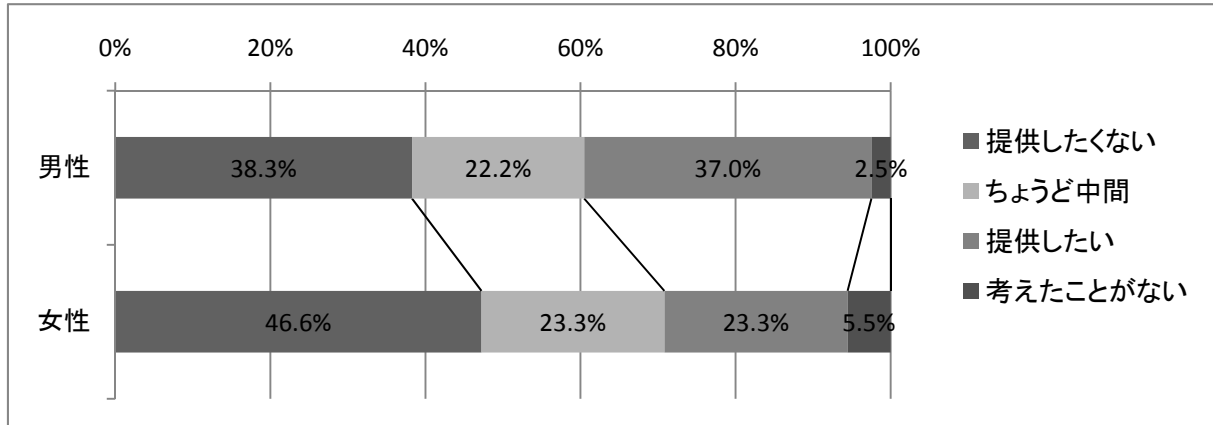
【図7-10-1 寄付など金銭の提供】



●女性は「提供したくない」が46.6%、男性は38.3%

性別ごとの回答分布は図7-10-2の通りです。男性は「提供したくない」が38.3%、「提供したい」が37.0%と僅差であるのに対して、女性は「提供したくない」が46.6%、「提供したい」が23.3%となっており、その差は23.3ポイントとなっています。

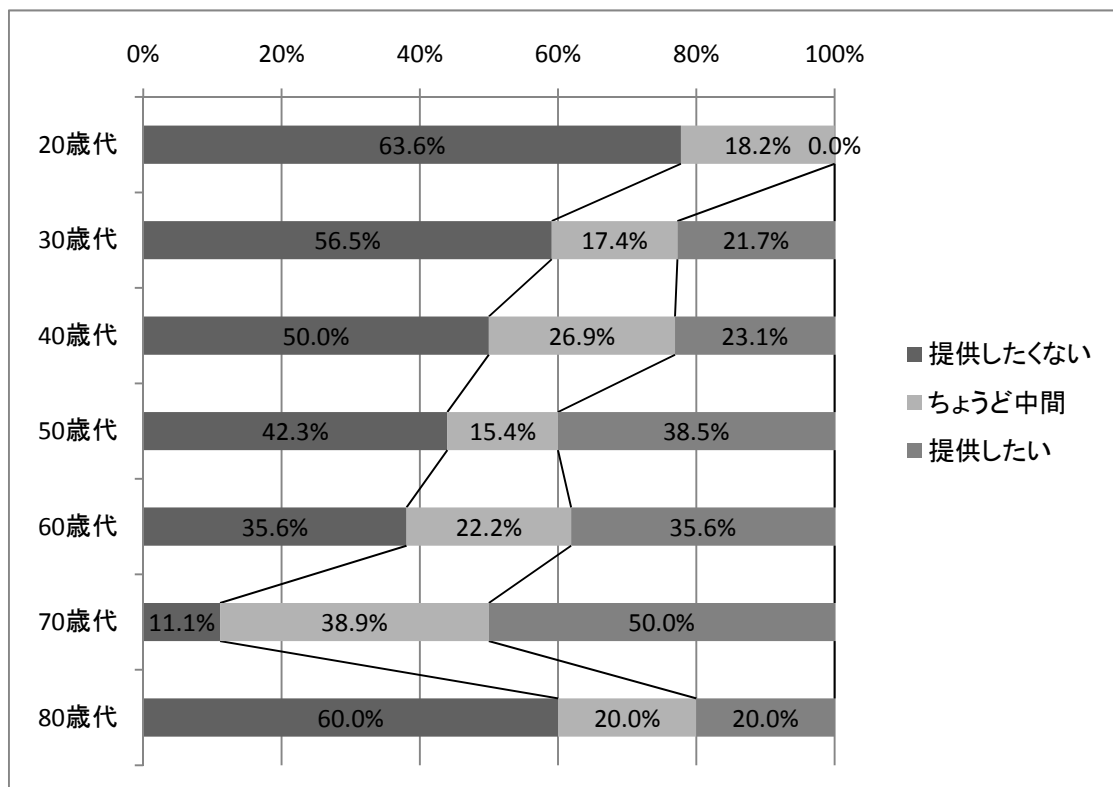
【図7-10-2 性別：寄付など金銭の提供（性別不明を除く）】



●70歳代の回答の50%が「提供したい」

年代別の回答分布は図7-10-3の通りです。年代が上がるにしたがって、「提供したくない」の割合が減少していることがわかります（80歳代を除く）。特に、70歳代では、「提供したい」が50.0%となり、「提供したくない」の11.1%を大きく上回っています。

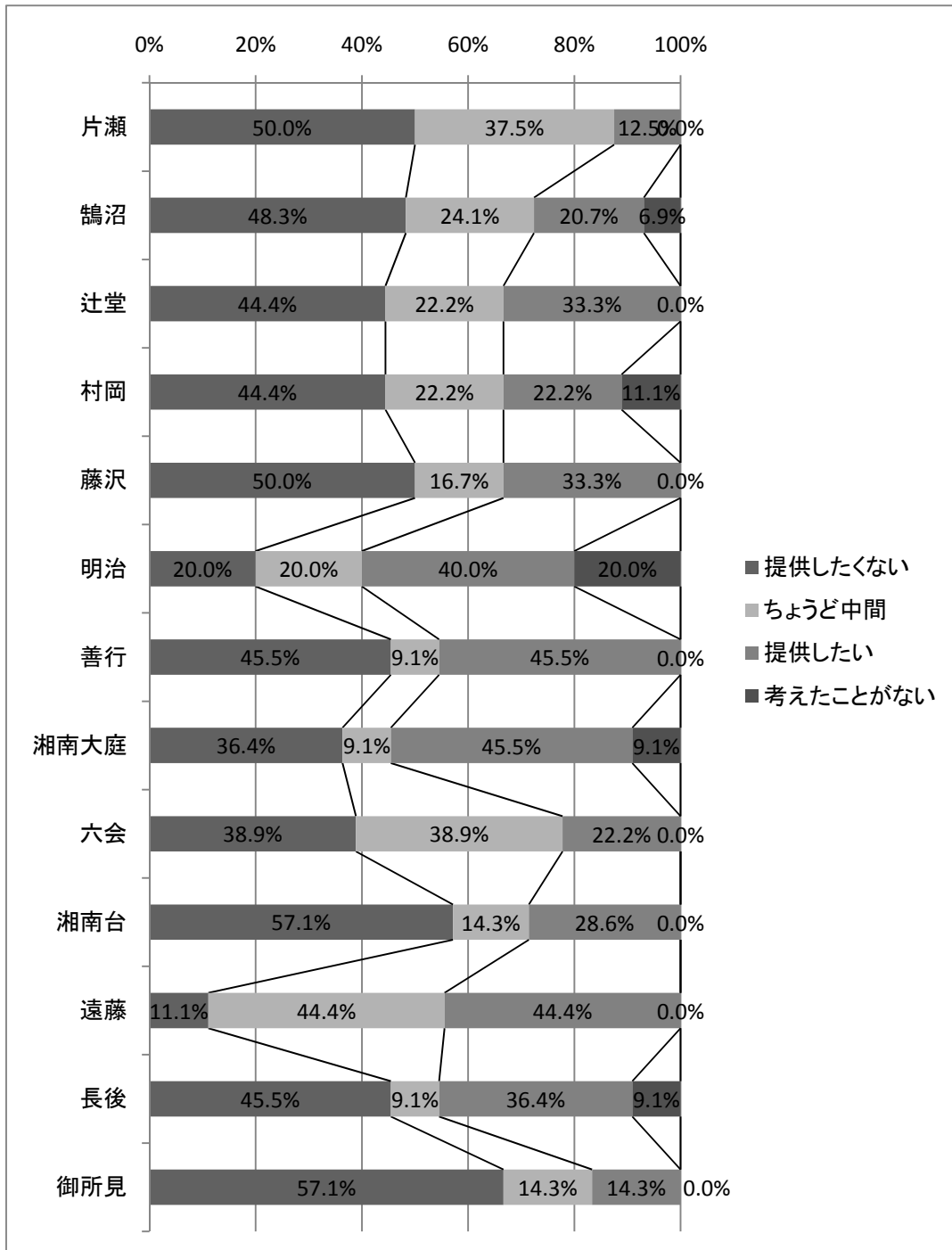
【図7-10-3 年代別：寄付など金銭の提供（年代不明を除く）】



●明治、湘南大庭、遠藤では「提供したい」が「提供したくない」を上回る

地区別の回答分布は図7-10-4の通りです。「提供したくない」が50%を超えた地区は、片瀬（50.0%）、藤沢（50.0%）、湘南台（57.1%）、御所見（57.1%）でした。それに対して「提供したい」が「提供したくない」を上回った地区は、明治（40.0%）、湘南大庭（45.5%）、遠藤（44.4%）でした。

【図7-10-4 地区別：寄付など金銭の提供（地区不明を除く）】

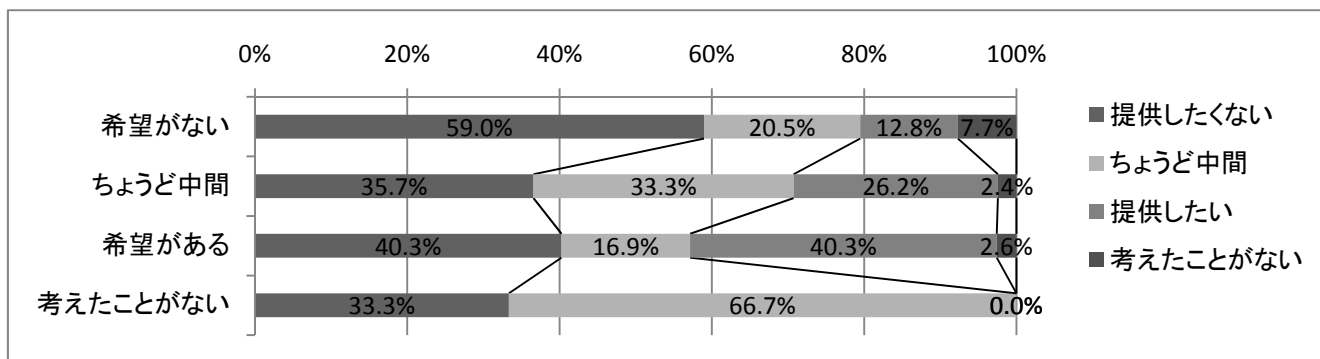




●「希望がある」と回答した人ほど、「提供したい」と回答する傾向

本問の回答状況と、「20年後のあなたの生活について」の回答状況（67ページ参照）のクロス結果は図7-10-5の通りです。「希望がある」と回答した人では、「提供したい」と「提供したくない」はそれぞれ40.3%となっています。それに対して、「ちょうど中間」では「提供したい」が26.2%、「希望がない」では12.8%となっており、希望がある人ほど提供したいと回答する傾向にあることがわかります。

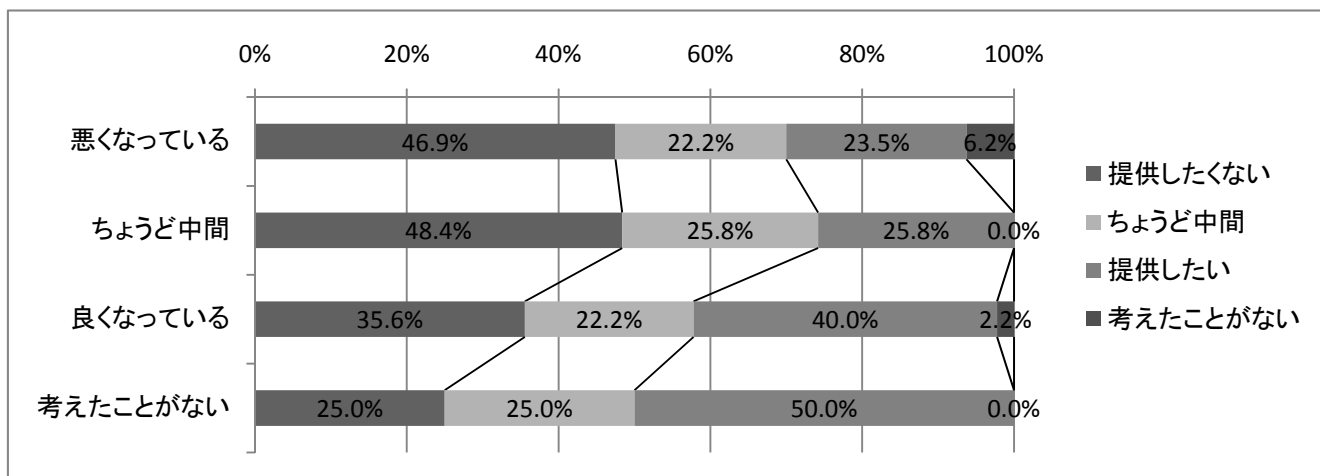
【図7-10-5 「寄付など金銭の提供」と「あなたの生活の見通し」のクロス集計】



●藤沢市の経済・社会状況について、「良くなる」と回答した人ほど「提供したい」と回答する傾向

本問の回答状況と、「20年後の藤沢市の経済・社会状況について」の回答状況（70ページ参照）のクロス結果は図7-10-6の通りです。経済・社会状況が「良くなっている」と回答した人では、40.0%が「提供したい」と回答し、「提供したくない」の35.6%を上回っています。それに対して、経済・社会状況が「悪くなっている」と回答した人のなかで、「提供したい」と回答した人は23.5%、「提供したくない」と答えた人は46.9%となっており、「提供したくない」が23.4ポイント上回っています。

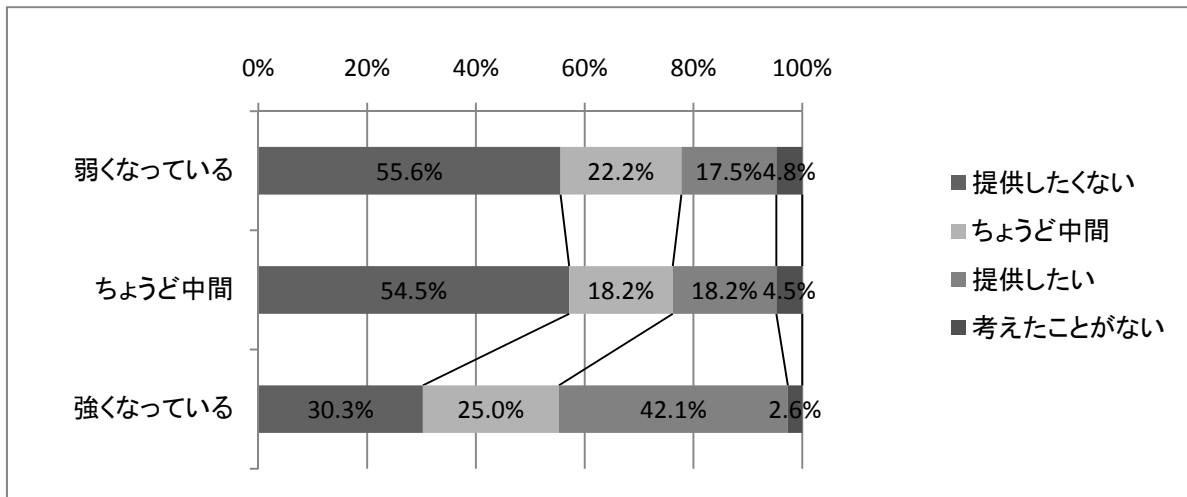
【図7-10-6 「寄付など金銭の提供」と「藤沢市の経済・社会状況の見通し」のクロス集計】



●地域の課題解決力が強くなると考える人ほど、「提供したい」と回答する傾向

本問の回答状況と、「20年後の藤沢市の地域の課題解決力について」の回答状況（73ページ参照）のクロス結果は図7-10-7の通りです。地域の課題解決力が「強くなっている」と回答した人では、42.1%が「提供したい」と回答し、「提供したくない」の30.3%を11.8ポイント上回っています。それに対して、地域の課題解決力が「弱くなっている」と回答した人のなかで、「提供したい」と回答した人は17.5%、「提供したくない」と答えた人は55.6%となっており、「提供したくない」が38.1ポイント上回っています。

【図7-10-7 「寄付など金銭の提供」と「地域の課題解決力の見通し」のクロス集計】

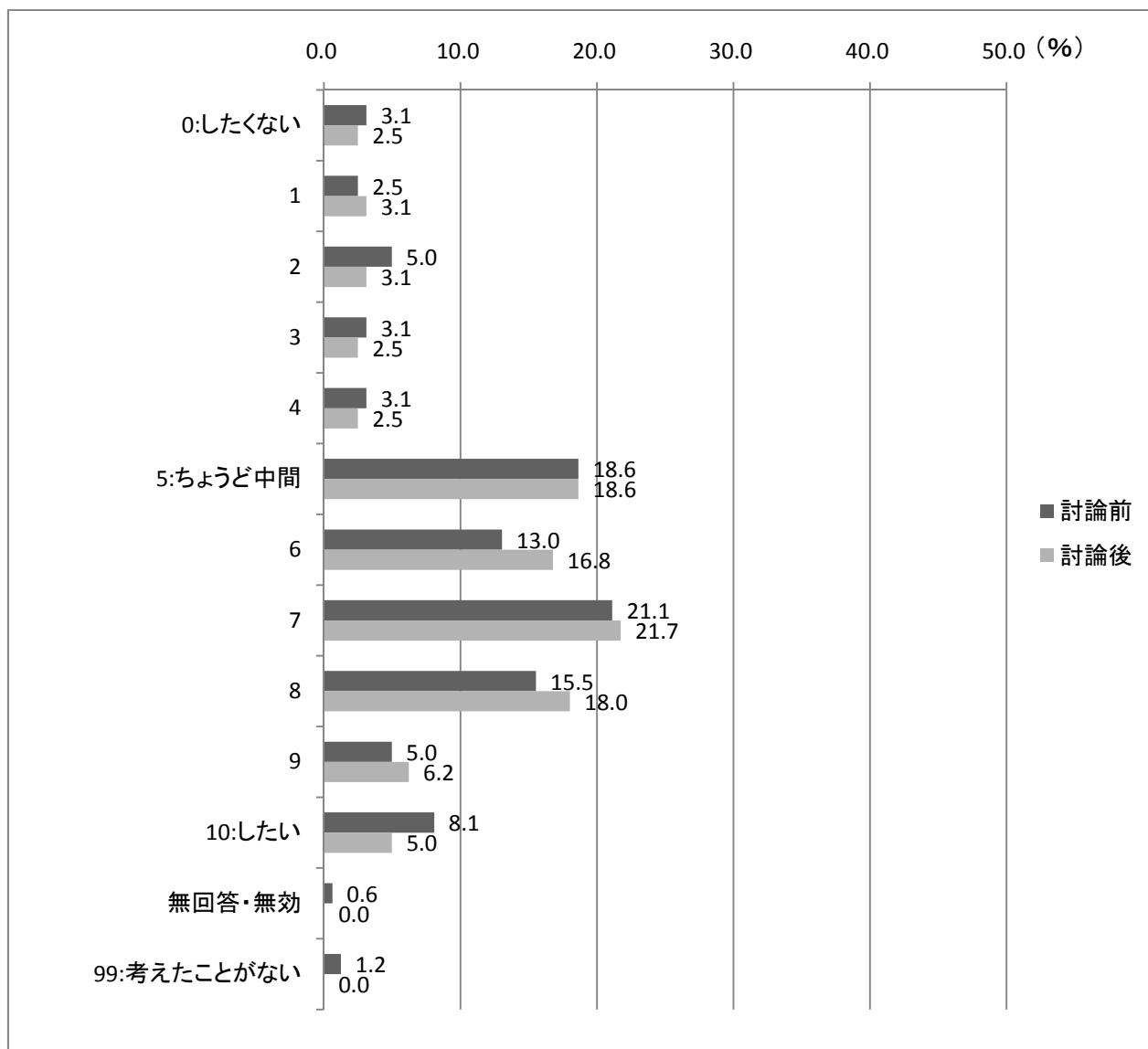


## ② 活動時間や労力の提供

- したくない : 16.8% ⇒ 13.7% (3.1ポイント↓)
- ちょうど中間 : 18.6% ⇒ 18.6% (増減なし)
- したい : 62.7% ⇒ 67.7% (5.0ポイント↑)

地域の課題の解決のために活動時間や労力の提供をしてもよいと思うかを聞きました。図7-10-7の通り、討論前と討論後で、「提供したくない」（選択肢0,1,2,3,4）という人は3.1ポイント減少した一方で、「提供したい」（選択肢6,7,8,9,10）という人は5.0ポイント増加しました。

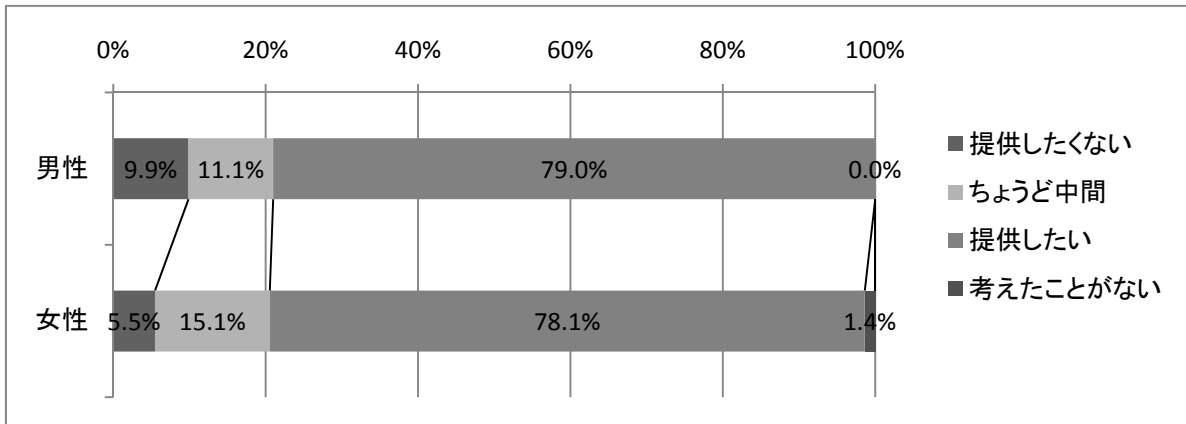
【図7-10-7 活動時間や労力の提供】



●男性、女性ともに約80%の人が「提供したい」と回答

性別ごとの回答分布は図7-10-8の通りです。男性、女性ともに約80%の人が「提供したい」と回答しています。

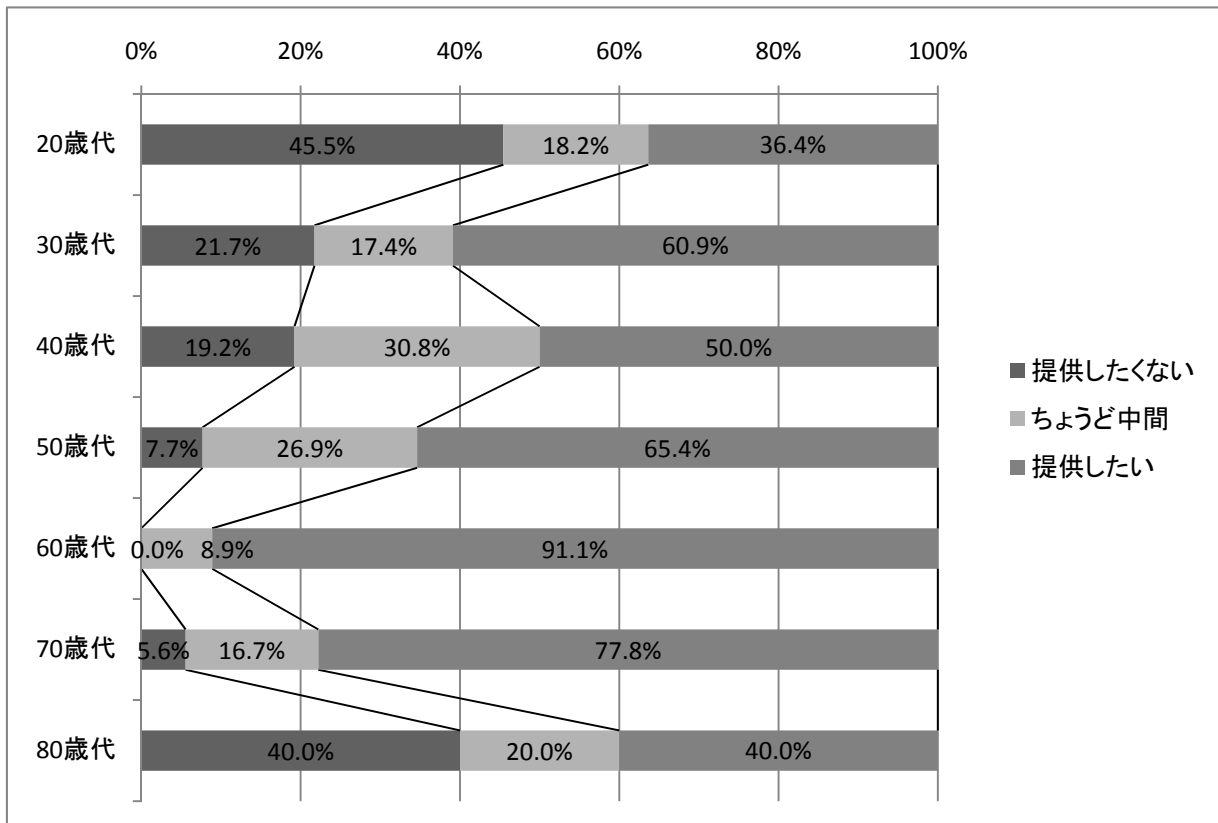
【図7-10-8 性別：活動時間や労力の提供（性別不明を除く）】



●20歳代では「提供したくない」が「提供したい」を上回る

年代別の回答分布は図7-10-9の通りです。20歳代と80歳代を除くすべての年代で、「提供したい」が「提供したくない」を上回っています。特に60歳代は、「提供したい」が90%を超え、「提供したくない」は0%でした。それに対して、20歳代では「提供したくない」が45.5%であったのに対して、「提供したい」は36.4%でした。

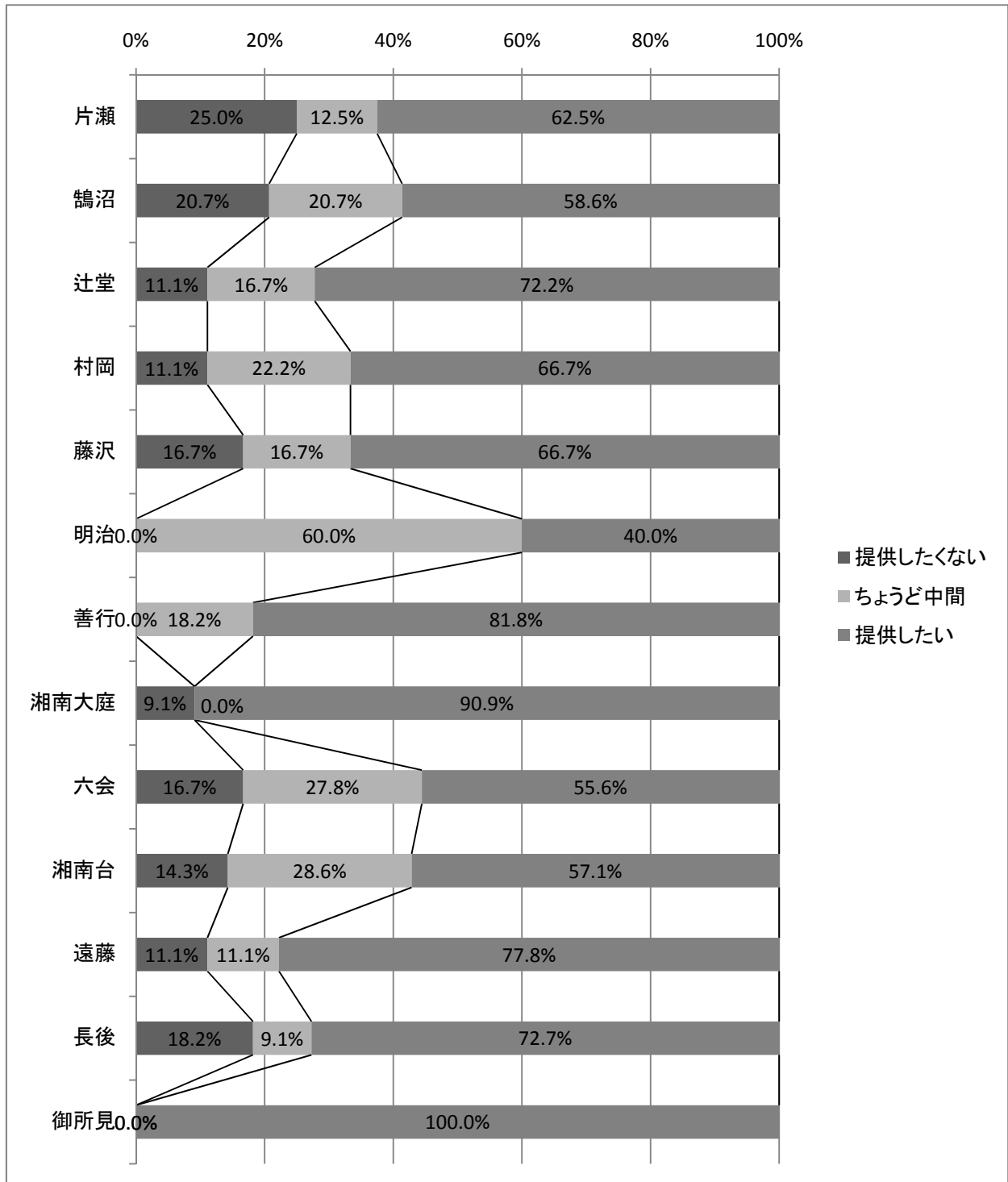
【図7-10-9 年代別：活動時間や労力の提供（年代不明を除く）】



●すべての地区で「提供したい」が「提供したくない」を上回る

地区別の回答分布は図7-10-11の通りです。すべての地区で「提供したい」が「提供したくない」を上回っています。特に「提供したい」の比率が高かったのは、善行地区(81.8%)、湘南大庭地区(90.9%)、御所見地区(100.0%)でした。それに比較して、相対的に「提供したい」の割合が少なかったのは、明治地区(40.0%)、六会地区(55.6%)、湘南台地区(57.1%)でした。

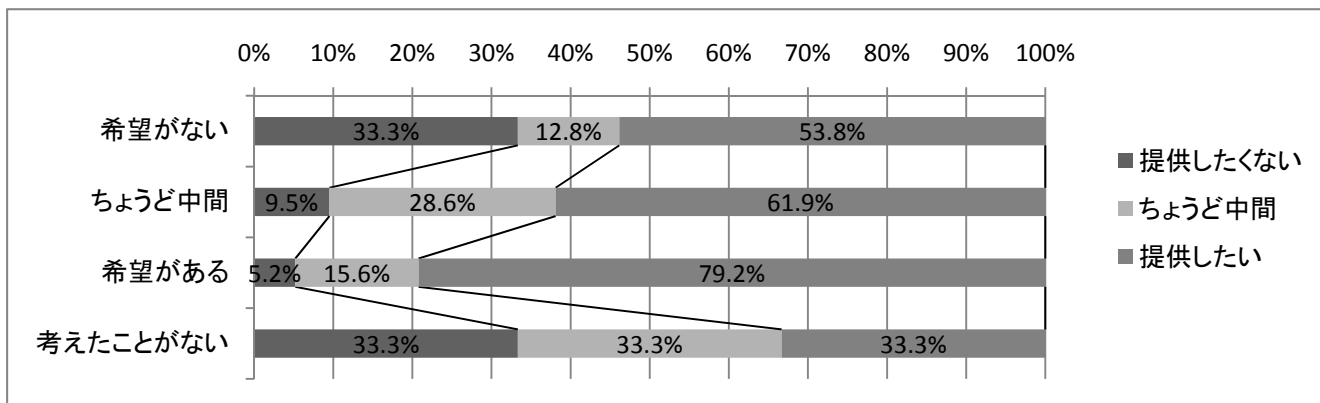
【図7-10-11 地区別：活動時間や労力の提供（地区不明を除く）】



●個人の生活に「希望がある」と回答している人ほど、「提供したい」と回答

本問の回答状況と、「20年後のあなたの生活について」の回答状況（67ページ参照）のクロス結果は図7-10-12の通りです。「希望がある」と回答した人では、「提供したい」が79.2%となっており、「提供したくない」の5.2%を大きく上回っています。それに対して、「希望がない」では、「提供したい」が53.8%、「提供したくない」が33.3%となっており、その差は小さくなっています。

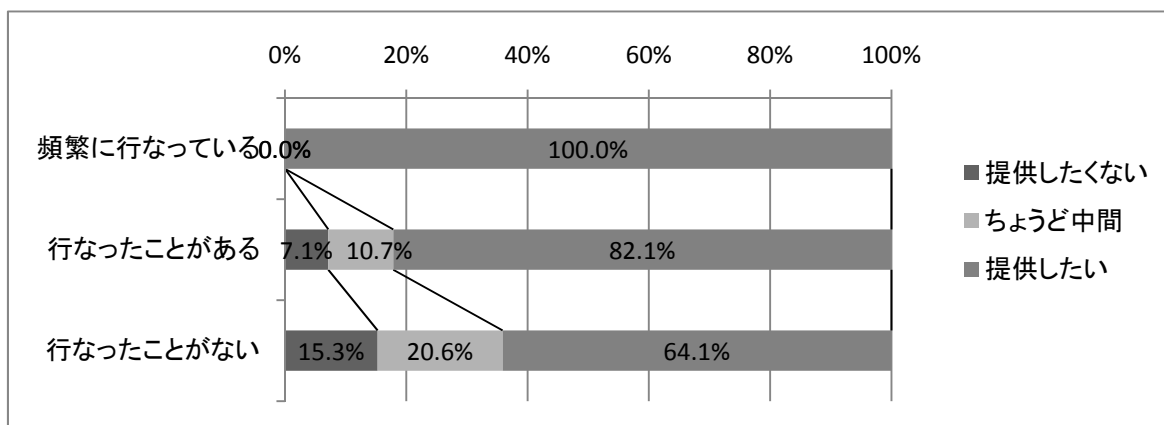
【図7-10-12 地区別：活動時間や労力の提供（地区不明を除く）】



●市政への参加経験が豊富な人ほど「提供したい」と回答

本問の回答状況と、「市政への参加経験について」の回答状況（25ページ参照）のクロス結果は図7-10-13の通りです。「頻繁に行なっている」または「行なったことがある」と回答した人では、「提供したい」がそれぞれ100.0%、82.1%となっています。それに対して、「行なったことがない」と回答した人では、「提供したい」は64.1%になっています。

【図7-10-13 地区別：活動時間や労力の提供（地区不明を除く）】

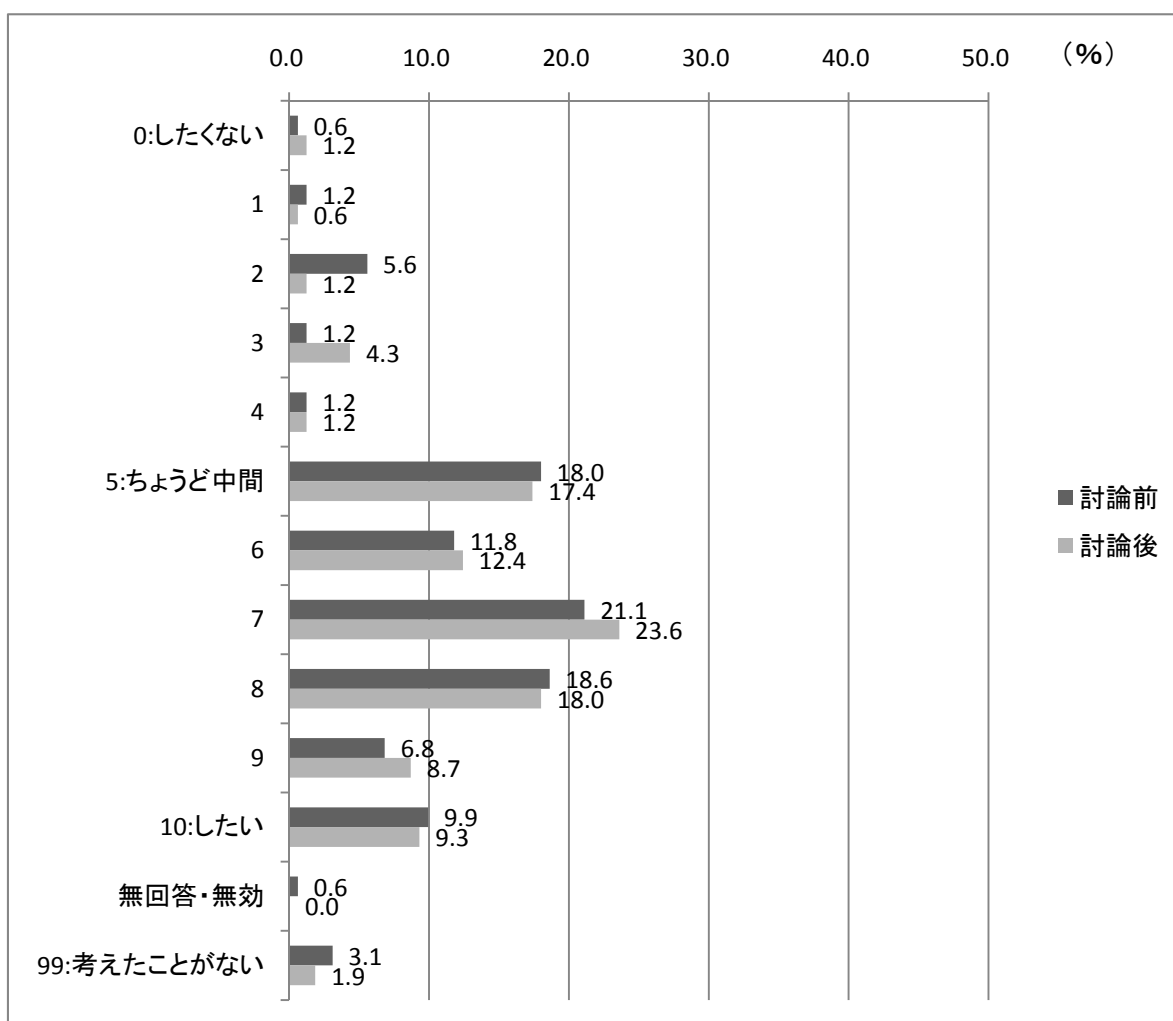


### ③ 経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供

- 提供したくない：9.8% ⇒ 8.5% (1.3ポイント↓)
- ちょうど中間：18.0% ⇒ 17.4% (0.6ポイント↓)
- 提供したい：68.2% ⇒ 72.0% (3.8ポイント↑)

地域の課題の解決のために活動時間や労力の提供をしてもよいと思うかを聞きました。図7-10-14の通り、討論前と討論後で、「提供したくない」（選択肢0,1,2,3,4）という人は1.3ポイント減少した一方で、「提供したい」（選択肢6,7,8,9,10）という人は3.8ポイント増加しました。

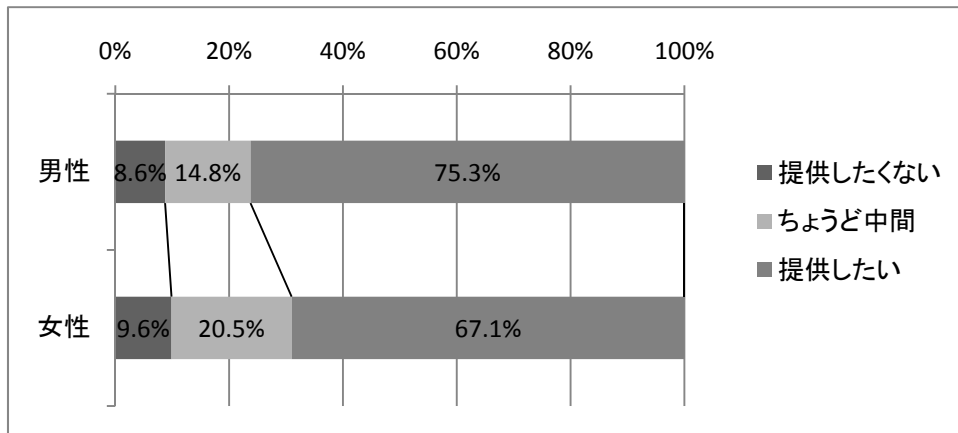
【図7-10-14 経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供】



●男性、女性ともに「提供したい」が「提供したくない」を上回る

性別ごとの回答分布は図7-10-15の通りです。男性では「提供したい」が「提供したくない」を66.7ポイント、女性では57.5ポイントそれぞれ上回っています。

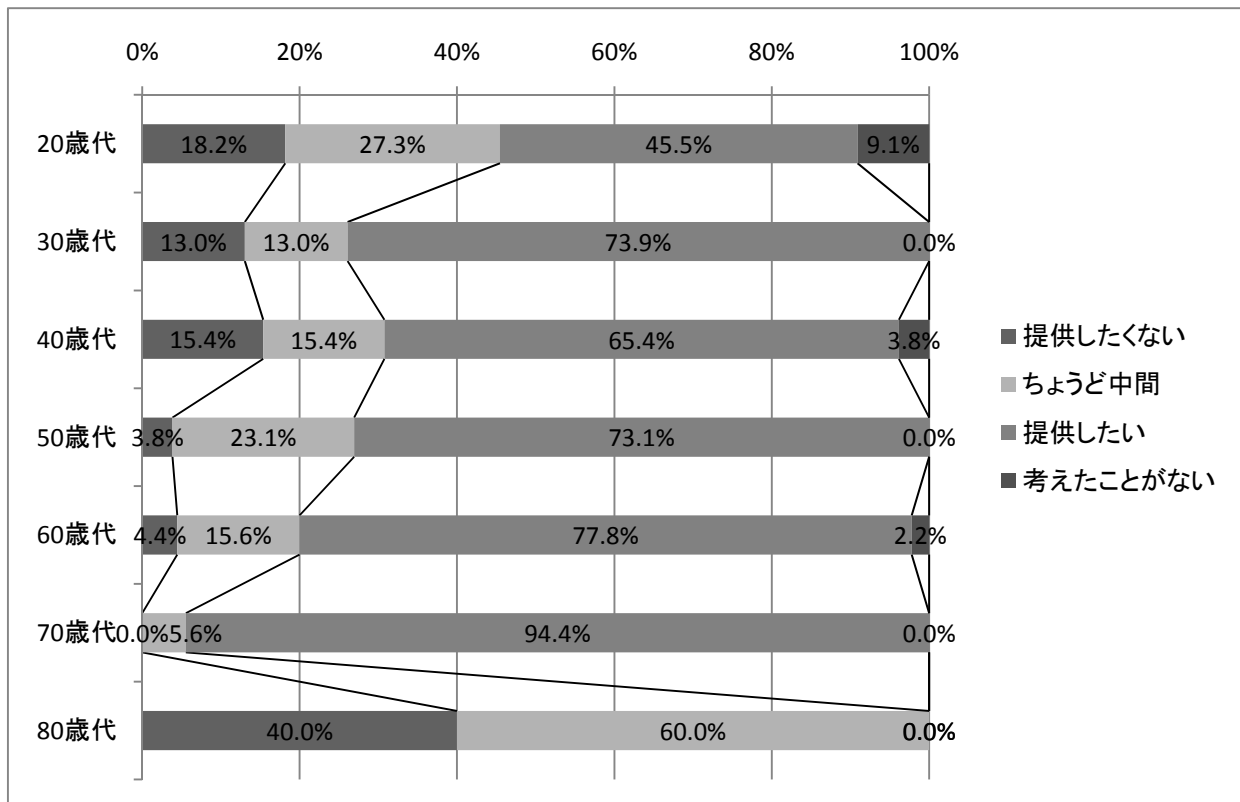
【図7-10-15 性別：経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供（性別不明を除く）】



●20歳代の45.5%が「提供したい」と回答

年代別の回答分布は図7-10-16の通りです。すべての年代で、「提供したい」が「提供したくない」を上回っています。60歳代から70歳代のリタイヤ世代だけではなく、30歳代、40歳代、50歳代の働き盛り世代でも65%以上が「提供したい」と回答しています。また20歳代でも「参加したい」が45.5%となり、「参加したくない」の18.2%を27.3ポイント上回っています。

【図7-10-16 年代別：経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供（年代不明を除く）】

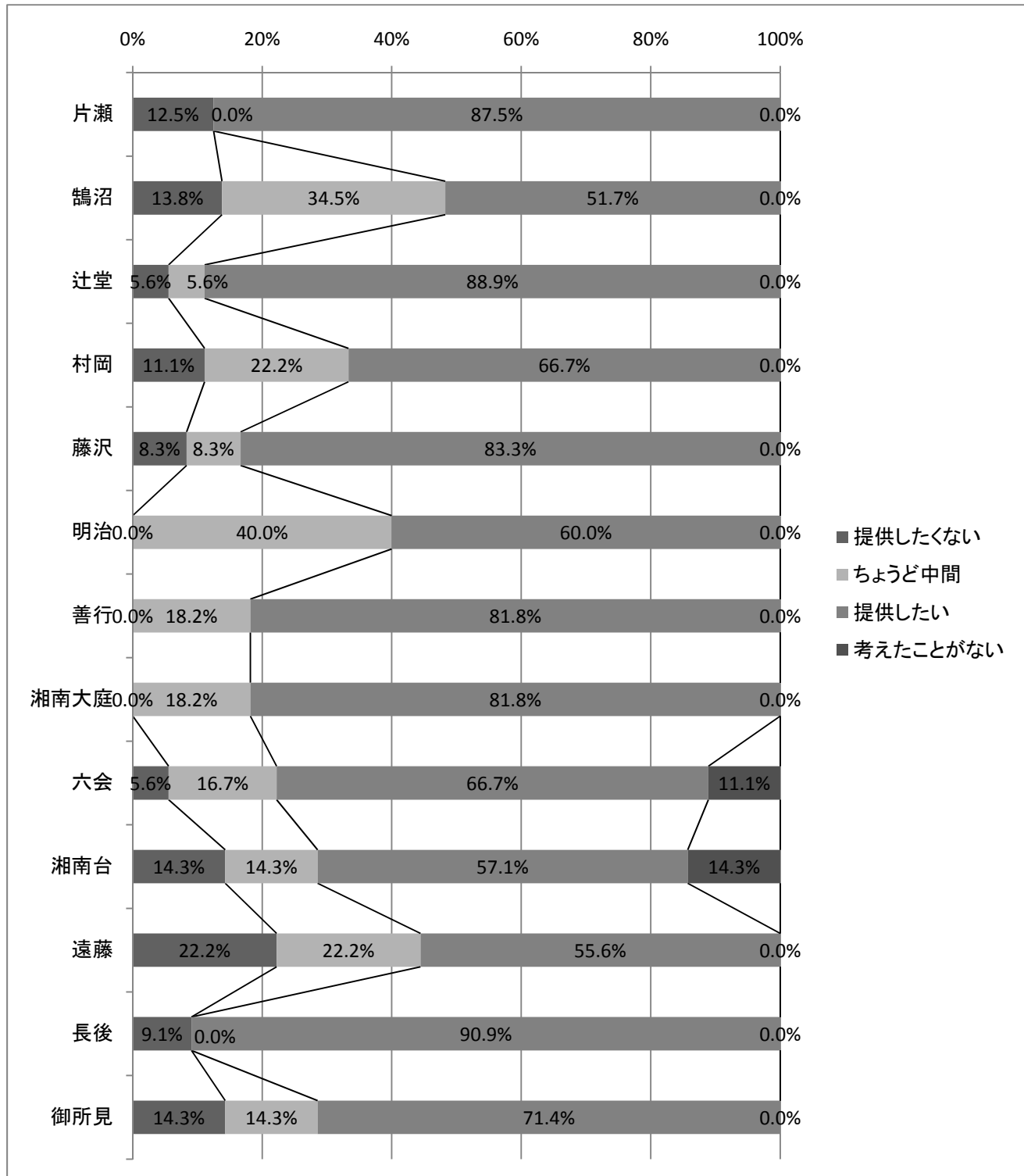




●6つの地区で「提供したい」が80%を超える

地区別の回答分布は図7-10-17の通りです。すべての地区で「提供したい」が「提供したくない」を上回っています。特に、片瀬（87.5%）、辻堂（88.9%）、長後（90.9%）では、「提供したい」が90%前後の高い水準になっています。それに対して相対的に「提供したい」が少なかったのは、鶴沼（51.7%）、湘南台（57.1%）、遠藤（55.6%）でした。

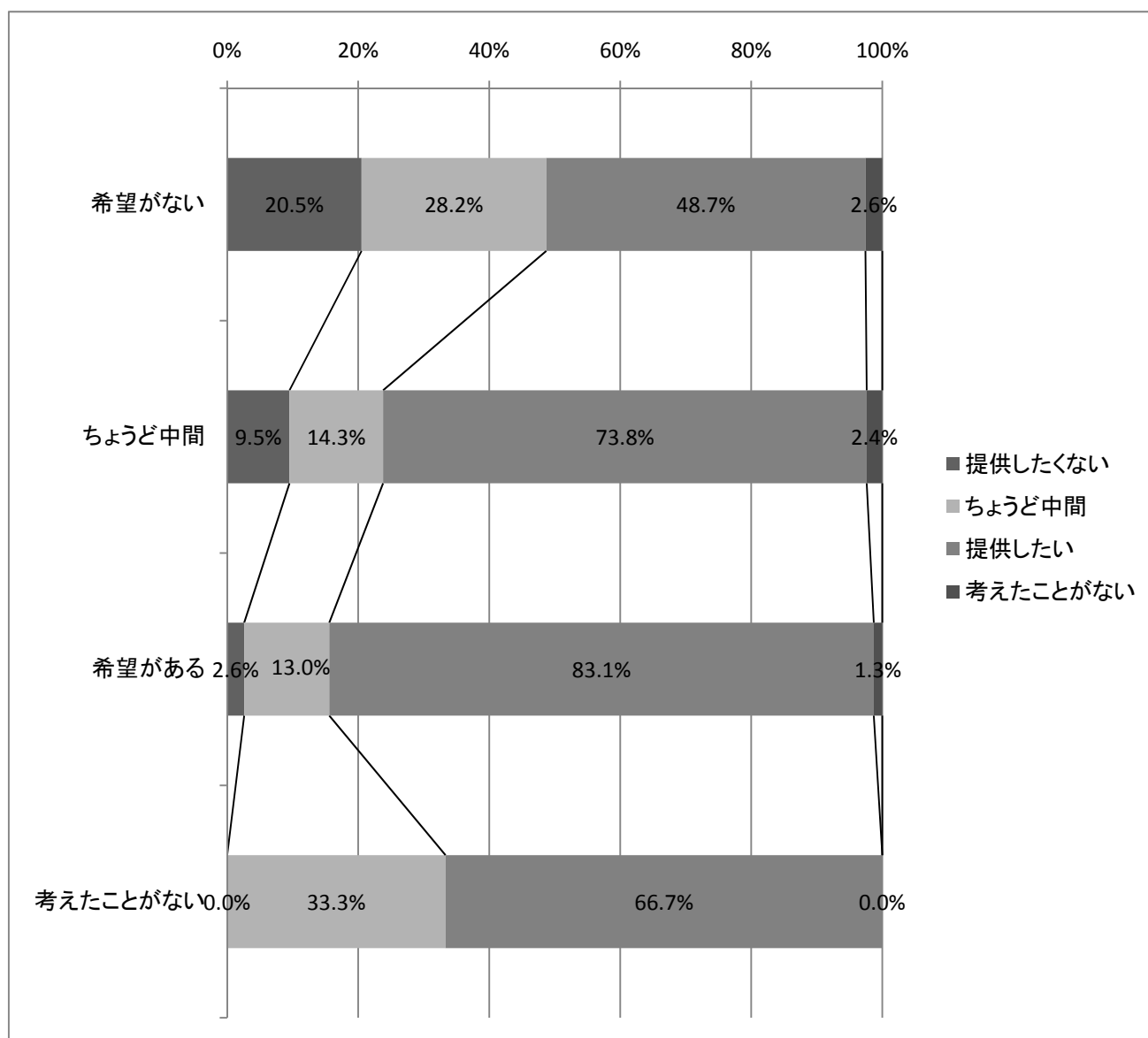
【図7-10-17 地区別：経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供（地区不明を除く）】



●「個人の生活に希望がある」と回答した人の83.1%が「提供したい」と回答

本問の回答状況と、「20年後のあなたの生活について」の回答状況（67ページ参照）のクロス結果は図7-10-18の通りです。「個人の生活に希望がある」と回答した人では「提供したい」は83.1%、「ちょうど中間」と回答した人では73.8%となっています。それに対して、「希望がない」と回答した人では「提供したい」は48.7%となっており、「希望がある」と回答した人ほど、「提供したい」と回答する傾向にあることがわかります。

【図7-10-18 地区別：経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供（地区不明を除く）】

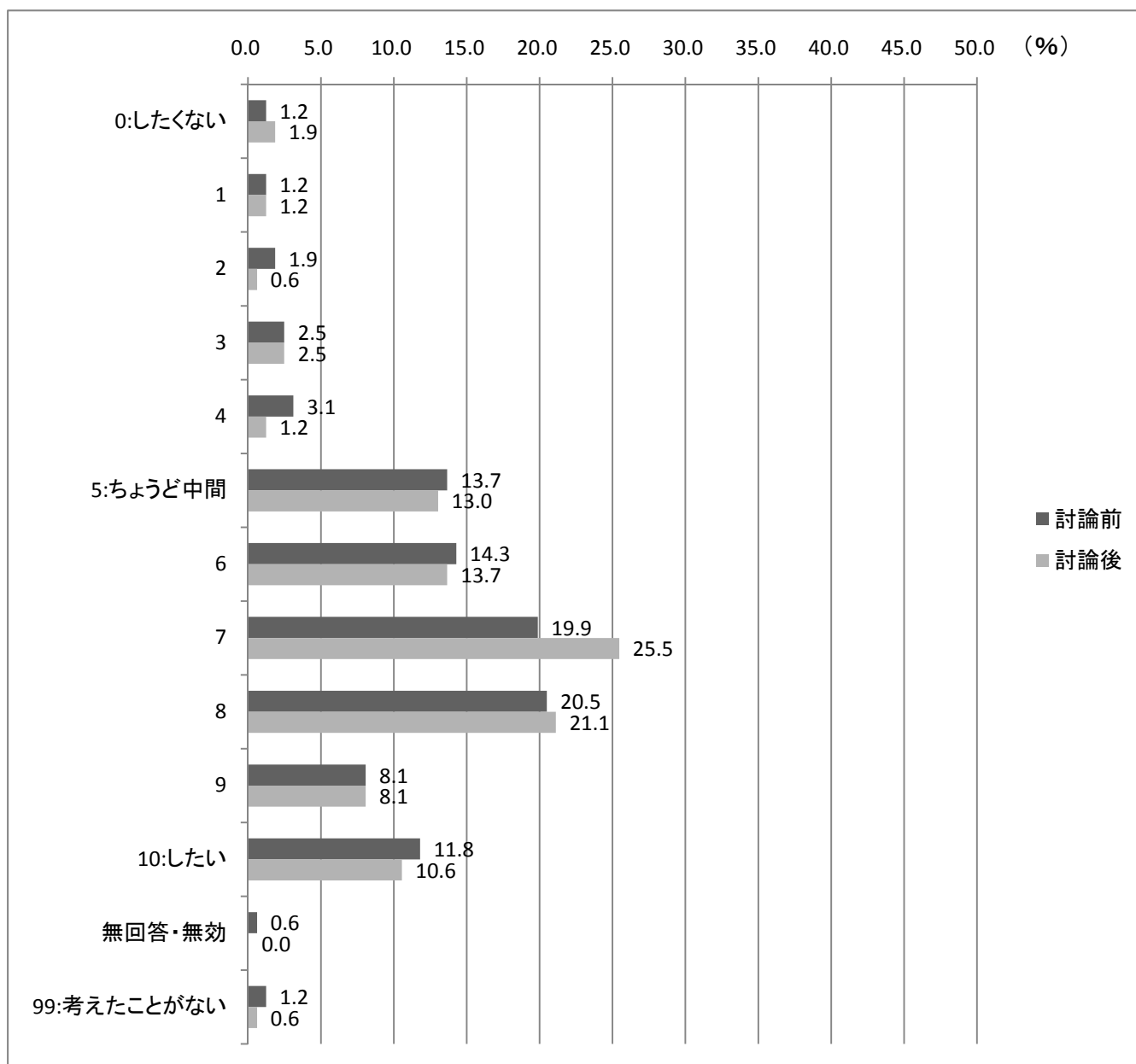


#### ④ 地域の人々との付き合い・連携などへの参加

- 参加したくない : 9.9% ⇒ 7.4% (2.5ポイント↓)
- ちょうど中間 : 13.7% ⇒ 13.0% (0.7ポイント↓)
- 参加したい : 74.6% ⇒ 79.0% (4.4ポイント↑)

地域の課題の解決のために地域の人々との付き合い・連携などへの参加をしてもよいと思うかを聞きました。図7-10-19の通り、討論前と討論後で、「参加したくない」（選択肢0,1,2,3,4）という人は2.5ポイント減少した一方で、「参加したい」（選択肢6,7,8,9,10）という人は4.4ポイント増加しました。

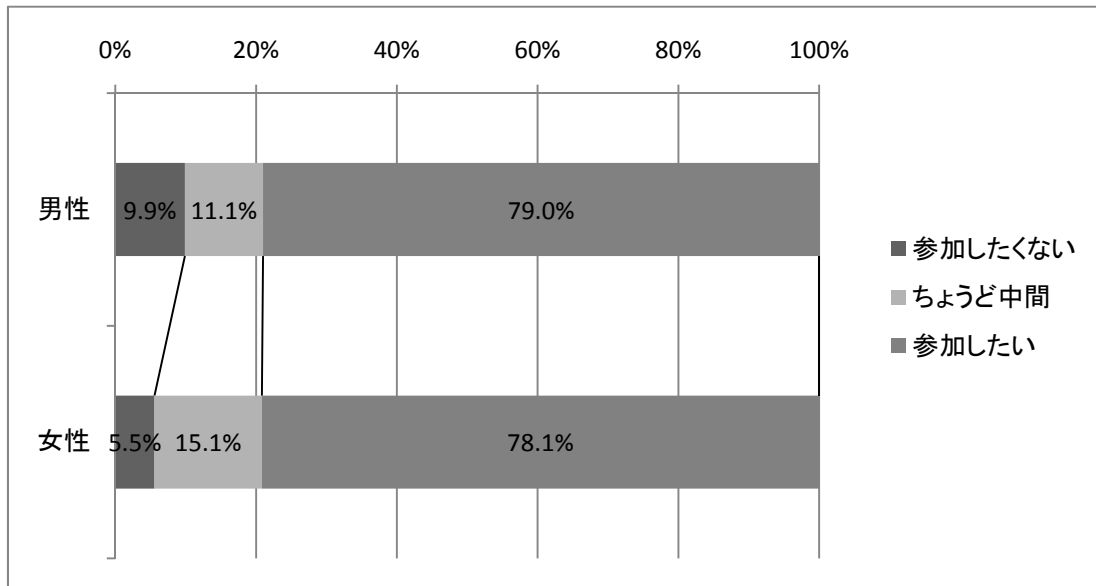
【図7-10-19 地域の人々との付き合い・連携などへの参加】



●男性、女性ともに「参加したい」が約80%を占める

性別ごとの回答分布は図7-10-20の通りです。男性、女性ともに「参加したい」が約80%の高い水準となっており、「参加したくない」という回答を大きく上回っています。

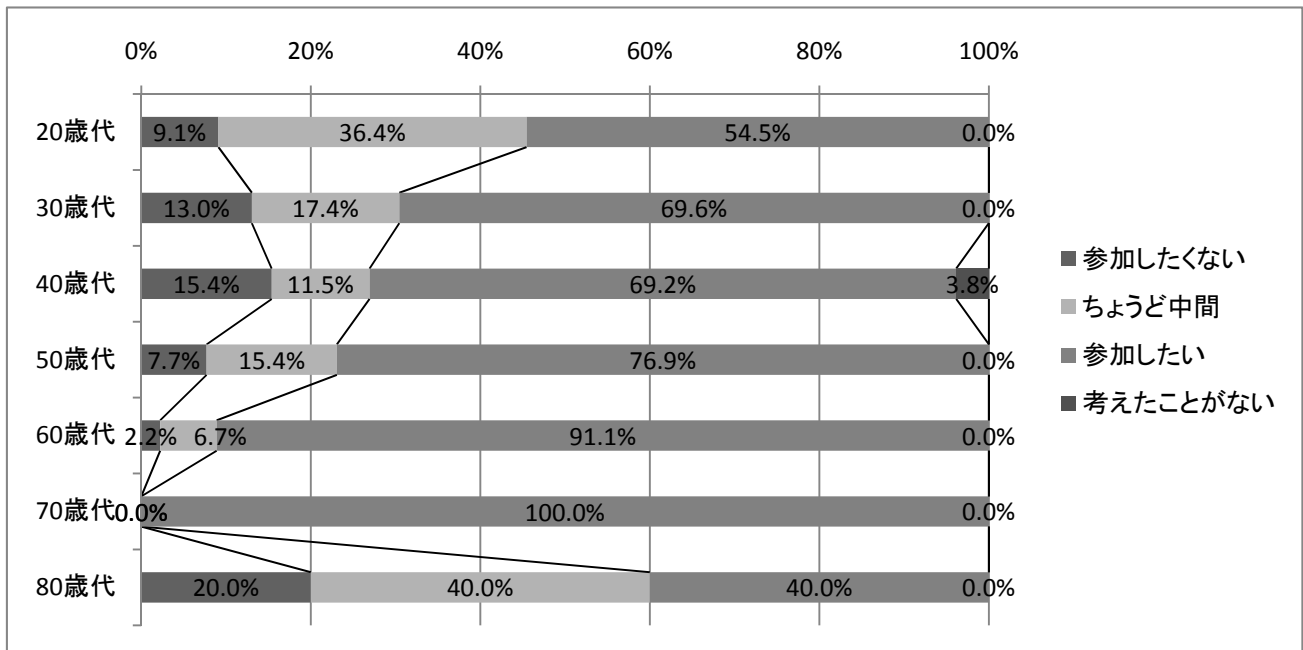
【図7-10-20 年代別：地域の人々との付き合い・連携などへの参加（性別不明を除く）】



●年代が上がると「参加したい」が高まる傾向

年代別の回答分布は図7-10-21の通りです。年代が上がると「参加したい」が高まる傾向があることがわかります。特に60歳代では91.1%、70歳代では100%が「参加したい」と回答しています。また、30歳代、40歳代、50歳代の働き盛り世代も60%台後半から70%台が「参加したい」と回答しています。

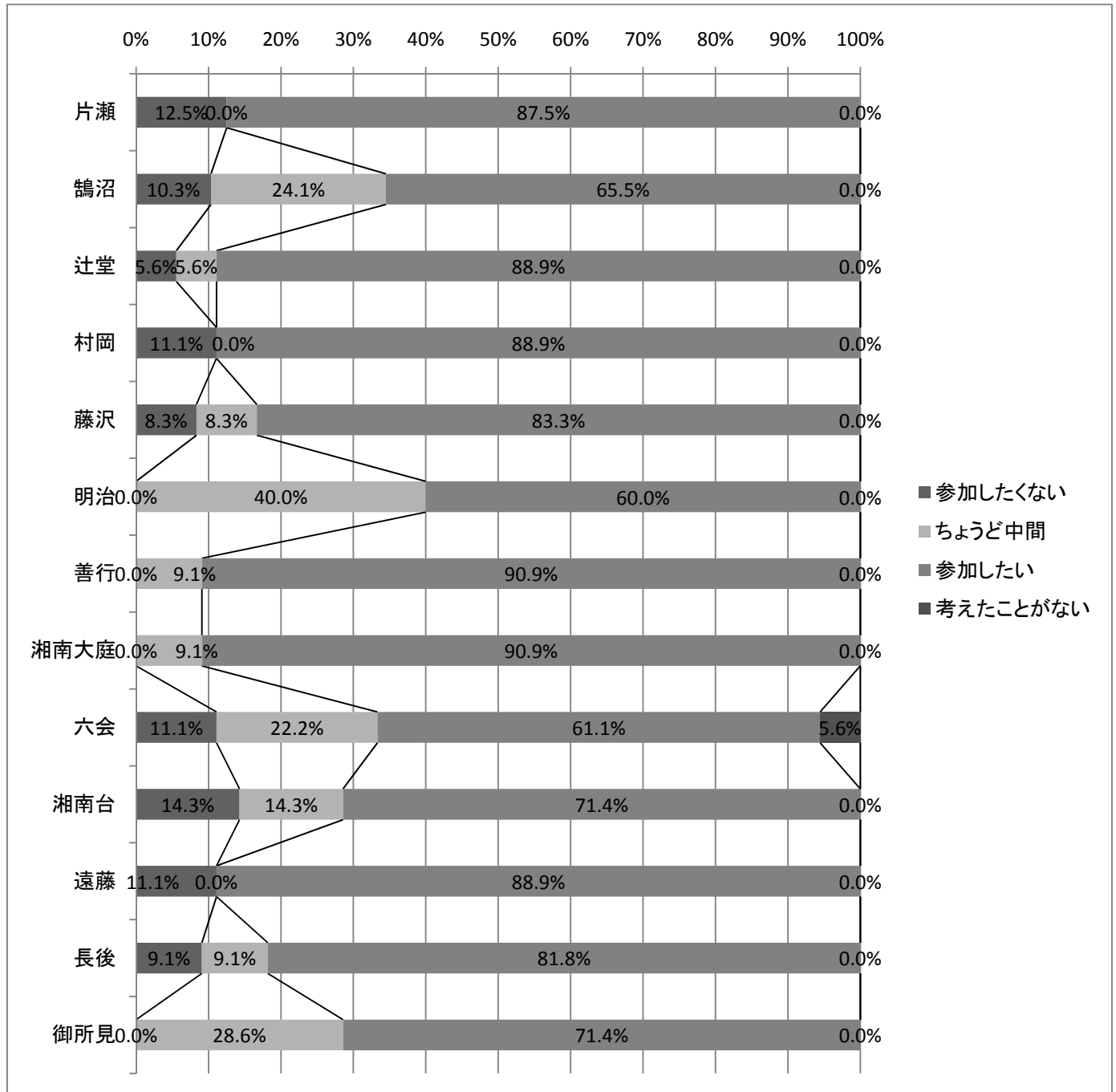
【図7-10-21 年代別：地域の人々との付き合い・連携などへの参加（年代不明を除く）】



●すべての地区で「参加したい」が「参加したくない」を上回る

地区別の回答分布は図 7-10-22 の通りです。すべての地区で「参加したい」が「参加したくない」を上回っています。片瀬、辻堂、村岡、善行、湘南大庭、遠藤の 5 地区は、「参加したい」が 90% 前後の非常に高い水準となっています。

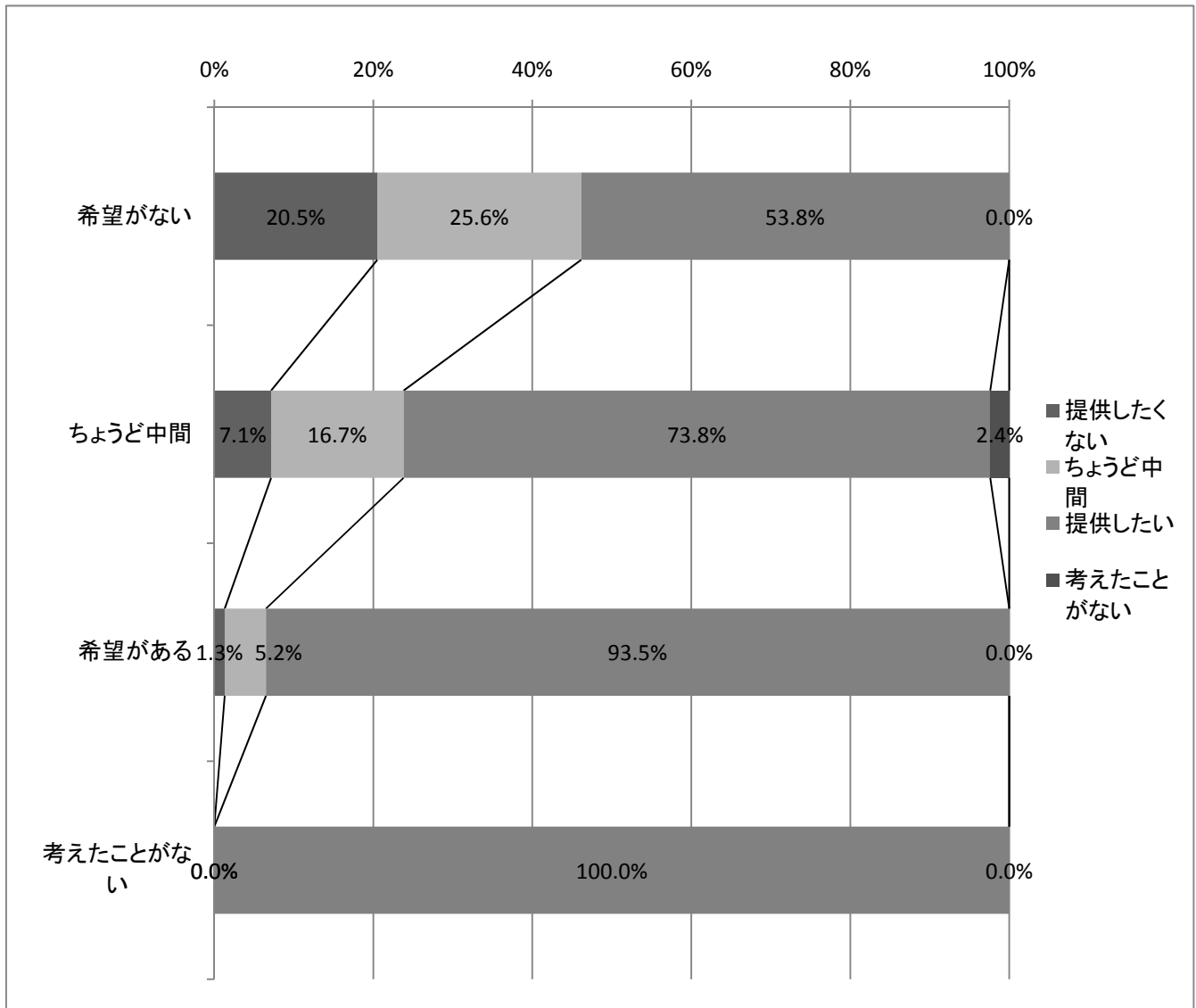
【図7-10-22 地区別：地域の人々との付き合い・連携などへの参加（地区不明を除く）】



●「個人の生活に希望がある」と回答した人の93.5%が「提供したい」と回答

本問の回答状況と、「20年後のあなたの生活について」の回答状況（67ページ参照）のクロス結果は図7-10-23の通りです。「個人の生活に希望がある」と回答した人では「提供したい」は93.5%、「ちょうど中間」と回答した人では73.8%となっています。それに対して、「希望がない」と回答した人では「提供したい」は53.8%となっており、「希望がある」と回答した人ほど、「提供したい」と回答する傾向にあることがわかります。

【図7-10-23 「地域の人々との付き合い・連携などへの参加」と「あなたの生活の見通し」クロス集計】



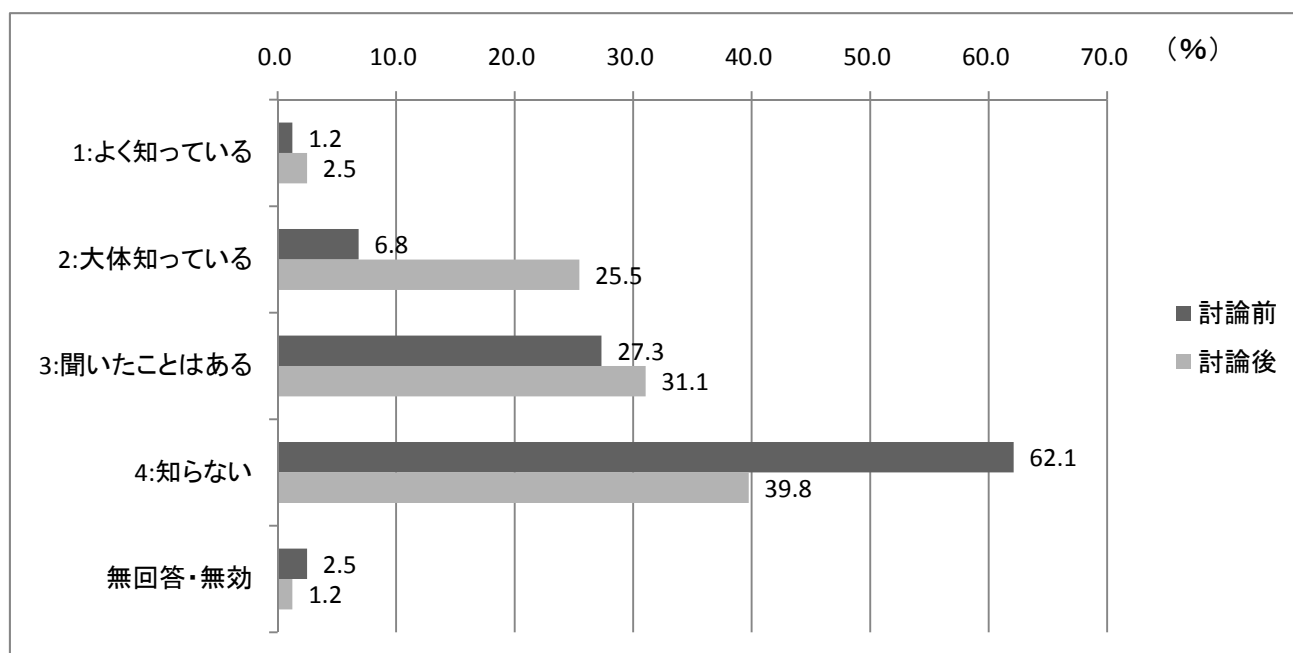
## 7-11 地域経営会議の認知度について

問 あなたは地域経営会議をどのくらい知っていますか。

- 知っている：8.0% ⇒ 28.0% (20.0ポイント↑)
- 聞いたことはある：27.3% ⇒ 31.1% (3.8ポイント↑)
- 知らない：62.1% ⇒ 39.8% (22.3ポイント↓)

地域経営会議をどれくらい知っているかを聞きました。図7-11-1の通り、討論前と討論後で、「知っている」（選択肢1,2）という人は20.0ポイント増加した一方で、「知らない」（選択肢4）という人は22.3ポイント減少しました。

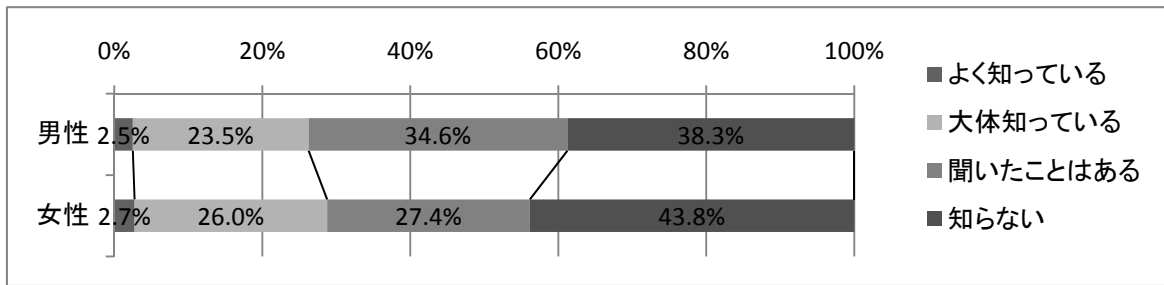
【図7-11-1 地域経営会議の認知度について】



●男性、女性ともに50%以上が「知っている」と回答

性別ごとの回答分布は図7-11-2の通りです。男性、女性ともに「知っている」が50%以上となりました。男性と女性の回答分布に大きな違いは見られませんでした。

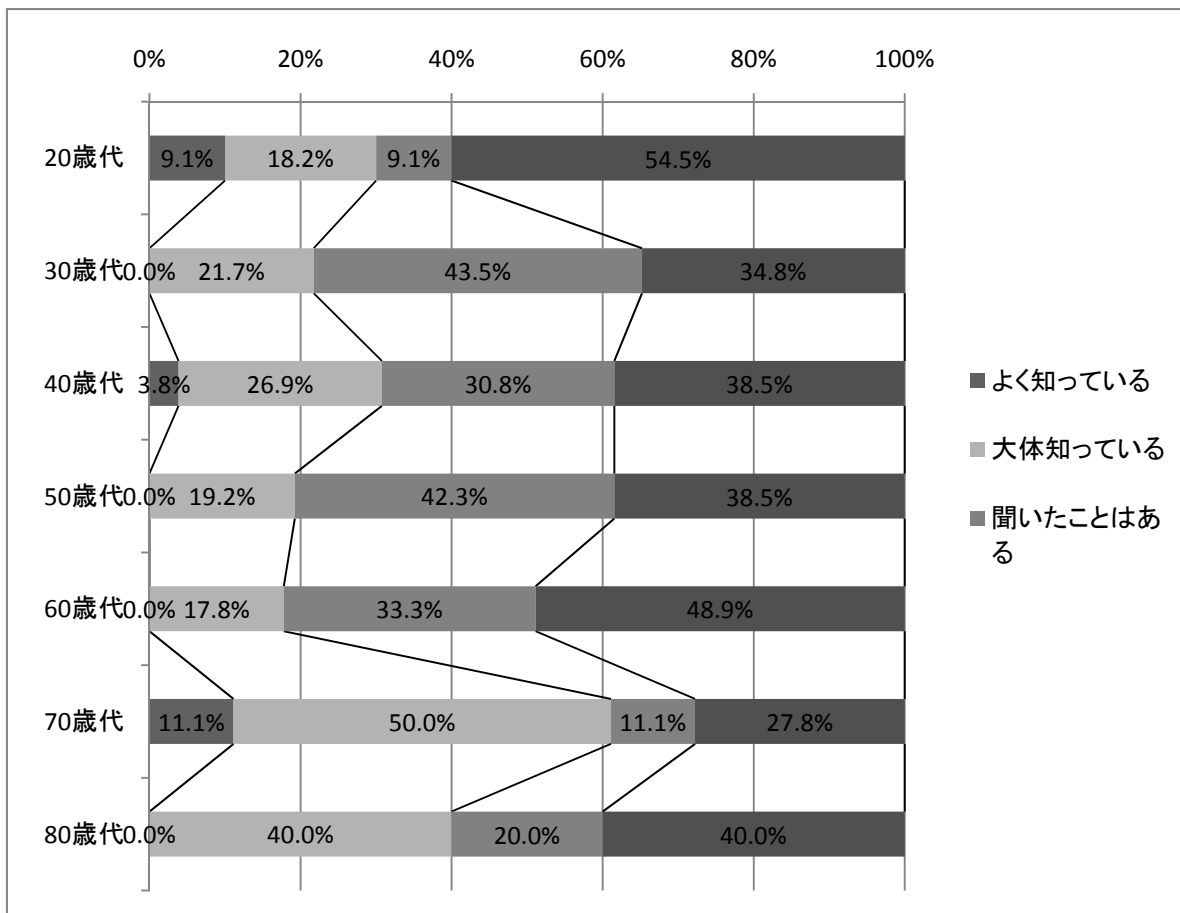
【図7-11-2 性別：地域経営会議の認知度について（性別不明を除く）】



●20代の54.5%が「知らない」と回答した一方で、70代では61.1%が「知っている」と回答

年代別の回答分布は図7-11-3の通りです。年代ごとに回答にばらつきがあることがわかります。20歳代では、「知っている」が27.3%であるのに対して、「知らない」は54.5%となっており、「知らない」が27.2ポイント上回っています。一方で70代では、「知っている」が61.1%となっており、「知らない」の27.8%を33.3ポイント上回っています。

【図7-11-3 年代別：地域経営会議の認知度について（年代不明を除く）】

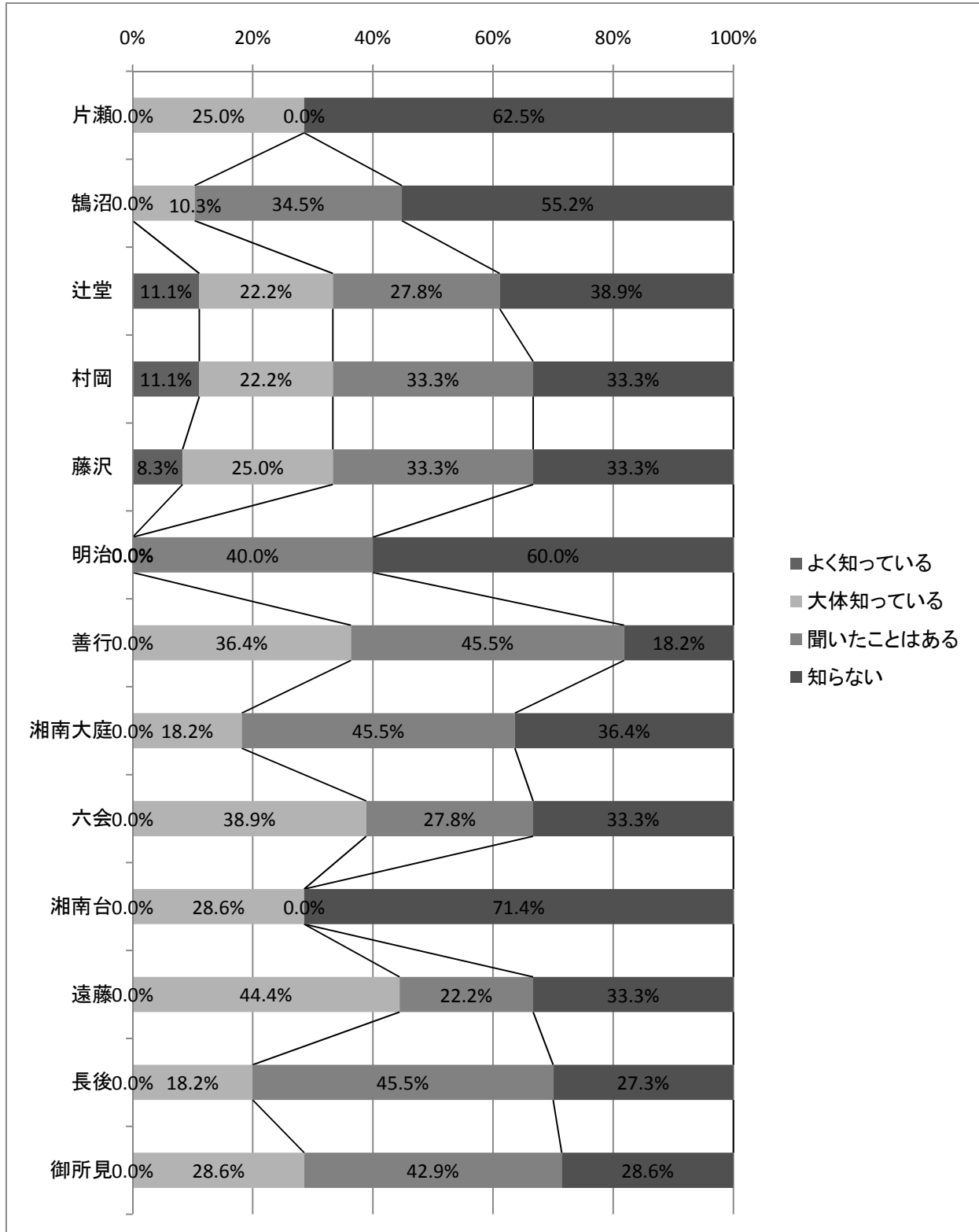




●片瀬、鶴沼、明治、湘南台の4地区で50%以上が「知らない」と回答

地区別の回答分布は図の通りです。地区ごとに回答にばらつきがあることがわかります。片瀬、鶴沼、明治、湘南台の4地区では、50%以上が「知らない」と回答していますが、その他の地区では、「知らない」は10%台後半から30%台後半の間に収まっています。

【図7-11-4 地区別：地域経営会議の認知度について（地区不明を除く）】



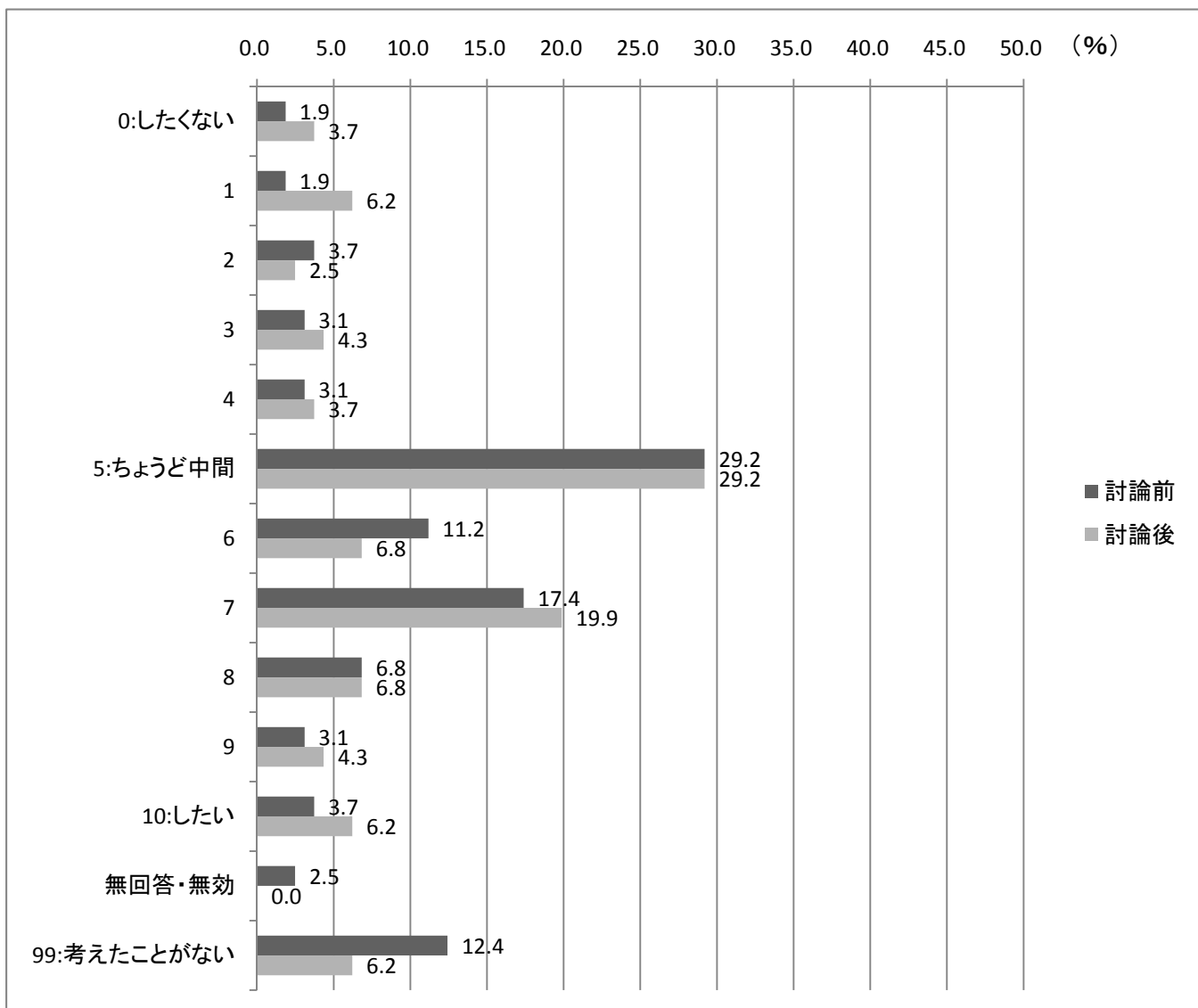
## 7-12 地域経営会議への協力について

問 あなたは地域経営会議にどのくらい協力したいと思いますか。

- 協力したくない：13.7% ⇒ 20.4%（6.7ポイント↑）
- ちょうど中間：29.2% ⇒ 29.2%（増減なし）
- 協力したい：42.2% ⇒ 44.0%（1.8ポイント↑）

地域経営会議への協力の意思を聞きました。図7-12-1の通り、討論前と討論後で、「協力したくない」（選択肢0,1,2,3,4）が6.7ポイント増加しました。また、「協力したい」も1.8ポイント増と微増しました。

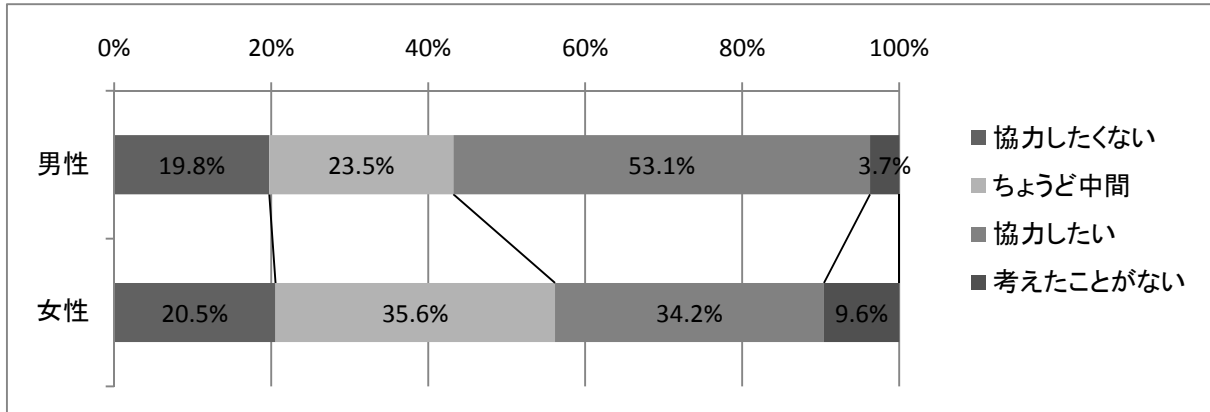
【図7-12-1 地域経営会議への協力について】



●男性の53.1%が「協力したい」と回答

性別ごとの回答分布は図7-12-2の通りです。男性では「協力したい」が53.1%、女性では34.2%となっており、20ポイント近くの差があります。「協力したくない」は、男性・女性ともに20%前後の水準となっています。

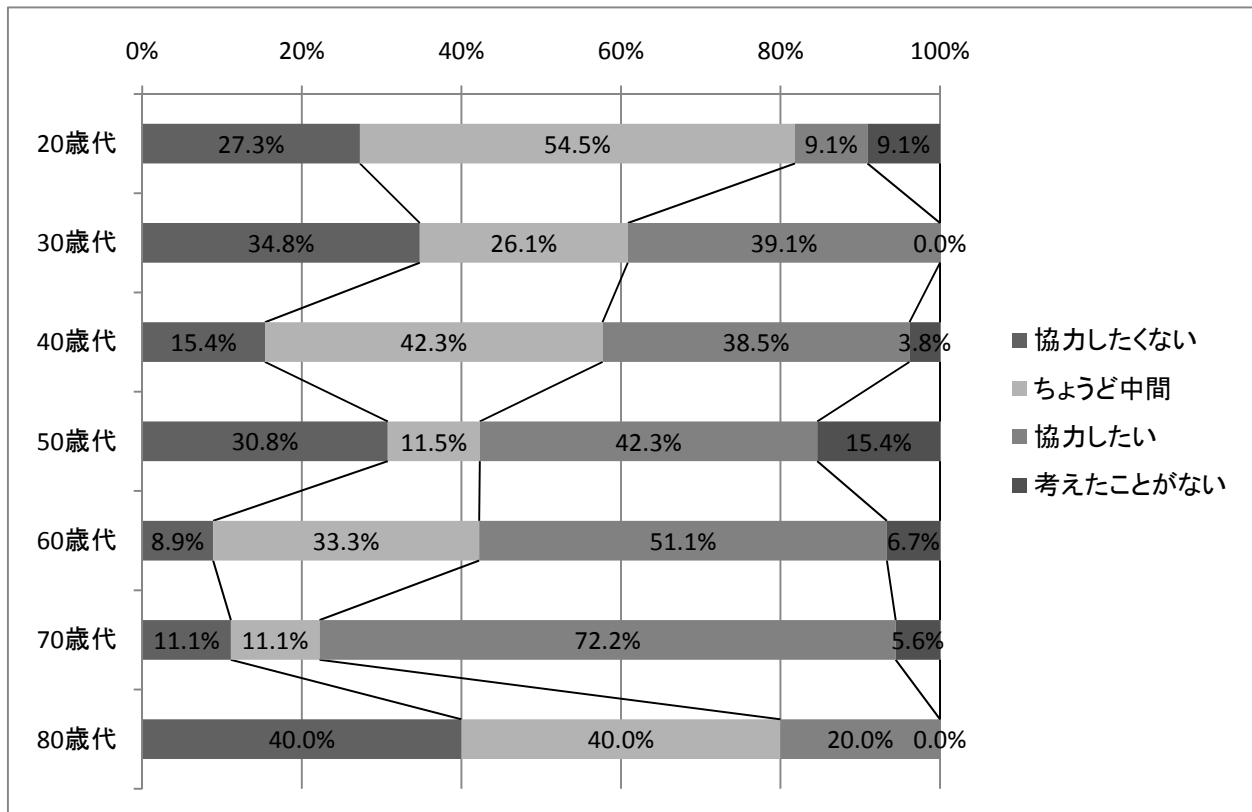
【図7-12-2 性別ごと：地域経営会議への協力について（性別不明を除く）】



●年代が上がると「協力したい」が増加する傾向

年代別の回答分布は図7-12-3の通りです。年代が上がると「協力したい」が増加する傾向があることがわかります。「協力したい」の割合がもっとも低い20歳代（9.1%）と、もっとも高い70歳代（72.2%）のあいだには、60ポイント以上の開きがあります。

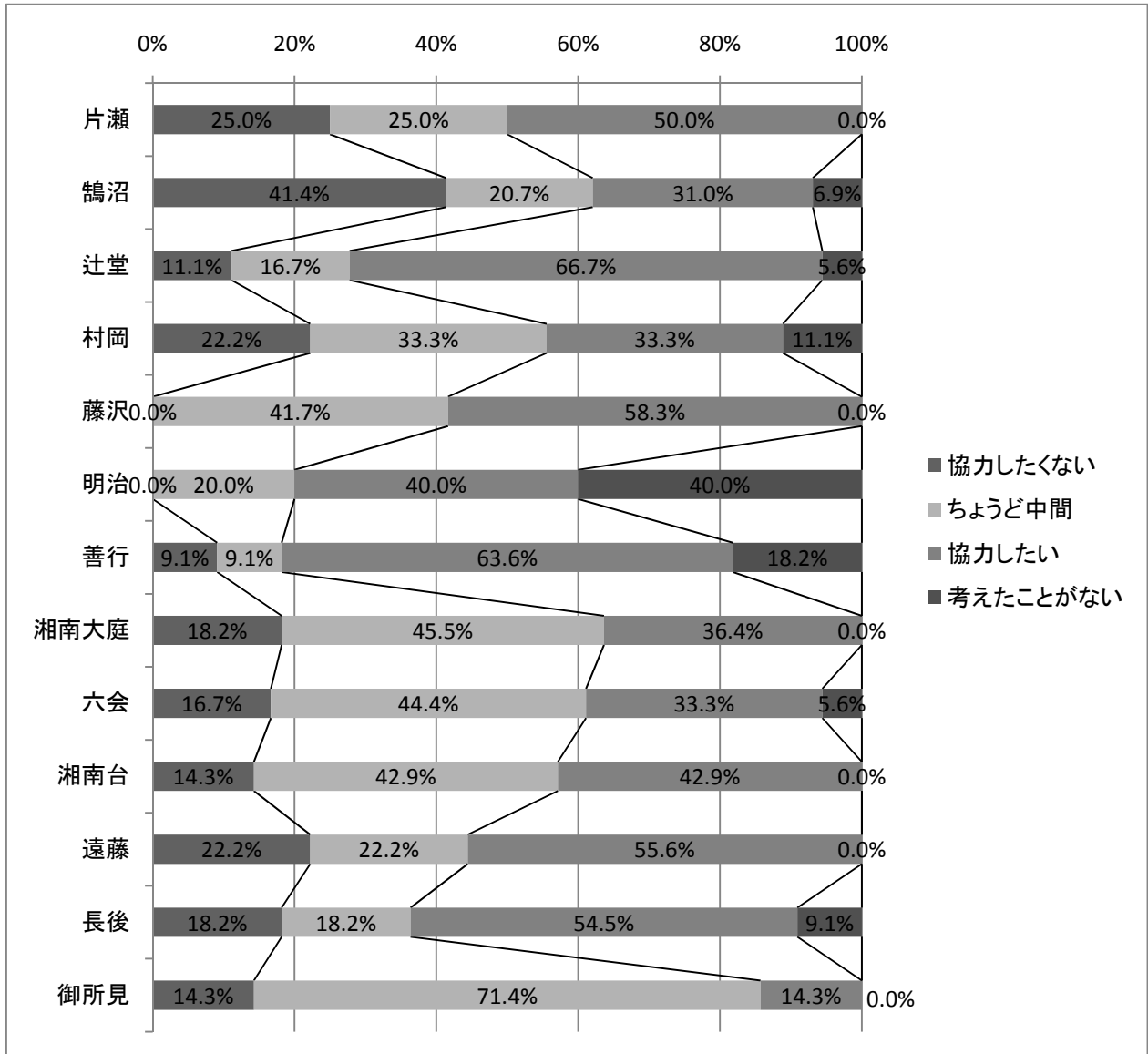
【図7-12-3 年代別：地域経営会議への協力について（年代不明を除く）】



●片瀬、辻堂、藤沢、善行、遠藤、長後の6地区で50%以上が「協力したい」と回答

地区別の回答分布は図7-12-4の通りです。地区ごとに回答にばらつきがあることがわかります。「協力したい」が50%を超えたのは、片瀬、辻堂、藤沢、善行、遠藤、長後の6地区でした。また、「協力したくない」はほとんどの地域で、10%台~20%台の間に収まっていますが、鶴沼地区では41.4%となっています。

【図7-12-4 地区別：地域経営会議への協力について（地区不明を除く）】



## 8. 討論前・討論後アンケート

- ・藤沢市に関する知識を問う質問

## 8-1 藤沢市の人口における高齢者の割合はどの程度か

問 現在の藤沢市の人口における65歳以上の高齢者が占める割合はどの程度だと思いますか。

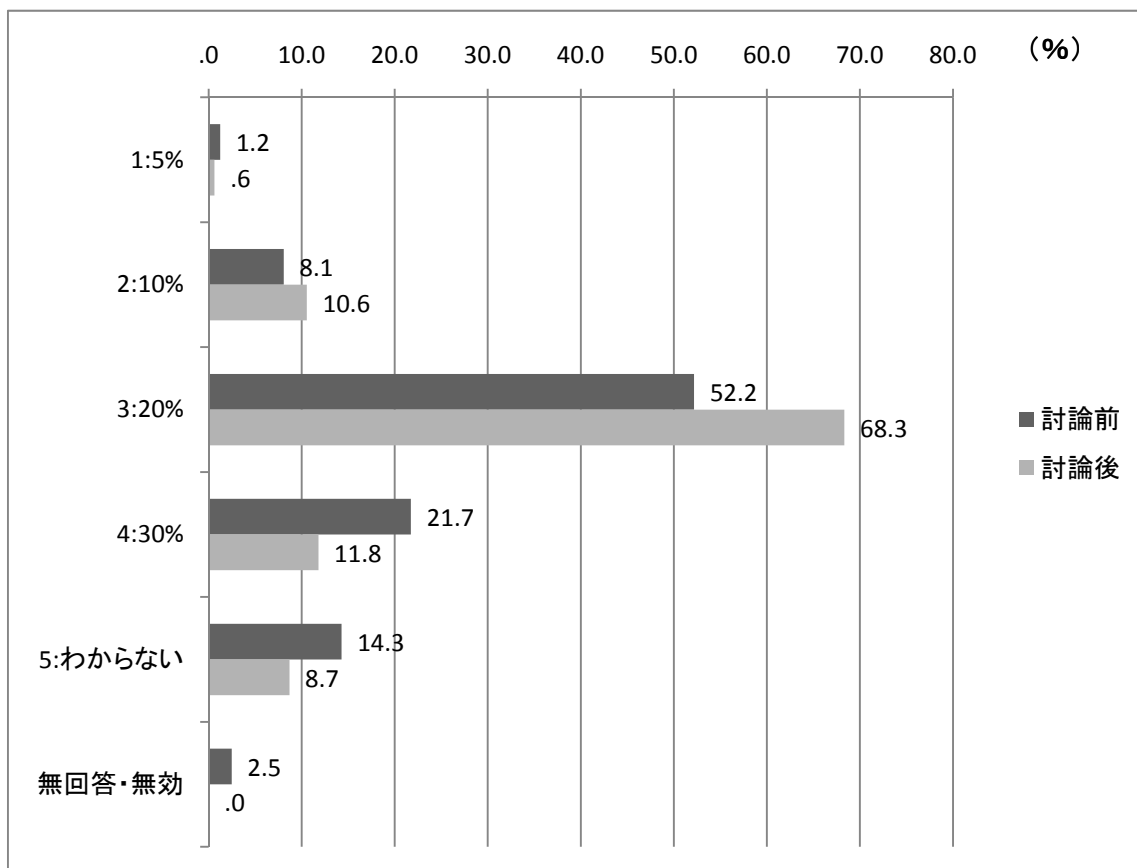
【選択肢】 1. 5% 2. 10% 3. 20% 4. 30% 5. わからない

●（正解）20% : 52.2% ⇒ 68.3%（16.1ポイント↑）

現在の藤沢市の人口における65歳以上の高齢者はどのくらいの割合を占めるか聞きました。正解は「20%」です。このデータは、討論イベント参加者へ事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されています。

図8-1の通り、討論前アンケートでは正解している人は52.2%でしたが、討論後アンケートでは68.3%まで増加しています。

【図8-1 藤沢市の人口における高齢者の割合】



## 8-2 65歳以上の高齢者に占める一人暮らし高齢者の割合

問 現在の藤沢市の65歳以上の高齢者のうち、一人暮らしの高齢者の割合はどの程度だと思いますか。

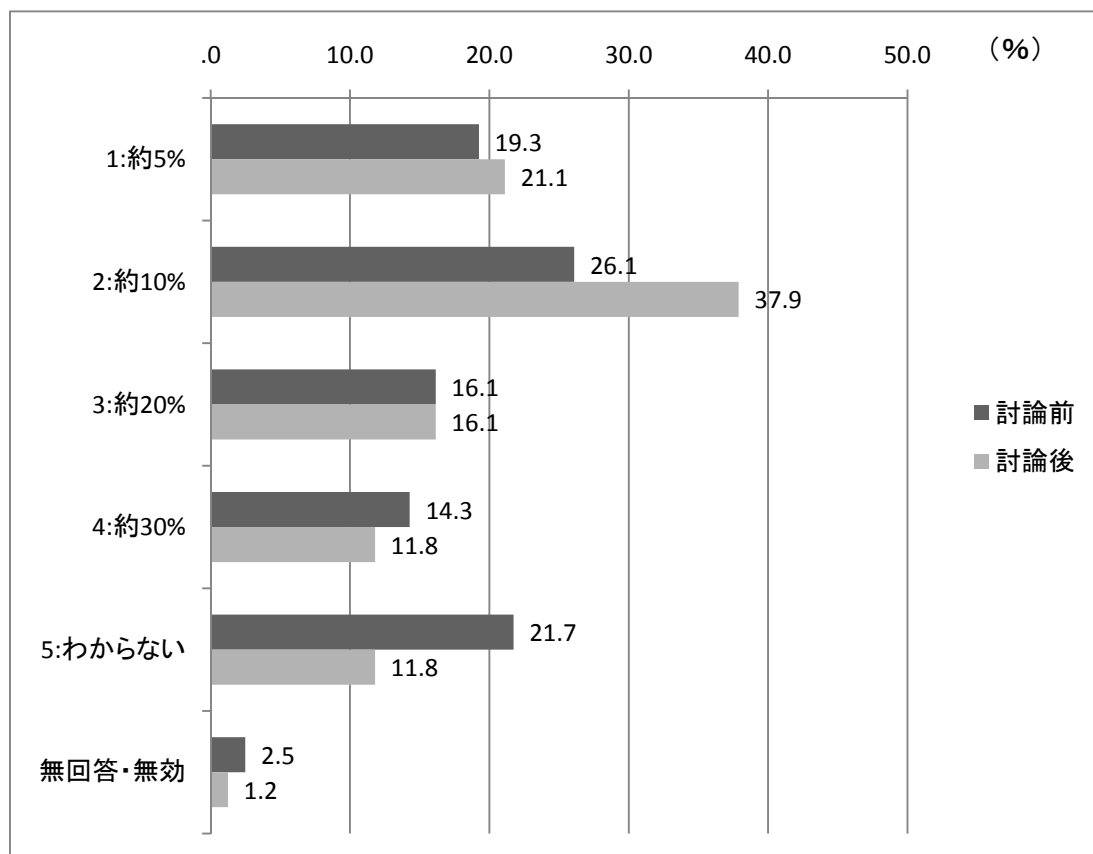
【選択肢】 1. 約5% 2. 約10% 3. 約15% 4. 約20% 5. わからない

●（正解）約10% : 26.1% ⇒ 37.9% (11.8ポイント↑)

現在の藤沢市の65歳以上の高齢者のうち、一人暮らしの高齢者の割合はどの程度かを聞きました。正解は「約10%」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されています。

図8-2の通り、討論前アンケートでは正解している人は26.1%でしたが、討論後アンケートでは37.9%まで増加しています。

【図8-2 高齢者全体に占める一人暮らし高齢者の割合】



### 8-3 藤沢市の市債の現在高（借金の残高）の推移はどうなっているか

問 藤沢市の市債の現在高（借金の残高）の推移について、次のうちどれが適当だと思いますか。

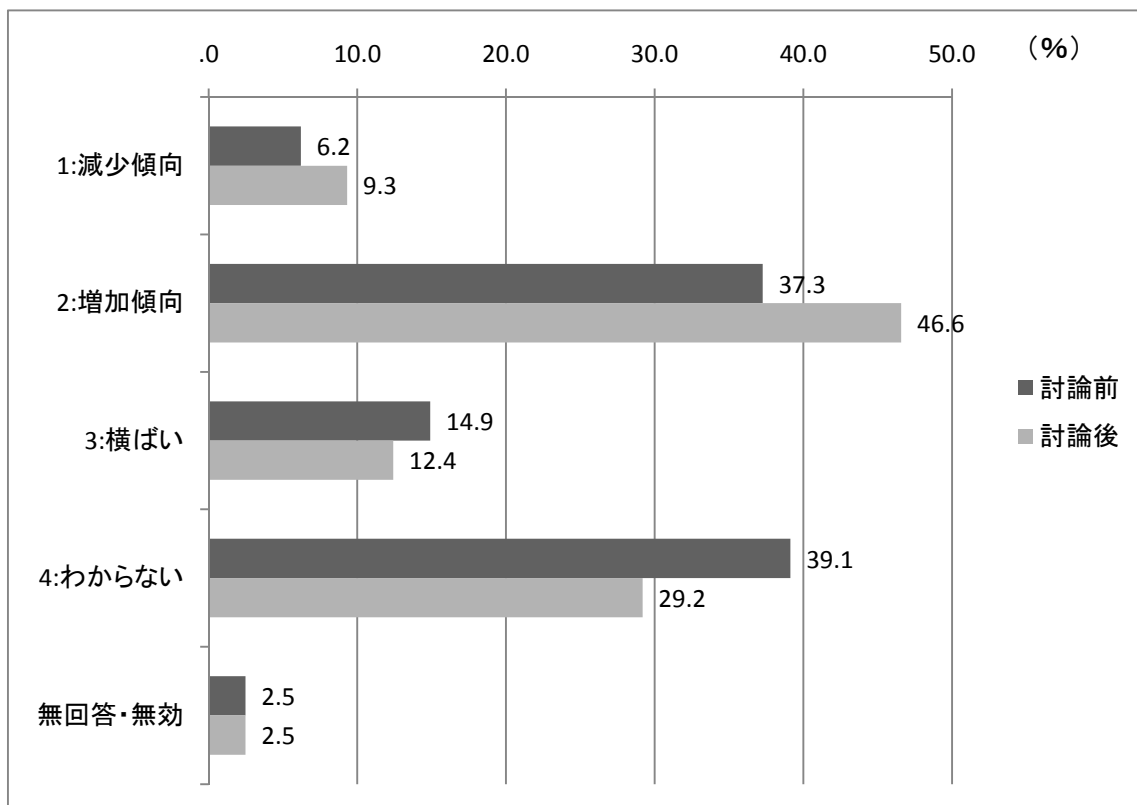
- 【選択肢】 1. 市債の現在高は、減少傾向である 2. 市債の現在高は、増加傾向である  
3. 市債の現在高は、横ばいである 4. わからない

●（正解）減少傾向：6.2% ⇒ 9.3%（3.1ポイント↑）

現在の藤沢市の市債の推移状況について聞きました。正解は「減少傾向」です。藤沢市の市債の現在高は、平成18年度をピークに減少しています。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されています。

図8-3の通り、討論前アンケートでは正解している人は6.2%でしたが、討論後アンケートでは9.3%とやや増加しています。

【図8-3 市債残高の推移】





## 8-4 藤沢市の歳入に対する自主財源比率

問 交付税など国からの補助ではなく、市税など自力で調達できる財源を自主財源といいます。藤沢市の歳入に対する自主財源比率はどの程度だと思いますか。

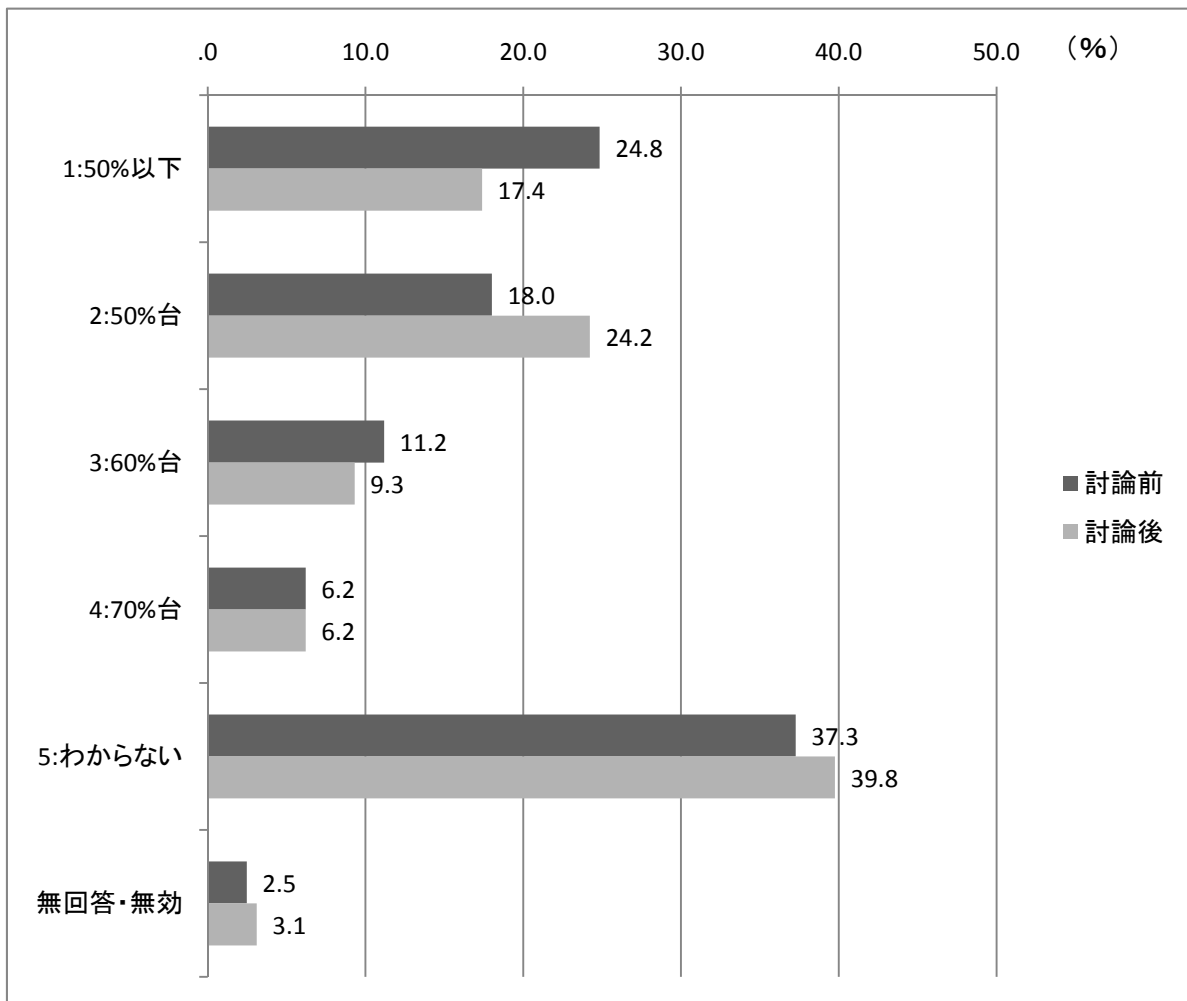
【選択肢】 1. 50%以下 2. 50%台 3. 60%台 4. 70%台 5. わからない

● (正解) 70% : 6.2% ⇒ 6.2% (増減なし)

現在の藤沢市の歳入に対する自主財源比率はどの程度か聞きました。正解は「4. 70%」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されていません。

図8-4の通り、討論前アンケートと討論後アンケートで増減がなく、どちらも6.2%となりました。

【図8-4 歳入に対する自主財源の比率】



## 8-5 藤沢市が保有する公共施設の新耐震基準への対応率

問 藤沢市が保有する公共施設のうち、新耐震基準を満たしている施設は、全体の何%くらいだと思いますか。

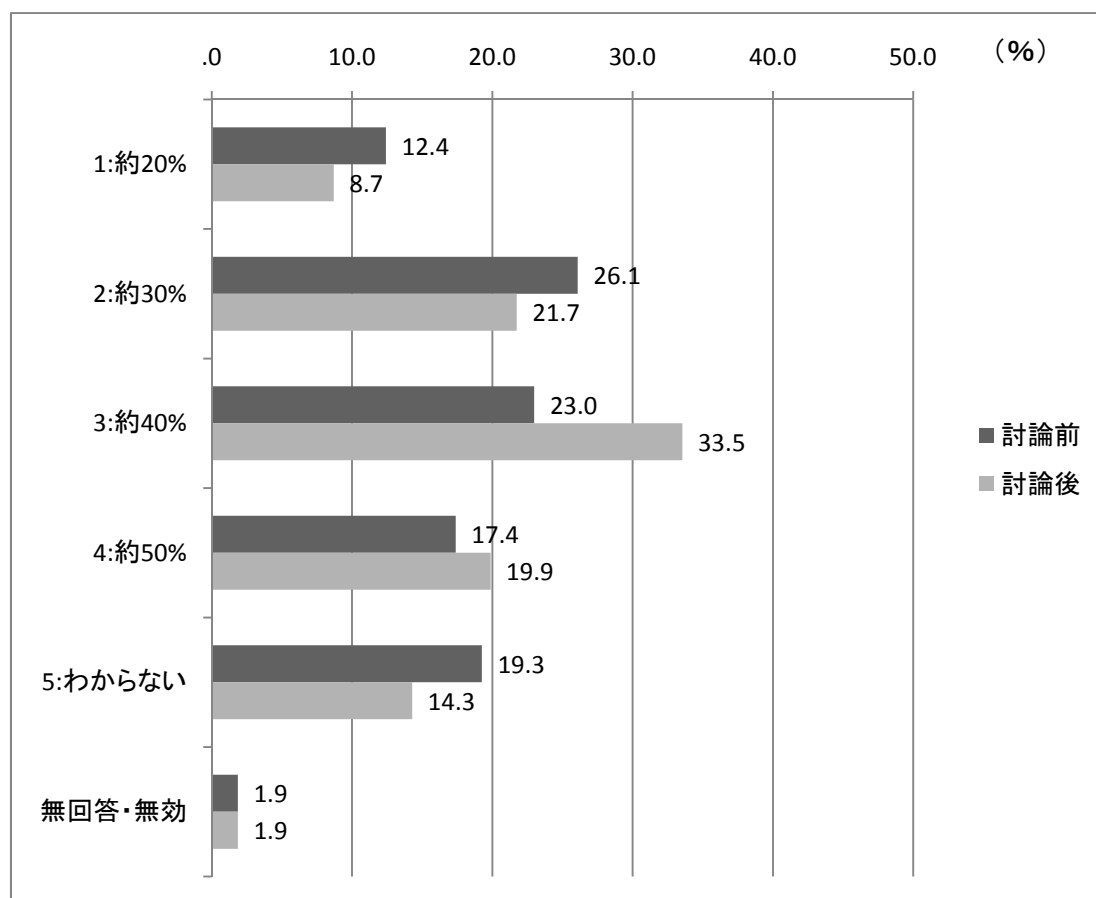
【選択肢】 1. 約20% 2. 約30% 3. 約40% 4. 約50% 5. わからない

●（正解）約40% : 23.0% ⇒ 33.5%（10.5ポイント↑）

藤沢市が保有する公共施設のうち、新耐震基準を満たしている施設の割合について聞きました。正解は「約40%」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されています。

図8-5の通り、正解者は、討論前アンケートの23.0%から、討論後アンケートの33.5%と増加しました。

【図8-5 公共施設の新耐震基準への対応率】



## 8-6 市民会館の維持・運営にかかるコスト

問 市民会館の維持・運営にかかるコストは、その収益の何倍だと思いますか。

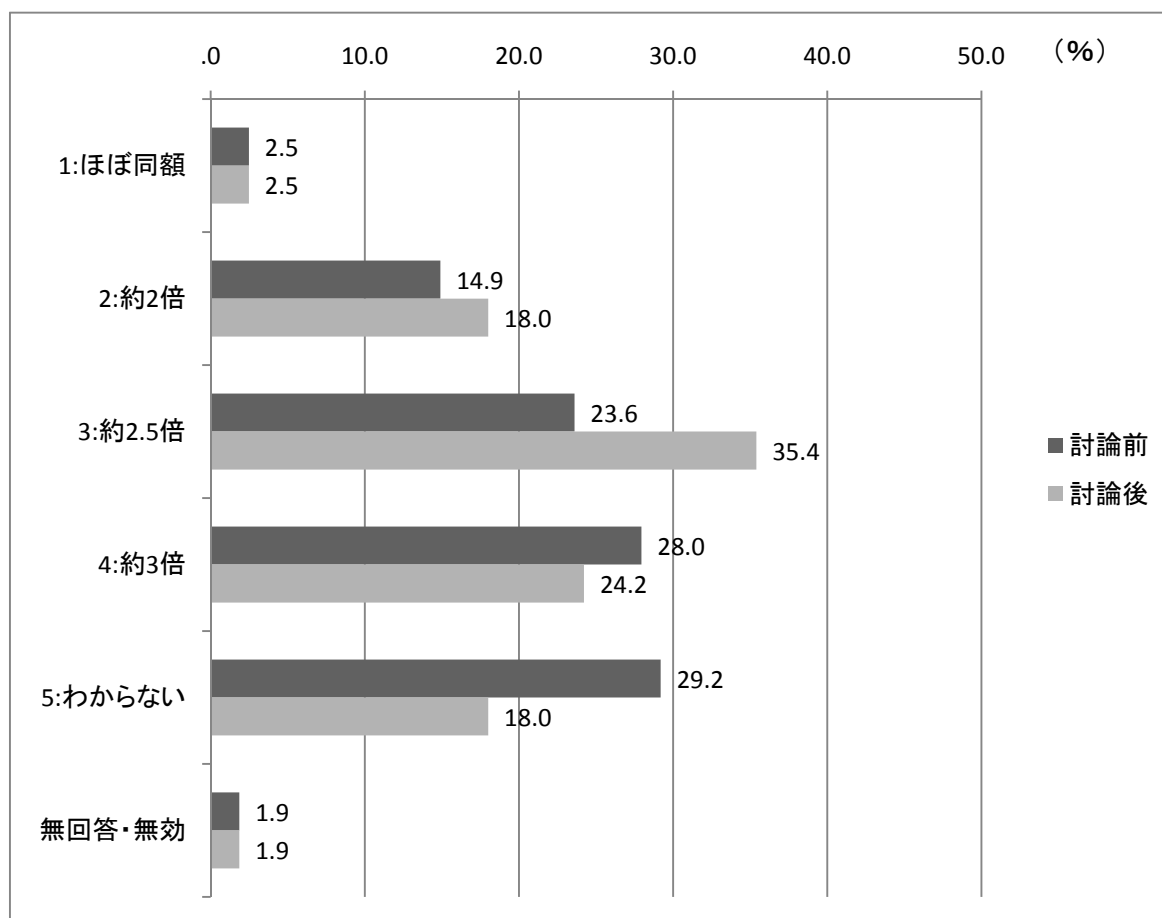
【選択肢】 1. ほぼ同額 2. 約2倍 3. 約2.5倍 4. 約3倍 5. わからない

● (正解) 約2.5倍 : 23.6% ⇒ 35.4% (11.8ポイント↑)

市民会館の維持・運営にかかるコストは、その収益の何倍か聞きました。正解は「約2.5倍」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されています。市民会館の収益は2.8億円、コストは6.5億円です(2006年度)。

図8-6の通り、討論前アンケートでは正解している人が23.6%なのに対し、討論後アンケートでは35.4%と増加しています。

【図8-6 市民会館の維持・運営にかかるコスト】



## 8-7 藤沢市内の地域数

問 藤沢市がいう「地域」とは、全部で何地域あると思いますか。

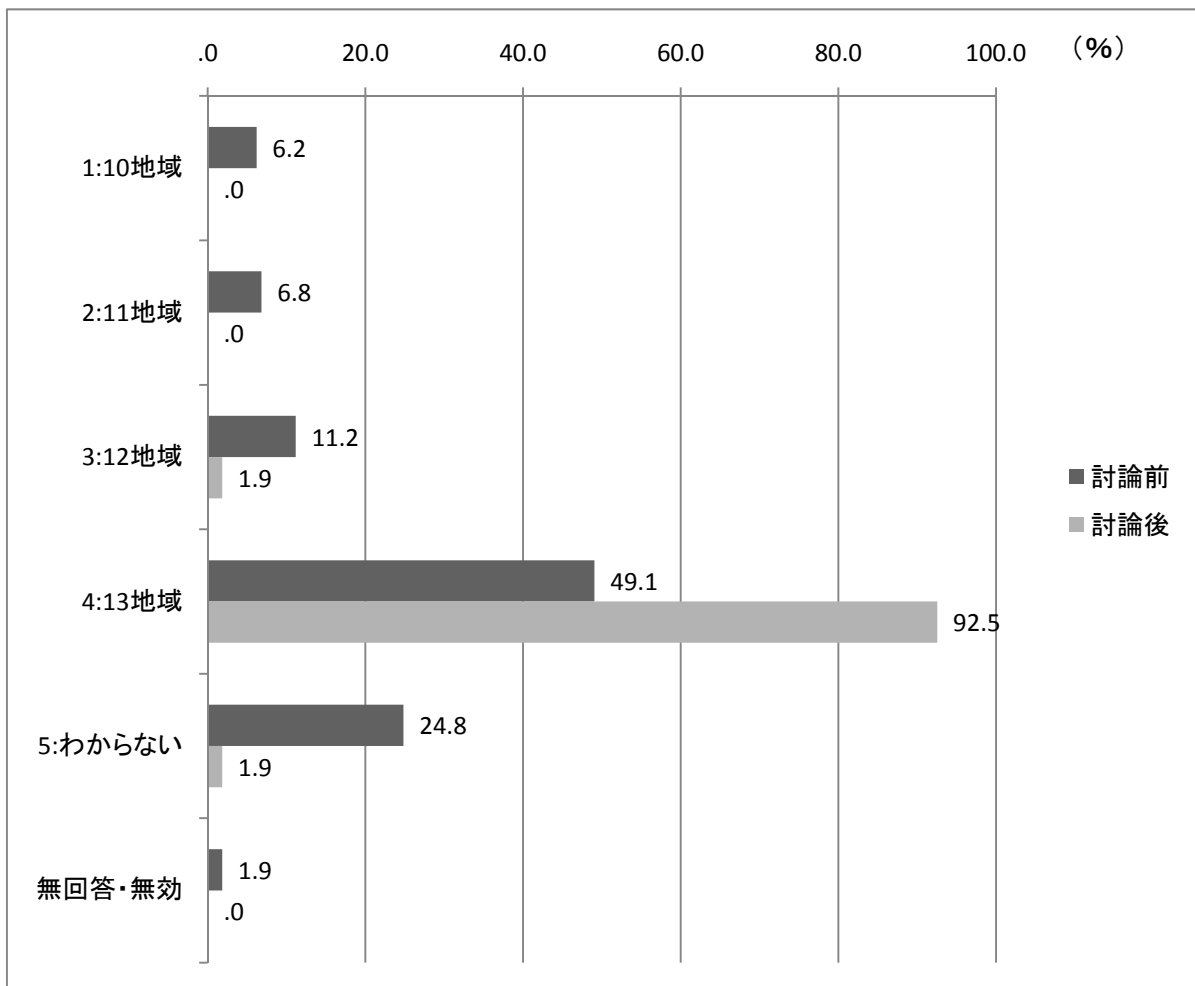
【選択肢】 1. 10地域 2. 11地域 3. 12地域 4. 13地域 5. わからない

●（正解）13地域：49.1% ⇒ 92.5%（43.4ポイント↑）

藤沢市がいう「地域」とは、全部で何地域あると思うか聞きました。正解は「13地域」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されています。

図8-7の通り、討論前アンケートでは正解している人が49.1%なのに対し、討論後アンケートでは92.5%と大幅に増加しています。

【図8-7 藤沢市内の地域数】



## 8-8 「新しい公共円卓会議」の論題

問 これまでに、「新しい公共」について、内閣府設置の「新しい公共円卓会議」が議論の対象にしたのは、どのようなものだと思いますか。

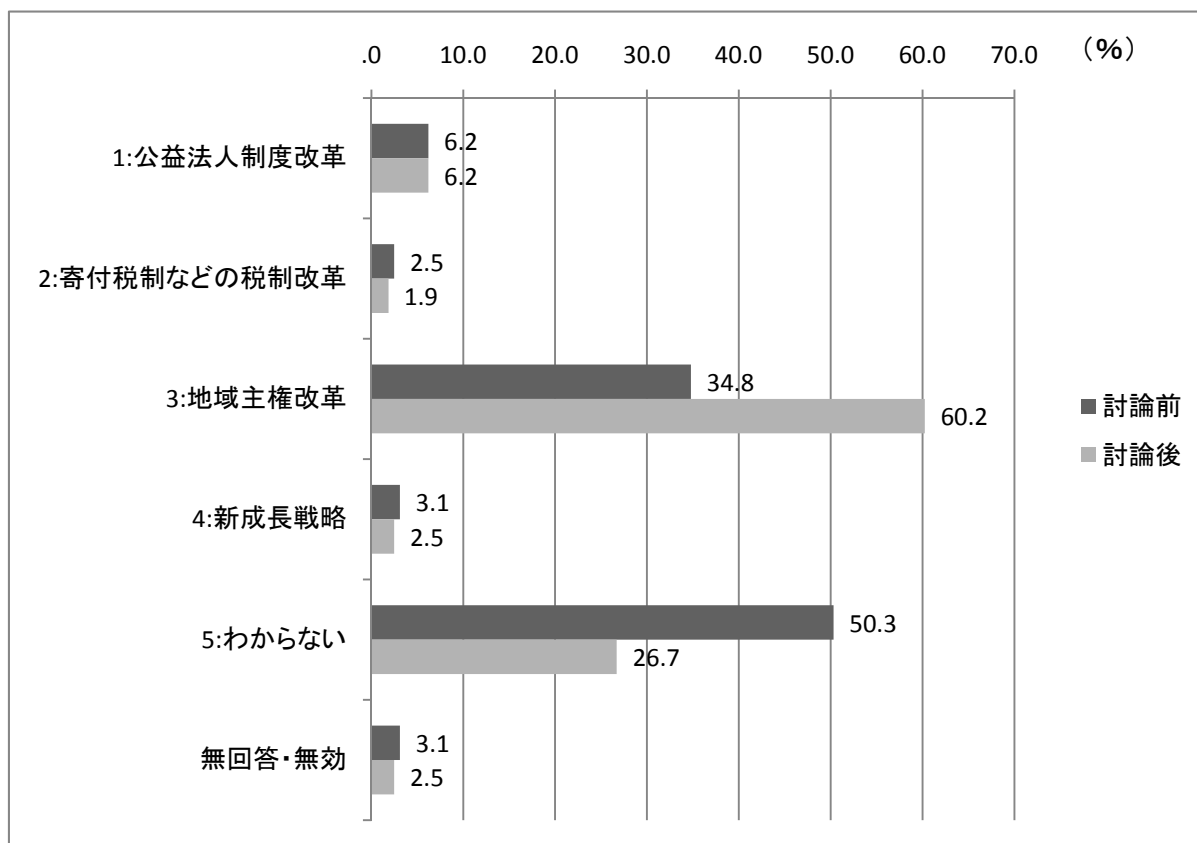
【選択肢】 1. 公益法人制度改革 2. 寄付税制などの税制改革 3. 地域主権改革  
4. 新成長戦略 5. わからない

### ●（正解）寄付税制などの税制改革：2.5% ⇒1.9%（0.6ポイント↓）

これまでに、「新しい公共」について、内閣府設置の「新しい公共円卓会議」が議論の対象にしたのは、どのようなものか聞きました。正解は「寄付税制などの税制改革」です。このデータは、討論イベント参加者に事前に送付した『「藤沢の選択、1日討論」討論資料』に掲載されていません。

図8-8の通り、討論前アンケートでは正解している人が2.5%なのに対し、討論後アンケートでは1.9%と減少しています。また、不正解である「地域主権改革」が34.8%から60.2%と増加しています。

【図8-8 「新しい公共円卓会議」の論題】



## 9. 討論後アンケート

- ・「藤沢の選択、1日討論」に関する質問

## 9-1 今回の企画において役に立ったものは何か

問 今回の企画（資料郵送から本アンケート記述まで）において、あなた自身の考えをまとめるにあたって、次の項目は役に立ちましたか。

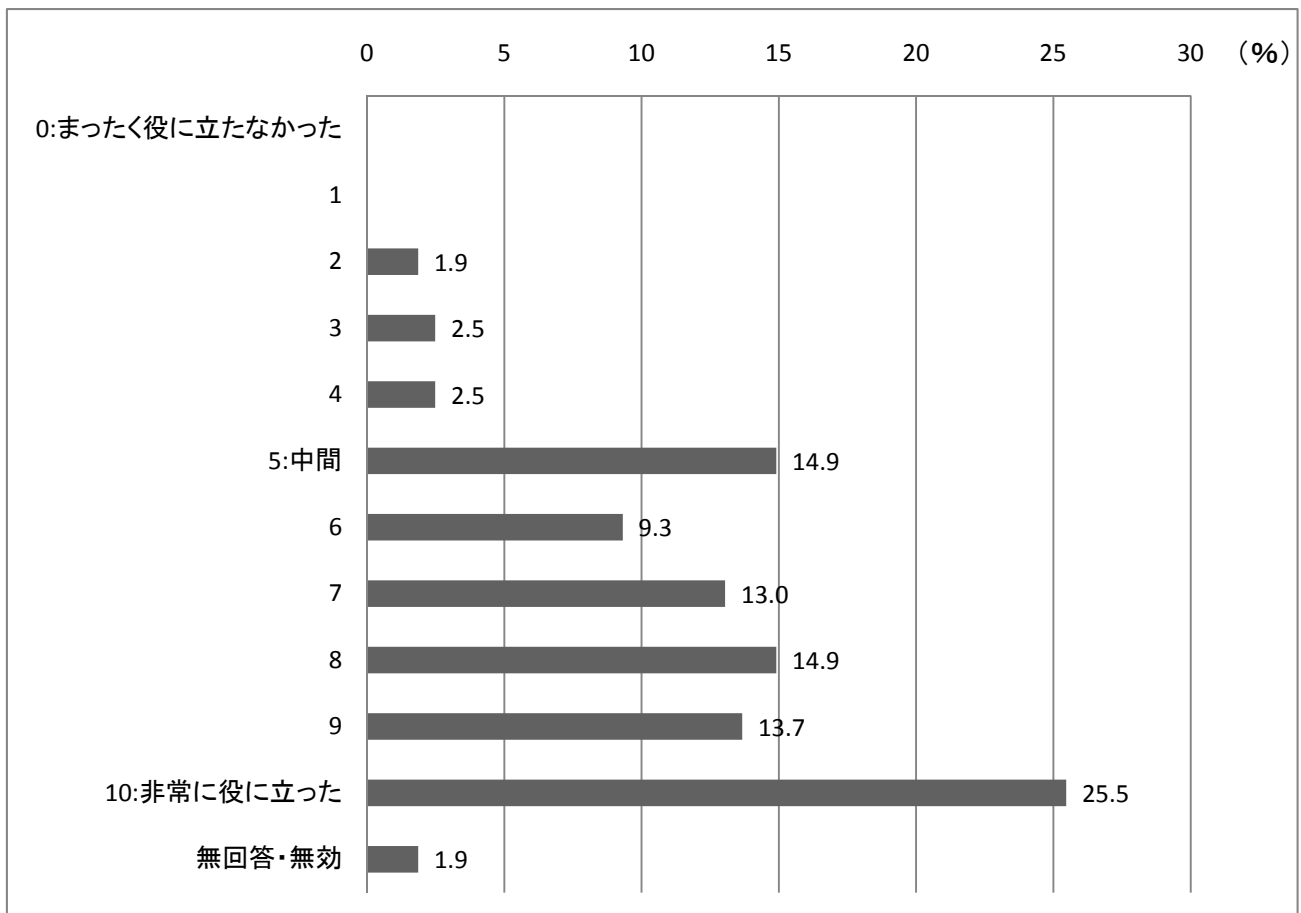
### ①グループ討論への参加

- 役に立った：76.4%
- 中間：14.9%
- 役に立たなかった：6.9%

図9-1-1の通り、参加者の76.4%が考えをまとめるにあたって、グループ討論への参加が「役に立った」と回答しました。また、「役に立った」という回答の中でも、「非常に役に立った」という意見は全体の25.5%となりました。

選択肢ごとに見ると、もっとも回答が多かったのは「10」の25.5%、続いて「5」と「8」の14.9%となっています。

【図9-1-1 今回の企画で役に立ったもの（グループ討論への参加）】



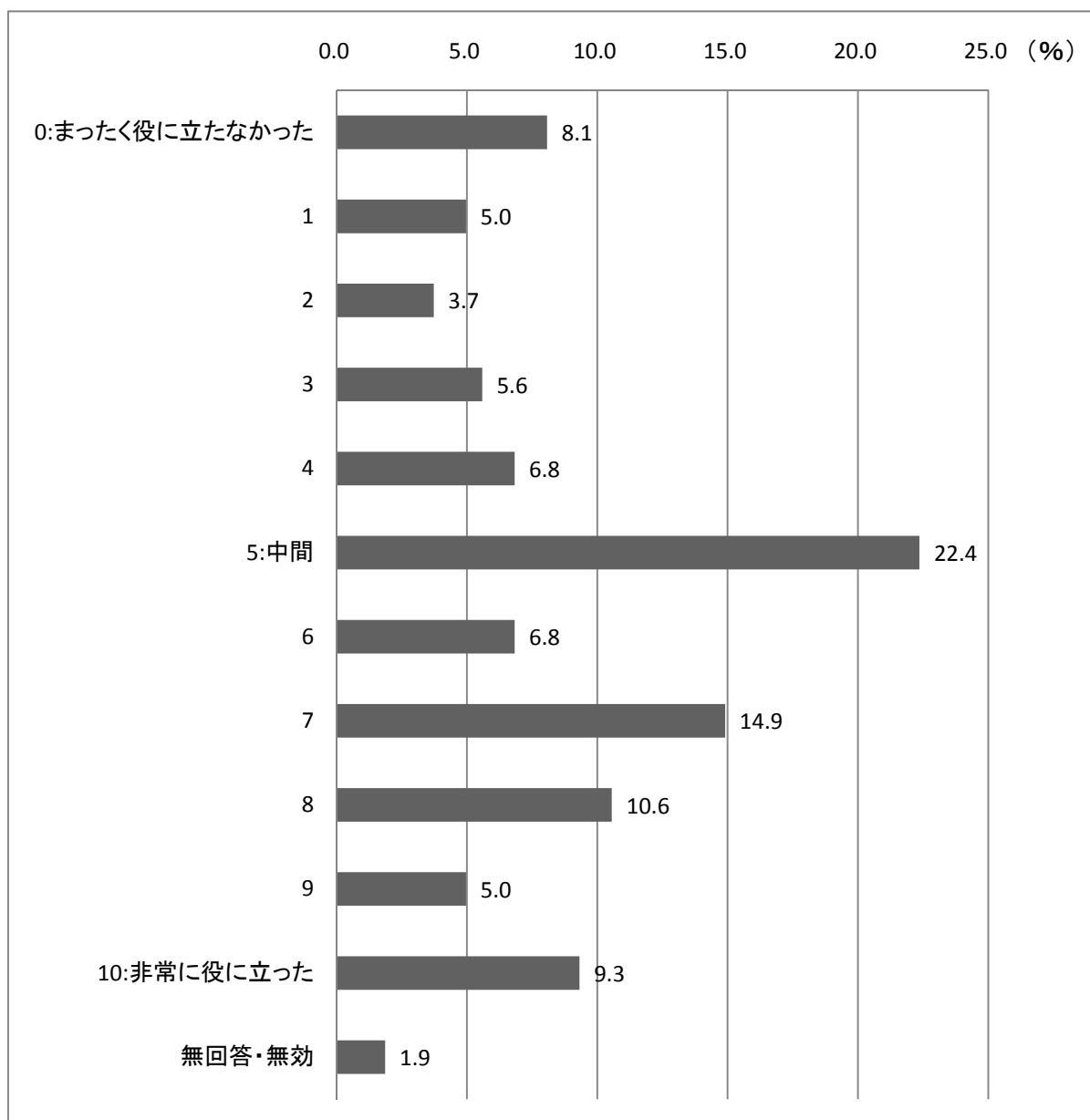
## ②全体討論での専門家との質疑応答

- 役に立った：46.6%
- 中間：22.4%
- 役に立たなかった：29.2%

図9-1-2の通り、参加者の46.6%が考えをまとめるにあたって、全体討論での専門家との質疑応答が「役に立った」と回答しました。「中間」は22.4%、「役に立たなかった」は29.2%でした。

各選択肢別に見ると、もっとも回答が多かったのは「5」の22.4%、続いて「7」の14.9%、「8」の10.6%となっています。

【図9-1-2 今回の企画で役に立ったもの（全体討論での専門家との質疑応答）】





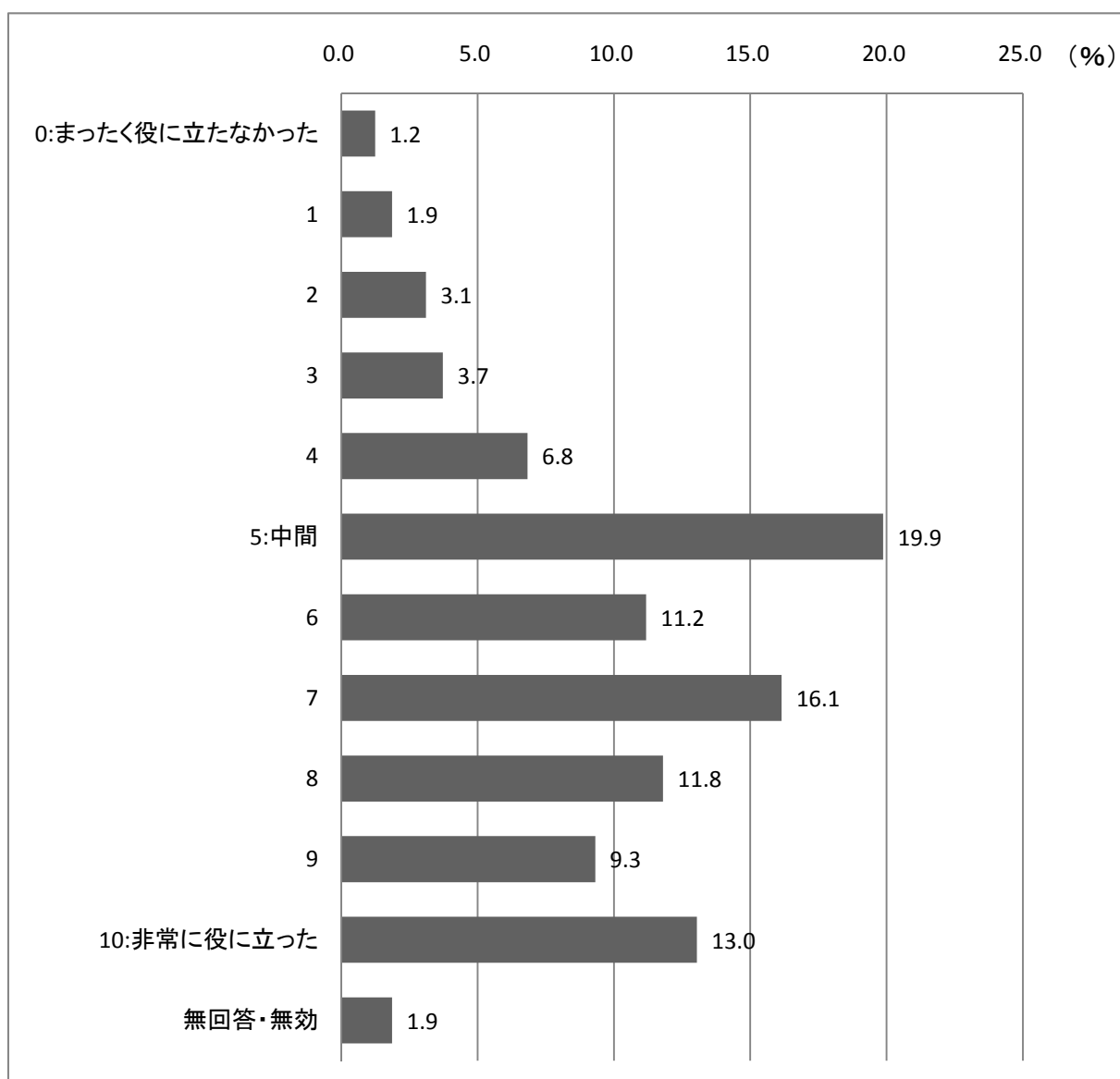
### ③ 討論資料からの情報

- 役に立った：61.4%
- 中間：19.9%
- 役に立たなかった：16.7%

図9-1-3の通り、参加者の61.4%が考えをまとめるにあたって、討論資料からの情報が「役に立った」と回答しました。「中間」は19.9%、「役に立たなかった」は16.7%でした。

選択肢ごとに見ると、「5」の回答がもっとも多く19.9%、続いて「7」が16.1%、「10」が13.0%という結果になりました。

【図9-1-3 今回の企画で役に立ったもの（討論資料からの情報）】



## 9-2 グループ討論について

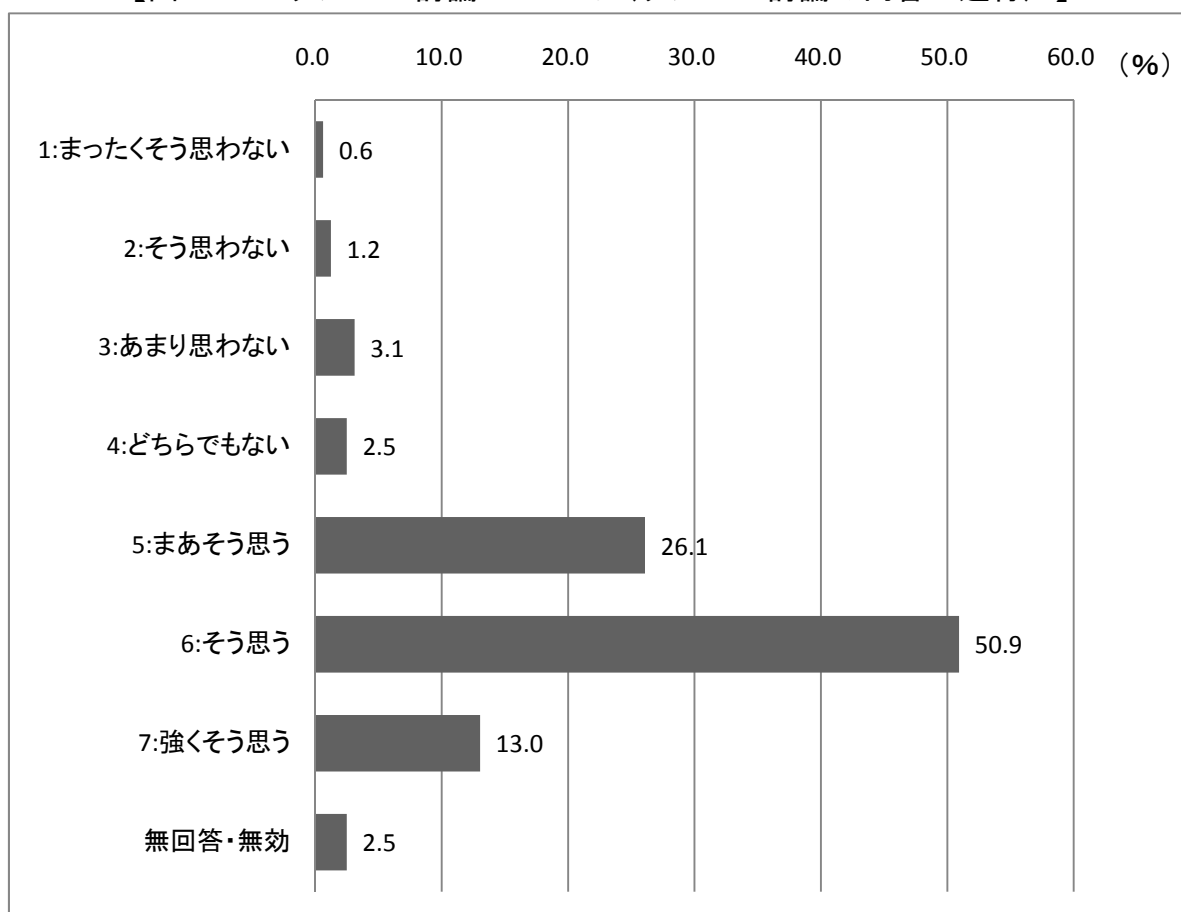
問 グループ討論の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。

① グループ討論の進行役（ファシリテーター）は、全員が討論に参加できるような機会を適切に作っていたか

- そう思う : 90.0%
- どちらでもない : 2.5%
- そう思わない : 4.9%

図9-2-1の通り、90.0%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は2.5%、「そう思わない」は4.9%でした。選択肢別に見て、回答が多かったのは、「そう思う」の50.9%、「まあそう思う」の26.1%でした。

【図9-2-1 グループ討論について（グループ討論の内容・進行）】

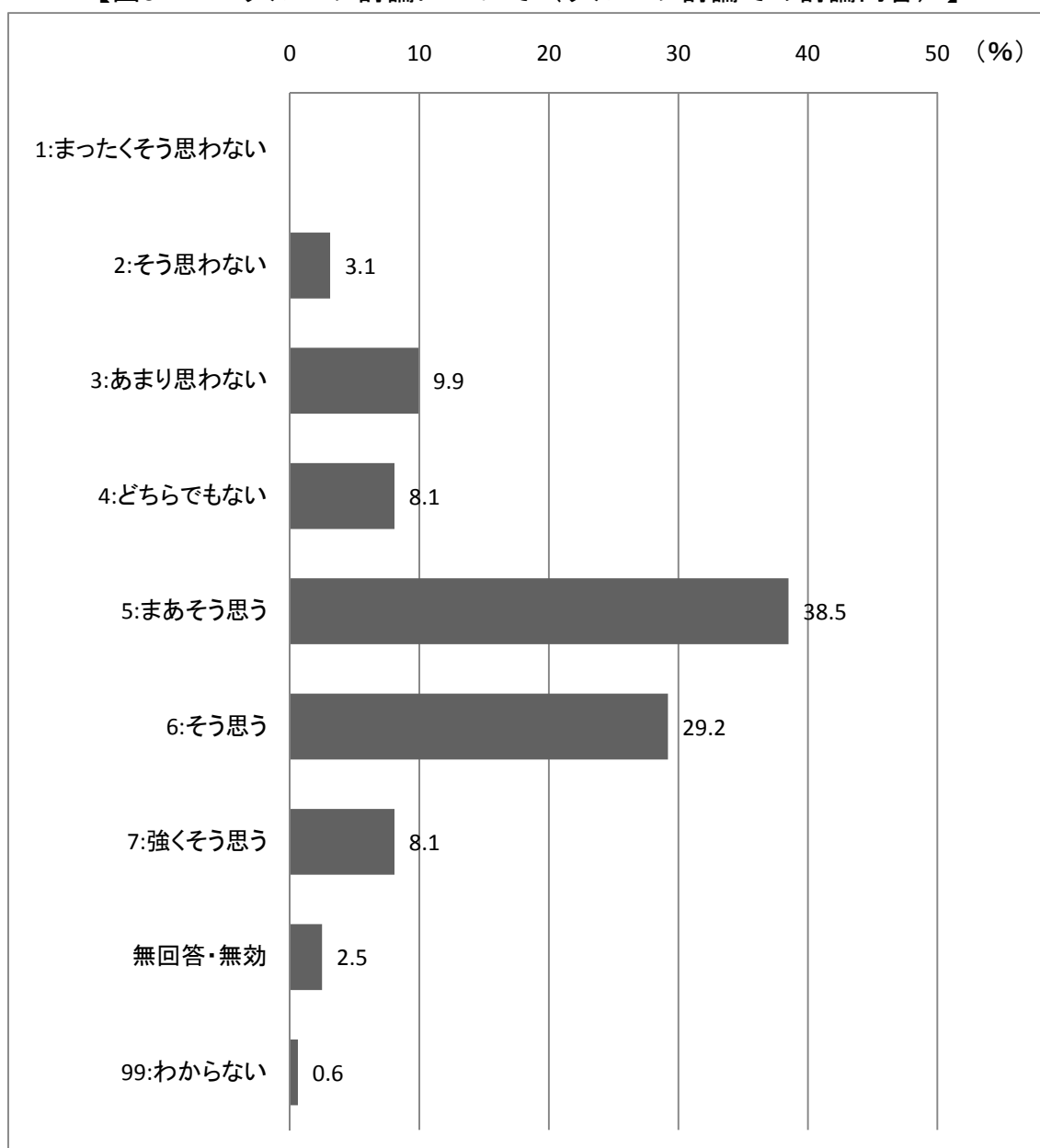


② グループ討論で話し合うべき内容を話し合うことができたか

- そう思う : 75.8%
- どちらでもない : 8.1%
- そう思わない : 13.0%

図9-2-2の通り、75.8%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は8.1%、「そう思わない」は13.0%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まあそう思う」の38.5%、「そう思う」の29.2%でした。

【図9-2-2 グループ討論について（グループ討論での討論内容）】

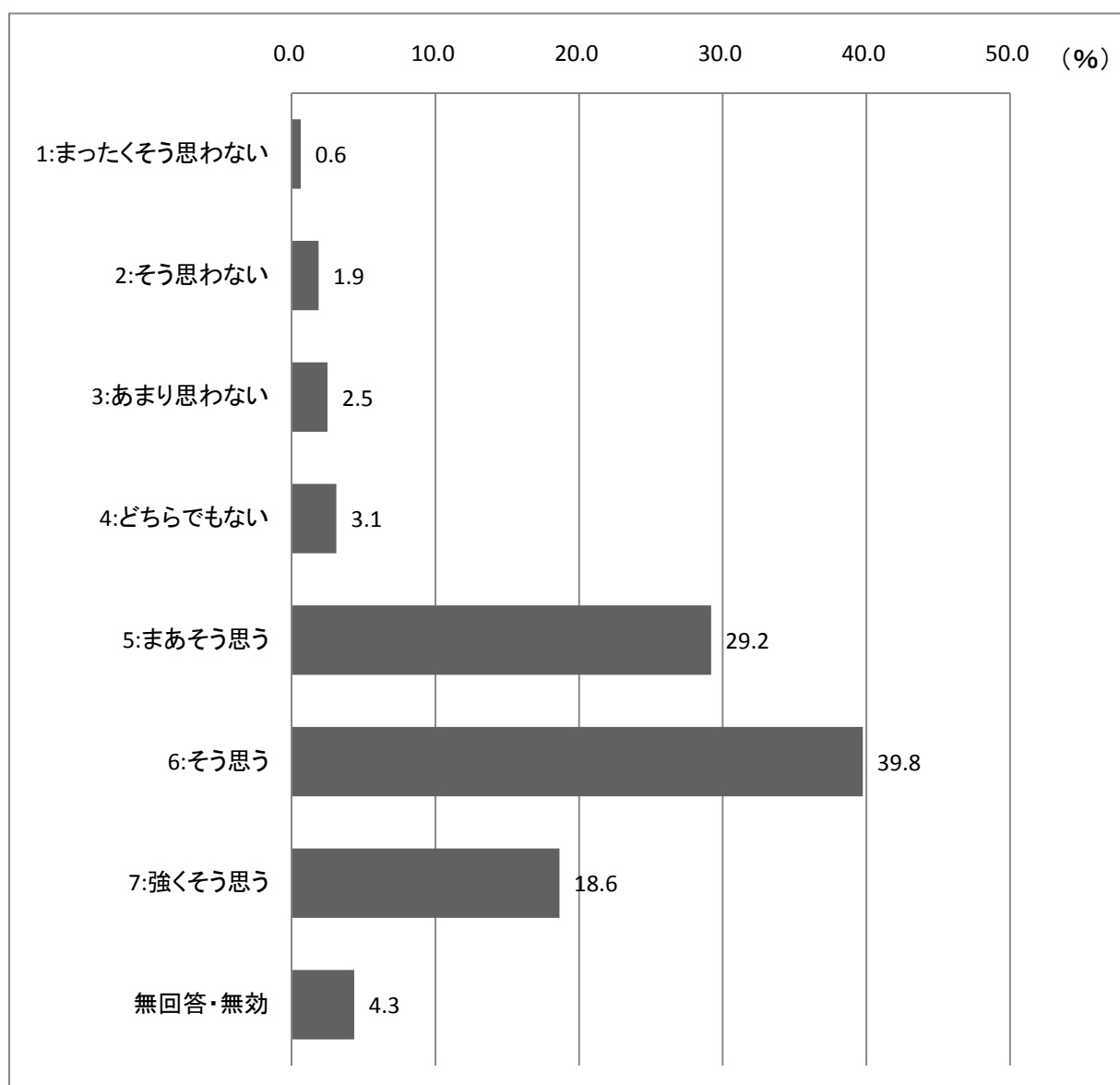


### ③ 他の参加者の意見が参考になったか

- そう思う : 87.6%
- どちらでもない : 3.1%
- そう思わない : 5.0%

図9-2-3の通り、87.6%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は3.1%、「そう思わない」は5.1%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の39.8%、「まあそう思う」の29.2%でした。

【図9-2-3 グループ討論について（他の人の意見）】

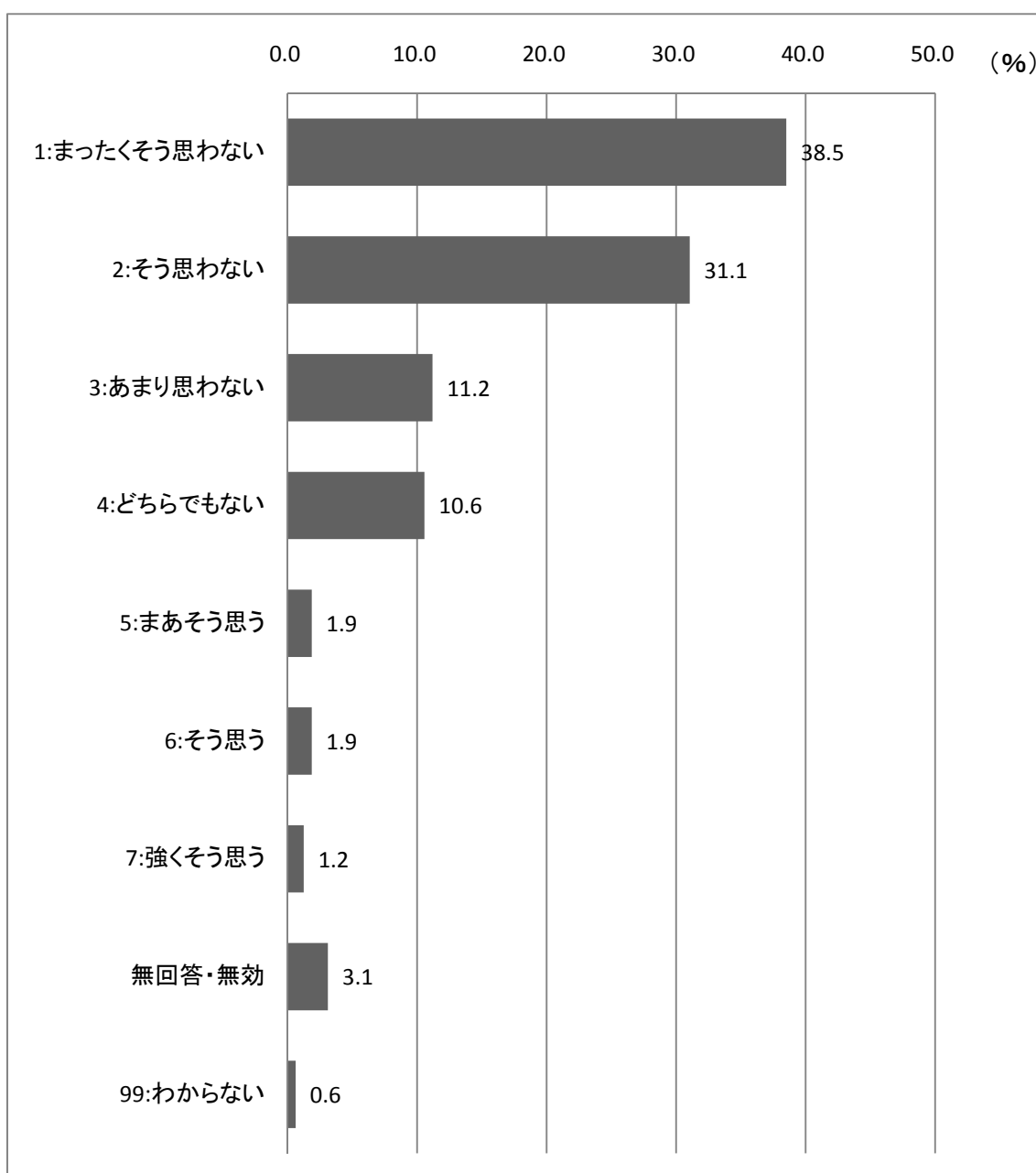


④ 進行役が自身の意見を示す傾向があったか

- そう思う : 5.0%
- どちらでもない : 10.6%
- そう思わない : 80.8%

図9-2-4の通り、80.8%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は10.6%、「そう思わない」は5.0%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まったくそう思わない」の38.5%、「そう思わない」の31.1%でした。

【図9-2-4 グループ討論について（進行役の態度）】

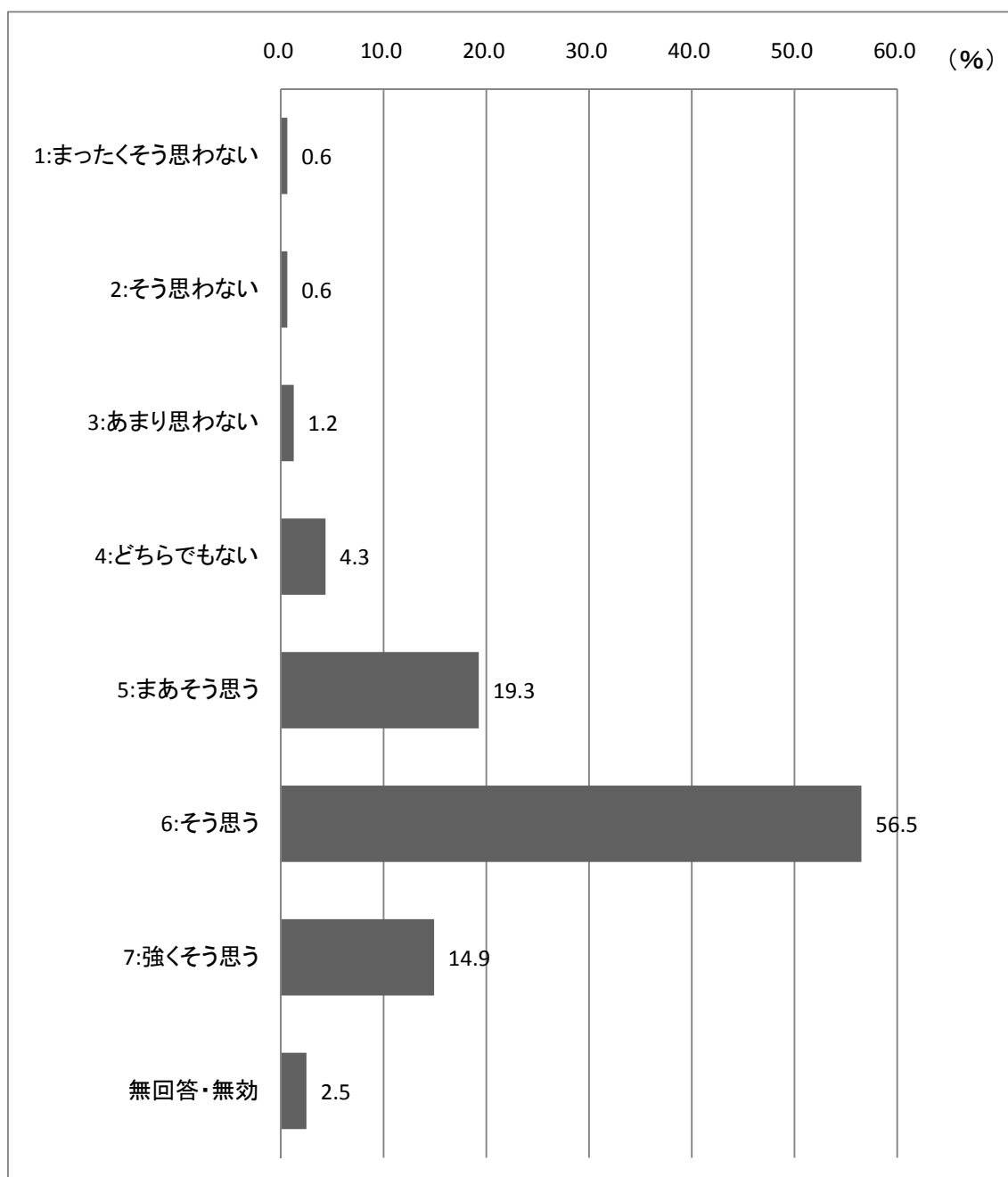


⑤ 自分と異なる立場の意見にも、良いものがあったか

- そう思う : 90.7%
- どちらでもない : 4.3%
- そう思わない : 2.4%

図9-2-5の通り、90.7%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は4.3%、「そう思わない」は2.4%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「そう思う」の56.5%、「まあそう思う」の19.3%でした。

【図9-2-5 グループ討論について（自分と異なる意見）】

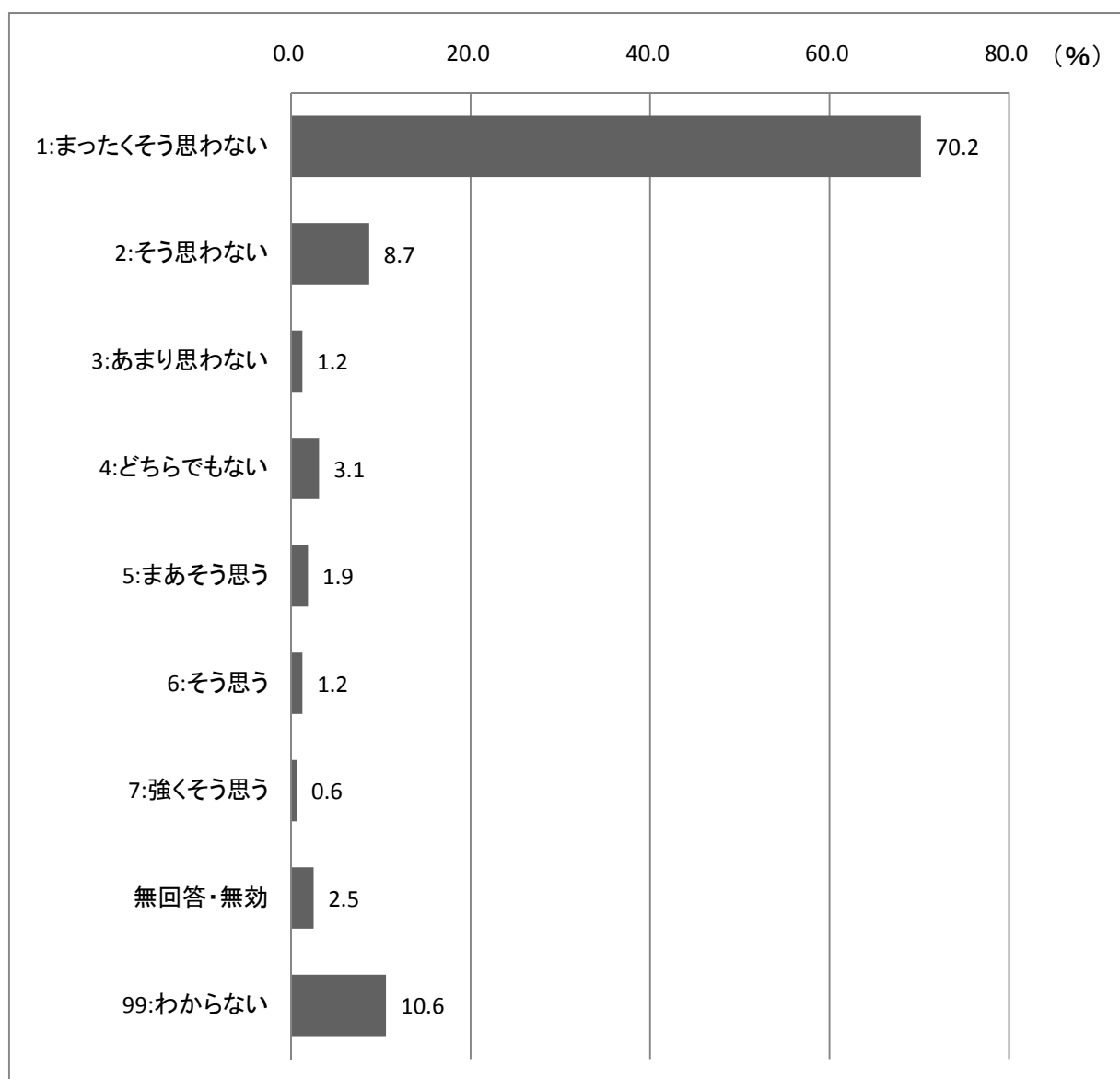


⑥ 見学者が、自身の意見を示したことがあったか

- そう思う : 3.7%
- どちらでもない : 3.1%
- そう思わない : 80.1%

図9-2-6の通り、80.1%の参加者が「そう思わない」と回答し、「どちらでもない」は3.1%、「そう思う」は3.7%でした。各選択肢のなかで回答が多かったのは、「まったくそう思わない」の70.2%、「わからない」の10.6%でした。

【図9-2-6 グループ討論について（見学者の態度）】



## 9-3 全体討論について

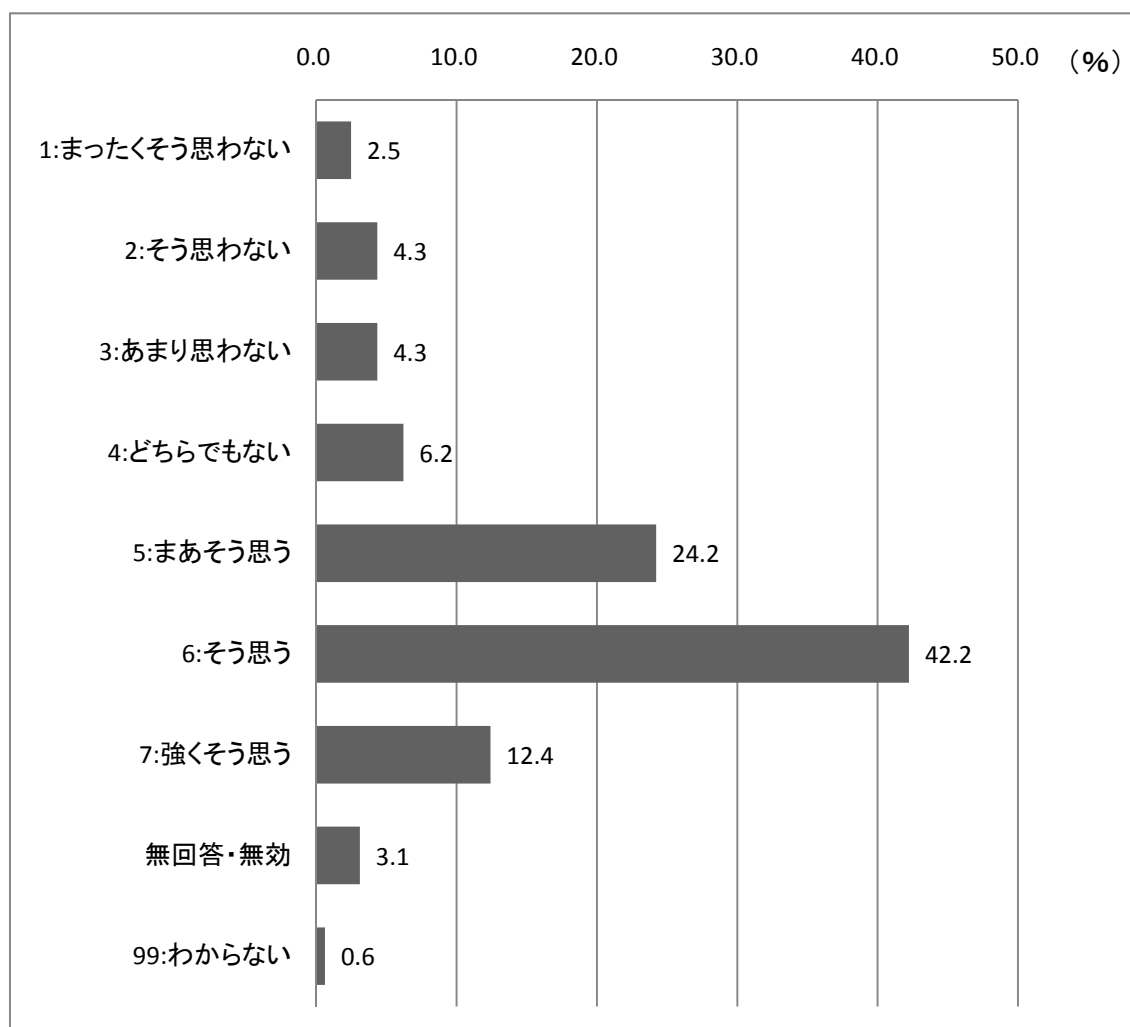
問 全体討論の内容や進行について、あなたはどのように感じましたか。

### ① 司会者は適切に議論を整理していたか

- そう思う : 78.8%
- どちらでもない : 6.2%
- そう思わない : 11.1%

図9-3-1の通り、78.8%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は6.2%、「そう思わない」は11.1%でした。選択肢ごとに見て、回答が多かったのは、「そう思う」の42.2%、「まあそう思う」の24.2%でした。

【図9-3-1 全体討論について（司会者の議論の整理）】



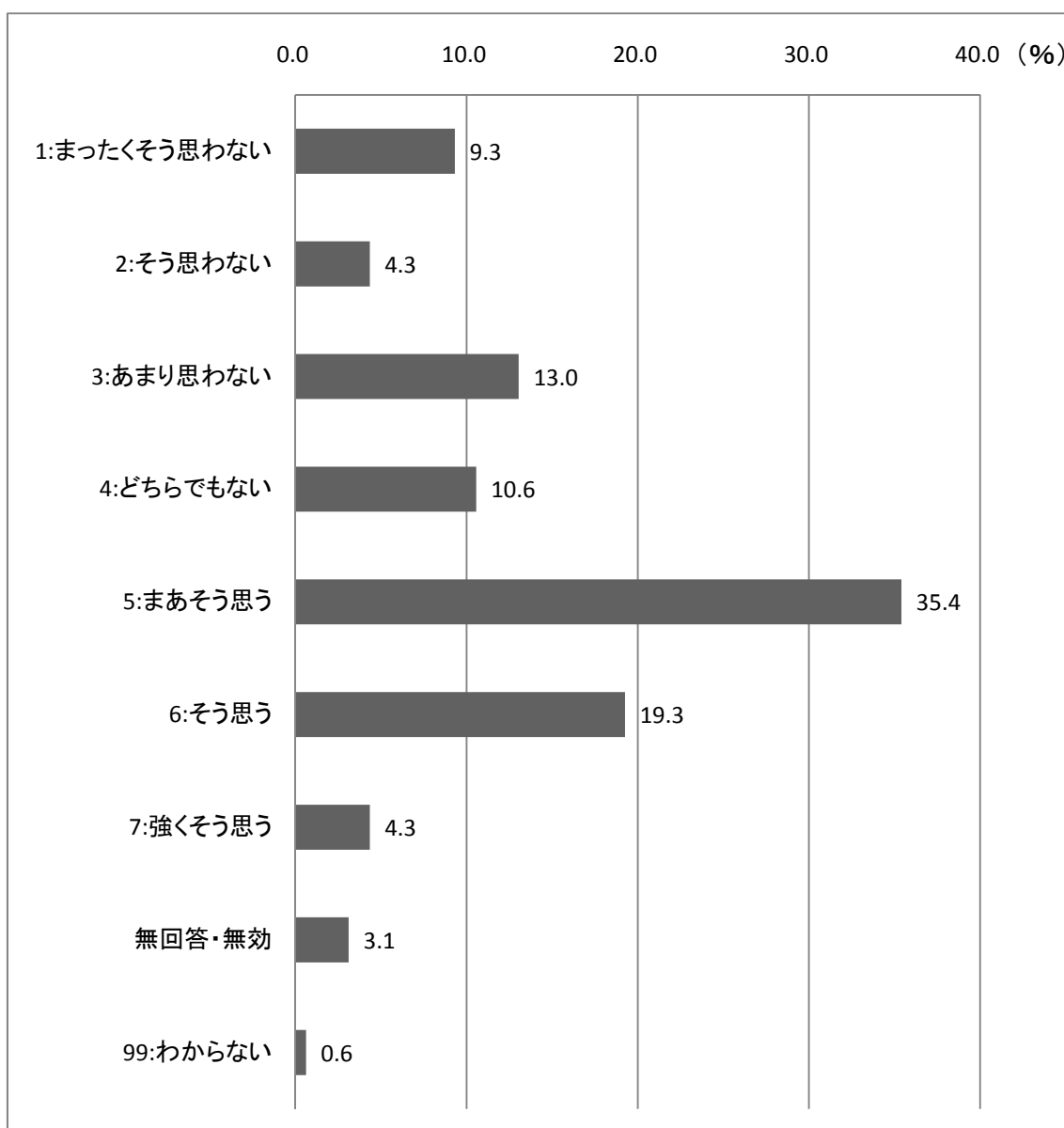


② 専門家の回答は適切だったか

- そう思う : 59.0%
- どちらでもない : 10.6%
- そう思わない : 26.6%

図9-3-2の通り、59.0%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は10.6%、「そう思わない」は26.6%でした。選択肢ごとに見て、回答が多かったのは、「まあそう思う」の35.4%、「そう思う」の19.3%でした。

【図9-3-2 全体討論について（専門家の回答）】

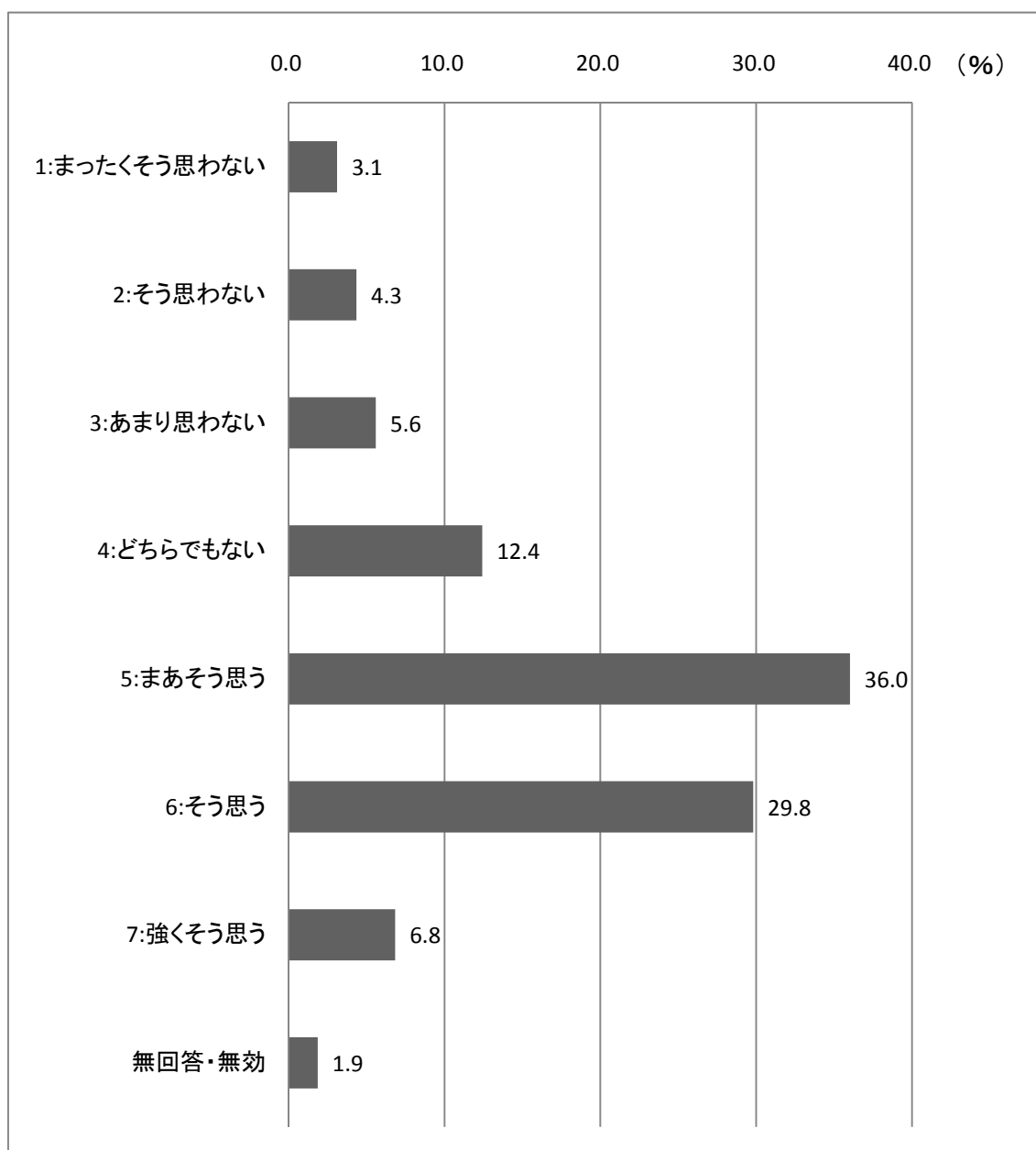


③ 他のグループの質問の論点に興味があったか

- そう思う : 72.6%
- どちらでもない : 12.4%
- そう思わない : 13.0%

図9-3-3の通り、72.6%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は12.4%、「そう思わない」は13.0%でした。選択肢ごとに見て、回答が多かったのは、「まあそう思う」の36.0%、「そう思う」の29.8%でした。

【図9-3-3 全体討論について（他グループの質問）】

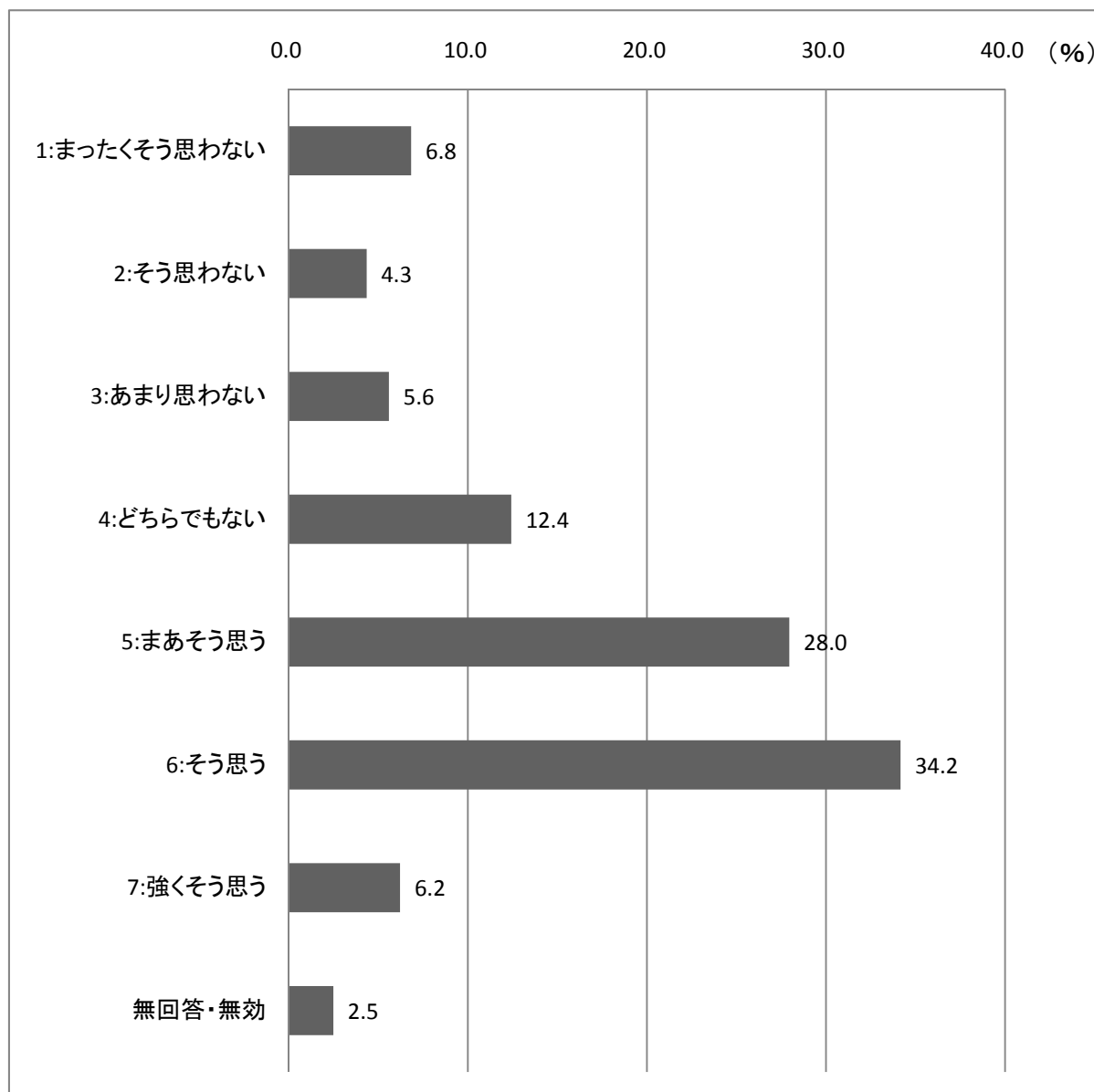


④ 全体として理解の助けになったか

- そう思う : 68.4%
- どちらでもない : 12.4%
- そう思わない : 16.7%

図9-3-4の通り、68.4%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は12.4%、「そう思わない」は16.7%でした。選択肢ごとに見て、回答が多かったのは、「そう思う」の34.2%、「まあそう思う」の28.0%でした。

【図9-3-4 全体討論について（全体的評価）】

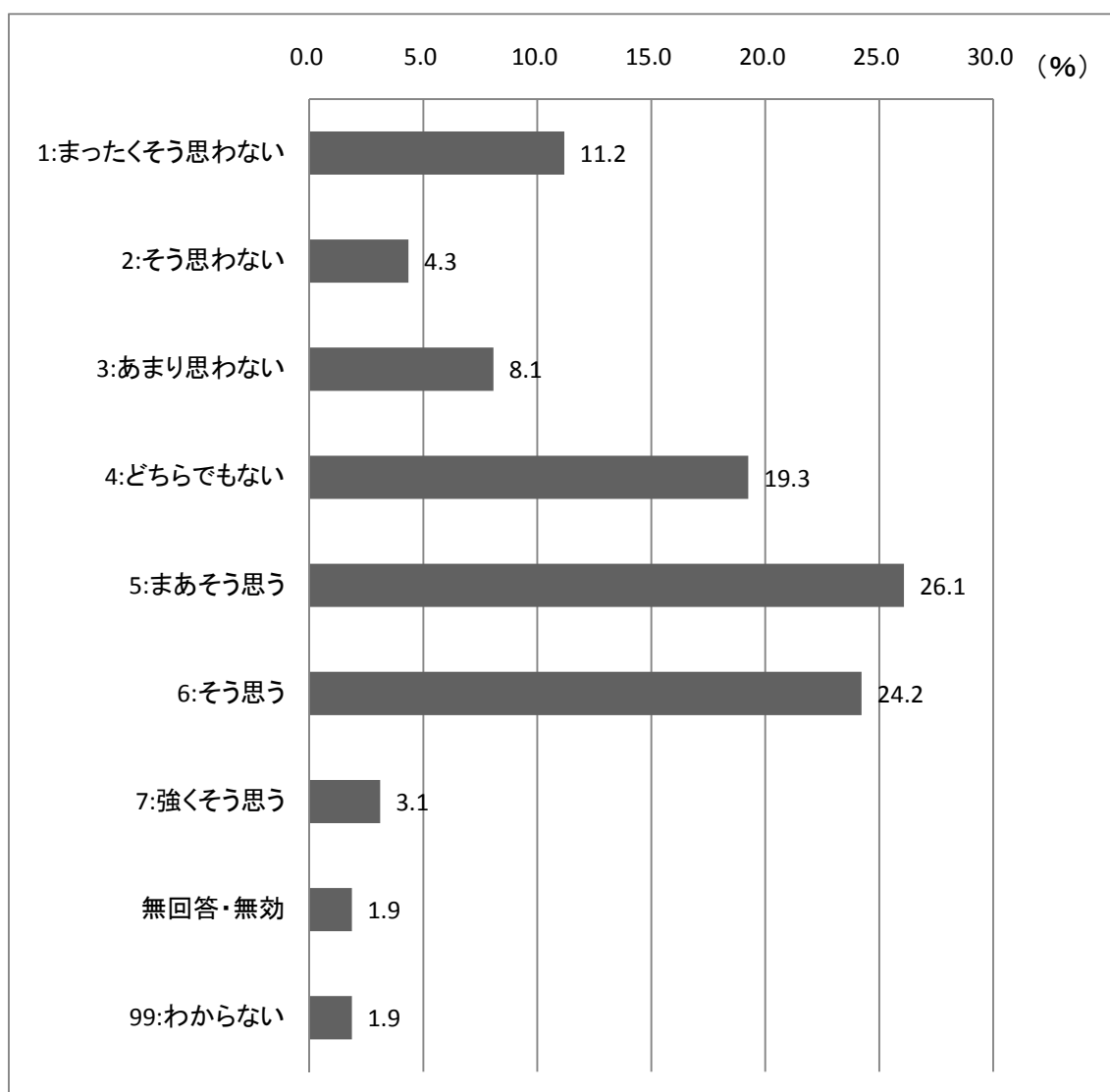


⑤ 全体討論の質疑応答がグループ討論に役立ったか

- そう思う : 53.4%
- どちらでもない : 19.3%
- そう思わない : 23.6%

図9-3-5の通り、53.4%の参加者が「そう思う」と回答し、「どちらでもない」は19.3%、「そう思わない」は23.6%でした。選択肢ごとに見て、回答が多かったのは、「まあそう思う」の26.1%、「そう思う」の24.2%でした。

【図9-3-5 全体討論について（全体討論の質疑応答のグループ討論への影響）】



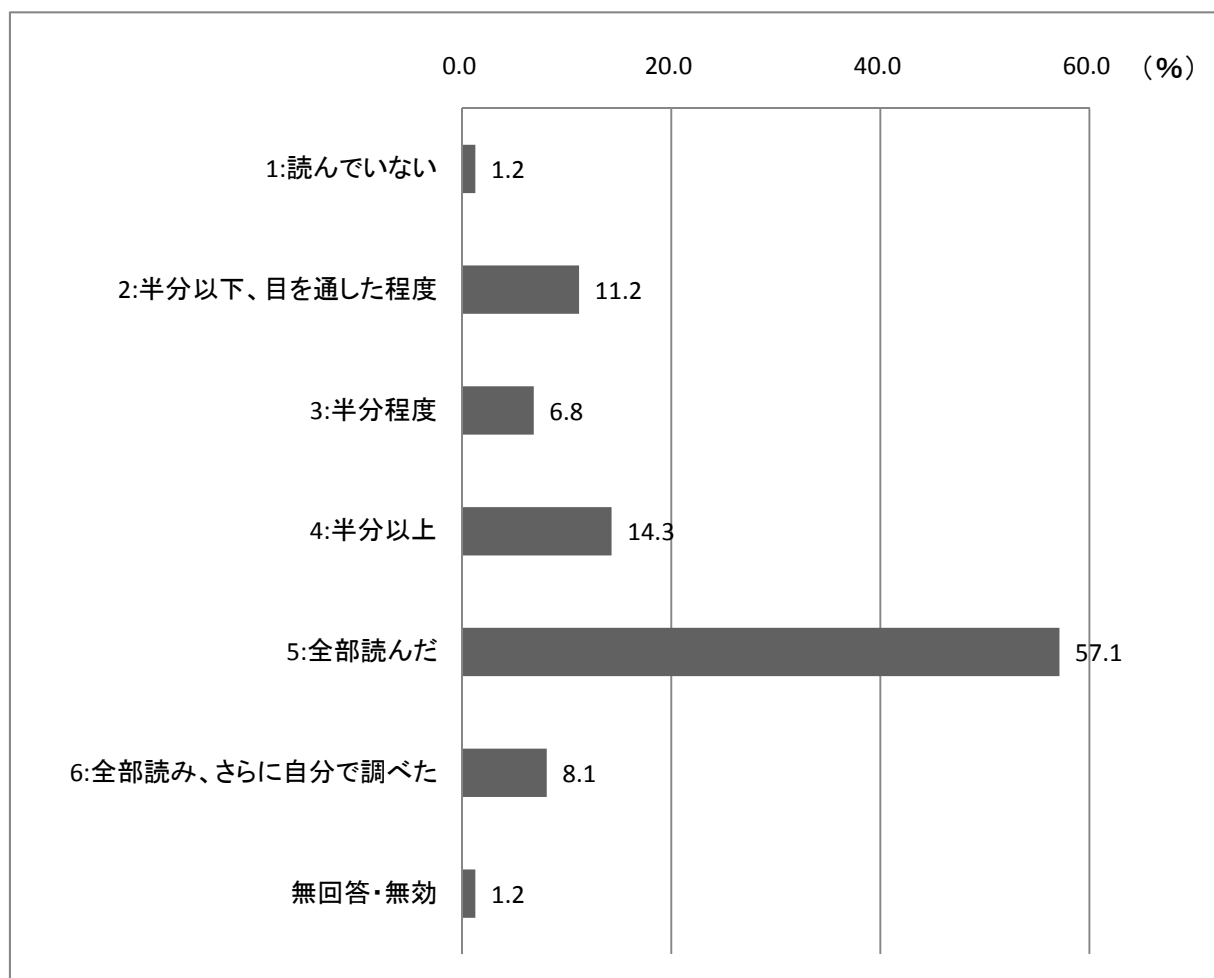
## 9-4 討論資料について

問 本日の討論に参加するまでに、郵送で受け取った資料をご覧になりましたか。

- 全部読んだ：57.1%
- 全く読んでいない：1.2%

事前に参加者へ送付した討論資料を読んだかどうか聞きました。図9-4の通り、57.1%の参加者が、事前に送付された討論資料を「全部読んだ」と回答しました。また、「全部読んだ上、さらに興味を持った項目などについて自身で調べた」という回答が8.1%ありました。「半分以上は読んだ」が14.3%、「半分程度は読んだ」が6.8%、「半分以下しか読んでいない、目を通した程度」は11.2%、「全く読んでいない」は1.2%でした。

【図9-4 討論資料について】



## 9-5 討論の結果が総合計画策定に活用されることについて

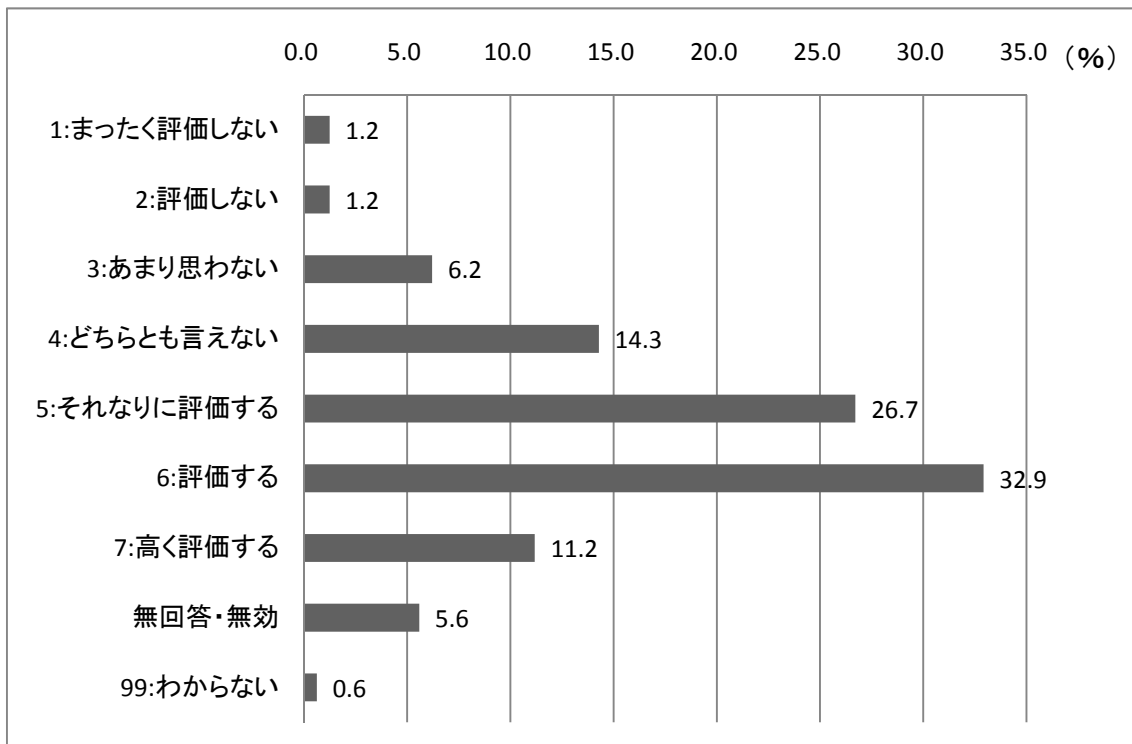
問 本日の討論で出てきた意見が、藤沢市の総合計画策定に際して、活用することについて、どのように思いますか。

- 評価する：70.8%
- どちらともいえない：14.3%
- 評価しない：8.6%

「藤沢の選択、1日討論」の結果が、総合計画策定に際して、活用することについてどう思うか聞きました。図9-5の通り、70.8%の参加者が、討論で出てきた意見が、藤沢市の総合計画策定に活用された場合は「評価する」と回答しました。「どちらともいえない」は14.3%、「評価しない」は8.6%でした。

選択肢ごとに見ると、もっとも回答が多かったのは「評価する」の32.9%、続いて「それなりに評価する」の26.7%、「どちらとも言えない」の14.3%となっています。

【図9-5 総合計画策定への活用について】



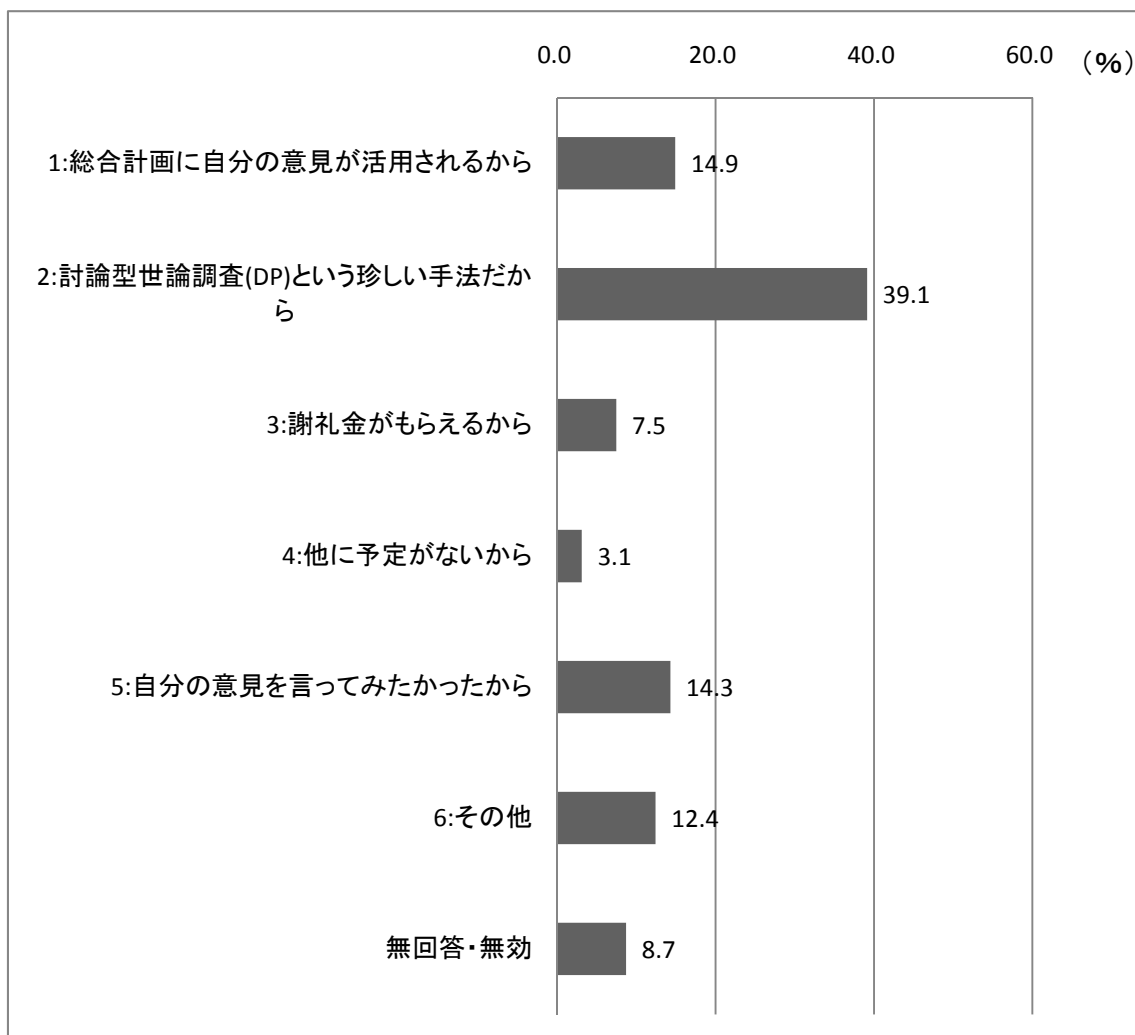
## 9-6 「藤沢の選択、1日討論」への参加理由

問 「藤沢の選択、1日討論」への参加を決めた理由は次のうちどれですか

- 討論型世論調査（DP）という珍しい手法だから：39.1%
- 藤沢市の総合計画に自分の意見が活用されるから：14.9%
- 自分の意見を言ってみたかったから：14.3%

「藤沢の選択、1日討論」に参加した理由を聞きました。図9-6の通り、もっとも多かった回答は、「討論型世論調査（DP）という珍しい手法だから」で39.1%でした。それに続いて「藤沢市の総合計画に自分の意見が活用されるから」が14.9%、「自分の意見を言ってみたかったから」が14.3%と続きました。

【図9-6 参加理由】



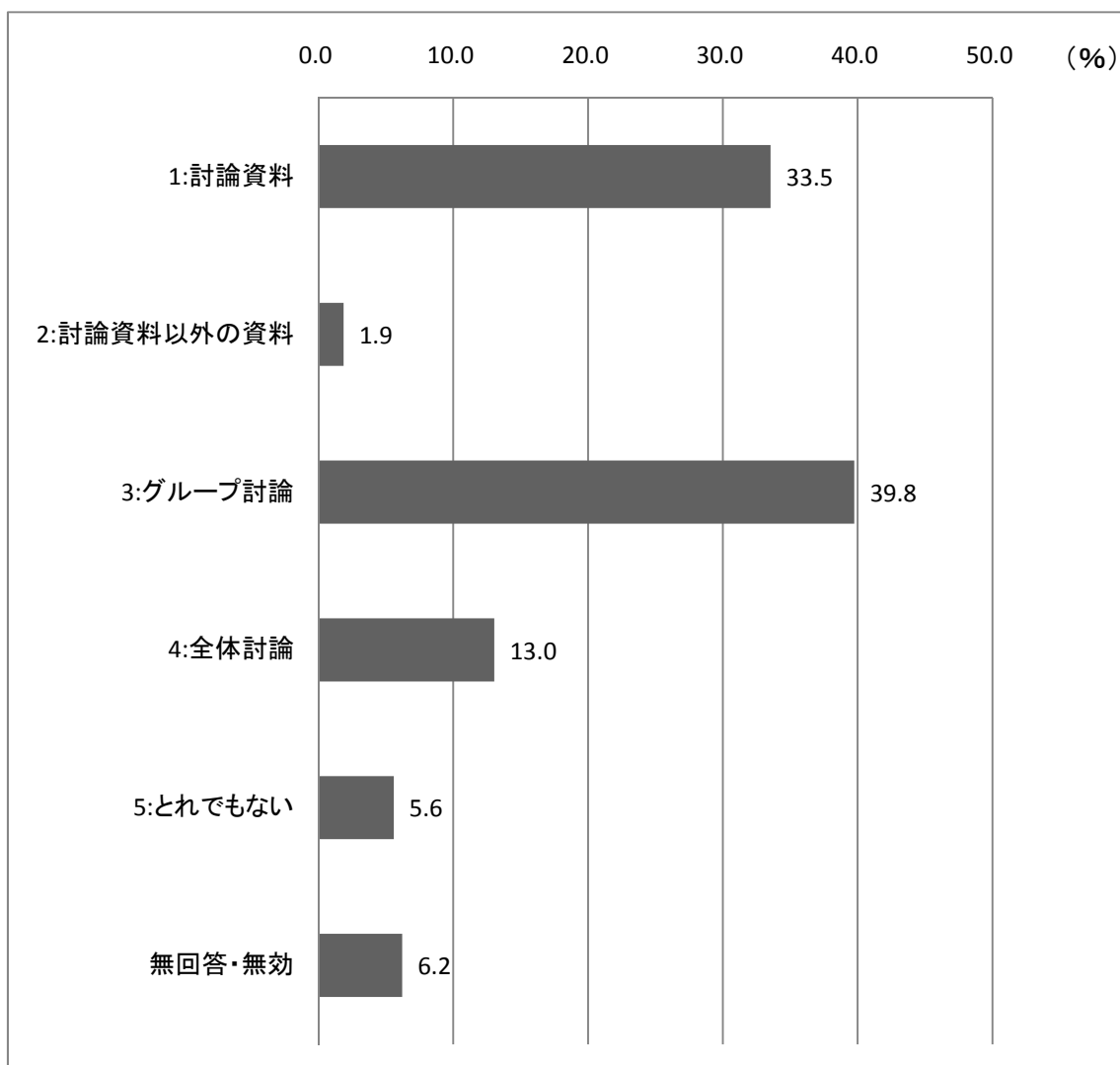
## 9-7 アンケート回答に際して、もっとも参考になったこと

問 討論資料の郵送から本日までの過程の中で、本アンケートに回答するに際して、もっとも参考になったものは次のうちどれですか。

- グループ討論：39.8%
- 討論資料：33.5%
- 全体討論：13.0%

討論資料の郵送から討論当日までの過程で、アンケートを回答するにもっとも参考になったものはどれか聞きました。図9-7の通り、もっとも回答が多かったのは、「グループ討論」の39.8%でした。続いて、「討論資料」の33.5%、「全体討論」の13.0%となっています。

【図9-7 アンケート回答で参考になったこと】





# 10. おわりに—調査結果の講評

藤沢第2回目DPの結果は、いくつかの点で、明確に藤沢市民の選択を読み取ることができる。しかし、藤沢の将来、特に10年後、20年後を念頭に置きながら、回答をすることは、簡単なことではない、留意する重要な点である。

一般の世論調査に比べて、十分な情報を獲得し討論を通じてさまざまな意見を聞く機会をもった上で、DPフォーラム参加者の意見はどのように変化をするのかを改めて確認することができた。その変化の方向はどちらかがここで問うべきことである。

この調査の主たるテーマは、1. 藤沢が今後直面する高齢化問題であり、施設の老朽化である。もう一つが、新しい公共や地域分権・地域内分権の議論を踏まえて、どのように、分権のシステムを設計するのが良いのかというテーマであり、いずれも難問で簡単に答えを出せるようなことではない。しかし、ある程度の方向性は読み解くことができる。

#### ①一人暮らし高齢者の支援方法

- 行政が中心的な役割を果たすべき：55.9% ⇒ 44.7% (12.4ポイント↓)
- ちょうど中間：24.8% ⇒ 23.6% (1.2ポイント↓)
- 地域や市民が中心的な役割を果たすべき：15.5% ⇒ 29.8% (14.3ポイント↑)

#### ②公共施設の老朽化への対応方法について

- 行政が中心となって案をつくるべき：36.6% ⇒ 28.6% (8.0ポイント↓)
- 現状維持：22.4% ⇒ 22.4% (増減なし)
- 市民が中心となって案をまとめるべき：37.3% ⇒ 47.2% (9.9ポイント↑)

この2つの質問から、行政中心から市民や地域が果たす役割の方に意見が変わっている。しかし、問題は、どのようにしてそれを行うのかという点は、ここでは聞いていないが、重要点である。それは、もう一つの重要なテーマである「新しい公共」、「地域分権」の議論とも関係してくることである。市民がどれだけの貢献や努力をしようとしているのか、そして、どの分野に一番力を注ぐつもりなのかはもっとも知りたいところである。その点については、DPの手法によってある程度の本音が引き出されたといえる。

#### ⑩寄付など金銭の提供について

- 提供したくない：38.5% ⇒ 43.5% (5.0ポイント↑)
- ちょうど中間：21.7% ⇒ 23.0% (2.3ポイント↑)
- 提供したい：31.1% ⇒ 29.2% (1.9ポイント↑)

この寄付の問題は、「新しい公共」の問題とも関係してくるが、討論後、寄付など「したくない」という答えが増加したこと、また、性別では、男性の38.3%に対して、女性は46.6%と高い点は注目すべきことである。

それと直接の関係はないが、知識を問う質問で、新しい公共円卓会議が議論してきたことは、寄

付税制などの税制改革であったが、正答率はきわめて低くかつ低下しているという点は（2.5% ⇒ 1.9%、0.6ポイント↓）、「新しい公共円卓会議」が目指す方向が、市民の意識と乖離していたのではないかという疑問も出てくる。

#### ⑪活動時間や労力の提供

- したくない：16.8% ⇒ 13.7%（3.1ポイント↓）
- ちょうど中間：18.6% ⇒ 18.6%（増減なし）
- したい：62.7% ⇒ 67.7%（5.0ポイント↑）

#### ⑫経験・知識・人脈・ノウハウなどの提供

- 提供したくない：9.9% ⇒ 8.7%（1.2ポイント↓）
- ちょうど中間：18.0% ⇒ 17.4%（0.6ポイント↓）
- 提供したい：68.3% ⇒ 72.0%（3.7ポイント↑）

#### ⑬地域の人々との付き合い・連携などへの参加

- 参加したくない：9.9% ⇒ 7.5%（2.4ポイント↓）
- ちょうど中間：13.7% ⇒ 13.0%（0.7ポイント↓）
- 参加したい：74.5% ⇒ 78.9%（4.4ポイント↑）

これらの質問をまとめると、地域の人々の付き合い・連携などに参加し、経験や知識を提供する用意があり、また、時間や労力を提供するつもりがあるということを読み取れる。

そのような意識に対して、どのような具体的な制度を作るかであるが、これは、現在まだ試行錯誤中であるということができる。

例えば、「地域経営会議」については、きわめて認知が低いことが見られ、活動内容以前に、いかにして、市民に知られるようにするのがきわめて重要であるといえる。

- 知っている：8.0% ⇒ 28.0%（20.0ポイント↑）
- 聞いたことはある：27.3% ⇒ 31.1%（3.8ポイント↑）
- 知らない：62.1% ⇒ 39.8%（22.3ポイント↓）

藤沢DPの成果について、スタンフォード大学のJ・フィッシュキン教授とも議論したが、大きく、二点挙げることができる。1つには、アメリカなどでは総合計画のような長期計画は存在していないので、日本のこのような手法を普及させるか、そのような長期計画を前提にしたDPを行うことが期待できる。

第2点目としては、しばしばDPは、「話し合いをしているだけ」という批判があるが、藤沢DPでは、その結果を踏まえて総合計画審議会が参考にし、市長もDPにきわめて高い関心をもってしている。そのことは、政策形成におけるDPの実例として、今後のDPの一つの方向性を示すものであるということを示している。

## 【調査分析・資料作成】

### 慶應義塾大学D P 研究会

- ・ 曾根泰教 慶應義塾大学政策・メディア研究科教授
- ・ 松原真倫 慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程
- ・ 木村充裕 慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程
- ・ 山本竜也 慶應義塾大学総合政策学部4年